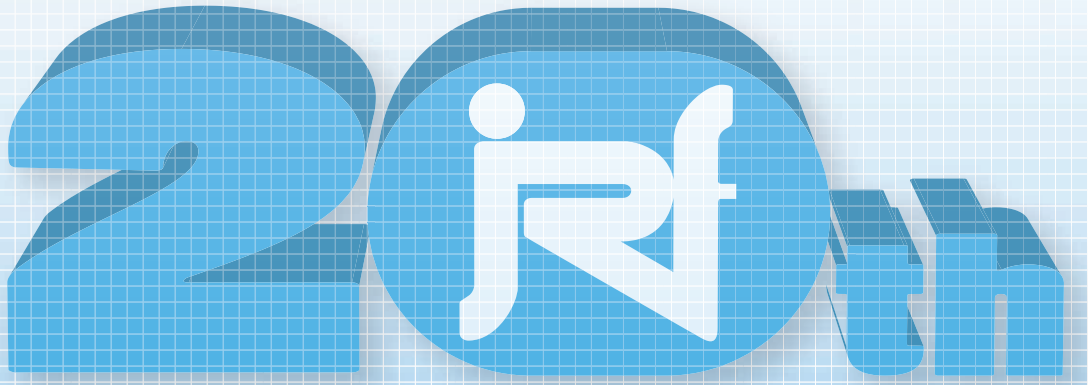
日本リウマチ財団
設立20周年記念誌



財団法人 日本リウマチ財団

『日本リウマチ財団設立20周年記念誌』発刊に当たり

平成19年11月に日本リウマチ財団は設立20周年を迎えました。産・官・学の連携のおかげと申しますか、製薬企業、厚生労働省、リウマチ登録医を中心にリウマチ医療に携わる医学者に支えられ、ここまで成長したのでございます。平成19年中に、成人式ならぬ設立20周年記念式典をと思ったのでございますが、諸々の都合によりまして、一年遅れの平成20年9月に、リウマチ患者さんを始め、財団の活動を支えて頂いた多くの皆様のご臨席のもと、設立20周年の記念式典を挙行することができましたことを心より感謝申し上げます。記念式典のご挨拶で、日本リウマチ財団の20周年記念誌を発行し、皆様にお届けする旨話したところでありますが、その約束通り、『日本リウマチ財団設立20周年記念誌』をお届け致します。

設立10周年の記念事業においては、財団設立10年の事業実績を作成・配布したところでありますが、20年を経過し、財団発足の歴史が念頭から遠のき、記憶が薄れないうちに、財団発足時を振り返り、財団発足の経緯、その後の歩みを、毎年の事業実施状況と合わせて記録致しました。皆様が育てた日本リウマチ財団でございます。折節にその歴史を紐解いてください。

平成21年3月吉日

財団法人 日本リウマチ財団理事長
髙久　史麿

「リウマチ月間」ポスターの変遷

昭和62年の設立後、（財）日本リウマチ財団では昭和63年から「リウマチ月間」「リウマチ月間全国大会」等を広く周知するために多くのポスターを作成してきた。その一部をここに紹介する。

「リウマチ月間」の制定直後に作成された
昭和63年度「リウマチ月間」ポスター

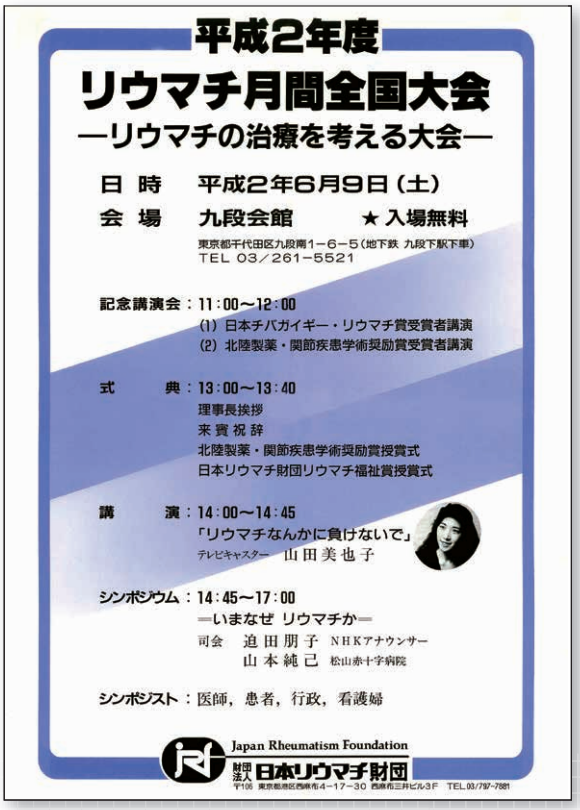
最新の平成20年度「リウマチ月間」ポスター

「リウマチ月間」ポスター

毎年度の「リウマチ月間」を彩ったポスターの数々。そのなかから、最初に作成された昭和63年度ポスターと最新の平成20年度ポスターを上に紹介する。

「リウマチ月間」は昭和63年5月に制定されて以来、リウマチ性疾患の知識を広く国民に向けて啓発・普及する役目を担い続けて今日に至る。

平成2年度「リウマチ月間全国大会」の模様。
リウマチ月間行事は広く国民に開かれた行事となった



平成2年度「リウマチ月間全国大会」ポスター

最新の平成20年度「リウマチ月間リウマチ講演会」ポスター

リウマチ月間行事ポスター

平成元年より毎年のリウマチ月間にあわせて開催された各種行事には、識者をはじめテレビキャスター、女優等多くの著名人が参加している。初回の平成元年には「リウマチ月間学術講演会」を開催。以後平成16年までは「リウマチ月間全国大会」を開催してきた。平成17年からは「リウマチ月間リウマチ講演会」を開催している。

目　次

『日本リウマチ財団設立20周年記念誌』発刊に当たり　　髙久　史麿

1．設立20周年記念事業 …… 2
2．日本リウマチ財団の歴史…… 16
3．リウマチ科標榜の歴史…… 22
4．リウマチ登録医制度の歴史…… 28
5．各種委員会活動について…… 32
6．専門委員の委嘱について…… 41
7．リウマチ教育研修会について…… 42
8．リウマチのケア研修会等について…… 44
9．学術調査研究助成・医学各賞等について…… 46
10．海外派遣研修事業について…… 50
11．災害時リウマチ患者支援事業について…… 54
12．国際活動について…… 56
13．リウマチ医（登録医）の会について…… 60
14．リウマチ情報センターについて…… 62
15．財団発行の新聞について…… 64
16．「リウマチ月間」の制定について …… 66
17．シンボルマークの制定について…… 68
18．財団版リウマチ白書は「リウマチ診療レポート」 …… 69
19．厚生労働大臣感謝状の贈呈について…… 72
20．特定公益増進法人について…… 73

主要事業の実施状況

1．リウマチ性疾患調査・研究助成事業実施状況…… 74
2．医学賞等授賞の状況…… 82
3．リウマチ月間全国大会実施状況…… 87
4．リウマチ教育研修会実施状況…… 93
5．リウマチ研修医海外派遣事業…… 105
6．国際リウマチシンポジウム…… 112

7．リウマチのケアに関する研修事業等実施状況…… 116
8．RAトータルマネジメントフォーラム …… 124
9．リウマチ医（登録医）の会開催状況…… 125

参考資料

1．財団のリウマチ対策の歩み…… 132
2．年度別主要科目収支状況…… 140
3．リウマチ登録医年度別推移…… 142
4．リウマチ教育研修会年次別参加状況…… 145
5．リウマチのケア研修会　地区別・職種別受講者年次推移…… 146
6．リウマチ・アレルギー科標榜診療所・病院数…… 148
・リウマチ科・アレルギー科を標榜する病院及び診療所数について
・大学病院におけるリウマチ科標榜
7．財団事業推移…… 152
8．厚生労働大臣感謝状贈呈状況…… 157
9．歴代財団役員・委員会委員一覧…… 159
10．財団賛助会員一覧…… 181
11．事務局の状況…… 182

※本文中の肩書・所属機関等は特に断りのない限り当時のものを使用しています。
平成14年より病名 慢性関節リウマチは正式病名 関節リウマチとなりました。

日本リウマチ財団
設立20周年記念誌

20th

財団法人 日本リウマチ財団

1. 設立 20 周年記念事業

日本リウマチ財団　設立 20 周年記念式典次第

平成 20 年 9 月 27 日　パシフィコ横浜　会議センター

日　時　　平成 20 年 9 月 27 日（土）
場　所　　パシフィコ横浜　会議センター

共　催　　財団法人日本リウマチ財団
　　アジア太平洋リウマチ学会
後　援　　厚生労働省
　　社団法人日本医師会

13：00 ～ 13：10
理事長挨拶　　日本リウマチ財団理事長　髙久　史麿

13：10 ～ 13：30
来賓祝辞

厚生労働大臣	舛添　　要一
社団法人日本医師会会長	唐澤　　祥人
有限責任中間法人日本リウマチ学会理事長	小池　　隆夫
社団法人日本整形外科学会理事長	中村　　耕三
社団法人日本リウマチ友の会会長	長谷川三枝子

13：30 ～ 13：45
厚生労働大臣感謝状贈呈

13：45 ～ 14：00
記念講演　　「アジア太平洋地域の医学、医療について」
尾身　　茂　WHO 西太平洋事務局長
司　会　ニコライ　カルテフ
WHO 非伝染病管理部門慢性呼吸器疾患および関節炎担当専門官

14：00 ～ 14：50
市民公開講座　　「日本におけるリウマチ性疾患の現状について」

	日本リウマチ財団 リウマチ性疾患評価国内委員会委員
(1) 変形性関節症について	内田　淳正　三重大学医学部整形外科教授
(2) 骨粗鬆症と骨折について	豊島　良太　鳥取大学医学部整形外科教授
(3) 慢性炎症性疾患について	七川　歓次　滋賀医科大学名誉教授

司　会　西岡　久寿樹　日本リウマチ財団常務理事

◆◆◆（休憩　14：50 ～ 15：00）◆◆◆

15：00 ～ 16：55
パネルディスカッション　　「わが国のリウマチ対策について」
パネラー
長谷川三枝子　社団法人日本リウマチ友の会会長
海老名　英治　厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐
廣川　　和憲　第一三共株式会社常務執行役員研究開発本部長
松原　　司　松原メイフラワー病院院長・日本リウマチ財団登録医

司　会　越智　隆弘　日本リウマチ財団常務理事
　　山本　純己　日本リウマチ財団理事

17：00 ～ 18：30
記念パーティー

日本リウマチ財団 20 年の歩み

財団法人日本リウマチ財団理事長

ご紹介頂きました財団法人日本リウマチ財団理事長の高久でございます。

日本リウマチ財団設立20周年の記念式典に当たり、財団の活動を一部紹介してご挨拶にかえさせていただきます。

本日は、皆様それぞれお忙しい中、この記念式典にご参列賜り心より御礼を申し上げます。

昔結核、今リウマチと言われ、かって国民病と言われた結核を例にとって、リウマチ性疾患の恐さを語ったものですが、そのリウマチ性疾患を取り巻く環境は、抗リウマチ薬、生物学的製剤の出現によりまして、ここ十数年の間に格段の改善を見ましたことは皆様ご存知の通りであります。又、今年になってからも2つの生物学的製剤が、関節リウマチ適応薬として認可されました。このことは、リウマチ治療に関わる医師等、医療従事者、患者さんにとって大きな朗報であり、リウマチ治療の選択肢がより一層広がることになりました。今後も開発が続くことが期待される生物学的製剤等、新薬の登場によりまして、患者さんの状況を適切に判断し、適正な治療法が選択されるならば、病気の活動の制御、関節破壊の防止、生命予後の改善、寛解はもとより治癒も期待されるという、まさしく患者さんのQOLの改善が目指せる状況になりました。

このようなリウマチ性疾患を取り巻く環境の変化、リウマチ医療の進歩・発展は、厚生労働省の調査研究を中心としたリウマチ対策の取り組み、リウマチ性疾患関係の学会、団体による調査・研究、治療薬の開発に取り組む企業の努力など、まさしく産、官、学が三位一体となり、リウマチ性疾患の制圧に努力した結果であると考えられます。

日本リウマチ財団は、昭和62年11月1日の設立以来、一貫してリウマチ性疾患の制圧を目指し、核になる6つの事業を展開して参りました。事業活動の一部をご紹介致しますと、その1つが、リウマチ性疾患に関する調査研究・助成であります。毎年リウマチ性疾患の病因、治療、疫学などに関する研究テーマを公募し、厳正な選考の上、助成を行う他、リウマチ医学の発展・進歩に寄与する独創的な研究を顕彰して参りました。

事業のその2は、リウマチ性疾患に関する普及・啓発であります。リウマチ登録医の診療技術の向上を支援する為の情報の柱として、リウマチ財団ニュースを年6回発行し、登録医、賛助会員、関係団体、行政に配布してきました。又、毎年6月をリウマチ月間と定め、講演会の開催、ポスターの配布を行っています。毎年の講演会には400名を超える参加を得、参加された方々から好評を博しています。

その他、リウマチ登録医等を対象にした、リウマチ教育研修事業、コ・メディカルを対象としたリウマチのケア研修事業を全国6地区で開催する他、リウマチ情報センター事業として、インターネットによる広報事業を行っています。リウマチ性疾患に関する国際交流も大きな事業ですが、リウマチ医の外国への交換派遣を継続的に行っており、国際的な運動として知られている「骨と関節の10年」に呼応して、平成14年4月には、「リウマチ制圧10か年国際会議」を開催し、その際「東京宣言」を行いました。更にリウマチ性疾患国内評価委員会の活動も継続してきました。

以上の事業は財団が行っている数種の事業の一部でありますが、それら事業を実施することによりまして日本リウマチ財団は、先ほど申し上げましたリウマチ性疾患を取り巻く環境の改善、リウマチ医療の進歩・発展に、大いに寄与してきたものと自負しています。しかし、このような財団の事業の実施につきましては、ここにお集まりの皆様方、厚生労働省、関係団体、産業界のご支援・ご指導なくしてはできなかったことであり、20年間にわたるご援助、ご協力にこの場をおかりして感謝申し上げ、今後とも、これまで同様にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

20年の歩みを限られた時間でご紹介申し上げるには無理がありますので、財団20周年の歩みを記念誌として発行する事になっています。年度内には皆様にお届け致しますので、本日はこれぐらいで終わらせて頂きたいと思います。本日はこの後、厚生労働大臣感謝状の贈呈式、WHO西太平洋事務局長、尾身先生の記念講演、市民公開講座と続き、長時間になりますがどうぞ、日本リウマチ財団の20周年記念事業を、最後までお見届け頂きますようお願い申し上げます。

リウマチ性疾患を取り巻く環境を考えると、解決すべき、取り組むべき課題はまだまだ多くあります。本日を機に、改めてリウマチ性疾患の制圧に向け、これまで以上に邁進する決意を申し上げて本日のご挨拶を終わりたいと思います。

本日のご来場誠に有り難うございました。

平成20年9月27日

財団法人 日本リウマチ財団
理事長　髙久　史麿

祝　　辞

厚生労働大臣

本日、ここに財団法人日本リウマチ財団設立20周年記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いを申し上げます。

はじめに、リウマチ研究の推進やリウマチに関する知識の普及・啓発活動、リウマチ診療の質の向上を目的とした教育研修など、貴財団の20年にわたるたゆまぬ御努力と、これまで挙げてこられた目覚ましい成果に対し、深く感謝の意を表します。

リウマチにつきましては、この20年の間に貴財団においても、様々な研究が進められ、新たな治療薬や医療技術の開発が進むなど、大きく進歩してまいりました。

また、貴財団の取組もあって、国民の間でのリウマチに関する理解の一層の広がりが図られて来ているところです。

厚生労働省におきましては、平成2年度より研究プロジェクトの一つとして総合的な研究を開始して以来、疫学、病因・病態の解明、治療法の開発等、リウマチ性疾患克服に向けた様々な研究を推進してまいりました。

また、今後のリウマチ対策を総合的かつ体系的に実施するため、平成17年に「リウマチ対策の方向性等」を策定し、この方向性等に基づき、医療提供の確保、情報提供、研究開発を進めております。

これらの施策の効果的な推進にあたっては、医療関係者を始めとする関係各位の御協力が必要不可欠です。

本日、ここに御出席のリウマチの予防及び治療の第一線で御活躍されている皆様方におかれましては、今後ともリウマチ対策の推進に御尽力いただきますよう改めてお願い申し上げる次第です。

終わりに、本式典の開催にあたり多大の労を執られました財団関係者の皆様方に深く敬意を表しますとともに、貴財団のますますの御発展、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成20年9月27日

厚生労働大臣
舛添　要一

祝　　辞

社団法人日本医師会会長

本日は、日本リウマチ財団設立20周年記念式典にお招きいただき、髙久史麿理事長をはじめ会員の皆様方のご芳情に、厚く御礼申し上げます。日本医師会を代表して、一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

はじめに、本日、リウマチ医療の発展に尽くされたご功績により、表彰の栄に浴される方々に対しまして、心よりお慶びを申し上げます。誠におめでとうございます。

ご高承の通り、日本リウマチ財団は昭和62年11月1日、リウマチ性疾患に対する世論の関心の高まりと、公益法人としてのより広い活動領域を求める社会の要望に応えるため、財団法人として設立されました。

以来、リウマチの予防と治療に関する調査・研究をはじめ、国民へのリウマチについての正しい知識の普及・啓発、リウマチ登録医制度の創設による医療提供体制の整備など、リウマチ制圧に向けた種々の事業に鋭意取り組まれてこられました。

リウマチ性疾患は、原因不明・根治療法未確立のため治療困難な疾病のひとつでありますが、早期受診・早期治療を徹底することにより、予後の著しい改善を期待することができる病気となりつつあります。また、新しい薬の開発等その治療法も目覚しく進歩していると承知しております。

昨今のこうした成果を見ると、貴会が実施してこられた事業が、リウマチ制圧に向けて誠に有意義なものであることがわかります。“継続は力”と申しますが、まさに歴代役員並びに会員各位のたゆまぬご努力によるものと、深甚なる敬意を表する次第であります。

本設立20周年記念事業を契機に、リウマチに対する国民の理解と関心が一段と高まり、リウマチ性疾患を抱える方々の明日の希望へと繋がるさらなる成果が導かれますことを切に願いますとともに、心よりご期待申し上げます。

ここに、本日ご参集の皆様方のご健勝と、日本リウマチ財団の今後のますますのご発展を衷心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成20年9月27日

社団法人日本医師会
会長　唐澤　祥人

祝　　辞

有限責任中間法人日本リウマチ学会理事長

リウマチ財団が関節リウマチを始めとする、多くのリウマチ疾患の理解のためにこれまで患者や医師、さらにはコ・メディカルに対して様々な啓蒙活動をなされてこられましたご努力に対しまして、心から感謝を申し上げますとともに、ここに日本リウマチ財団の設立20周年記念式典が、厚生労働大臣始め各会のご有志がご参列のもとに盛大に挙行されますことを、衷心よりお祝い申し上げます。

リウマチ財団の歩みは、日本の関節リウマチ診療の壮絶な歩みでもあります。多くの先達の血の滲むような努力にもかかわらず、関節リウマチの診療は「敗戦」の歴史でもあり、残念ながら、数多くの身体障害者を前にして「無力感」の歴史であったと言ってもよいかもしれません。私自身も同様の歴史を背負って参りました。「リウマチを治している」という実感をもったことはありませんでした。それが、メソトレキセートの出現とともに随分と変わってきて、さらには最近の生物学的製剤はまさに「革命」と言ってもよいものです。リウマチの診療は大転換をしつつあります。

医療崩壊や医療格差が問題になっている昨今、如何に最新の治療を数多くのリウマチ患者さんへ届けることができるのか。設立20年を迎えられました日本リウマチ財団の存在意義は大変大きいものと思います。財団の関係各位のますますのご尽力に、心からの期待を致しております。

平成20年9月27日

有限責任中間法人日本リウマチ学会
理事長　小池　隆夫

ご挨拶

社団法人日本整形外科学会理事長

日本整形外科学会を代表し、ご挨拶を申し上げます。

リウマチ財団設立20周年誠におめでとうございます。リウマチはいうまでもなく、患者さん個人にとりましても、社会にとりましても大変重要な疾患であります。貴財団は昭和62年の設立以来、研修会やe-learning実施など医師への生涯教育、診療ガイドラインの出版、財団ニュースやリウマチ月間事業など社会への啓発活動、災害時のリウマチ医療連携システムの構築など、リウマチ対策の推進に貢献してこられました。

関節リウマチは、手足の関節障害だけでなく、脊柱の障害もあり、運動器疾患全体をその対象と致しております整形外科にとりましても、大きな課題であります。今、2000年からThe Bone and Joint Decade世界運動がWHOも参加する形で、世界各国で広く行われております。これは筋骨格系の障害の予防、治療、ケアに関わります研究、啓発活動を推進しようとする運動であります。日本整形外科学会は積極的に取り組んでいるところであり、貴財団もこの運動に加わって活動くださっておられますことを、心強く思っております。

関節リウマチは内科的治療、外科的治療、そしてリハビリテーションとケアなど、多方面からのアプローチが必要であります。各専門分野、各団体の一段の協力が欠かせません。貴財団がリウマチ対策の推進に一層、ご尽力くださいますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成20年9月27日

社団法人日本整形外科学会
理事長　中村　耕三

日本リウマチ財団
設立 20 周年記念に寄せて

社団法人日本リウマチ友の会会長

財団法人日本リウマチ財団設立20周年記念式典の開催にあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

貴財団は、設立以来20年間リウマチ性疾患の制圧を目指して、疾患の予防や治療に関する調査研究、正しい知識の普及・啓発、リウマチに関する教育研修、関係団体への協力支援を行い、大きな成果をあげてこられました。

また、昨年9月「災害時リウマチ患者支援事業」をスタートさせ、多くの医療機関が、災害時支援協力医療機関としての役割を担うことで、患者にとり何より安心な体制作りが進んでおります。

近年、リウマチ治療は新たな時代を迎えたといわれ、生物学的製剤などの出現により、患者の療養環境は大きく変わってまいりました。

このような状況の中で、私どもリウマチ患者は、一番の願いである「原因解明と治療法の確立」が一日も早く成ることを願っております。

貴財団のリウマチ性疾患の制圧を目標とした活動に対して、大きな期待を寄せております。

今後とも貴財団のますますの発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。

平成20年9月27日

社団法人日本リウマチ友の会
会長　長谷川　三枝子

祝　　辞

ー日本リウマチ財団設立 20 周年記念祝典、懇親会にてー

財団法人 日本リウマチ財団
名誉理事長　塩 川　優 一

本日はこのように盛大な記念祝典が開催されまして、誠におめでとうございます。

実は40年前、順天堂大学医学部では、日本内科学会会頭の沖中重雄先生をお招きして、大学病院ではどんな診療科が必要かを伺いました。循環器科、消化器科などの名前が出ましたので、私は手を挙げて、「リウマチ科はどうですか」と聞きましたら、「リウマチなんか病気ではない」と一言。誠に残念でした。

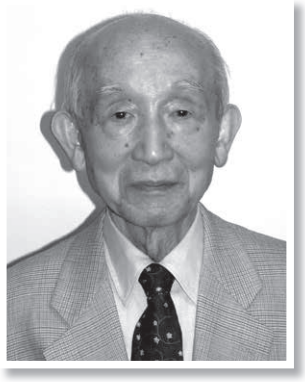
30年前、私はリウマチ、膠原病の研究、診療を続け、順天堂病院に膠原病内科を創設しました。しかし、膠原病という病気は医師でも知っている人は少なく、「膠原病とは軽井沢のような高原の病気ですか」と聞かれる始末。そして全国から来院される患者さんは重症で、ほとんど皆手遅れ、亡くなる方が多かったのです。

20年前、長年リウマチを研究し、患者さんのために尽力してこられた七川歓次、故本間光夫、長屋郁郎、延永　正、故水島　裕、山本純己、吉野槇一先生などのご協力を得て、日本リウマチ財団を設立することにしました。その認可を頂くために七川先生とともに当時の厚生省に行きましたが、そのときの厚生省の事務次官は幸田副理事長でした。

財団の設立によって、日本のリウマチ対策は急速に進み、リウマチ科の標榜が認可され、越智隆弘先生を長とする国立リウマチ・アレルギーセンターができました。なお、最初10年間の日本リウマチ財団において、田中治彦専務理事、島田廣子理事の絶大のご貢献を忘れることはできません。

その後10年、日本最高の医師である髙久史麿理事長を戴き、日本リウマチ財団は益々発展しており、日本全国の大学病院など各病院にはリウマチ科、膠原病科ができ、リウマチの専門医、登録医が全国に多数できました。今やリウマチ、膠原病は普通名詞となっております。誠に喜ばしいことです。しかし、リウマチの原因は依然として不明であり、完治する治療法もありません。今後日本リウマチ財団は髙久理事長のすばらしいご指導のもとに益々発展し、リウマチ研究の進歩、リウマチ対策の進展、70万人という多数のリウマチ患者さんの福祉の向上に向かって一層のご尽力を願う次第です。

ご静聴有り難うございました。



財団の発展と期待

滋賀医科大学名誉教授
七 川　歓 次

財団が発足するまでは日本リウマチ学会と日本リウマチ協会とが表裏一体となっていましたが、薬効検定の手数料など協会の収入が大きくなるにつれまして、両者の分離が求められるようになり、昭和62年、塩川、西岡両教授（当時）の卓抜な先見性と行動力とによって、日本リウマチ財団が設立されました。故児玉俊夫教授（岡山大学）のリーダーシップによってほとんどできていた薬効検定事業、研修医の欧米派遣、リウマチ研修会の全国的開催などが引き継がれたのですが、その後の発展は塩川理事長の手腕と見識に負うところが大きかったといえましょう。

私も理事として財団の仕事に参画させていただきましたが、多岐にわたる財団活動のうち、次の3つは特筆される大きな前進でした。

第一は、リウマチ登録医制度が創設され、リウマチ専門医制度への足がかりができたこと。第二はリウマチ科の標榜が正式に許可されるようになったこと。これはリウマチの一般人への普及に大いに役立ちましたが、同時にリウマチをRAに限定するという誤解に拍車をかけることになりました。第三は2002年に塩川理事長の企画で、わが国のリウマチ対策開始50周年記念と併せ、WHOの骨・関節疾患対策10年（2000－2010）のための国際会議が、各国・諸団体の代表者を招き、東京で開催されたことです。この会議には塩川理事長、島田元リウマチ友の会会長のご盡力があり、皇后陛下のご来臨を仰ぎ、お言葉を戴きました。各国の出席者がお言葉に聴き入って感銘を深くしている様子が伝わってまいりまして、私には忘れがたい光景でした。平成14年髙久理事長が後を継がれ、私は理事を辞任しましたが、財団は更に順調な発展を遂げているようで心強いものです。広報活動としてのリウマチ財団ニュースも後藤眞教授が担当となり、面目を一新されました。

さて、最後に財団に期待する勝手な意見を列挙させて頂くことをご容赦願います。

第一に、リウマチ財団として、リウマチ病全般を扱えるように幅広くすること、第二に、リウマチ科がRA科となっているので、本格的なリウマチ専門医を育てるため、学会と連携して問題を軌道に乗せてほしいこと、第三に、WHOの骨・関節10年の企画に沿って、リウマチ病の評価やモニターがうまくできる組織を構築し、同時にリウマチ病の研究、患者の福祉のための資金援助やネットワーク作りに努力してほしいこと、第四に患者が生活しやすくなる環境作りに貢献し、政府の施策を促すこと、など何れも言うは易く、行うのは難しい課題ばかりですが、これらは既に2000年の国際会議で出された東京宣言に盛り込まれているものです。骨・関節疾患の予防を目指した財団の活躍に期待しています。

設立20周年に寄せる期待

～リウマチ制圧に想いをこめて～

社団法人日本リウマチ友の会
創設者・名誉理事長　島田　廣子

日本リウマチ財団が設立20周年を迎えられましたことを心からお慶び致し、一層のリウマチ制圧に向けて諸事業のご達成をご期待申し上げます。

振り返りますと、昭和53年の秋、米国リウマチ財団設立40周年記念大会に招待されました。参加した世界19ヶ国21団体のうち、患者組織は日本リウマチ友の会が唯一で、予算、対策活動等の規模に圧倒されました。いつの日か、日本リウマチ財団も、欧米に劣らず患者も包み込んだ組織に発展されるようにと、希望を託したのは言うまでもありません。

あれから20年、急速にリウマチへの関心と理解が深まり、リウマチ界に大きな進展がもたらされました。お陰様でリウマチ学の研究、治療薬の開発も進歩し、日本リウマチ財団のリウマチ制圧に向けての目標六大事業等も拡充され、患者を取り巻く医療環境は大きく変りました。

1990年の「2010年にリウマチ問題はほぼ解決する」という元厚生省リウマチ調査研究事業の発表は大きな朗報であり、患者はどれほど勇気づけられたことでしょう。一日も早く「リウマチの原因解明と治療法が確立」して「リウマチは治る」と言える日が訪れることを願いました。

1996年には念願の「リウマチ科の標榜」がついに実現しました。長年切望し続けてきた悲願ともいえる「リウマチ科」が現実となりました。すでに財団の事業としてリウマチ登録医制度も全国に定着、専門医も増加の方向にあり受け皿は整えられています。どこでも、誰でも、等しく進歩しているリウマチ医療の受容を、リウマチ専門医を中心に、コ・メディカルによるトータルマネジメントの普遍化等、障害を未然に防ぎ、患者のQOL向上も遠くないかもしれません。

さらに2002年には、皇后陛下の御臨席を仰いで、国際連合･WHO（世界保健機関）主唱の「骨と関節の10年（The Bone and Joint Decade 2000 ～ 2010）」に合わせて、日本リウマチ対策開始50周年記念「リウマチ制圧10か年対策国際会議」の式典が開催されお言葉を賜りました。多くの参加者を得て「東京宣言」が世界に発信されたことは意義深く、忘れがたいことでした。

おわりに、日本リウマチ財団の年毎に年輪を重ね、リウマチ制圧に幅広くご尽力をされてこられた塩川優一前理事長先生、髙久史麿理事長先生を始め、数え切れないほど多くのご関係の方々に心から敬意と感謝を申し上げます。

最後に僭越ですが、私は患者を代表して日本リウマチ協会の理事に選ばれて以来、日本リウマチ財団設立後も引き続き理事を担い、41年の月日が流れました。日本のリウマチ界の偉大な先生方のリウマチ制圧への真摯なお姿を身近にしながらご指導を頂き、傍らを歩ませて頂きました。この幸せを大切な宝・ライフワークとして微力を捧げたいと念じております。

設立 20 周年記念式典について

財団設立20周年記念式典は、平成20年9月27日、横浜市のパシフィコ横浜会議センターで、財団関係者、リウマチの患者さん、賛助会員等2百人弱の参加を得て盛大に開催された。式典は髙久理事長の挨拶に始まり、厚生労働大臣他来賓のご祝辞を賜わった後、厚生労働大臣感謝状の贈呈を行った。贈呈式は贈呈対象の法人賛助会員等21社の全社が壇上に上がり、厚生労働大臣代理の厚生労働省健康局疾病対策課海老名課長補佐より、代表のワイス株式会社に厚生労働大臣感謝状を贈呈した。記念講演以降の模様は以下に報告する通りである。

財団は平成19年11月に20周年を迎えたものであるが、平成20年9月に第13回アジア太平洋リウマチ学会が開催されることが決まっており、この学会に引き続いて20周年記念式典を開催することにより経費の節減を図り、第13回アジア太平洋リウマチ学会参加者に財団の存在をアピールすることにより、意義ある記念式典になるよう企画・実施したものである。

（1）記念講演について

記念講演の尾身茂WHO西太平洋事務局長は、「アジア太平洋地域の医学、医療について」と題して講演、新興感染症であるSARSの脅威、気候変動による食料安全保障問題、世界各国における医療保険制度等について問題提起し、これら問題への取り組みの基本的な理念として、人間の尊厳、基本的人権、文化、社会的観点から捉えて行くべきと話した。

（2）市民公開講座について

①「日本におけるリウマチ性疾患の現状について」

財団の西岡常務理事の司会で14時から始まった市民公開講座は、先ず、「日本におけるリウマチ性疾患の現状について」をテーマに、財団のリウマチ性疾患評価国内委員会のメンバーが講演をした。初めに三重大学医学部整形外科の内田淳正教授が「変形性関節症について」講演、レントゲン写真を使って、変形性関節症の原因と病態、人工関節置換術による治療について平易に説明し、三重県宮川村をフィールドに実施した疫学調査結果についても説明、膝が悪くなる原因は環境的要因と、遺伝的要因が大きく関係していることを発表された。

2番手として豊島良太鳥取大学医学部整形外科教授が「骨粗鬆症と骨折について」講演、日本には骨粗鬆症の患者数が1,000万人おり、急速な高齢化で将来増えること、骨粗鬆症の症状、非常に困る骨折、居住空間における骨折、転倒防止の措置、骨粗鬆症になりやすい条件、日頃の心掛け等について、個々の患者さんに語りかけるようにわかりやすく説明された。

最後にリウマチ性疾患国内評価委員会委員長の七川歓次滋賀医科大学名誉教授は、「慢性炎症性疾患について」講演、WHOがリウマチ性疾患の調査に関わったのは、1961年の国際リウマチ学会の時と、2000年の骨・関節疾患対策10か年計画であり、医療経済の観点から、リウマチ性疾患患者を減少させたいとの考えで数値目標を設定したこと。財団が主催した2002年の骨・関節疾患対策10年会議で東京宣言を出した後、リウマチ性疾患の評価に関して、

RAの発生率の減少、RAの死亡率の減少、重症度の軽減の3つを目標にして、RA治療の進歩を評価できるのではとの考えで、調査研究を進めて来たことなど、各種データを示して発表し、今後のリウマチの予防、改善については遺伝子をターゲットに治療法が開発されるであろうとの考えを表明した。

②パネルディスカッション「わが国のリウマチ対策について」

同じく市民公開講座としてのパネルディスカッションは、財団の越智隆弘常務理事、山本純己理事の司会で行われた。

司会の山本理事がパネルディスカッションの進め方について説明した後、最初に越智常務理事から、わが国のリウマチ対策の歴史について、厚生労働省、リウマチ財団の別に流れを説明した。財団の対策については平成8年のリウマチ科標榜の実現を機に、翌平成9年に標準的リウマチ医療の確保を図るため、医療現場のリウマチ医向けに、「慢性関節リウマチの治療マニュアル」を発行し、また在宅の関節リウマチ患者ケアモデル事業等を進めたこと。骨・関節疾患対策10年国際会議を開催したこと。医師向け、患者向けの治療ガイドラインをそれぞれ発行したこと等を紹介した。

厚生労働行政としては、平成9年に公衆衛生審議会成人病難病対策部会リウマチ対策専門委員会が設置され、同年に中間報告として色々施策が示され、平成12年には国立相模原病院に、リウマチ・アレルギーに関する臨床研究センターの設置、リウマチ白書の公表等、リウマチ対策専門委員会の設置を引き金に、次々施策を打ち出したことを説明した。

パネラーの松原司松原メイフラワー病院長は、重症リウマチ患者への取組みの課題について、治療の目標を、痛みを取り除くこと、身体機能の低下を防ぐこと、関節破壊の進行を止めることとし、特に関節破壊の進行を止めることの重要性を説かれた。このため早期の治療が重要であるとし、実際の診療経験から保険診療上のメトトレキサートの使用量の増加の必要性を説き、早期実現に希望的観測を示された。生物学的製剤については治療薬として非常に有効であることを説明、体系的遺伝子多型データと臨床の治療効果の相関を統計学的に分析し、個々の患者さんに合った生物学的製剤を投与することができるように、検査手法を確立したいと話された。

続いて越智隆弘常務理事より人工関節について説明された。薬物療法の機会に恵まれず重症となった方、生物学的製剤等先端の治療薬を使っても効果が期待できなかった方については、機能再建手術を実施することにより、重症化を予防し快適な日常生活を送っている実例を紹介、厚生労働省の研究班で上肢の機能再建について研究しており、将来広範な地域において先端的な良い機能再建術ができることに期待を示された。

パネラーの廣川和憲第一三共株式会社常務執行役員研究開発本部長は、「薬の有効性評価と新薬導入」について報告された。抗リウマチ薬の評価方法については、平成18年に厚生労働省から「抗リウマチ薬の臨床評価方法に関するガイドライン」が出されており、それによると、関節リウマチ症状の緩和、著明な臨床的反応、機能障害の防止、関節の損傷の防止や生命余後を指標として評価するが、アメリカのリウマチ学会の評価基準がよく使用される。抗リウマチ薬は市販後の全例調査を要求されている。外国

で開発された薬を日本国内で使用承認する場合にはブリッジングによる承認制度があり、外国と日本国内のドラッグラグを減らすことができることを報告された。続いて山本純己理事からリウマチ診療体制づくりに関する問題提起、災害時のリウマチ患者支援事業について話された。診療体制づくりに関しては、各地区にリウマチ性疾患を中心に診るセンターの設置、リウマチのトータルマネジメントができる体制をつくり、財団の登録医等地域のかかりつけ医との連携、支援体制が望ましいこと、その考えをもとに、リウマチのトータルマネジメントを目指して、昭和55年に松山赤十字病院にリウマチセンターを開設したこと、関節リウマチのトータルマネジメント研修会を平成8年に発足させたこと等を報告、災害時リウマチ患者支援事業については、538の医療機関が支援協力医療機関として登録し、有事に備えて体制整備したことを話された。

パネラーの長谷川三枝子日本リウマチ友の会会長は、トータルマネジメント構想が確立し、新潟県のような県立リウマチセンターが各地に広がり、リウマチに理解のあるコ・メディカルスタッフが増え、災害時のリウマチ患者支援医療機関が身近にもっと広がれば、原因解明と治療法を確立して欲しいこと、どこにいても適切な治療が受けられること、自立と社会参加をかなえて欲しいこと等の、患者さんの要望が満たされるのではないかと、トータルマネジメント構想の実現に対する期待感を短い時間の中で語られた。

最後のパネラーである海老名英治厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐は、本日のこれまでの発表について補足説明をするとともに、厚生労働省における研究推進体制、医薬品などの開発促進について話された。医薬品の問題に関しては、ドラッグラグの問題、国内における新薬開発問題に関し、厚生労働大臣、文部科学大臣、経済産業大臣、内閣府の科学技術担当大臣、製薬企業、大学の研究者が知恵を出し合う官民対話を実施しており、医薬品の承認期間をいかに短くするか、ドラッグラグをどのようにして解消するかを議論しており、新しい技術、新しい薬、新しい医療材料の開発等については、その重要性に鑑み、研究班を組織して患者さんが日常生活に戻れるような医療提供を目指して研究していることを報告された。

最後に越智隆弘常務理事より、各パネラーへの御礼、リウマチ財団に対する今後の協力を要請して、財団法人日本リウマチ財団設立20周年式典の幕を閉じた。

2. 日本リウマチ財団の歴史

（1）設立前史・日本リウマチ協会について

日本リウマチ財団は、その前身が日本リウマチ協会である。日本リウマチ協会は任意団体として、昭和32年4月に発足しており、事業目的として、「リウマチ性疾患に関する諸問題を総合的に処理することを目的とすること」を協会の会則に定め、その達成に必要な医学的、薬学的研究並びにこれに必要な施設、出版、学会の開催、国際リウマチ学会への代表派遣、その他の事業を行うこととし、同年4月に第1回の総会及び、学術集会を開催した。その後、学術集会は、総会及びリウマチ談話会として毎年開催され、機関誌「リウマチ」も季刊で発行した。

日本リウマチ協会の活動はリウマチを専門的に扱う医学研究者には、最も権威ある発表、討論の場として認められ、また、日本リウマチ協会の活動に賛意を表する法人が多数参画し、わが国におけるリウマチ対策を総合的に推進する唯一の機関としてその地歩を固めた。

昭和36年6月に京都において開催された第6回日本リウマチ協会総会において、日本リウマチ協会と並立の形で、医学関係の研究者のみによる医学部門として、日本リウマチ学会を創立して日本医学会にも加盟し、広く医学全般との関係を密にすべしということが決議され、翌37年5月に別府において日本リウマチ学会が創設され、リウマチに関する学術集会の開催、医学研究の推進、機関誌「リウマチ」の発行等の事業を日本リウマチ学会に引き継いだ。

日本リウマチ協会は当初から財団になることを目指しており、会則の附則には「本協会は将来適当なる法人組織に改組することを期する」と規定しており、リウマチ学会の設立を機にリウマチ協会の業務は学会活動の援助、抗リウマチ薬の客観的な薬効検定活動、アメリカリウマチ財団等各国の関連団体との交流、フェローシップ活動、日本リウマチ協会賞の設立、リウマチ研究所設立準備運動、リウマチ友の会への援助等、財団的機能を高めることになるが、次のような過程を踏んで協会運営の基盤を固めた。

昭和38年から、日本リウマチ協会のあり方について理事会で議論が始まっており、39年、40年、41年と審議が続き、41年の理事会審議後、それまでの審議結果を概ね次のとおり総括している。

現況として、

①三沢敬義会長は健康上の問題で退任の希望がある。

②日本リウマチ協会と日本リウマチ学会との区別が明確でない。このため両者共に失うところが大である。

③日本リウマチ協会の財政基盤が弱い。

④東京大学医学部の物療内科医師及び研究助手の片手間の仕事では事務処理能力が限定され、非能率である。

⑤協会としては本来実施すべき対政府折衝、一般国民への啓蒙、患者団体又はその家族の団体（現在ではリウマチ友の会）等の育成が一切行われていない。

以上の現況を改めるために新会長を選び、リウマチ協会が法人格を取得するとともに機構の改革も必要であるとし、そのためには改善の方向として、

①会長は視野が広く、リウマチ問題に理解があり、しかも政治力のある人を選ぶべき。

②新会長のもとで法人に改めるべき。
③日本対がん協会と朝日新聞社との関係のごとく、直接にリウマチ患者又は医師と利害関係のない団体の後援を受けるのもよい。
④現在行っているリウマチ学会への援助、雑誌『リウマチ』の発行（編集はリウマチ学会）、海外研修医派遣、薬効検定等の事業はさらに充実し継続する。
⑤政府、一般国民、患者団体に対する活動は改組を待って再検討する。
⑥リウマチ学会との関係は学会総会開催援助、会誌発行（編集は学会）にとどめ、両者の区分を明確にする。

以上の点を改善の方向性として挙げて事務局試案を作成し、昭和42年5月の定時理事会、7月の臨時理事会で審議して機構改革を行った。

その後、協会の組織に関しては、昭和43年5月定時理事会において、協会の法人化の促進について議論し、昭和46年10月に至って法人化の具体的な動きとして、財団法人日本リウマチ協会設立発起人22名を集め、石田博英氏を財団設立発起人代表と定めて手続きを進め、昭和46年12月6日臨時理事会の審議を経て、昭和47年2月から財団法人日本リウマチ協会設立許可申請について、所管課と事務的な折衝を続け、同年6月10日には正式申請書を提出するまでに手続きが進んだが、結果的には認可されなかった。これは昭和48年9月開催の第13回国際リウマチ学会開催に要する資金調達問題等を抱えた協会の基本財産、運用財産等の財政状況に起因している。昭和47年度の協会の活動報告書には、「基金量の問題等のネックを再調整して、国際会議終了後に再び本格的に取り組む」と表記している。

（2）日本リウマチ財団の設立について

昭和47年に果たせなかったリウマチ協会の財団法人化の動きは、昭和59年から再び胎動を始め昭和60年になって本格化した。

昭和60年度の日本リウマチ協会の会務報告書ではこの動きを次の通り報告している。

「昭和60年は本会にとって重要な年となりました。協会設立以来の念願であり過去何回も試みて果たせなかった、協会の法人化の動きが本格化したことです。リウマチ対策を進める上で、その中核となる財政基盤の確立は必要不可欠であり、組織の法人化の獲得はその第一関門でした。このため会の法人格獲得は関係者会員の望みでもありました。昭和59年度に日本リウマチ財団設立の動きが始まり、昭和60年後半より関係者の調整を図り体制を立て直し、昭和61年1月には募金活動を開始しました。今後は関係官庁と協議を進めながら、設立準備を行い並行して募金活動を進めて昭和63年には2億円程度の基金を持つ財団法人設立の目途を立てたい考えです。

協会の法人化の動きに対応して学会ではリウマチ登録医制度が昭和62年2月1日より発足し、『リウマチ科標榜』の国会審議と併せてリウマチの専門医制度が確立しつつあり、リウマチ対策は一段と進みました。（昭和61年5月28日　日本リウマチ協会定時理事会）」

更に昭和61年度の会務報告書では、「創立以来の念願であった本会の法人化は、昭和61年中に準備が整いました。昭和60年度に財団設立のための発起人会ができ、昭和61年度には、日本リウマチ協会を発展的に解消させて、日本リウマチ財団として法人格を取得するために、必要な関係官庁との調整と書式の整備を進めま

した。昭和61年度の定時理事会で本会法人化の方針が決定され、所轄省庁を厚生省に定め、同省保健医療局と折衝を重ねました。財団設立に当たり厚生省としての指導内容は、①最低1.5億円以上の基金を持つ財団であること。②リウマチ対策を総合的に取り組む試験研究法人であること。③関係者の総意がなければならない、であり、10回に及ぶ指導調整の結果、会則等の案が原則的に固まり、日本リウマチ協会を改組し、財団法人日本リウマチ財団として設立許可される可能性が出て来ました。(昭和62年5月日本リウマチ協会定時理事会)」

以上の流れの中、昭和62年5月26日には、日本リウマチ財団設立発起人設立会議、財団法人日本リウマチ財団賛助会員説明会を開催して、財団設立趣意書、寄附行為案、財産の扱い、設立後2年間の事業計画収支予算、役員、設立手続き、賛助会員加入などについて審議し、万全の準備を整えて晴れの日、昭和62年11月1日を迎えた。設立許可書が届いたのは11月4日である。

塩川優一初代理事長は、リウマチ登録医のための情報誌である「リウマチエキスパート」昭和63年3月号に、「ご承知のように、世界各国においては、リウマチは最も重要な疾患として、社会、政府、学者のすべてが一体となって、この難病の対策に全力を挙げている。我が国でも最近次第にリウマチの重要性が認識され、医療従事者、研究者も増加している。それにもかかわらず、社会、学会、行政のリウマチに対する対応は不十分であると言わざるを得ない、そこで、長年この点を打開する方策を検討して来た。その結果、従来の任意団体であるリウマチ協会を発展的に解消し、政府の公認した財団を設立し、それが中心となって政府の公認、指導の下に、リウマチ対策の運動を起こすより他はないとの結論に達した。幸いにして厚生省のご理解と指導の下に今回設立の運びとなった次第である。」と設立に関する思い、その背景を述べている。

財団法人日本リウマチ財団設立披露パーティー配布資料（昭和63年1月12日）

日本リウマチ財団設立の経緯と趣旨

財団法人　日本リウマチ財団
理事長　塩川　優一

日本リウマチ財団設立の経緯

日本リウマチ財団は、昭和62年11月1日、厚生省より設立を許可されました。

この財団の設立は次の通りです。ご存知のように、世界各国においては、リウマチは医学的にも、社会的にも、もっとも重要な疾患として、政府、学会、社会のすべてが一体となって、この難病の対策に全力を挙げています。

リウマチは全身の痛みを伴う慢性、難治の疾患です。患者数は多く、周辺疾患をあわせると500万といわれます。原因不明、また現在のところ根本的な治療法はみつかっていません。

社会的にも、慢性関節リウマチは働き盛りの女性に多く、また、老年者の増加に伴い、変形性関節症、骨粗鬆症の患者が増加する傾向にあるなど、ますます大きな問題になりつつあります。

わが国でも、最近次第にリウマチの重要性が認識され、診療に従事する医師、研究者も増加しています。それにもかかわらず、社会、学会、行政のリウマチに対する取組みは、諸外国に比べて誠に不十分であると言わざるを得ません。

私たちは長年、この点を打開する方法を検討してきました。その結果、従来の任意団体であ

る日本リウマチ協会を発展解消し、厚生省の認可する財団を設立し、それが中心となってリウマチ対策の推進のための運動を起こすより他はない、との結論に達しました。こうして、設立許可を申請した結果、幸いにして、厚生省のご指導の下に、今回財団設立の運びとなった次第です。

財団の事業

この財団の事業は以下の6つの柱からなっています。

1. リウマチの予防と治療に関する調査研究およびその助成

リウマチ対策の根幹は、研究の推進です。そのために、リウマチの研究委託および研究助成を行います。まず、リウマチの予防、治療に関する研究を助成するとともに、リウマチの病態、原因、疫学などの広範な研究の推進、助成を行います。

2. リウマチの予防と治療に関する正しい知識の普及啓蒙

リウマチに対する理解を深め、リウマチ患者の福祉を向上するために、パンフレット、新聞の発行、講演会、シンポジウムの開催などにより、リウマチに関する知識の普及啓蒙活動を行います。マスコミのご協力もお願いしたいと思います。

3. リウマチに関する教育研修および専門医の養成事業

実地でリウマチ患者の診療に当る医師のために、リウマチ登録医、認定医、専門医の養成を推進し、リウマチ患者がいつでも、どこでも最高の診療を受けられる医療環境作りに向かって尽力します。リウマチ登録医の教育のため、教育研修会の開催、新聞の発行などを行います。リウマチ研修のため、医師の海外派遣も行います。

4. リウマチ関連団体への協力援助

日本リウマチ学会はじめリウマチに関係する国内、および国際的な学会への協力援助を行い、学術集会の開催を援助します。また、患者団体など、関連諸団体の活動を援助し、リウマチ患者の医療の進歩、福祉の向上のため全力を挙げます。

5. リウマチに関する国際交流

諸外国のリウマチ財団との国際協力、国際交流、情報の交換などを行います。

6. その他本財団の目的を達成するために必要な事業

わが国におけるリウマチの医療を向上、普及し、リウマチ患者の受診の便宜を図るため、リウマチ科の標榜が実現するように努力します。

さらに、リウマチの研究、診療の中心となる公的なリウマチセンターの設立、各医科大学におけるリウマチ学講座の設置、各病院におけるリウマチ診療科の新設などを推進します。

おわりに

日本リウマチ財団の設立により、わが国では長年等閑視されて来たリウマチ対策の推進に向けて、第一歩を踏み出したと言えましょう。

この財団の活動は、長年難病に苦しんで来たリウマチ患者の福祉の充実、医療の改善に役立つと信じます。さらに従来、ともすれば日陰者だったリウマチ診療従事者、研究者が、学会、社会から正しく認知されるようになるという意義は大きいと考えます。

以上、日本リウマチ財団設立の意義について述べましたが、その趣旨をご理解いただくとともに、今後財団の活動をご指導、ご後援、ご鞭撻いただくよう、切にお願いする次第でございます。

役員名簿（設立当初）

理 事 長	塩川　優一	（順天堂大学名誉教授）
副理事長	七川　歓次	（滋賀医科大学名誉教授）
専務理事	林　崇	
理　事	石丸　隆治	（財団法人ヒューマンサイエンス振興財団専務理事）
	大熊　由起子	（朝日新聞社論説委員）
	京極　方久	（東北大学医学部教授）
	佐々木　智也	（東京大学名誉教授・杏雲堂病院院長）
	斎藤　十朗	（参議院議員）
	島田　廣子	（社団法人日本リウマチ友の会理事長）
	角田　泰造	（女子美術大学教授）
	坪井　東	（三井不動産株式会社会長）
	土井　たか子	（衆議院議員）
	延永　正	（九州大学生体防御医学研究所教授）
	濱島　義博	（京都大学名誉教授）
	橋本　龍太郎	（衆議院議員）
	廣畑　和志	（神戸大学医学部教授）
	本間　光夫	（慶應大学医学部教授）
	八木　哲夫	（年金福祉事業団理事長）
	山本　真	（北里大学医学部教授）
	吉岡　守正	（東京女子医科大学学長）
監　事	鈴田　達男	（東京医科大学教授）
	御巫　清允	（東京女子医科大学教授）
	宮本　昭正	（東京大学医学部教授）
顧　問	天児　民和	（九州大学名誉教授）
	石田　博英	（前衆議院議員）
	大島　良雄	（東京大学名誉教授）

評議員名簿（設立当初）

評 議 員	東　　威	（聖マリアンナ医科大学教授）
	阿倍　　達	（埼玉医科大学教授）
	石川　浩一郎	（熊本大学医学部整形外科講師）
	上原　　昭二	（大正製薬株式会社代表取締役社長）
	梅本　　純正	（武田薬品工業株式会社取締役社長）
	大国　　真彦	（日本大学医学部教授）
	大塚　　明彦	（大塚製薬株式会社代表取締役社長）
	柏崎　　禎夫	（北里大学医学部教授）
	粕川　　禮司	（福島県立医科大学教授）
	狩野　　庄吾	（自治医科大学教授）
	河村　　喜典	（三共株式会社取締役社長）
	喜多　　政人	（日本チバガイギー株式会社取締役）
	小坂　　志朗	（青森県立中央病院内科部長）
	腰野　　富久	（横浜市立大学医学部教授）
	小松原　良雄	（大阪府立成人病センター主幹）
	鈴木　　正	（第一製薬株式会社取締役社長）
	式場　　英	（NTT（株）企業通信システム事業本部副本部長）
	紫野　　巖	（台糖ファイザー株式会社取締役社長）
	恒松　徳五郎	（島根医科大学教授）
	豊田　　善一	（国際証券株式会社取締役社長）
	長屋　　郁郎	（国立名古屋病院整形外科部長）
	西岡　久寿樹	（東京女子医科大学教授）
	藤沢　友吉郎	（藤沢薬品工業株式会社代表取締役社長）
	平坂　　義信	（中外製薬株式会社常務取締役）
	水島　　裕	（聖マリアンナ医科大学教授）
	山本　　純己	（松山赤十字病院リウマチセンター部長）
	吉利　　一雄	（塩野義製薬株式会社代表取締役社長）
	吉野　　槇一	（日本医科大学理学診療科助教授）

3. リウマチ科標榜の歴史

リウマチ科の標榜の実現に向けて、日本リウマチ財団を含めた関係団体の活動は、概ね（1）国会・厚生省等の動向について、及び（2）関係団体の動向について、において述べる通りであるが、診療科名の標榜は法律に規定されているため、関係団体の切実な願望でありながら、その実現までは大変険しく長い道のりであったことがわかる。また、いかに切実な要望であり実現のために苦労したかが、実際の施行日を待たず、医道審議会の意見が標榜を認めた段階で、早速、関係３団体が祝賀パーティーを計画したことでわかる。

リウマチ科の標榜については、登録医制度、認定医制度等と密接に絡む性格のものであり、関係団体が一枚岩でなく、日本リウマチ学会が登録医制度をスタートさせた昭和61年以降、標榜科について関係団体間において意見の対立があったが、第二次医療法改正を受けて、厚生省が標榜科問題の本格的な検討に着手し、平成７年11月に開催された診療科名標榜専門委員会のヒアリングには、（財）日本リウマチ財団、日本リウマチ学会、（社）日本リウマチ友の会が連名で「診療科名標榜の要望など理由書」を作成してヒアリングに臨み、認定医と標榜科の関連については、「リウマチ認定医についてはリウマチ学会の認定医への一本化を前提に友好裡に話し合いが進められており、標榜は自由標榜であるので、問題はないものと考えている」との姿勢で対応している。

昭和60年の医療法改正時に国会で問題点が指摘され、平成４年の第二次医療法改正により、診療科名の標榜が法律による規定から、政令による規定になるまで７年、その後晴れて実現を見た平成８年９月まで５年、本当に長丁場であったが、この間、土井たか子衆議院議長を始めとする国会議員のご尽力、皇后陛下の励ましも忘れられないことである。

リウマチ科標榜までの厚生省の動向、国会審議の動向、関係団体等などリウマチ界の動向を年次を追って整理すると次の通りである。

（1）国会・厚生省等の動向について

①昭和60年11月　第一次医療法改正

医療法は昭和23年の制定以来ほとんど改正されていないため、時代性がないとして第一次医療法改正の国会審議等において議論が百出し、それらの問題は第二次医療法改正で対応するとの姿勢を厚生省が示した。

診療科名の表示のあり方も問題の一つであり、「診療科名を含む医業に関する広告の制限は医療事情の変化、国民意識の動向に即し見直しを行う」ことが、昭和60年の第一次医療法改正の際、衆議院社会労働委員会で付帯決議となった。

②昭和61年11月　「診療科名等の表示に関する検討会」を設置

診療科名を中心に医療法上の広告についての問題点を分析し、その望ましい在り方についての基本的な方向を検討することを目的として、厚生省と（社）日本医師会が事務局となり、昭和61年11月、日本医学会副会長等有識者13人で構成する標題の検討会を設置、12回にわたる審議を経て、昭和63年2月9日に報告書ができあがった。 報告書においてリウマチ科は、アレルギー科等他の20の診療科とともに、診療科名としての表示をすることの妥当性も含めて、今後引き続き検討することが望まれるとしている。

③平成2年4月13日、20日　医療審議会開催

両日の審議会において「医療法の一部改正についての考え方」が説明された。説明の（4）として診療科名については、学術団体の意見を聞いて広告できるような特例措置を設ける。診療科名は法定とされているが、医学医術に関する学術団体の意見を聞いて、医療審議会の議を経て広告することができるようにすると厚生省側が説明した。

④平成2年5月　第二次医療法改正法案が国会提出

診療科名の標榜について法律に規定することから、政令・省令に規定することへ変更することを盛り込んだ第二次医療法改正案が国会に提出された。

⑤平成4年4月9日　第二次医療法改正法案趣旨説明

第二次医療法改正案は平成2年5月に国会に提出されて以来、平成4年4月9日の衆議院本会議で趣旨説明が行われるまで2年もの期間を要している。

大臣は津島雄二、下条進一郎、山下徳夫に代わり、健康政策局長も仲村英一、長谷川慧重、古市圭治と代わった。法案の内容が不透明との批判があり、他の非予算関連法案と同様、取り扱いが最下位におかれていた。 審議までに時間を要した最大の理由は、具体的なことが政令、省令で決めるとされており、分かりにくいとの批判が野党だけでなく与党からも指摘されたことである。

⑥平成4年6月18日　参議院厚生委員会において前島英三郎議員が質問

（質問要旨）第二次医療法改正案において、国民の健康に関するニーズの高度化、多様化、医学医術の進歩などに適切に対応できるよう関係者団体や、関係審議会の意見を聞いて弾力的に定めるとしているが、患者が自分の病気にあった医療機関を選択できるよう、診療科名を増やす必要があると思うが、今後どのように診療科名を増やそうと考えているのか。

（古市健康政策局長答弁要旨）リウマチ科、アレルギー科などを認めた場合に、その後ろにそれを保証するだけの技術と専門性を持ったお医者さんが対応するという仕掛けがないと……（中略）……専門性を標榜するということと、国民がどのような医療システムに乗るのかということを含めた検討が必要であることを含めて審議会の意見を聞く必要がある。

⑦平成4年6月19日　第二次医療法改正

平成2年5月の法案提出から2年強経過してようやく第二次医療法が改正された。標榜診療科名については、医療法第70条第1項の改正により、医学、医術に関する学術団体及び医道審議会の意見を聞いて医療法施行令で定めることとなった。

⑧平成4年9月3日　医道審議会答申

（答申要旨）医業及び歯科医業につき、政令で定める診療科名について、当面現行通りとし、新たな診療科名の追加を含め、今後の診療科名のあり方については、本審議議会に専門委員会を設置し十分に検討すべきである。

⑨平成5年3月19日　医道審議会診療科名標榜専門委員会　初会合

平成4年6月19日の第二次医療法改正、平成4年9月の医道審議会の答申を受けて、平成5年3月19日医道審議会の診療科名標榜専門委員会が初会合を開いた。

医道審議会の委員の中から選ばれた部会委員と、日本医師会、日本医学会、日本歯科医師会、学識経験者から新たに参加した専門委員の計

10名で構成、委員長には土屋健三郎氏を選任。厚生省は、標榜科目の大枠や基準等手続き論から検討を始め、個々の科目の審査は先の話であるとの考えであり、標榜科目となるためには、国民が医療機関を選択しやすく、学問的に確立したもので、関係者のコンセンサスを得ていることが大切であるとし、次回は米国や、英国など海外の制度、戦前の歴史について検討することとした。

委員会は第1回開催後2年間中断、平成7年度に再開し、平成8年2月まで計9回にわたって専門委員会を開催して意見をまとめた。

⑩平成8年2月13日　財団　標榜科対策委員会設置を決める

平成8年2月の企画運営委員会において、日本リウマチ財団標榜科対策委員会を設置することを決め、3月13日に第1回会議を開催、その後4月5日の会議においては、標榜科実現後の財団事業について議論している。本委員会の設置に関しては、当初、政財界、報道界、学会、有識者で構成するリウマチ科標榜特別委員会の設置構想のもと、委員の人選を進めたが実現をみていない。

⑪平成8年3月27日　医道審議会森会長から菅厚生大臣に意見書

平成8年3月18日に診療科名標榜専門委員会から検討結果が部会長に報告され、これを受けて医道審議会会長から菅直人厚生大臣に意見書が提出されたものであり、意見書は診療科名標榜専門委員会の報告を尊重し、要望のあった24件、医業としてはアレルギー科、心療内科、リウマチ科を標榜診療科として認めるとの要旨である。

⑫平成8年8月12日　医療法の施行令を改正する政令の公布

医療法第70条第1項に規定する広告し得る診療科名として、医業については、心療内科、アレルギー科、リウマチ科及びリハビリテーション科を追加、理学療科は削除し、リハビリテーション科に包摂する。(9月1日より施行)

（2）関係団体の動向について

昭和32年4月	日本リウマチ協会発足
35年5月	伊東リウマチ友の会設立（36年2月、日本リウマチ友の会と改称）
37年5月	日本リウマチ学会、日本リウマチ協会より分離、（別府市で開催の第6回総会で決議）
45年9月	日本リウマチ友の会、社団法人認可
46年10月	患者団体の働きかけで、衆参両院議員70名が「リウマチ対策議員懇談会」結成（石田博英日本リウマチ協会理事長の尽力）
46年11月	古寺宏衆議院議員、社会労働委員会でリウマチ問題について質問、齊藤昇厚生大臣答弁。多数のリウマチ友の会会員が傍聴
47年7月	国立リウマチ研究所（仮称）、同付属病院設立要望書配布（日本リウマチ協会理事長石田博英、日本リウマチ学会会長日比野進）

54年12月	国立膠原病・リウマチセンター（仮称）設立に関する陳情書を衆参両院議長等に提出（日本リウマチ学会　塩川優一）
55年4月	日本リウマチ学会、厚生省にリウマチ科設置要望
56年12月	日本リウマチ学会有志が新橋第一ホテルにて「第1回リウマチ対策を考える会」を開催。リウマチ標榜科推進について討議
58年7月	日本リウマチ学会に「標榜科、認定医制度推進委員会」発足（委員長　景山孝正）
	医療法第70条第1項の改正に関する要望書提出（日本リウマチ学会会長　御巫清允）
59年4月	「リウマチ」標榜科について要望書（日本リウマチ学会会長　延永正、日本リウマチ学会幹事長　塩川優一、リウマチ標榜科認定医制度検討委員会委員長　七川歓次
61年1月	日本整形外科学会が衆議院社会労働委員会・戸井田委員長へリウマチ標榜科反対意見書提出。6月には参議院社会労働委員会大浜委員長へ提出
61年2月	リウマチ標榜科実現のための受け皿として、日本リウマチ学会登録医制度発足（60年5月の学会定時総会、12月の臨時評議員会で議決）
61年11月	厚生省と日本医師会が「診療科名等の表示に関する検討会」設置。12回にわたる審議を経て昭和63年2月報告書作成
62年11月	厚生省が日本リウマチ財団の設立を許可
平成2年5月	第二次医療法改正案、国会提出
2年9月	日本整形外科学会が日本医師会長宛、リウマチ科標榜反対意見を提出
3年9月	衆参両院の社労委員会委員へリウマチ科標榜の陳情（日本リウマチ財団理事長　塩川優一）
	平成4年4月も同様に陳情
4年4月	4月9日に衆議院本会議において趣旨説明、平成2年5月の国会提出以来2年ぶり
4年5月	五島衆議院議員、衆議院厚生委員会にて質疑
4年6月	前島参議院議員、参議院厚生委員会において質疑
	第二次医療法改正
4年9月	森亘医道審議会会長が山下徳夫厚生大臣に「診療科名の在り方について」答申
5年3月	厚生省が医道審議会診療科標榜専門委員会を設置
7年3月	土井たか子衆議院議長（日本リウマチ財団理事）が第4回国際リウマチシンポジウム・ウエルカムパーティーにおいて、リウマチ科標榜実現について努力することを表明
	衆議院厚生委員会で鴨下一郎議員が質疑
7年5月	皇后陛下、日本リウマチ友の会35周年記念式典のご臨席。リウマチ科標榜の実現について、塩川理事長励ましのお言葉を賜る
7年9月	厚生省、多田事務次官、谷健康政策局長、中西官房審議官と意見交換（塩川理事長、幸田理事、西岡理事）
7年10月	参議院厚生委員会で水島裕議員（日本リウマチ財団評議員）質疑

7年12月	医道審議会診療科名標榜専門委員会開催、リウマチ科標榜について必要理由の説明（日本リウマチ財団塩川理事長、日本リウマチ学会安部達幹事長、日本リウマチ友の会島田廣子理事長）
8年3月	日本リウマチ財団の標榜科対策委員会が第1回会議を開催
	森亘医道審議会長、菅直人厚生大臣に意見書
	3月18日診療科名標榜専門委員会からの審議結果の報告を受けて、3月27日　意見書を提出
8年7月	7月4日に「リウマチ標榜科達成記念の会」を開催することを、日本リウマチ友の会、日本リウマチ学会、日本リウマチ財団の三者合同で企画し、5月に案内状を発送。出欠の返事が一部来たところで、都合により中止することとなり、6月17日中止の案内をした。下掲のフラッグを制作し、登録医等の関係者に送付した。
8年8月	医療法施行令の一部改正、医療法施行規則の一部改正。医療法施行令の一部改正、医療法施行規則の一部改正が8月12日公付され、9月1日よりリウマチ科の標榜ができることとなった。

（3）リウマチ科標榜実現その後について

平成19年5月、診療科標榜科目、突然の見直し問題

このように長年苦労して実現したリウマチ診療科、その実現から10年後に突然見直し問題が発生、結果的には事なきを得たが、今後同様の問題が起こらないとはいえない。

奇しき因縁というか、医学会の重鎮として当然と言うか、日本リウマチ財団の髙久理事長が、平成8年にはリウマチ科標榜の診療科名標榜専門委員の委員として、また今回の見直しに当たっては診療科名標榜部会委員として、リウマチ科の標榜問題の審議に携わられたことは財団として心強いことであった。日本リウマチ財団としても他団体同様、存続について要望書を提出しようと考えたが、髙久理事長が診療科名標榜部会の委員であり、委員として財団の意向を十分反映できるとの考えで要望書の提出は控えた。見直し問題の経緯の概略は次の通りである。

①平成19年5月8日、厚生労働省が「診療科名標榜科目の見直しに着手」とマスコミが報道、現行の標榜科目も整理し、わかりやすい表記にとの報道内容であり、5月8日開催の財団の企画運営委員会で対応を検討、リウマチ科標榜が認められてから10年の節目の年であり、リウマチ科標榜10周年の記念講演を計画していることもあり、リウマチ科標榜の存続の必要性について意見表明が必要であるとし、意見表明の場、タイミングについて検討した。

②平成19年5月21日、厚生労働省が10年ぶりに医道審議会医道分科会診療科名標榜部会開催、標榜診療科の表記の見直しについて、たたき台提案

③平成19年5月31日、リウマチ月間行事の一環として、リウマチ科標榜10周年記念講演会を開催、「念願のリウマチ科標榜と現状」と題して、島田廣子日本リウマチ友の会創設者、名誉理事長の記念講演、「リウマチ科標榜によりリウマチの診察はどう変わったか」をテーマにシンポジウムを行った。

シンポジウムは、西岡久寿樹常務理事、山本純己理事の司会により、川合眞一東邦大学医療センター大森病院膠原病科教授が「大学病院におけるリウマチ科標榜」、村澤章新潟県立リウマチセンター院長が「県立リウマチセンターの設立」、山本一彦東京大学アレルギー・リウマチ科教授が「リウマチ学教育」、長谷川三枝子日本リウマチ友の会会長が「リウマチ科標榜とリウマチ患者」、松井宏夫日本医学ジャーナリスト協会幹事が「リウマチ科標榜とマスメディア」と題して、それぞれ発表し総合討論を行った。

④平成19年6月11日、第2回診療科名標榜部会開催。

⑤平成19年6月22日、日本医師会館において、唐澤祥人日本医師会会長と日本リウマチ財団西岡久寿樹常務理事が厚生労働省の診療科名標榜見直し案について緊急対談、リウマチ科標榜の存続で意見一致。

⑥平成19年9月21日第3回診療科名標榜部会を開催「標榜診療科名の表記について」金沢部会長より舛添要一厚生労働大臣に意見書提出。

意見書によれば一時削減が懸念されたリウマチ科は従前通り存続となる。

4. リウマチ登録医制度の歴史

（1）制度制定の経緯について

日本リウマチ財団の登録医制度は昭和61年2月、日本リウマチ学会の制度として発足し、昭和62年に日本リウマチ協会を発展的に解消して、日本リウマチ財団が設立された時、制度を継承し運用してきたものである。制度継承後の運用にあたり、財団においては日本リウマチ学会の規則をそのまま運用した。リウマチ学会の制度としてスタートした制度を財団で運用することについては、「リウマチ登録医はリウマチの診療に熟達した医師である。そしてこれは患者の利益のため又は社会におけるリウマチの重要性を認識させるため、という社会的な意義があるので、日本リウマチ財団において認定してきた」との記録がある。

日本リウマチ学会におけるリウマチ登録医制度についての検討は、昭和57年に設置した「リウマチ科認定医推進準備委員会」から始まっており、2年後の昭和59年6月、定例の学会役員改選を機に、委員会を「リウマチ標榜科認定医検討委員会」に改称、委員会の委員長が景山委員長より七川委員長に代わり、又、委員も大幅に変更した。その年の11月に委員会を開催して準備委員会における検討事項を確認した上で、今後の方針として、(1) リウマチ認定医はすぐには発足せず、取りあえずリウマチ登録医から始める (2) 関連学会、厚生省、日本医師会、日本医学会等関係方面との調整をするとの方針を決めた。60年2月の委員会においては、「リウマチ登録医」制度の検討、3月には日本整形外科学会の関連委員会との調整などを進め、同月に、制度の目的、登録医の資格、資格の期間、登録医制度の手続き等からなる「日本リウマチ学会リウマチ登録医制度（案）」を作成したが、この時点では日本リウマチ学会登録医制度の発足時期は、さらに時間をかけた方がよいとの意見が多かった。このような検討を経て、昭和60年5月9日のリウマチ学会定時総会において制度制定が議決され、その後、12月の臨時評議員会で、制度規約を決定、昭和61年2月1日より発足の運びとなった。

当時の記録から日本リウマチ学会リウマチ登録医制度制定の趣旨を要約すると、

①日本リウマチ学会及び日本リウマチ協会は、10数年来リウマチ標榜科の認知のため、関係各方面に働きかけ努力してきた。昭和59年度になりようやく見通しを持つことができるようになり、昭和60年度には塩川幹事長が日本医学会、日本医師会と話し合いの上、了承を得て標榜科認知のための運動を一層推進する基礎作りができた。

②リウマチ標榜科の認知のためには、それに見合う何らかのリウマチ診療における専門家への実際的な措置が必要であり、10数年来行っているリウマチ教育研修会、薬効検定委員会のシンポジウム、ワークショップ活動では慢性関節リウマチ診療の専門化に対応するには不十分である。

③患者から専門病院の設立、専門医の養成や紹介に関する要望が古くから関係各省に寄せられ、診療に際して専門科の選択に迷い、適切な診療が受けられないとの陳情がある。

④我が国のリウマチ医学の進歩に伴い、おびただしい患者に対する医療の向上のためにも、諸外国との対応の上からもリウマチ診療に携わる医師の教育、専門化が今後の重要な課題である。

以上のような状況にあって、リウマチ登録医制度を発足させることが、諸般の要望に応えるものであるとしており、このリウマチ登録医制度はリウマチの認定医、専門医制度の第1ステップになるもので、リウマチ登録医はリウマチ学に関する系統的情報を得ることにより、将来、リウマチ認定医、専門医を申請する有資格者となると結んでいる。

制定当初のリウマチ登録医制度規則は、その目的を第1条に「日本におけるリウマチ学の著しい発展と体系化に対応して、リウマチ学に関する優れた医師を養成し、その進歩発展と医療水準の向上を図り、系統的治療を通じて国民の健康と福祉に貢献することを目的とする」と規定していたが、現行では同じく第1条に、「リウマチ登録医制度はリウマチ性疾患の診断、治療に関する優れた医師を養成し、医療技術の進歩と診療水準の向上を図り、系統的治療により国民の健康と福祉に貢献することを目的とする」と規定しており、制定当初の「リウマチ医学に関する優れた医師の養成」は、「リウマチ性疾患の診断、治療に関する優れた医師の養成」に変わっている。

（2）リウマチ登録医の誕生について

昭和61年2月の日本リウマチ学会のリウマチ医登録制度発足後、第1回の登録医募集を始め、同年9月には、1,072人が登録医として認められ登録された。9月12日に厚生省でこのことを発表しているが、その後25日には日本整形外科学会がリウマチ登録医を10月末に公表することを発表したため、翌26日の読売、朝日、毎日、産経の各朝刊紙には、「リウマチ登録医制度で対立」、「リウマチ登録医制度2学会ではち合わせ」等の文字が踊っており、リウマチ科標榜の問題が絡み、登録医制度について日本リウマチ学会と、日本整形外科学会の調整が不調であったことを報じている。

（3）学会制度等との調整について

昭和61年2月、日本リウマチ学会の登録医制度が発足した後、同年3月には日本整形外科学会が「日整会認定リウマチ医規約」を制定し3月30日から施行した。さらに日本リウマチ協会が発展的に解消して日本リウマチ財団が発足し、リウマチ登録医制度を財団が運用することになった62年11月、日本リウマチ学会には、現在の専門医制度の前身である「日本リウマチ学会認定医制度」が発足した。平成9年の日整会誌第71巻第5号によれば、これを機に日整会は三者の制度を一本化すべきとの方針を決め活動を始めている。平成元年には日本リウマチ財団と日整会の制度の一本化の話し合いがもたれた後、日整会内部における調整が続けられ、平成6年に日整会評議員に対する認定リウマチ医一本化に関するアンケート調査を実施、90%以上は一本化すべきとの調査結果を得て、一本化の動きが加速している。平成7年に日整会小川理事長から日本リウマチ学会安倍幹事長に一本化交渉を正式依頼、11月には第1回リウマチ認定医一本化に関する日本リウマチ学会（リウマチ財団を含む）と日本整形外科学会代表者合同会議を開催し、基本的な考えを確認理解し、制度上の問題点を比較分析、日本リウマチ財団の登録医制度との関係を議論、一本化早期実現を確認しており、7回の代表者会議を開催して結論を得ている。

日本リウマチ財団登録医と日本整形外科学会

認定医との関係については、平成8年11月にリウマチ登録医規則の適用の特例を定める規則を制定することで合意した。平成10年3月31日までの有期限を設けて、平成9年1月1日から同規則を施行したが、途中、平成12年3月31日まで特例期間を延長して適用しており、特例の内容は日本整形外科学会リウマチ認定医は、リウマチ登録医規則第3条（登録医の資格）がなくても審査を受けて登録医になることができるとの内容である。

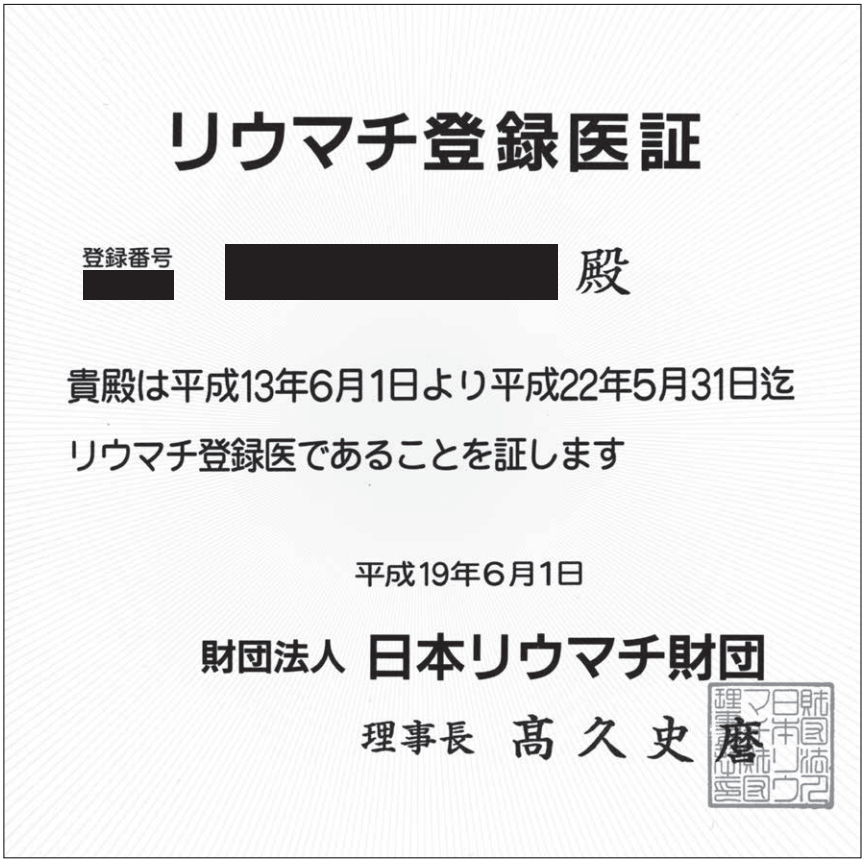
日本リウマチ学会と日本整形外科学会の関係については、平成9年2月に「日本リウマチ学会認定医申請における日本整形外科学会認定リウマチ医を対象とする特例措置について」を日本リウマチ学会が提案し、同年3月に両学会が合意している。

しかしながら、諸々の事情から現在でもそれぞれの制度は別々に運用されており、一学会一専門医という大きな課題を抱え、平成18年6月に、「日本リウマチ学会の専門医と日本整形外科学会の認定リウマチ医における認定の基準や方法等の統一を図っていくこと。」を厚生労働省から文書で指摘されている。

この課題の解決策として髙久史麿日本リウマチ財団理事長は、平成18年に「私と日本リウマチ財団」において次の提案をしている。

「日本リウマチ財団の運営に直接関係するようになってから4年が経ったが、特に最近感じている事は、日本リウマチ学会が実施している『専門医制』と財団が従来から認定している『登録医制』、日本整形外科学会が認定している『認定リウマチ医制』との関係がはっきりしていない点である。日本リウマチ学会、整形外科学会の両方にあまり関係していない、ある意味では第三者に近い立場にある私から見ると、このような状況では若い医師や現場でリウマチ患者の診察に当たっている医師は困らないかと危惧される。リウマチ学会の専門医の育成、維持のための教育と財団の登録医に対する教育とは時期や期間などお互い関係なく行われている。整形外科学会のリウマチ認定医も同様であろう。しかも講師の方々は、同じ方が多いと聞いている。専門医の認定は1つの学会が1つと決められているので、リウマチの専門医の認定を日本リウマチ学会が行うのは当然であるが、関節リウマチの患者は全国におり、しかも病気の性質から言って遠くの病院に診察に訪れることは困難である。従って、地域によっては財団の登録医、整形外科の認定医がリウマチの専門家として関節リウマチ患者の診察に当たることが当然考えられる。ここで私が1つの考えとして提案したいのは、リウマチの専門医制でも内科学会が従来行っており、又、癌治療の専門医制でも最近始めたように、リウマチの専門医も認定医と専門医の二段階とし、リウマチ財団の登録医、整形外科学会の認定医を広くリウマチの認定医とし、その上に、リウマチの専門医を作るという体制にしてはどうかということである。既に癌治療では、癌治療の認定医制の上に癌の薬物療法、放射線治療等の専門医制を設け、前者の癌治療の認定医の研修プログラムの作成、研修の実施、認定は日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、全癌協の4者が合同で行うこととなっている。同じように日本リウマチ学会、日本リウマチ財団、日本整形外科学会の3者でリウマチの認定医の研修プログラムの作成、教育の実施、認定医の認定を行い、その上に日本リウマチ学会や整形外科学会の専門医を設ければ、現在の込み入った状況が解決するのではないだろうか。もしこのような認定制が可能にな

れば癌やリウマチ等特定の疾患の認定医の看板を表示できるよう、厚生労働省に働きかける必要があるであろう。只、このような提案は今までのいろいろな事情を知らない私の勝手な戯言かも知れない。いずれにせよ、関連する学会、団体がゆっくり話し合って、この問題を解決する必要があるであろう。そうでないとかっての癌治療の専門医制の問題で、関連する学会が患者不在の学会中心の考え方としてマスコミ、患者団体から強く批判されたのと同じ状況が起こるであろう。」



リウマチ登録医証

登録番号 [redacted] [redacted] 殿

貴殿は平成13年6月1日より平成22年5月31日迄
リウマチ登録医であることを証します

平成19年6月1日

財団法人 日本リウマチ財団
理事長 髙久史麿

リウマチ登録医証

5. 各種委員会活動について

日本リウマチ財団の事業を実施するに当たり、具体的な方策を検討するために各種の委員会を設けている。委員会は委員会規程により設置することとし、財団の発足当初は、薬効検定委員会、教育研修委員会、登録医審査委員会、学術助成委員会、国際交流委員会、運営委員会の６委員会であったが、その後平成８年に運営委員会が企画運営委員会に名称変更、平成10年４月に新しく医療情報委員会が発足、現在、企画運営委員会、医療情報委員会、治験委員会（平成10年より薬効検定委員会から変更）、教育研修委員会、登録医審査委員会、学術助成委員会、国際交流委員会の７委員会が委員会規程において設置されているが、これら常置委員会の所掌業務以外の事案に対処するため、委員会規程によらない委員会を時宜に即して設ける柔軟な対応により財団業務の適正な実施を図ってきている。

日本リウマチ財団設立後の毎年度の事業報告書他、各種資料による委員会の活動状況は次のとおりである。

（1）企画運営委員会（平成８年６月に運営委員会から名称変更）

本委員会の業務は、財団の事業の企画運営に関すること及び他の委員会の業務の総合調整に関することであり、財団業務を総合的に企画運営する重要な委員会であるため、理事長、副理事長、専務理事も開催の都度会議に参加している。委員会はその性格柄ほぼ毎月定期的に開催してきた。

委員会規程の施行は昭和63年4月1日からであるが、本委員会は財団発足後の昭和62年12月に第1回運営委員会を開催し、62年度中にその後3回開催した。平成19年度末までに延べ199回の会議を開催し、財団運営の要として機能している。

（2）医療情報委員会

リウマチ情報センター事業を企画運営するのが医療情報委員会であるが、委員会は平成10年4月1日から発足した。狩野庄吾自治医科大学附属病院長が委員長となり、委員長他6名の委員で構成、平成10年度は3回の会議を開催し、登録医の広場、提供する情報等リウマチ情報センターの運営に関し検討を始めている。

委員会発足当初は、日本リウマチ学会、日本整形外科学会、日本リウマチ友の会に対して、リウマチ情報センター運営に関するアドバイザーの推薦を依頼、委嘱したアドバイザーより、リウマチ情報センターの運営、情報収集提供について意見を求めていた。

医療情報委員会活動は年を追って多忙となり、平成17年度以降は、日常のＥメールによる情報交換の他、年2回定期的に委員会を開催して、新規企画の検討、情報の更新、情報の質の確保等に努め、リウマチ性疾患に関する専門家向け、患者向け、一般社会向け情報を提供し、リウマチ性疾患に関する啓発・普及に取り組んでいる。

（3）財団ニュース編集委員会

日本リウマチ財団ニュースが誕生したのは財

団発足4ヶ月後で、昭和63年の4月号がその第1号である。しかしながら、財団ニュース編集委員会が財団の組織として正式に発足したのは平成14年度であり2名の委員でスタートした。それまでは塩川理事長を中心とした有志が企業の協力を得て編集に当たっており、編集委員会としての組織はなかった。

平成15年度よりこれまでの年4回発行から年6回の発行となり、併せてページ数も4頁から12頁と大幅に増えたことにより、企画業務、取材業務、記事の執筆、編集業務が増大、平成15年度に2名、平成18年度にさらに2名増員し、現在の6名体制で日本リウマチ財団ニュースの発行に苦労している。

毎号の企画は勿論、地方での訪問取材等、情報収集、委員自らの執筆、毎号の編集後記執筆も大変であり、編集後記は第2号から第57号までは欠かさず、塩川理事長が執筆しており、塩川理事長の退任に伴い、後事を託された現・後藤眞編集委員長が第58号から長期に連続して執筆され、時に科学者の目線で、時に庶民的な目線で、時の世相を映す編集後記の連載は、まさに「継続は力なり」であり、財団の顔の1つである財団ニュース発行にかける情熱そのものである。

編集委員会は多い年で年6回、平均で4回開催、平成17年度以降はEメール等通信手段の活用により会議開催回数は減少した。

（4）リウマチエキスパート編集委員会

リウマチエキスパートは、日本リウマチ財団ニュースの発行よりほぼ1年前の、昭和62年3月に、日本リウマチ学会において発行されている。昭和63年3月発行の第3号からは日本リウマチ財団において発行されたが、リウマチエキスパート編集委員会が財団に組織されたのは、平成5年度であり3名の委員でスタートした。平成13年度まで同じ体制であったが、平成14年度から2名体制となり、平成15年度日本リウマチ財団ニュースへの統合に伴い、リウマチエキスパート編集委員会の幕を閉じた。編集委員会は4回開催した年もあるが、毎年ほぼ2回開催していた。

（5）登録医ネットワーク化委員会

日本リウマチ財団の登録医であることによって生ずる利益を、登録医及び非登録医に周知させ、登録医を魅力あるものとする必要性を背景に、本委員会は平成15年度に設置された。同年9月29日に初会合を開催し、財団業務の効率化、登録医の意識向上のための登録医ネットワークの構築、登録医に対する教育・啓発の推進、登録医ネットワークを活用した治験の実施について検討し、その後、平成16年2月、同年10月、平成17年4月、同年9月と会議を重ね、その間、財団登録医を対象にネットワークに関するアンケート調査を実施し、リウマチeラーニングプログラム、「関節リウマチ患者の治療アウトカム改善を目指して」及び、「線維筋痛症」の制作運営について検討し、平成17年度から順次、日本リウマチ財団登録医のための生涯教育eラーニングとして日本リウマチ財団のホームページでサービス提供を始めた。

平成20年9月1日の第6回会議においてはeラーニングの活用状況を検討し、今後の進め方として、「関節画像の読み方（X線、MRI、超音波）」、「関節診察法と関節注射」、「抗リウマチ薬と生物学的製剤の使い方」をテーマに新し

い教材を製作することを決め、登録医のネットワーク化に関し、Eメールによる情報提供、治験に参加する登録医の募集等について検討した。

（6）教育研修委員会

毎年度のリウマチ教育研修会について、年度の研修方針、実施場所、世話人の選定等、リウマチ教育研修委員会の運営について検討する他、教育研修会で使用する教材作成についても検討をしてきた。日本リウマチ財団における教育研修会活動は、昭和62年12月に登録審査委員会、認定医標榜科推進委員会、日本リウマチ学会庶務幹事合同委員会と合同で会議を開催し、認定医規則の件、教育研修登録講師の件等について協議したことに始まるが、その後、昭和63年4月から毎年度2～3回教育研修委員会を開催し、毎年度のリウマチ教育研修会の実施に関すること、教育研修会の単位認定数や単位認定料のこと、他学会などの研修単位等について検討し、リウマチ教育研修会の充実に努めている。

リウマチ教育研修会で使用する教材に関しては、平成2年6月に「リウマチ教育研修会テキスト」を作成後、平成5年、平成8年、平成11年の第4版まで、ほぼ3年ごとにテキスト内容を見直している。平成8年のリウマチ科標榜の実現を契機に、日本リウマチ財団登録医等を中心として、リウマチ医療の一層の充実が求められるようになったことを背景に、研修会の充実を図る一環として、テキストの再編について検討をし、日本リウマチ学会生涯教育委員会に協力を求め、平成14年7月には装いを改めて「リウマチ基本テキスト（第1版）」を作成、平成15年5月には第2版を発行した。

「リウマチ基本テキスト」については、平成21年夏の発行を目指し平成19年度より、日本リウマチ財団教育研修委員会と、日本リウマチ学会生涯教育委員会とが合同で数次の検討会を開催し、抜本的な改訂作業を進めている。

（7）リウマチのケア研究委員会

平成5年度の新規事業としてリウマチのケアに関する研究会が9県において開催された。この事業は平成8年度まで継続しており、この事業を都道府県において実施するにあたり、研究会の設置・運営に関し助言するために、平成5年にリウマチのケア研究委員会を設置したのが始まりである。平成12年度から企業の賛同を得て日本リウマチ財団が主体となり、現在続いているリウマチのケア研修会を実施するに当たり、リウマチのケア研究委員会を再編し、12年5月14日に再編後の初会合、当年度のケア研修事業について検討を始めた。以来、毎年度リウマチのケア研究委員会を開催し、世話人・講師及び協賛企業との連絡調整を行い、又、山本純己リウマチのケア研究委員会委員長が積極的にリウマチのケア研修会に参加して研修会の充実に努めている。

（8）登録医審査委員会

リウマチ登録医規則第4条に基づいて設置された委員会であり、その名の通りリウマチ登録医の資格について審査する委員会である。登録医制度は昭和61年2月、日本リウマチ学会において発足した制度を継承したものであり、61年度及び62年度の登録医の審査は、日本リウ

マチ学会において行われており、日本リウマチ財団における活動は昭和63年3月7日に、昭和63年度の登録医審査について検討したのが最初である。昭和63年度には4月に2回、5月に1回、平成元年3月に1回、計4回開催し、リウマチの範囲の検討、登録医資格維持申請書式の検討、登録医の資格審査を行っている。登録医の有効期間は3年であるため、平成元年度から新規登録医の資格審査に加えて更新の資格審査が始まり、これら資格審査のため平成15年度までは年2回、登録医審査委員会を開催していたが、新規登録者の減少、審査方法の合理化により、平成16年度から年1回の開催となっている。登録医制度に関しては、平成3・4年度にリウマチ登録医資格維持規則の一部改正、平成8年度に登録医制度の改正について検討した。

（9）災害時リウマチ患者支援事業推進委員会

平成7年の阪神淡路大震災の教訓からリウマチ患者さんに対する災害時の支援について必要性を認識したが、対策を講じるための検討の機が熟さず、平成15年になり山本純己委員長（財団のリウマチのケア研究委員会委員長）他4人の委員で構成する「災害時リウマチ患者支援体制に関する検討会」を設置した。ここで今後の進め方について検討した結果、既存の「リウマチのケア研究委員会」の分科会的な活動を行うこととして、名称を「災害時リウマチ患者支援特別委員会」と改称し、本格的な検討を始めることとした。平成16年1月に会議を開催し、災害時の事例検討、支援体制に関する検討を進め、全国各医療機関の協力のもと、「災害時リウマチ患者支援拠点病院」整備構想を決定した。この整備構想の実施段階で厚生労働省から、地域医療の観点から日本医師会、行政との連携を持つこと等についてアドバイスがあり、平成17年9月に開催した委員会において、「災害時リウマチ患者支援特別委員会」は発展的に解消し、日本医師会の代表、日本リウマチ友の会の代表、厚労省など行政からも参加した新たな委員会を設置することを決め、平成17年11月16日に「災害時リウマチ患者支援検討会」として初会合を開催し、これまでの検討結果の報告、今後の検討事項について論点整理を行った。

その後、3回の作業部会の検討を経て作成した「災害時リウマチ患者支援事業実施要綱」を、平成19年3月開催の検討会において最終案としてまとめ、平成19年4月より日本リウマチ財団として、災害時リウマチ患者支援事業を実施するための体制整備に着手した。体制整備が整い平成19年9月1日からの事業実施前の平成19年7月の災害時リウマチ患者支援検討委員会において、「災害時リウマチ患者支援検討会」を発展的に解消し、「災害時リウマチ患者支援事業推進委員会」として活動することを決め、早速、同年11月2日に推進委員会を開催して、災害時支援協力医療機関台帳の作成、患者情報の収集管理に着手した。12月15日には幹事災害時支援医療協力機関打合せ会議を開催し、災害時リウマチ患者支援事業実施要綱に基づく役割分担を確認した他、事業の実施について協力要請を行った。

（10）医療保険委員会

平成19年1月10日に開催した企画運営委員会において、「登録医を対象とする医療保険制度検討委員会の設立について」が議題となり、

この構想について了承している。設立の目的は、「登録医の多くは実地医療の第一線でリウマチ医療に従事している医師であり、リウマチの新しい医療の導入や、リハビリテーションの保険医療のあり方、又、診療報酬上の疑義解釈の問題点に対応助言し、また適切な医療診療費のあり方などについて検討する。これらの登録医の問題に対応するため同委員会を設立し、登録医の切実な要望に応えるものとする」と説明しており、委員会構成メンバーについても了承している。この企画運営委員会の決定を受け、医療法人井上病院理事長であり、当財団の企画運営委員会の井上博委員が中心となり、平成19年2月25日に「医療保険委員会（仮称）設置懇談会」を開催して、「医療保険委員会（仮称）設置運営要綱（案）」を審議して原案通り決定した。

2月25日の会議においては、設置運営要綱を検討して委員会の設置を決めた後、事前に提起された問題点について検討し、その結果をもって平成19年3月には、「エタネルセプト在宅医療時の患者通院頻度に関する要望書」を厚生労働省に提出しており、実質的には第1回会議といえるものであった。その後、平成19年4月25日横浜にて第1回会議を開催し、①リウマチ医療診療報酬上の問題点、②今後の委員会運営について検討した。

平成19年5月31日には、早期関節リウマチの初診時の検査に関し、早期関節リウマチが疑われるケースについては、初診時に限り同一日に3者又は2者（MMP-3とRF因子か、MMP-3と抗CCP抗体検査）の検査ができるよう厚生労働省に要望書を提出、平成19年11月4日東京で第2回会議を開催し、①エンブレル®の査定、②抗CCP抗体検査の減額、③INH予防投与、④自己注射管理加算について検討した。

平成20年1月には、先に厚生労働省へエタネルセプト製剤の在宅自己注射指導管理料の算定要件の見直しについて要望していた件に関し、日本医師会長へも文書で実現への支援要請をした。エタネルセプトの在宅自己注射に関しては、中央社会保険医療協議会総会の議を経て、平成20年4月から2週に1回の外来等の診療を求めないことが決まり、条件緩和の要望が実現している。

平成20年7月には、ヒュミラ®の全例調査に関し、生物学的製剤の使用経験豊かなリウマチ登録医が、全例調査に参加できるよう関係会社に要請し、善処への回答を得ており、平成20年9月27日の日本リウマチ財団設立20周年記念式典当日にも委員会を開催し、メトトレキサート（MTX）の増量問題等について検討し、検討結果をもとに厚生労働省に対して改善の要望書を提出した。

（11）線維筋痛症調査研究委員会

臨床学的、社会的問題を抱え、「隠れた難病」と称される線維筋痛症について、①実態調査、②ACR臨床診断の基準の妥当性、③治療方針の検討、④心療内科、整形外科、精神科等関連領域との協調体制確保、⑤啓発活動等の活動を行い、診断及び病態解明、治療方針の確立を図ることを目的とする「線維筋痛症調査研究委員会」を設置することを、平成15年6月の企画運営委員会において決めた。

平成15年8月7日東京において初会合、患者の現状報告、調査研究対策及び公開シンポジウムの開催について検討した。

線維筋痛症に関しては、厚生労働省の厚生科学研究班による調査研究が行われており、日本

リウマチ財団としては、平成17年3月8日に開催された研究班の公開シンポジウムを後援し、また、平成18年3月20・21日に行われた同研究班の「厚生科学研究公開シンポジウム」に対して、平成17年度事業として助成を行った。このシンポジウムにおいては、線維筋痛症の病因・病態解明に関する調査研究結果の発表、各分野の専門家との線維筋痛症診断及び治療コンセンサスカンファレンスを行った。

平成18年度事業としては、平成19年2月27・28日に東京において、日本リウマチ財団主催、厚生労働省、日本リウマチ友の会、線維筋痛症友の会の後援で、「リウマチ医療公開シンポジウム」を開催し、線維筋痛症研究の進歩、線維筋痛症ケアへのアプローチ、線維筋痛症をめぐるトピックス等をメインテーマに研究発表がなされた。

平成19年度においては、平成19年9月23・24日に開催された、第1回線維筋痛症研究会（代表世話人・西岡久寿樹日本リウマチ財団常務理事）を後援するとともに助成を行った。

（12）薬効検定委員会（平成10年に治験委員会となる）

薬効検定委員会は、昭和45年に日本リウマチ財団の前身である日本リウマチ協会において組織され活動してきたものであり、これを日本リウマチ財団がそのまま引き継いでいる。日本リウマチ協会における委員会の活動については、「抗リウマチ剤の薬効検定報告」として、昭和50年に第1集、昭和60年に第2集が発行されている。

薬効検定委員会は、新「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」の施行により、平成10年3月末をもって委員会としての使命を終了し、代わりに治験委員会を設置して新たな活動に入った。

日本リウマチ財団における薬効検定委員会の活動については、平成10年に「抗リウマチ剤の薬効検定報告」第3集として発行されており、これにはDMARDの薬効検定、早期RAに対するDMARDsの臨床試験、抗リウマチ薬・療法の臨床試験実施基準が含まれており、薬効検定委員会の記録集としては最後のものである。

薬効検定委員会に代わり設置された治験委員会は平成10年度に5回の会議を開催し、①治験に関する治験委員会の関わり方、②依頼治験に関する相談打合せについて検討、その後平成11年8月の委員会においては、S-3013臨床試験成績について検討、平成13年度は治験委員会を5回開催し、①リウマチ薬の治験と財団の役割、②リウマチ薬の治験実施上の問題点、③リウマチ薬の治験申込み相談、④リウマチ薬の治験実施体制、⑤リウマチ薬治験実施体制のアンケート調査の5題について検討した。

（13）リウマチ性疾患国内評価委員会

本委員会は平成14年2月に委員会委員を委嘱しているが、委員会設置の趣旨は、世界保健機関が主唱する「骨・関節疾患2000－2010年対策」運動に呼応し、日本リウマチ財団が平成14年4月に「リウマチ制圧10か年対策国際会議」を開催し、この会議において、今後10ヶ年の世界各国のリウマチ対策を評価するための、国際評価委員会の設置を提唱する考えがあり、国際評価委員会が設置された場合、これに対応するために国内評価委員会を設置するとの趣旨であり、国際会議において予定通り、「骨・関節国

際評価委員会」が設置された。

リウマチ性疾患国内評価委員会は、平成14年3月8日の初会合後も会議を重ね、平成20年5月に第7回会議を開催し、その間、対象疾患、評価方法、疫学調査の方法、疫学調査結果の検討等を行い、OA脊椎症、骨粗鬆症、RA、AS、大腿骨頸部骨折について、過去5年間における流行及び、重症度の変動、将来予測に関する検討を行った。

平成20年9月27日に開催された日本リウマチ財団の設立20周年記念式典において内田淳正委員（三重大学医学部整形外科教授）が「変形性関節症について」、豊島良太委員（鳥取大学医学部整形外科教授）が「骨粗鬆症と骨折について」七川歓次委員長（滋賀医科大学名誉教授）が「慢性炎症性疾患について」それぞれ活動の成果を報告した。

（14）ステロイド治療委員会（研究会）

平成11年4月に発足したステロイド治療研究会は、その会則に目的として「本研究会は本邦におけるリウマチ性疾患のステロイド治療について検討し、より適切な治療法を研究することを目的とする」とし、目的を達成するため、①臨床研究、②学術集会、③その他事業を実施すること、本研究会の趣旨に賛同し、世話人会の承認を得たものは本会の会員となることができること、役員並びに運営、資産等について規定しており、日本リウマチ財団とは別の組織として事業に取り組み、平成11年10月には旭化成工業株式会社の協賛を得、学術集会として、「第1回ステロイド治療研究会」を、東京都港区三田の笹川記念会館で開催した。

日本リウマチ財団においては、平成11年12月に開催した日本リウマチ財団の企画運営委員会において、ステロイド治療研究の実施について検討、年明けの平成12年2月10日に、ステロイド治療研究会の代表世話人である、聖マリアンナ医科大学・市川陽一教授、日本リウマチ財団・田中治彦専務理事、旭化成工業株式会社の石川浩明氏、八木信行氏が出席して、ステロイド治療研究会について打合せを行い、概ね次のことを相互に了解し、この了解事項に沿って事業を進めることとした。

①研究会の運営体制については、日本リウマチ財団の研究事業として運営可能である。
②旭化成工業株式会社が協賛する。
③学術集会については年1回開催、日本リウマチ財団ステロイド研究委員会と旭化成工業株式会社が共催する。
④臨床試験の運営に関して、臨床試験は医師が自主的に行う研究であり、GPMSP、公正競争規約の制約は受けない、各施設で届け出る必要があれば担当医師が行う。患者同意書は必要。研究費の管理は日本リウマチ財団が行う。

平成12年10月14日に開催した「第2回ステロイド治療研究会」は、日本リウマチ財団、旭化成工業株式会社（平成15年から旭化成ファーマ株式会社）が共催者として名を連ねており、以後第9回の学術集会まで同様である。

平成12年12月には日本リウマチ財団にステロイド治療研究委員会を設置して委員を委嘱し（メンバーはステロイド治療研究会の世話人会メンバーと同じ）、組織的にステロイド治療研究事業に参画、平成12年11月に開催したステロイド治療研究会臨床試験についての打合せ会において、関節リウマチにおけるステロイド療法の臨床試験実施要綱、実施手順、予定参加施

設、手続き書類及び登録手続きなどについて協議の上、臨床試験に向けて大きく踏み出した。

財団のステロイド治療研究委員会は、ステロイド治療研究会の世話人会同様毎年開催され、ステロイド療法臨床研究の進捗状況の把握、学術集会として毎年度開催する「ステロイド治療研究会」の運営について検討をしている。

学術集会としての「ステロイド治療研究会」は、平成11年度以降毎年開催されており、平成20年度は11月8日に第10回の研究会（委員会）を開催し、当初の目的を一応終えたとして、研究会・委員会ともその活動を終えることとした。学術集会の模様は「炎症と免疫」に毎回掲載されている。

（15）関節リウマチ治療指針検討委員会

この委員会は平成9年に日本リウマチ財団が発行した『慢性関節リウマチの診察・治療マニュアル』を、平成12年度の知見をもとに改訂するために平成13年度に設置された。改訂の動きは平成12年度からあり、平成12年8月及び12月に検討を始めている。検討委員会は平成13年度に3回、平成14年度に2回、平成15年度に3回開催して最終の改訂案を決定し、メジカルビュー社の編集協力を得て、越智隆弘、山本一彦、龍順之助が編集人となり、平成16年4月に関節リウマチの診療マニュアル（改訂版）『診断のマニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン』として、日本リウマチ財団が発行した。マニュアルの改訂作業は厚生労働省の厚生科学研究である「関節リウマチ診療ガイドライン」研究班の作業とほぼ同時に進められた。

（16）リウマチ治療薬用量用法改訂検討委員会

本検討委員会は、現在、日本リウマチ財団の評議員であり、企画運営委員会の委員である川合眞一先生から、聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター在籍中の平成12年8月に財団理事長宛に設置の要望があり、企画運営委員会の議を経て設置が決まり、平成12年9月16日初会合を開催したものである。

委員会設置の背景はメトトレキサート（MTX）及びサラゾスルファピリジンがリウマチ治療薬として承認された際に、添付文書上の用量が既適応症の用量よりも低いため、一部患者で用量より多く投与せざるを得ないという診療報酬制度上の不都合があり、これを解消するためには十分な根拠をもって、厚生労働省に対し適応症や用量用法の変更申請をする必要があったのである。

委員会は日本リウマチ学会と協議しながら、メトトレキサート（MTX）、サラゾスルファピリジンの臨床用量について2次の調査を行い、平成14年3月に「メトトレキサート及びサラゾスルファピリジンの慢性関節リウマチ患者における臨床用量調査」としてとりまとめ、リウマチ治療薬用量用法改訂検討委員会報告として、平成14年3月発行の日本リウマチ学会誌に投稿した。

この検討委員会の調査結果を基に、平成14年5月に日本リウマチ学会は理事長名で、当時の坂口力厚生労働大臣宛に「リウマトレックス®カプセル並びにアザルフィジン®EN錠の承認用量改訂に関する要望書」を提出した。

（17）学会財団協議会

日本リウマチ財団と日本リウマチ学会が平成元年12月20日に第1回協議会を開催し、①登録医が認定医になる移行措置、②認定医になった者の登録医更新、③財団及び学会の教育研修の進め方、④登録医制度及び認定医制度の運営について協議し、その後平成2年2月22日、5月28日にも協議会を開催して同様問題について協議した。

（18）標榜科対策委員会

平成7年度に設置され平成8年3月31日に第1回委員会、同年4月15日に第2回委員会を開催し、リウマチ科標榜の実現後の日本リウマチ財団の事業について検討した。

（19）その他委員会

委員会活動としては以上の他、リウマチ性疾患調査・研究助成選考委員会、医学賞選考委員会、柏崎リウマチ教育賞選考委員会、海外派遣研修医選考委員会等があり、リウマチ性疾患調査・研究助成選考委員会が、リウマチ性疾患の病因、治療、予防、疫学などに関する調査研究助成対象者の選考に当たる他、各委員会はその名称どおりの役割を担っており、毎年度それぞれの選考に当たり、客観的で公正な選考に努めてそれぞれの信頼性を確保し、リウマチ性疾患に関する調査研究事業の発展・向上に努力している。

6. 専門委員の委嘱について

財団の事業が複雑多岐になって来たことに伴い、昭和63年3月28日の理事会、同月29日の評議員会において、理事の業務分担について審議し、予防治療の調査研究に関する業務、教育研修に関する業務、専門医の養成に関する助成業務、学術に関する助成業務、国際交流に関する業務の5業務に分類して、それぞれ1～2名の担当理事を決め、更に業務担当理事の相談に応じ、当該業務の運営に関する事項について審議し、助言する専門委員を置くこととして、専門委員規程を定める事を決定しており、昭和63年4月1日付けで、予防治療の調査研究専門委員7名、教育研修専門委員1名、専門医養成専門委員2名を委嘱し、同年7月1日には学術助成専門委員8名を委嘱している。

その後、平成6年6月の理事会、評議員会において、「専門委員は業務の運営に関する事項について理事長の相談に応じ審議し助言する」と専門委員規程を改正し、担当分野の枠をはずして相談、審議の場を広めるとともに、平成7年度末の専門委員数は35名となっている。専門委員の数は平成10年9月、平成14年9月に増員し、平成19年度末の専門委員数は133名であり、調査研究助成、医学賞、海外派遣研修医の選考に関し推薦など助言等を仰いでいる。

なお、業務担当理事については専門委員規程の改正、各種委員会の設置に伴い、平成7年度限りでその役目を終えた。

7. リウマチ教育研修会について

昭和61年12月に発行された「リウマチ教育の現況と展望」故・児玉俊夫教授記念講演会記録によれば、リウマチ教育研修会の歴史は、昭和45年に児玉俊夫先生（岡山大学整形外科教授）が有志を集めて、静岡県中伊豆町で始めたことに遡ることができる。中伊豆町には、慢性関節リウマチのリハビリテーションの1つの中心であった、中伊豆温泉病院があることから中伊豆で行われたものであり、昭和48年までは毎年1回有志が集い研修会を開催した。これが日本リウマチ学会の教育・研修事業へと発展したものであり、昭和49年7月の中伊豆、10月の別府、12月の福島におけるリウマチ地方教育研修会が、日本リウマチ協会としての組織的なリウマチ教育研修のスタートであり、翌50年からは、中央教育研修会1ヶ所、リウマチ教育地方研修会2ヶ所で実施、その後地方研修会は段々と開催地区を増やし、研修事業をリウマチ財団に移管した昭和62年には、11月1日の日本リウマチ財団発足後に、財団が開催した3地区を含め全国7ヶ所で開催している。

研修会の参加状況を見ると、昭和50年度に始まった第1回の中央教育研修会は約50名の参加であったが、56年の第7回には121名と増え続け、日本リウマチ協会開催としては最後の昭和62年8月の第13回中央教育研修会は339名の参加があり、13回開催の累計で1,800名弱が参加している。一方、昭和49年から始まったリウマチ地方教育研修会は3ヶ所併せて156名の参加者であったが、その後次第に開催地が増えるとともに参加者も増え、日本リウマチ協会としては最後の開催となった昭和62年度は、全国7ヶ所（内、3ヶ所は日本リウマチ財団開催）で開催し、2,072名の参加があった。昭和49年度からの累積参加者数は7,950名弱である。

このほか、昭和55年8月24～26日には、リウマチ国際教育研修会［New Horizons Rheumatoid Arthritis］を箱根プリンスホテルで開催し、海外から11名の演者を招待、国内から127名の参加があった。さらに、国際研修として昭和61年6月2日より11日まで、中国の北京市、天津市で、中国リウマチ協会の要請を受けて、研修会を開催した。2市での参加者は300名であり、整形外科と内科系に各々分かれての研修会であり、日本側から講師として6名が参加している。昭和61年1月25日には、故児玉俊夫教授の7回忌を記念し「リウマチ学教育の現況と展望」国際シンポジウムを東京で開催、山本純己先生〔松山赤十字病院整形外科〕が世話人となり、海外から3名の講師を招いている。参加者は192名であった。

日本リウマチ財団による実質的なリウマチ教育研修会は昭和63年度からといえるが、廣畑和志（神戸大学医学部）委員長他、15名で構成する教育研修委員会の運営により、リウマチ教育研修会事業がスタート。この年、中央教育研修会は7月30・31の両日、453名の参加を得て東京都の消防会館で開催し、地区別教育研修会は6月開催の仙台市の他、6ヶ所で開催、全体で1,215名が参加、中央教育研修会と併せて1,668名が受講している。

日本リウマチ財団による開催状況については、日本リウマチ財団設立10年の事業実績、及び本書の別項に詳細を掲載しているが、日本リウマチ財団だけで22,564名、日本リウマチ学会から通算すると32,314名がリウマチ教育研修を受講している。

現在、教育研修の講師は、研修の世話人に一

任しているが、財団事業としてスタートした初期の昭和63年1月には「財団法人日本リウマチ財団教育研修会登録講師第1回の登録名簿」を作成、148名の登録講師の氏名の他、専門領域、研修講演題目を掲載している。これは昭和62年9月に日本リウマチ学会が学会評議員宛に、リウマチの研究と臨床に15年以上携わっていることを条件に教育研修会登録講師として推薦依頼し、推薦のあった者の了解を得て作成しているが、これは日本リウマチ学会において企画されたものであり、その後は名簿を作成していない。

平成2年に発行された初版のテキストはB5版で173ページ。改訂を重ね平成17年発行の第6次改訂版は同じB5版の682ページであり、リウマチ学の急速な進展を、そしてリウマチ教育研修会の時代に即した充実度を如実に物語っている。平成20年度より第7次の改訂作業が始まっている。

8. リウマチのケア研修会等について

リウマチのケア等に関する日本リウマチ財団の取組みとしては、平成4年度から平成10年度まで続けた厚生省の助成事業、平成5年度からエーザイ株式会社の協賛で実施したリウマチのケア研究会、RAトータルマネジメント研究会、そして平成12年度以降現在まで続いているリウマチのケア研修会に大別できる。

（1）リウマチのケア等に関する厚生省の助成事業について

①リウマチのリハビリテーション実地研修会

平成4年度から9年度まで毎年続いて実施され、6年間に全国34地区において開催されている。職種別の参加者は医師1,814名、看護師2,215名、保健師695名、理学療法士1,745名、作業療法士781名、薬剤師280名、その他709名で、6年間に8,239名がこの研修会に参加している。本研修会は平成6年度まではリウマチのリハビリ中心の研修であり、7年度からケアの研修も含まれるようになった。薬剤師については平成7年度からの参加数であり、6年度までは職種別の整理がされていない。

②リウマチのリハビリテーション事業

平成4年・5年度に適切なリウマチのリハビリテーションの普及を図るために、併せて30施設、60名の患者に対し理学療法を実施した。

③在宅リウマチ患者リハビリテーションモデル事業

平成6年度事業の実行委員15名がそれぞれの地区において、在宅患者及び家族に対し、家庭でできるリハビリ、介護の実際を指導し相談に応じ、寝たきり患者の調査と訪問リハビリ指導及び退院患者の退院時のADL評価とリハビリ指導を行った。平成7年度は在宅リウマチ患者ケアモデル事業として、実行委員18名が32地区において同様の事業を実施した。

以上の他、平成9･10年度にはリウマチのトータルモデル事業、リウマチのケア教室事業を実施した。

（2）リウマチのケアに関する研究会について

平成5年の新規事業としてリウマチのケアに関する研究会が、9県において892名が参加して実施された。この研究会は「リウマチのケアに関する研究会開催要領」を定めており、研究会開催の目的は、リウマチのケアに関し、理論と実際について研究するため、討論会、実地訓練等の研究事業を行うものであり、各都道府県に一つに限って研究会を設け、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー等、医療関係者で組織、世話人は財団の登録医、研究会の主催は日本リウマチ財団、エーザイ株式会社が共催、事業に必要な経費は財団負担と規定している。翌平成6年度は23県で開催、平成7年度は21道県、平成8年度は12県で開催している。

（3）リウマチのケア研修会について

厚生省のリウマチのケア等に関する助成事業が平成10年度に終わり、平成11年度は在宅リウマチ患者のケアに関する事業として、金沢市、熊野市、久居市、甲府市でリウマチ教室を開催、併せて299名の参加があった。そのほか、北海道八雲町、石川県野々市町で、リウマチフォーラムを開催、それぞれ36名、134名が参加している。

平成12年度から企業の賛同を得て現在のリウマチのケア研修会が始まっており、北海道・東北ブロック、関東ブロック、中・四国ブロックでそれぞれ122名、267名、119名の参加を得て開催された。その後、平成13年度は5地区、平成14年度から19年度は各6地区で開催し、平成12年度から19年度の間で6,798名が本研修会を受講した。

研修会の運営は平成5年に設置したリウマチのケア研究委員会を平成12年に再編成したリウマチのケア研究委員会が運営に当たっている。

（4）その他の事業

以上の事業の他、平成15年度からRAトータルマネジメントフォーラムをエーザイ株式会社と共催してきた。これは各地区で開催した地区リウマチ研究会における優秀な演題を中央で発表し表彰するものであり、日本リウマチ財団が災害時のリウマチ患者支援体制について検討したことに呼応して、地区リウマチ研究会が災害時の患者支援を視野に入れて活動する方向性を決めたことから共催したものであり、現在でも続いている。

平成12年度～18年度までは、佐賀県リウマチのケア研究会（代表世話人　佐賀医科大学地域保健・老人看護学・忽那龍雄教授、平成16年度から国立病院機構嬉野医療センター・青柳孝彦先生）の開催については日本リウマチ財団が助成した。

9. 学術調査研究助成･医学各賞等について

（1）リウマチ性疾患調査・研究助成

本事業は財団発足直後の昭和63年度の新規事業として始めたものである。リウマチ病に関する基礎調査・研究に助成することとして、リウマチ性疾患の原因究明、治療、予防に関する調査・研究を助成対象課題とし、助成対象課題の調査・研究に意欲的に従事する研究者等で、大学の学長、その他の機関の代表者、日本リウマチ財団の役員又は評議員が推薦した者を助成対象とし、初年度は45件の申請を受け、審査委員の審査の結果、14名に各100万円の調査研究奨励金を贈呈した。

昭和63年度以降平成19年度まで812名の応募があり、うち223名が助成対象となった。

（2）ノバルティス・リウマチ医学賞

本賞はリウマチ性疾患の病因、発生機序、あるいは画期的な治療などに関する独創的な課題に取り組み、自然科学の発展に大きく寄与した研究を顕彰する目的で設けた制度である。

対象課題は、リウマチ性疾患の本態解明に関する研究で、生命科学、情報科学、遺伝・環境科学、薬物科学等の分野であり、顕著な功績を挙げた研究を対象としている。広くリウマチ性疾患の基礎、臨床等の研究に従事している研究者について、大学の学長、その他研究機関の長、日本リウマチ財団の評議員、専門委員の推薦した中から選考し、毎年度1名に研究推進に必要な経費として300万円を贈呈している。

本賞は平成2年度に当時の日本チバガイギー株式会社の協力を得て、日本チバガイギー・リウマチ賞として創設され、その後、平成9年4月に日本チバガイギー株式会社の医薬部門とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティスファーマ株式会社が発足したことに伴い、ノバルティス・リウマチ賞に変更、その後平成13年度に現在の名称に再変更された。

平成2年度の創設以来、平成19年度までの本賞への応募者は194名であり、うち19名が受賞している。

（3）アボット ジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞

リウマチ性疾患の予防、病態、診断、治療などに関する独創的課題に取り組み、リウマチ性疾患の征圧に大きく寄与した臨床医学研究を顕彰する目的で創設された制度である。広くリウマチ性疾患の臨床医学的研究に従事している研究者について、大学の学長、その他研究機関の長、日本リウマチ財団の評議員、専門委員が推薦した研究者の中から選考し、毎年度1名に研究推進に必要な経費として300万円を贈呈している。

本賞は平成2年度に当時の北陸製薬株式会社の協賛を得て、「北陸製薬・骨、関節疾患学術奨励賞」として発足し、その後、平成13年度に賞の名称を「北陸製薬・骨、関節疾患臨床医学賞」と変更、平成15年度は社名変更に伴い賞の名称が「アボット ジャパン・骨、関節疾患臨床医学賞」となり、平成16年度以降、現在の「アボット ジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞」となっている。

平成2年度の第1回以来、平成19年度の第18回までに168名が本賞に応募し、うち18名が受賞している。

（4）ツムラ・骨関節臨床医学賞

関節リウマチを含む骨関節疾患の予防、病態、診断、治療等に関する独創的課題に取り組み、リウマチ性疾患の征圧に大きく寄与した臨床医学研究を顕彰する目的で、平成5年度に創設された制度である。広くリウマチ性疾患の臨床医学的研究に従事している研究者について、大学の学長、その他研究機関の代表者、日本リウマチ財団の評議員、専門委員が推薦した研究者の中から選考し、研究推進に必要な経費として毎年度1名に300万円を贈呈している。

本賞は株式会社ツムラの協賛を得て平成5年度から、「ツムラ・リウマチ臨床研究賞」として始まったが、平成13年度に「ツムラ・リウマチ社会医学賞」に名称変更、その後、平成16年度は「ツムラ・リウマチ臨床医学賞」、平成17年から「ツムラ・骨関節臨床医学賞」となったが、本賞は協賛社の都合で残念ながら20年度を最後に16年の歴史の幕を閉じた。

平成5年度の制度創設以来平成20年度までに85名の応募があり、うち16名が受賞した。

（5）日本リウマチ財団　柏崎リウマチ教育賞

本賞は、平成9年11月に逝去された東京女子医科大学附属膠原病センター名誉所長であった柏崎禎夫氏の遺志により創設された賞である。臨床リウマチ学の権威であった柏崎氏は、北里大学医学部、東京女子医科大学にあって、多くの医師を指導育成され、数多くの優れた医学書を世に出しており、日本においてリウマチ学の教育に対する評価があまりに低いことを嘆かれ、「日本にはまだ確固としたリウマチ学が根づいていない、教育を充実することにより、それを根づかせることが大切である。教育はもっと評価されるべきである」との考えをもたれていた。死を前に遺産の一部を資金として、リウマチの教育に功績のあった方に毎年賞を授与するようにと遺言され、ご遺族の申し出により遺産の一部2,000万円の寄附を受けて、平成10年度制度を創設したものであり、本賞の創設は、医学全体を覆うリウマチ学教育軽視の傾向に、一石を投ずるものとして画期的な意味を持つものであった。

多年にわたりリウマチ学の教育に貢献し、我が国のリウマチ学の発展・進歩に貢献するとともに、正しいリウマチの知識普及に尽力した者に贈られるこの賞は、平成10年度の創設以来、毎年度1名に100万円を贈呈している。

（6）三浦記念リウマチ学術研究賞

東京在住の三浦ふさ子さんからの申し出により、本人からの寄附金3,000万円を基金に、平成2年度から始まった制度である。三浦さんは自身がリウマチ患者さんであり、当時、当財団の運営委員会委員であった吉野槇一先生（現・日本医科大学名誉教授）が三浦さんの主治医であった縁からこの学術研究賞が誕生したものであるが、リウマチ性疾患の学術研究者を対象とすることでは、昭和63年度から新規事業として始まった「リウマチ性疾患調査・研究助成」と同趣旨であることから、「リウマチ性疾患調査・研究助成」の対象者を選考し、その中から、審査点数が上位であることや、職制、年齢を斟酌して授賞者を選考している。毎年度1名に100万円を贈呈しており、平成19年度までに18名が受賞している。

（7）日本リウマチ財団・ワイス国際賞

国際的にリウマチ性疾患及び関連疾病の予防、病因究明、治療方法の進歩確立等に著しく貢献していると認めた研究を顕彰するために設けた制度である。本制度は平成13年度に、日本ワイスレダリー株式会社の協賛を得て設立したもので日本では初めてである。国際的にもリウマチ学関連分野ではトップクラスの権威ある賞であり、リウマチ領域では世界第一線の研究者からなる選考委員により授賞者の選考を行っている。当初の選考委員は財団理事長である塩川選考委員長の他に、西岡、越智の両常務理事、アメリカ2名、スイス、ドイツ、英国、カナダ各1名、計9名で構成され、公正な選考を監査するために、京極方久（東北大学名誉教授）を委員長に、他に3名の選考過程監査委員を任命している。賞金は毎年度1件500万円であり、第1回から第6回までの受賞者7人（第6回は共同研究で2人が受賞）は、すべて外国の研究者であったが、第7回は大阪大学大学院生命機能研究科・岸本忠三教授がインターロイキン6の発見の研究業績を評価されて受賞した。平成13年度の制度創設以来54人が応募し、8名が受賞したが年度によっては13人に1人の狭き門であった。平成17年度までは毎年度開催される日本リウマチ学会の会場において、授賞式及び受賞記念講演を行ったが、18年度からは財団が別に場を設定し、授賞式及び記念講演を行っている。

発足当初の賞の名称は「日本リウマチ財団日本ワイスレダリー国際賞」であったが、日本ワイスレダリー株式会社の社名変更により平成15年度から、「日本リウマチ財団・ワイス国際賞」となった。

（8）日本リウマチ財団リウマチ福祉賞

財団の発足当初から、リウマチ性疾患の学術調査研究等、学問的な調査研究の功労者についてはこれを顕彰する制度を持っていたが、社会福祉的な面からのリウマチ対策推進の取り組みに対しては、これを顕彰する制度がなかったことが本制度制定の背景にあり、リウマチ性疾患に悩む患者に対して、長年に亘る医学的又は社会的救済活動を通じて、著しく貢献のあった個人又は団体を表彰することを目的とした賞である。

本制度の授賞対象者は、医療機関や福祉関係の代表者、日本リウマチ財団の役員又は評議員、日本リウマチ学会評議員の推薦を受けた、リウマチ性疾患に関連した医療及び社会活動者であり、財団の選考委員会において毎年1～3名が選定され、リウマチ月間中の全国大会にて表彰し、記念品及び賞金を贈呈して来た。制度は平成元年11月の理事会、評議員会の決議を受けて平成2年度から始まっており、元年度から募集申請を受け付けたところ、7名が応募してうち2名が受賞している。

平成7年の阪神淡路大震災時の関係者の活動等については、日本リウマチ財団福祉奨励賞、特別福祉賞を授与しており、これらの賞を併せて制度開始以来、平成16年度までに34の個人、団体が受賞した（p.86参照）。

日本リウマチ財団リウマチ福祉賞受賞者に贈られた盾（馬場忠寛 作）

10. 海外派遣研修事業について

日本リウマチ財団における医師の海外研修制度は、日本リウマチ財団・海外派遣研修医制度、日欧リウマチ外科交換派遣医制度、メルボルン派遣研修医制度がある。これら制度の概要は次の通りである。

(1)海外派遣研修医制度

この制度は、「日本リウマチ協会・米国及び欧州派遣研修医制度」を、日本リウマチ財団が引き継いだ事業である。

日本リウマチ協会における制度成立の経緯を見ると、1963年9月シドニーで開催された第8回オーストラリアリウマチ学会及び、東南アジア・太平洋地区リウマチ学会の発会式に、故・岡山大学・児玉俊夫教授が東京大学・佐々木智也名誉教授と一緒に出席、そのレセプションのテーブルスピーチで、米国から招待されたDr.Englemanが「これからは、リウマチ学を志す若い医師の教育に国際的に協力すべきである」と言われたことに感銘を受け、翌1964年、岡山での第8回日本リウマチ学会（会長児玉教授）に、米国より招待したスタンフォード大学客員教授Dr.Kuzellが、1966年に、米国Armour社副社長Dr.Leshと共に再度日本を訪ね、東京で児玉教授が両人と会い、Fellowshipの構想を話したところ、ご両人は大変共鳴され、帰国後、関係方面に積極的に働きかけられ、1967年6月米国リウマチ学会がデンバーで開催されたとき、児玉教授がその理事会に出席し、Fellowship制度が成立、さらに1973年度より対米国Fellowshipが新たに開設されている。この制度により、昭和41年から61年度までの間、米国に43名、欧州に40名が派遣された。

昭和62年度途中から日本リウマチ財団がこの事業を引継いで実施しているが、昭和63年度に制定した募集要綱は右の通りであり、内容は日本リウマチ協会の制度と同じである。この要綱は平成3年度に奨学金について「各人50万円から100万円」を「60万円」に変更、平成17年度に派遣先を「米国及び欧州」から「海外」に変更して、米国、欧州以外へ派遣する途を開き、応募資格については「日本リウマチ学会の会員であること」を「日本リウマチ財団登録医又は日本リウマチ学会の会員であること」に改正している。この制度により、昭和62年度（一部日本リウマチ協会が実施）から平成19年度までの間、米国へ154名、欧州へ52名、カナダへ1名、オーストラリアへ2名、合計209名派遣しており、カナダ、オーストラリアについては平成18・19年度の派遣である。

（財）日本リウマチ財団・米国及び欧州派遣研修医制度

1. 本制度の趣旨

この制度は、若い優れたリウマチ専攻医を米国及び欧州に派遣・研修させ、日本のリウマチ学及び治療対策の進歩を期待するものである。

2. 募集人員

米国及び欧州　　若干名

3. 受入機関・時期・待遇

(1) 受入機関は当人と日本リウマチ財団（以下、財団という）間で協議するが、出願申込みまでに受入先が決定している場合は、受入案のコピーを必ず添付のこと。
尚、添付できない場合はその理由の説明書を添付のこと。

(2) 原則として、米国又は欧州国内の１つのリウマチ・膠原病等診療研究機関に４～６ヶ月滞在して研修を受ける。もし何らかの理由で研修期間を延長する時は、その旨財団に通告するとともに、研修期間中の研修の概要を報告する。

(3) 当該年度内に出発しない時は、研修医の資格は無効とする。

(4) 奨学金　　各人５０万円から１００万円

4. 応募資格

(1) 日本リウマチ学会の会員であること。

(2) 現在及び将来ともにリウマチ学に志す者。

(3) 米国研修医はＦＭＧＥＭＳを通っていることが望ましい。
欧州を希望する者は目的国の然るべき機関で語学の試験を課することがある。

昭和 63 年に制定された募集要綱

（2）日欧リウマチ外科交換派遣医制度

この制度は平成11年度から始まった事業であり、平成10年のリウマチ学会にシンポジストとして来日したMr.Souterより、井上和彦東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターリウマチ関節外科教授に、書簡により交換留学について打診があり、そのことを財団の越智隆弘常務理事（大阪大学教授）に相談、企画運営委員会の議を経て実施することとしたものである。

平成10年11月に制定した制度の要綱及び各年度の事業実施状況は次の通りである。

日欧リウマチ外科交換派遣医制度要綱

1. 目的

日本及び欧州におけるリウマチ外科の進歩向上及び人的交流の促進を図ることを目的とする。

2. 実施主体

日本側　日本リウマチ財団

欧州側　ヨーロッパリウマチ外科学会

3. 実施方法

1 年おきに交互に日本より欧州へ、欧州より日本へ英語に堪能な若手医師２人を派遣研修する。

4. 費用の負担

派遣費の経費は受入れ側が負担する。

5. 事務局

日本リウマチ財団に事務局を置くが、井上和彦東京女子医科大学第２病院整形外科教授の協力を得るものとする。

平成11年度	欧州４ヶ国のリウマチ専門病院6施設で5週間の研修のため、日本側から2名派遣した。
平成12年度	井上和彦東京女子医科大学教授が代表世話人となり、欧州より2名の研修医を受け入れ、10月16日から11月17日の間、日独リウマチ外科研究会、日本リウマチ関節外科学会、岡山大学、大阪大学、東京女子医科大学附属膠原病リウマチセンター及び同大第二病院で研修した。
平成13年度	9月19日から10月21日の間、欧州４ヶ国へ2名派遣した。
平成15年度	越智隆弘国立相模原病院長が代表世話人となり、10月14日から11月10日の間、欧州より２名の研修医を受け入れ、日本整形外科学会基礎学術集会、大分医科大学整形外科、松山赤十字病院リウマチセンター等において研修した。
平成16年度	越智隆弘国立病院機構相模原病院長が代表世話人となり、5月29日から6月25日まで、欧州４ヶ国へ2名派遣した。
平成19年度	越智隆弘大阪警察病院長が代表世話人となり、9月1日から9月29日まで、欧州へ2名の研修医を派遣した。

（3）メルボルン派遣研修医制度について

この研修制度は東広島記念病院広島リウマチ・膠原病センターのYAMANA FAUNDの基金により発足したものであるが、同センターの山名征三院長はこの制度に先立ち、2名の留学生を派遣している。

平成11年9月に制定した派遣の募集要綱は次の通りである。

メルボルン派遣研修医募集要綱

1. 制度の趣旨

この制度は若い優れたリウマチ医をオーストラリア国メルボルンに 2 年間派遣・研修させ、日本の若いリウマチ学及びリウマチ治療対策の進歩を期待するものである。

2. 募集人員

1 名 （隔年）

3. 研修期間・時期・待遇

（1）研修期間：オーストラリア国メルボルン市、モナシュ大学免疫病理教室に在籍し、basic immunology の研究に携わり、リウマチ学の研修を受けるものとする。

（2）研修期間：2 年間（始期は 4 月 1 日とする）

（3）奨学金：1 年度 100 万円、計 200 万円とする。

4. 応募資格・選考

（1）応募資格：日本リウマチ学会の会員であること。

（2）選考：現在及び将来ともリウマチ学を志す強い意思を有する若い人材を選考する。

5. 応募手続き

日本リウマチ財団専門委員または日本リウマチ学会評議員の推薦によること。

この制度により、平成12年4月から14年3月31日までの2年間、吉川病院整形外科（京都市）の柿沼工医師を派遣し、平成14年4月から16年3月31日までの間の予定で、労働福祉事業団美唄労災病院（北海道）の居川幸正医師を派遣した。しかしながら、受入れ先大学における歴代の日本人留学生の指導者が大学の都合により不在となり、居川医師は15年3月に帰国し、財団としてのこの事業は終わりとなった。

11. 災害時リウマチ患者支援事業について

本事業は「災害時リウマチ患者支援事業実施要綱」（以下、「実施要綱」という）に基づいて実施するものである。実施要綱は、平成19年3月に開催された災害時リウマチ患者支援検討委員会において最終案をまとめ、同年4月10日に開催した企画運営委員会において最終決定したものであり、要綱には実施体制として、財団本部の体制、災害時支援協力医療機関、幹事災害時支援協力医療機関、代表幹事機関を定め、災害時におけるそれぞれの役割分担を規定している。

4月10日の企画運営委員会で要綱を決定した後、4月12日には事業の実施を9月1日からと決め、6月末を期限に登録医の勤務する各医療機関の長に対して、本事業への参画についての協力を文書で要請し、災害時支援協力医療機関申込みを受けて、7月から8月にかけて「災害時支援協力医療機関台帳」を作成して基本的な事業の実施体制を整備した。

その後の進展状況は次の通りである。

(1) 平成19年8月28日、支援協力医療機関に対し、「災害時支援協力医療機関台帳」を添えて、9月1日より本事業を実施する旨、財団理事長名の文書で通知するとともに、医療機関情報の提供を要請。

(2) 平成19年9月10日、支援協力医療機関に「災害時支援協力医療機関の証」を送付。

(3) 平成19年9月12日、幹事災害時支援協力医療機関引き受けについて理事長名の文書で要請。

(4) 平成19年12月15日、幹事災害時支援協力医療機関打合せ会議開催。

(5) 平成20年3月21日、リウマチ患者支援カード及び同付録のリウマチ手帳を災害時支援協力医療機関に送付、患者情報の提供を要請。

以上のとおり実施体制の充実を段階的に進めてきたところであるが、支援協力医療機関については、平成20年5月1日現在で、災害時支援協力医療機関540施設、協力登録医689人、幹事災害時支援協力医療機関90施設、代表幹事医療機関1施設であり、支援協力医療機関数、協力登録医数とも全体の18％程度である。このような状況において、支援協力医療機関数を増やすことも大事であるが、一応全県において災害時支援協力医療機関を確保できていること、医療機関情報、患者情報の提供が不十分であることを鑑みると、まずは、現在の災害時支援協力医療機関が有事に十分に機能できるような仕組みが必要であり、そのために各都道府県の幹事災害時支援協力医療機関、代表幹事医療機関を確保し、幹事医療機関、代表幹事医療機関が中心となって普段から連絡調整を行い、連携強化する必要があると考える。

なお、本事業に関しては別項「災害時リウマチ患者支援事業推進委員会」に経緯を述べてある（p.35参照）。

災害時リウマチ患者支援事業

災害時支援協力医療機関の証

証

代表者　　殿

貴施設は災害時リウマチ患者支援事業の
支援協力医療機関であることを証します。

平成19年9月1日

厚生労働省設立許可法人
財団法人日本リウマチ財団
理事長　高久史麿

(財)日本リウマチ財団

リウマチ患者支援カード

ふりがな
氏名：　　血液(　　)型

明治・大正
昭和・平成　年　月　日生　男・女

住所：〒

電話：

FAX：

身近な支援者

ふりがな
氏名：

住所：〒

電話：

FAX：

治療を受けている
医療機関名：

所在地：〒

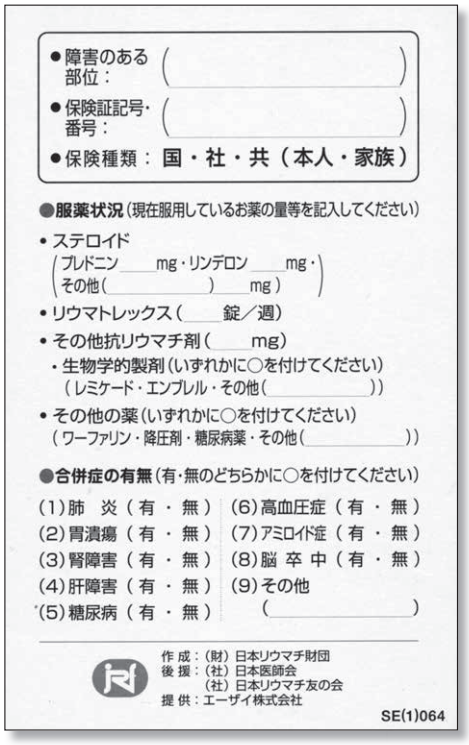
電話：

FAX：

診療科名：　主治医名：

日頃から身につけておきましょう

リウマチ患者支援カード　表面



●障害のある部位：(　　)

●保険証記号・番号：(　　)

●保険種類：国・社・共（本人・家族）

●服薬状況（現在服用しているお薬の量等を記入してください）

• ステロイド
(プレドニン____mg・リンデロン____mg・
その他(　　)____mg)

• リウマトレックス(____錠／週)

• その他抗リウマチ剤(____mg)
・生物学的製剤（いずれかに○を付けてください）
（レミケード・エンブレル・その他(　　)）

• その他の薬（いずれかに○を付けてください）
（ワーファリン・降圧剤・糖尿病薬・その他(　　)）

●合併症の有無（有・無のどちらかに○を付けてください）

(1)肺　炎（有・無）　(6)高血圧症（有・無）
(2)胃潰瘍（有・無）　(7)アミロイド症（有・無）
(3)腎障害（有・無）　(8)脳卒中（有・無）
(4)肝障害（有・無）　(9)その他
(5)糖尿病（有・無）　(　　)

作成：(財)日本リウマチ財団
後援：(社)日本医師会
(社)日本リウマチ友の会
提供：エーザイ株式会社

SE(1)064

リウマチ患者支援カード　裏面

12. 国際活動について

財団の国際的な活動としては、国際リウマチシンポジウム、骨・関節疾患対策10年国際会議、日欧リウマチ外科交換派遣医制度、メルボルン派遣研修医制度等、医師の海外研修制度、ワイス国際賞制度を挙げることができるが、海外派遣医研修制度、ワイス国際賞については、別項に譲り、ここでは国際リウマチシンポジウム、骨・関節疾患対策10年国際会議について述べる。

（1）国際リウマチシンポジウムについて

国際リウマチシンポジウムは平成3年度の新規事業として始めたものであるが、平成3年度の事業計画（案）、収支予算（案）を審議した平成3年3月28日の理事会において、時の塩川理事長は新規事業の提案理由を「海外から招待してシンポジウムを開催することでありますが、最近日本では外国の学者といろいろ話し合う機会がなくて、専門家の方は直接海外に行って情報を得ております。外国の専門家を国内に招待して、新しい学問の進歩について講演をしてもらったり、討議する機会があってもよいのではないかと思って提案した」と述べている。この提案が理事会、評議員会で承認された後、事業を実施するに当たり、九州大学生体防御医学研究所教授・延永正委員長他、6人の委員で構成する国際リウマチシンポジウム組織委員会を組織し、国際リウマチシンポジウムの企画運営に当たることになった。

第1回のシンポジウムは、約300人の参加を得て、平成4年3月7日に東京の笹川記念会館で開催されたが、延永国際リウマチシンポジウム組織委員長が、日本におけるリウマチ治療の現状を話した後、慢性関節リウマチに対するメソトレキセート療法他、2題の慢性関節リウマチに関する講演、抗リウマチ薬開発の展望に関する講演、併せて4題の講演を外国から招待の専門家が行い、総合討論を行った。

平成6年3月開催の第3回までは1日の日程であったが、平成7年の第4回シンポジウムは、東京会場と北海道会場で開催、その後は2日間の日程でシンポジウムの充実を図っている。第4回からは厚生省、日本リウマチ学会の後援を得て財団主催で開催してきたが、平成13年3月開催の第10回は財団と日本リウマチ学会が共催、平成14年の第11回から日本リウマチ学会総会・学術集会の併催として開催されており、日本リウマチ財団における国際リウマチシンポジウムに関する活動は、第9回の準備のため平成11年6月に、国際リウマチシンポジウム組織委員会を開催した後は活動歴がない。開催の運営費用に関しては、参加費を徴収するほか、寄付金等に依存しており、当初の平成3年度から平成11年度までは、収入・支出とも財団独自の経理であったが、12年度から15年度までは開催経費について、財団が日本リウマチ学会会長へ助成している。

平成12年度の第10回国際リウマチシンポジウムも単独開催を予定し、国際シンポジウム会費収入600万円を予算計上していたが、結果的に日本リウマチ学会と共催となり、会費収入についてもリウマチ学会の収入となることで財団の予算は減額の補正をしている。この補正予算

を審議したのは平成13年3月開催の理事会であり、国際リウマチシンポジウムの開催方法について議論しているが、それに先立ち日本リウマチ学会では、平成11年6月に開催した1999年度定時評議員会において、1999年度事業計画として、「新理事長の強い要請により、日本リウマチ学会の国際化に向かって、国際委員会の活動をより一層の充実・活性化と明確な活動方針を提示したい」とし、主な活動方針の1つとして、「日本リウマチ財団主催の国際リウマチシンポジウムを学会の主催、又は財団との共催とし、ミニシンポをこの国際シンポジウムに組み込む」としており、そのことが第10回シンポジウムの共催、第11回の学会総会・学術集会との併催に繋がったものと考えられる。

（2）骨・関節疾患対策10年国際会議（2000－2010）について

日本リウマチ財団の主催で平成14年4月17日から19日の間、東京において開催したこの会議については、平成16年に発行した報告書に、詳細が記録されているので詳述を避けるが、塩川理事長は会議開催の目的について次のように述べている。

「『骨と関節の10年（The Bone and Joint Decade）』として知られる国際的な運動がスウェーデンで創設され、英国及び世界保健機関によって支持された。この運動は今では世界的に750以上の組織及び団体から支援を受けている。米国では1999年に国立関節炎活動計画（The National Arthritis Action Plan）が作成された。世界的なこれらの疾患の医学的、社会的、経済的影響の増大に鑑みて、我々の財団は地球規模でこれらの疾患撲滅の支援及び促進に熱心に取り組んでいる。この尽力の一環として、そして日本政府の支援を受けて、我々は2002年4月17日から19日までに東京においてリウマチ制圧10か年対策国際会議を開催した」

この会議においては「東京宣言」として、①骨・関節の社会的負担の増大に関する一般の人々の認識を喚起する、②一般の人々に対する教育、③医師に対する教育、④骨・関節疾患を持つ人々への支援、⑤研究の推進、⑥骨・関節疾患による負担の継続的監視の6つの項について活動目標・行動計画を宣言、財団においてはリウマチ性疾患国内評価委員会がこれに対応するための活動を続けており、日本整形外科学会に設置された「『運動器の10年』日本委員会」活動への協力が可能である。

骨・関節疾患対策10年国際会議の報告書表紙には、「日本リウマチ対策50周年記念」と表記しているが、平成13年6月19日付、財団法人日本リウマチ財団名の文書によれば、「日本リウマチ対策開始50周年の起源」について、「昭和27（1952）年、国（文部省）が初めてリウマチ総合研究班（班長／大阪大学・清水源一郎教授）を編成し、関節リウマチの研究を開始した時とする」となっている。

国際会議には皇后陛下がご臨席、お言葉を賜っている。

皇后陛下のお言葉

日本リウマチ対策開始 50 周年記念
リウマチ制圧 10 か年対策国際会議開会式

主催 財団法人 日本リウマチ財団
平成 14 年 4 月 17 日（水）
於 ホテルオークラ

わが国において、関節リウマチの研究が初めて公的機関により着手されて50年、この大きな節目を記念する年に、日本リウマチ財団の主催により、「リウマチ制圧10か年対策国際会議」が開催されることを、誠に意義深く思います。また、この会議のため、遠く諸外国から参加されたリウマチの専門家や、わが国の専門家、患者、内外の支援団体の方々にお会いいたしますことを、嬉しく思います。

今から2年程前、世界保健機関ＷＨＯは、世界規模においてリウマチ制圧運動を展開すべく、西暦2000年から2010年までを、「骨、関節疾患10年」と宣言いたしました。世界の各地でこの病（やまい）に苦しむ数知れぬ患者が、この宣言に勇気づけられ、その成果に多くを期待しておられることと想像いたします。いまだ発病の原因すら分からず、医学の中で取り残された難病とされていたリウマチに、この度このようにして光が当てられた背景には、この病気の患者が世界的に増え続け、各国で医療費の増大や、労働力の不足を来していることへの認識があったと聞き及びますが、こうした問題の解決に先立ち、今、最も強く認識されねばならないのは、リウマチという病気の性格と、これを病む患者の苦しみそのものであろうと思われます。この度の宣言により、患者がより確かに医療との接点を持ち得るようになるとともに、社会の人々のより深い理解のもと、少しでも安心して病の日々を過ごすことができますよう、願っております。

リウマチに関し、私自身充分な医学的知識を持つ者ではありませんが、今から37年前、思いがけないことから、この病につき深く考えさせられる機会を与えられました。それより5年前に、日本ではリウマチの患者自身が集まって「リウマチ友の会」を発足させており、リウマチの特性をそのままに名付けた、「流(ながれ)」という機関誌が発行されておりました。創立5周年に当たり、「流」を贈られ、患者の代表の方々にお会いするなかで、私はリウマチという、それまでごく漠然としか捉えていなかった病気につき、幾許かの知識を与えられ、それとともに、この難病と共に生きる多くの人々が、病を持ちつつも、様々な工夫により生活の質を向上させようと、健気に努力している姿を垣間見ることになりました。会は創設当時より、患者の実態調査を実施し、創立30周年には、自らの手で「リウマチ白書」を作り、その後も節目節目の年に白書を編み、患者の現状を明らかにしています。患者が正しい療養の在り方を真剣に求め、自分の知識や経験を他と分かち合いつつたどった会の歩みの跡から、今、高齢化の時代を迎えた私たちの社会は、多くを学ぶことができるのではないかと感じております。

余りにも古くから人類と共にあり、長い間研究の対象となりにくかったこの病に注目し、患者の訴えに耳を傾け、その苦痛を取り去ろうと、これまで様々な研究を行い、治療に当たってこられた研究者や医師に対し、患者と共に、深く感謝申し上げます。今後、より広い地域で、より多くの人々が、発病の早期に的確な診断を受け、正しい療養に導かれるよう、皆様の元から、更に多くの専門医が巣立っていかれますように。そして遠からぬ将来に、リウマチの発病原因が解明され、根本的治療法の確立される日が訪れますことを、心から祈っております。

今回の会議には、医師、研究者と共に、内外のリウマチ支援団体の参加があることを伺いました。皆様方の支援を得ることにより、患者がそれぞれ可能な範囲で自立し、社会参加を果たしていることを、嬉しく思っております。

様々な形でリウマチに関与する方々が、患者自身も含めて、この度一堂に集い、知識や経験の交換がなされることを喜び、会議の成功を念願いたします。この会議の成果が、各国のリウマチ対策に生かされ、苦しむ人々の上に還元されることを切に望み、開会式に寄せる言葉といたします。

13. リウマチ医（登録医）の会について

リウマチ医（登録医）の会については、平成３年度にその歴史が始まっている。９月３日に開催した運営委員会において「都道府県におけるリウマチを考える会の指定について」を議題として検討し、次のように決めている。

都道府県リウマチ登録医と患者の会の指定について

平成３年９月３日運営委員会決定

（指定等）

1. 理事長は都道府県の区域内の日本リウマチ財団リウマチ登録医（以下、「登録医」という）の情報交換及び、研修などを通じてリウマチ診療の向上を図り、併せてリウマチ患者の福祉を増進し又は、社会のリウマチに関する関心と認識を深める等のリウマチ対策を推進する事を目的として設立された団体であって、次項に規定する事業を適正かつ確実に行うことが出来ると認められるものをその申し出により、都道府県に一を限って「都道府県リウマチ医と患者の会（以下「登録医と患者の会」）として指定することが出来る。

（事業）

2. 登録医と患者の会は次の各号に掲げる事業を行うものとする。
   （1）登録医の情報の交換及び研修講演会等行うものとする。
   （2）リウマチ患者に対する講演会、医療相談等を行うこと。
   （3）リウマチ患者に関する正しい知識を普及するため講習会、講演会を開催し又はこれらの開催の斡旋を行うこと。
   （4）リウマチに関する情報又は資料を収集し及び提供すること。
   （5）その他登録医と患者の会の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

（事業計画の届出等）

3. 登録医と患者の会は毎事業年度事業計画及び収支予算を理事長に届け出なければならない。

（助成）

4. 財団は登録医と患者の会に対し予算の範囲内においてその行う事業に要する経費の一部を助成することが出来る。

以上のことが決まっており、登録医の会の第1号は平成3年度の事業実績報告書によれば、「愛媛県リウマチ登録医の会」が設立されたと報告しているが、活動については記述がなく、その後、平成6年7月の企画運営委員会において、兵庫県登録医の会の設立について了承しており、平成17年7月の企画運営委員会において鳥取県、鹿児島県における登録医の会の設立について話題となっているが、その後の経緯は不明である。

平成8年に9月1日から晴れてリウマチ科の標榜が認められたが、これを見越してか、平成8年6月の企画運営委員会において「登録医（標榜医）の組織化」について議論し、次回まで案を作成することとしており、7月の運営委員会においても「登録医の会の設置」について議論、平成3年の設置要綱の都道府県に1つの設置にこだわらず、近畿地区として登録医の会を設置したいとの越智副委員長の提案を了承している。

平成9年7月開催の企画運営委員会においては、「登録医の会連絡協議会」の設置について議論しているが、リウマチ科標榜医と登録医について財団の考えを必ず研修会において示すことで結論している。

以上のように平成3年以降、会の名称等不明瞭な経緯を辿りながらも、平成8年のリウマチ科標榜の実現を梃子に、「リウマチ科標榜医等のリウマチ登録医への促進のため」という大義のもと、平成8年度中に大阪リウマチ医の会（登録医の会）が2回、東京リウマチ医の会が1回、中国・四国リウマチ医の会が1回開催、平成9年度は更に弾みがついて、地区或いは都道府県単位で11回のリウマチ医（登録医）の会が開催され、その後毎年各地区の世話人のご尽力で開催されており、各年の開催状況は「主要事業の実施状況」に掲載のとおりである（p.125参照）。

14. リウマチ情報センターについて

リウマチ情報センターは、平成9年度に財団法人難病医学研究財団の委託を受けて（委託費10,637千円）リウマチ患者、家族向けなどの一般情報と医療機関、医療従事者など向けの専門情報を、インターネットにより配信することとして、平成10年2月「リウマチ情報センター」を開設したものであり、（財）難病医学研究財団が厚生省の補助金を受けて実施した難病情報センター事業の一部であった。コンテンツ環境の提供は財団法人健康・体力づくり事業財団、プロバイダーは富士通インタネットサービスでスタートし、コンテンツ環境の提供については、平成19年に（財）健康・体力づくり事業財団の都合により無料のサーバー提供ができなくなり、財団独自に株式会社スターチアと有料契約した。

リウマチ情報センター開設当初の情報は次のとおりである。

(1) 一般情報として、①対象とする病気（ホームページで取り上げるリウマチ性疾患名）、②専門医療機関（リウマチ登録医の所属する医療機関を始め登録医の概要、特定疾患患者対応医療機関の紹介）、③相談機関（日本リウマチ友の会等の患者団体、都道府県や保健所の窓口）、④患者さんのコーナー（リウマチの概念、Q＆A、医療費、在宅医療情報）

(2) 専門情報として、①慢性関節リウマチの研究（慢性関節リウマチについて最新のデータと研究の歩み、成果、治療のガイドラインを紹介）、②リウマチ登録医の広場（リウマチ科標榜に関する案内と掲示板コーナーなどを紹介）、③リウマチ関係出版物

(3) 財団の運営に関する情報として財団の組織、財務状況

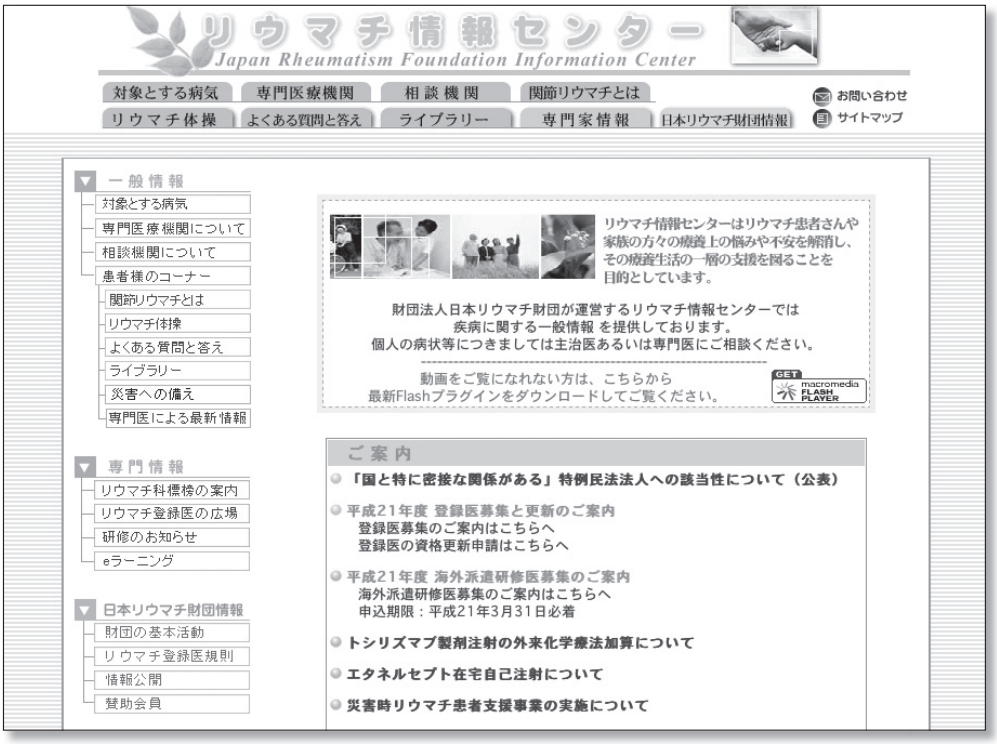
(4) その他情報として、トピックス、イベント、リンク集

以上の情報について、情報の更新、新規情報の企画等のため、毎年定期的に医療情報委員会を開催して、リウマチ情報センターの運営に当たっており、平成13年度の一部英文による情報の提供、翌14年度のリウマチ体操の情報提供、平成17年度のインターネットによるeラーニングの開始等により、正しい知識の啓発・普及は勿論、登録医の教育研修・専門医の養成等財団の事業の一翼を担い、日本リウマチ財団の顔の一つである。

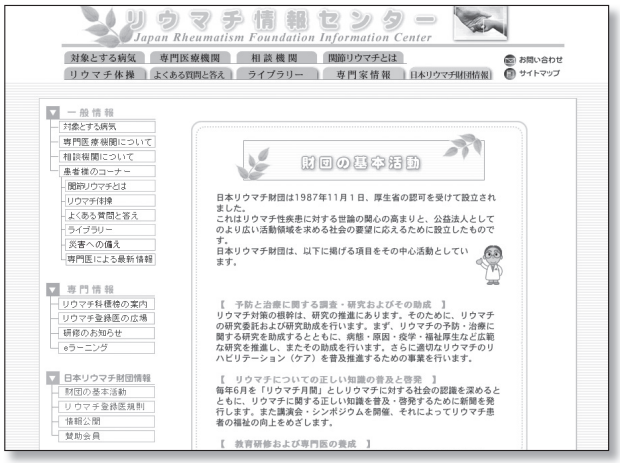
リウマチ情報センターへのアクセス件数は、平成14年度が、420,642件、15年度が419,112件、平成16年度751,993件、17年度947,166件、19年度が1,022,205件と大幅な増加傾向にある。

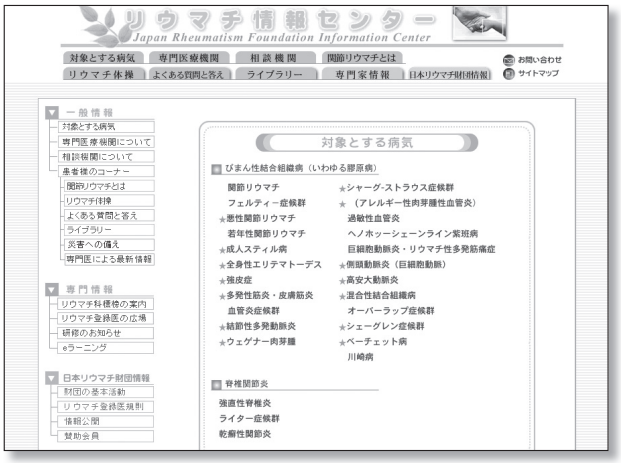
以上はリウマチ情報センターの概況である。この他にリウマチ情報センターに寄せられた患者さんの質問に対する回答を冊子化し、患者さん等に提供した。

リウマチ情報センターの活動に関しては、平成9年に設置された「ホームページ委員会」の活動に負うところが大きい。狩野庄吾委員長（自治医科大学附属病院長）、井上哲文委員（東京大学医学部物療内科）が、平成9年度中に9回にわたり会議を開催、インターネットによる情報提供、リウマチ情報センターの運営について、厚生省、（財）難病医学研究財団と折衝を重ねた結果、平成10年2月からリウマチ情報センターを開設することができたのである。



リウマチ情報センター　トップページ





15. 財団発行の新聞について

（1）リウマチエキスパート

昭和61年9月にリウマチ登録医1,072人が誕生して間もない昭和62年3月、『リウマチエキスパート』第1号が日本リウマチ協会の名において発行された。発行目的として、「日本リウマチ学会はリウマチ登録医のために便宜を図り、さらに診療内容の向上を目指す目的で研修会を開くなどの多くの事業を計画している。その第1歩として登録医の方々にリウマチに関する新しい医学情報を提供し、学会、研修会、その他のリウマチに関するニュースを知らせ、さらに登録医同志の相互の親睦を図る場として新聞を発行することにした」と記し、さらに、新聞の名称について、リウマチ登録医の到達目標として、「リウマチエキスパート」と命名したことを併せて第1号に記しており、記事は専ら医学的な専門情報である。

昭和63年3月発行の第3号からは、日本リウマチ財団の発行となり平成15年まで続けて発行したが、平成15年10月の企画運営委員会において、リウマチエキスパートは財団ニュースに統合することになり、平成15年8月発行の第33号をもってその使命を終え、登録医などに対する医学的な専門情報の提供をリウマチ財団ニュースに引き継いだ。

リウマチエキスパートの概要は次の通りである。

対象読者	日本リウマチ学会会員　　登録医
発行部数	8,000 部～ 9,000 部
発行回数	年 2 回
体　　裁	B4 判　白黒　平成 5 年度第 14 号から　B 5 判カラー刷り
発　　行	日本リウマチ協会　昭和 63 年 3 月から　日本リウマチ財団
編　　集	株式会社メディカルトリビューン大阪支社、平成元年 4 月から株式会社ファーマ インターナショナル
協　　賛	日本チバガイギー株式会社（平成 9 年 6 月からノバルティスファーマ株式会社に社名変更）

（2）日本リウマチ財団ニュース

日本リウマチ財団ニュースは、昭和63年4月号を第1号として発行した。それには、同年1月12日に開催された財団法人日本リウマチ財団設立披露パーティー、第1回定例理事会、評議員会等の模様が掲載されており、設立披露パーティーの記事には、「リウマチに対する理解を深め、リウマチ患者の福祉を向上するために、パンフレット、新聞の発行、講演会、シンポジウムの開催等により、リウマチに関する普及啓蒙活動を行う」との記事があり、「財団の活動により、長年、難病に苦しんで来たリウマチ患者の福祉の充実、医療の改善に役立つと信じ、ともすれば日陰者だったリウマチ診療従事者、研究者が学会、社会から正しく認知されるようになると言う意義は大きい」と、リウマチ財団設立の意義を同じ財団ニュース第1号に紹介している。

以上のことから察するに財団ニュースの発行は、リウマチ患者、患者家族を視野に入れていたものと思われ、事実、平成15年にリウマチエキスパートを統合するまでには、リウマチ医療に関する専門的な記事に併せ、リウマチ患者、家族向けの記事も多かった。リウマチエキスパート統合後の平成16年3月号には「本誌はリウマチ登録医のリウマチ性疾患に対する原因究明と診療技術の向上の支援を目的に発行されています」と、一面に財団ニュースの発行目的を明示、その後は患者向けの記事は減少しており、「リウマチ診療の基本手技」「RA診療のこつ」「リウマチ患者の生活習慣病を考える」「レントゲンクイズ」等、医学的な連載記事が多くなっている。

日本リウマチ財団ニュースの概要は次の通りである。

対象読者	日本リウマチ学会会員、登録医、リウマチ友の会会員、法人賛助会員等 平成16年以降、登録医、法人賛助会員等
発行部数	2万～3万部　平成15年エキスパート統合後　5,000～5,500部
発行回数	年4回　平成15年エキスパート統合後　年6回
体　　裁	タブロイド判　4ページ　白黒　平成15年エキスパート統合後タブロイド判　12ページ　カラー刷り
発　　行	日本リウマチ財団
編集・制作	株式会社メディカルトリビューン企画、平成元年第4号から株式会社ファーマ インターナショナル

16.「リウマチ月間」の制定について

リウマチ月間の制定については、昭和63年5月30日開催の理事会、翌31日開催の評議員会の議を経て制定された。理事会、評議員会とも次のように提案されている。

第3号議案　　「リウマチ月間」制定について

趣　旨　リウマチ性疾患は、慢性かつ難治性の疾患であり、その患者数は増加の一途をたどり、周辺患者を併せると500万人以上の人々が広い意味でのリウマチに悩んでいるので、リウマチ性疾患に関する正しい知識を国民の間に普及させるとともに、リウマチ性疾患の征圧を推進するための啓蒙運動に努める。

期　間　毎年 6月1日から6月30日まで

主　催　財団法人日本リウマチ財団

後　援　厚生省　（予定）

実施方法　（財）日本リウマチ財団と日本リウマチ学会が共同して実情に応じた計画のもとに各機関及び団体の後援、協賛、協力により行事を行う。

以上の提案を審議して「リウマチ月間」を制定し、昭和63年度は準備の都合からポスターの作成のみとし、翌年度からは月間中の行事を実施することとして、早速、昭和63年8月には昭和64年度の月間中の行事を検討するため、「リウマチを考える全国大会(仮称)実行委員会」を開催し、記念講演やシンポジウム、パネルディスカッションの実施等、現行方式の基礎となる事業を検討している。

平成元年は「リウマチ月間学術講演会」として行事を行った。演者が専門家のみで学術的な色彩が強く出ていたが、平成2年度以降は専門

家と共に患者さん、NHKを主としたマスコミ関係者、女優等有名人が月間行事に参加し、広く国民への啓発・普及に大役を果たしている。

平成2年度はテレビキャスター山田美也子さんが「リウマチなんかに負けないで」をテーマに講演、迫田朋子NHKアナウンサーがシンポジウムの司会を務め、平成3年度は熊本県立劇場館長（元NHKアナウンサー）鈴木健二さんが「生きることの再発見」をテーマに講演、平成4年度は女優の中村メイ子さんが「私の生き方」をテーマに講演、平成5年度はプロデューサーの石井ふく子さんが「心におしゃれ」をテーマに講演、平成6年度は前NHKアナウンサーの山川静夫さんが「放送よもやま話」を特別講演、さらに平成7年度はNHK気象キャスター倉嶋厚さんが「お天気よもやま話」を特別講演しており、平成8年度は落語家の林家木久蔵師匠が「笑いと健康」で特別講演し、ノンフィクション作家の山内喜美子さんがパネルディスカッションの司会を務めており、毎年度有名人がリウマチ月間行事に参加していた。その後は平成16年度にリウマチの母親と共に生活している方として、女優であり歌手でもある小川知子さんがシンポジストとして参加、平成18年度は女優の島田揚子さんが「命を全うするという人間の使命を見つめて」をテーマに講演している。その後は著名人の参加は見られない。

なぜ、6月をリウマチ月間としたのか気になるところであるが、昭和63年の第3回理事会、評議員会においてリウマチ月間の制定を提案した林 崇専務理事の提案理由説明によれば特別の意味はなく、「先に発注していたキャンペーンポスターのでき上がりが5月半ばであり、そのタイミングからして6月が適当であり、たまたま6月は梅雨時でもあるし」、とのことから6月をリウマチ月間と提案したとのことである。6月の6は中国語の数字で「リウ」と読むので、リウマチのリウにかけて、リウマチ月間は6月でよいとの話が出たこと、日本リウマチ友の会が10周年の記念大会を行った5月16日を契機にリウマチの日と決めたことが評議員会記事録に記録されている。

なお、歴史は遡って日本リウマチ協会の昭和44年度活動計画原案には、「リウマチ月間」の確立というタイトルで、「昭和45年5月1日～5月31日をリウマチ月間と定め、日本リウマチ協会の総会を始め、日本リウマチ学会、日本リウマチ友の会総会等、リウマチ性疾患に関連する行事を中心としてリウマチ性疾患の啓蒙を行う」との記録がある。

17. シンボルマークの制定について

日本リウマチ財団のシンボルマークの制定については、平成元年3月27日の第4回理事会、翌28日の評議員会において、財団発行の各種印刷物を始め、各種事業の告知等に幅広く活用するため、シンボルマークを作りたいとの提案がなされ、平成2年度の予算で製作費として100万円が承認されている。この承認を受けて、同年4月18日の運営委員会において、国際的なシンボルマークとすることを基本事項に、株式会社協和企画に見積もりを依頼することを決めているが、5月、6月の運営委員会の審議を経て、結果的にはシンボルマークデザインを公募し、応募のあった7案について財団ニュース平成元年夏号において、リウマチに関心のある全ての方を対象に投票を依頼（締切り9月30日）、10月16日の運営委員会において投票結果を審議し、得票数1位のデザインを若干修正して採用することを決め、日本リウマチ財団ニュース平成元年秋号において周知している。

投票対象となった7案は次のとおりであり、72票中20票を獲得した①の案が採用となった。デザインは日本リウマチ財団の英語名略称、JRFの3文字で人体を表現し、関節を強調している。

なお、採用デザインに投票した方には、抽選で10名の方に記念品としてからくり時計（15,000円）を贈呈した。

シンボルマークの候補となった7案。①が採用された。

18. 財団版リウマチ白書は「リウマチ診療レポート」

平成元年3月27日の第4回理事会、翌日の第4回評議員会において、リウマチ白書の制作について提案、実態調査費、白書の印刷費等の経費として、1,000万円の予算が承認された。リウマチ白書を制作する趣旨は、わが国における慢性関節リウマチ診療における問題を明らかにし、それに基づいてRA診療のあるべき姿を提言すると共に、今後の活動指針を作成する資料にしたいということであり、医療に携わる側、医療を受ける側の診療の実態及び、問題点、並びに行政等に対する要望等を調査すると説明している。

理事会、評議員会の議決を受け、早速、財団に「リウマチ診療実態調査委員会」を設置し、同年4月8日には第1回の会議を開催、第2回から委員会の名称を「リウマチ白書作成委員会」と変更し、以後数回の白書作成委員会における調査の企画、調査の実施、調査結果の検討を経て、平成3年12月に「リウマチ診療レポート」として発行した。平成2年10月の委員会において、白書の書式について協議しているが、その段階までは「リウマチ白書」と称していたものが、発行の段階で名称が変わったのが気になるところであるが、平成3年3月にリウマチ白書作成委員会柏崎禎夫委員長が、委員各位に対し、印刷物の名称については、「リウマチ診療実態レポート」としたいと提案し、意見を求めており、委員の意見調整の結果、「リウマチ診療レポート」となったものである。

リウマチ白書作成委員会には、日本リウマチ友の会から数回に亘り、吉田副理事長他が出席しており、平成元年12月21日のリウマチ白書作成委員会において、塩川理事長が「白書」という名前は友の会にあるので、別なものを考える必要があると発言し、それに対して日本リウマチ友の会の吉田雅子副理事長は、友の会は「患者」が入っていると発言、それを受けて塩川理事長は「リウマチ医療白書」ではと再度発言しており、このような経緯があって、前述のとおり柏崎委員長が委員各位の意見を問い、財団版「リウマチ白書」は、「リウマチ診療レポート」となったであろうことが容易に察せられる。

実態調査は、大学・病院、リウマチ登録医、開業医におけるリウマチ診療の実態、保健婦、訪問看護婦から見たリウマチ診療の実態、リウマチ患者さんから見たリウマチ診療の実態を行った他、わが国のリウマチ患者の動態、日本リウマチ財団、日本リウマチ友の会の活動、わが国におけるリウマチ対策の現状と将来、諸外国のリウマチ対策の現状に及び、これらの調査結果に基づいてリウマチ対策についての提言を行っている（p.70参照）。本編2,000部、概要編5,000部を印刷、賛助会員、登録医、医療機関、患者団体、厚生省、都道府県、医師会に配布しているが、リウマチ診療レポートの作成に元年度から3年度まで合計1,465万円強の経費を要している。

「リウマチ診療レポート」は、「慢性関節リウマチ診療実態調査委員会」の編集となっているが、委員会の名称は平成3年3月26日時点では、「リウマチ白書作成委員会」であり、その後、発足当初の「リウマチ診療実態調査委員会」に、「関節」を付したと考えられるが、経緯については記録が見つからない。平成元年9月の「リウマチ白書作成委員会」において、吉野アドバイザーから「『リウマチ』だけでよいのか『慢性関節リウマチ』とした方がよい」との意見が出ている。

なお、第1回の調査後平成7年に、リウマチに関する調査研究の推進、登録医等専門医制度の充実により、リウマチ診療は大きな変動がみられるとし、又、平成9年の財団設立10周年を控えていたこともあり、第2回の慢性関節リウマチ診療実態調査を実施することとして新たに委員会を組織し、ほぼ前回同様の調査に着手した。平成7年度にアンケート調査を実施、平成8年度に一部集計、平成9年度も集計費として300万円の予算を計上しながら、事業を実施した形跡がなく、平成9年度の決算書では0円となっている。関係のファイルには平成9年8月の日付で、「開業医に対する実態調査のまとめ」、「リウマチ登録医を対象とした慢性関節リウマチ診療実態調査のまとめ」があり、アンケート調査対象であった「患者」、「大学・病院」についてはまとめがないことからすると、第1回調査と比較できるような十分な調査結果が得られなかった可能性が高い。当時の理事会、評議員会の記録、企画運営委員会の記録にも最終報告書に関する記録がなく、慢性関節リウマチ診療実態調査委員会の記録も残念ながら同様である。

日本リウマチ財団よりの提言

A. リウマチの医療体制の整備

1. リウマチ標榜科の実現

患者が容易にリウマチ専門医に到達できるように、リウマチ標榜科を実現する。

2. 公立リウマチセンターの設置

わが国におけるリウマチの研究、診療の中核となる公立の機関であるリウマチセンターを設置する。

3. 医科大学におけるリウマチ学講座の設置とリウマチ学教育の充実

大学におけるリウマチの研究を推進するためにリウマチ学講座の設立を図る。また医学部生に対してより充実したリウマチ学の教育を行う。

4. 病院におけるリウマチ科の設置と設備の充実

リウマチの診療内容を向上するために、各病院にリウマチ専門医を中心とするリウマチ科を設置する。

病院はリウマチ診療のための設備の充実を図る。とくにリウマチ患者のためのリハビリテーションの設備、人員の充実が望まれる。

5. リウマチ専門医の養成

リウマチ登録医、認定医、指導医の教育を充実し、活動を促進する。

6. リウマチ専門医以外の医師に対するリウマチの知識普及

リウマチに関心を有する一般医のためにリウマチの講演会など知識の普及を図る。

7. 医師以外の医療従事者との協力体制

理学療法士、作業療法士、ケースワーカー、栄養士、薬剤師、保健婦、訪問看護婦など、関連医療従事者の協力を得るために、講演会などを通じてリウマチについての知識の普及、意見の交換を行い、協力体制の樹立を図る。

8. リウマチ診療システムの整備

内科医、整形外科医など、種々の専門家との連係、専門病院、家庭医の連係によるリウマチ診療システムを組織診療の効率化を図る。

リウマチ登録医、研究施設の分布に地域差があるのでその是正に努める。

地域毎に中核病院（リウマチセンター）を設立する。

9. リウマチ診療指針の作成

専門医向け、一般医向け、医療従事者向けなど、対象別の指針を作り、リウマチ診療の向上に役立てる。

B. リウマチ患者の環境の整備

1. 公費負担などによる福祉対策と、患者の経済的負担の軽減

患者の医療費、通院のための交通費などの公費負担により、患者の経済的負担の軽減を図る。

患者の家屋の改造、患者用日常生活用具などについての経済的補助を図る。

2. 患者介護体制の確立

寝たきりのリウマチ患者に対して、通院、移送の援助、自宅介護の推進。

定期的にリウマチ専門医による巡回診療の実施。

3. 療養施設の整備

身障リウマチ患者を長期にわたり介護し、診療する療養施設の整備。

4. 患者に対するリウマチ知識の普及

病院、保健所などにおけるリウマチ教室などによる患者の療養指導。

リウマチについてのテレホンサービスによる相談事業の普及。

リウマチ友の会などの患者団体の活動推進。

C. 社会への働きかけ

1. リウマチ知識の普及

講演会などにより一般のリウマチに関する知識の普及と理解を求め、リウマチ患者の社会への受容を促進する。

2. リウマチ患者に対するボランティア活動の推進

リウマチ患者支援のためのボランティア活動を推進する。

D. 研究の推進

1. リウマチの原因、治療法の研究

2. リウマチの実態調査の実施と継続

慢性関節リウマチ診療実態調査委員会委員名簿

氏名	所属機関	第1回委員会（平成元年～3年）	第2回委員会（平成7年～9年）
柏崎　　禎夫	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター	委員長	顧問
宮坂　　信之	東京医科歯科大学第一内科	－	委員長
秋月　　正史	慶應義塾大学内科	委員	－
入交　昭一郎	川崎市立川崎病院内科	委員	委員
内田　　詔爾	東京都立墨東病院リウマチ科	委員	委員
岡田　　純	北里大学内科	委員	委員
岡本　　連三	横浜市立大学整形外科	委員	委員
川合　　眞一	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	－	委員
小坂　　志朗	青森リウマチセンター	委員	委員
茆原　　忠夫	茆原内科医院	委員	委員
山田　　昭夫	国立相模原病院内科	委員	－
蕨　　治言	自衛隊中央病院内科	委員	－
松田　　剛正	鹿児島赤十字病院内科	－	委員
宮原　　英夫	北里大学医療衛生学	顧問	顧問
白鷹　　増男	北里大学医療情報学	顧問	顧問
狩野　　庄吾	自治医科大学アレルギー膠原病科	アドバイザー	－
西岡　久寿樹	聖マリアンナ医科大学内科	アドバイザー	－
山本　　純己	松山赤十字病院リウマチセンター	アドバイザー	－
吉野　　槇一	日本医科大学リウマチ科	アドバイザー	－

19. 厚生労働大臣感謝状の贈呈について

日本リウマチ財団の事業活動に賛同し、支援のために寄附をした個人、団体に対しては、平成6年より次の厚生大臣感謝状贈呈要綱に基づき、感謝状を贈呈して感謝の意を表し、崇高な行為をたたえている。

財団法人日本リウマチ財団への寄附者に対する厚生大臣感謝状贈呈要綱（抄）

1. 目　的

財団法人日本リウマチ財団（以下「財団」という）はリウマチ性疾患の制圧を達成するため、リウマチ性疾患に関する調査研究を行うとともに、その予防と治療に関する正しい知識の普及啓発、教育研修及び専門医の養成等の事業の推進を図っている。

これらの事業の重要性を鑑み、当分の間、財団に多額の寄附を行った個人又は団体に対し、その崇高な行為をたたえ、感謝の意を表するために厚生大臣から感謝状の贈呈を行うこととする。

2. 対象者の範囲

（1）財団に対し寄附を行った個人又は団体であって、次の各号の一に該当するもの

ア、100万円以上の金額を寄附した個人

イ、300万円以上の金額を寄附した団体

ウ、寄附金以外の寄附であって前各号に準ずる寄附を行った個人又は団体

（2）略

3. 対象者の選定

感謝状贈呈者の選定事務は、財団から提出された「大臣感謝状贈呈候補者名簿」に基づき、保健医療局において行うものとする。

4. 感謝状の贈呈及び伝達　　略

5. 雑　則　　略

6. 施行期日

（1）この要綱は、平成6年4月1日から適用する。

（2）略

日本リウマチ財団への多額寄附者に対する厚生大臣の感謝状の贈呈については、上記要綱に基づき、実施しているところであるが、団体に関しては要綱制定当時より同一団体からの継続性のある寄附が多いことから、要綱通りの運用をすると同一団体に毎年感謝状を贈呈することになり、実施を見合わせてきた経緯があり、平成9年の財団設立10周年記念式典の開催の節目に当たって、感謝状贈呈要綱に基づき大臣感謝状を贈呈し、多年の功労に対する敬意を表したところであり、それ以来、団体に関しては10年を節目として感謝状の贈呈を行うこととなった。これまでの感謝状の贈呈状況は「参考資料」に掲載のとおりである（p.157参照）。

20. 特定公益増進法人について

所得税法では個人が教育や科学の振興、文化の向上、社会福祉の向上等に使われる特定の寄附をした場合には、税制上の優遇措置として寄附金控除があり、一方、法人税法においても個人の場合と同様な寄附金について、一般寄附金の損金算入とは別枠で、損金算入ができる税制上の優遇措置がある。

これらの税制上の優遇措置を受けるためには、所得税法、法人税法ともに、「公益の増進に著しく寄与する法人に対する寄附」であることを条件としており、日本リウマチ財団は所得税法施行令、法人税法施行令の規定による「公益の増進に著しく寄与する法人」、いわゆる特定公益増進法人として、財団発足直後の昭和63年3月2日に認定され、次に示すとおり、短期間の中断があるものの継続して認定を受けている。

当財団の認定は、平成2年以降、所得税法施行令第217条第3号、法人税法施行令第77条第3号に規定する「科学技術に関する試験研究を行う者に対する助成金の支給を主たる目的とする法人」に該当するとして認定を受けているものであり、本来財務大臣の認定によるべきところ、試験研究の助成に当てる事業費の比率が高く、より公益性が高いとして主務大臣たる厚生労働大臣の認可によって来た。

特定公益増進法人認定状況

昭和63年3月2日	所得税法施行令	第217条	第1項	2号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	2号　イ
平成2年3月6日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成4年3月5日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成6年3月7日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成8年3月7日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成10年2月20日	租税特別措置法施行令	第40条の3	第1項	第3号イ
平成12年3月9日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成14年3月4日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　イ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　イ
平成16年9月1日	所得税法施行令	第217条	第1項	3号　ロ
	法人税法施行令	第 77条	第1項	3号　ロ

平成18年9月1日、平成20年9月1日の認定とも平成16年同様である。

主要事業の実施状況

1. リウマチ性疾患調査・研究助成事業実施状況

（＊記号は、三浦記念リウマチ学術研究賞）

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
平成8年度　申請者34件	珪酸化合物曝露に伴う自己免疫能獲得における細胞死調節の破綻の研究	病因究明	大槻　剛巳	川崎医科大学衛生学講師
	新規の抗好中球細胞質抗体の対応抗原HMG1/HMG2に対する自己抗体の測定とそのリウマチ性疾患における臨床的意義	病因究明	尾崎　承一	京都大学大学院医学研究科臨床病態医科学講師
	全身性硬化症（強皮症）における自己反応性T細胞の活性化機序の解明	病因究明	桑名　正隆	慶應義塾大学医学部内科学助手
	IL-6シグナル伝達阻害による慢性関節リウマチ治療法の開発	診断・治療	西本　憲弘	大阪大学医学部第三内科助手
	シェーグレン症候群の病因における炭酸脱水酵素Ⅱの意義についての検討	病因究明	西森　　功	高知医科大学医学部助手
	自己免疫疾患モデルマウスにおける抗原レセプターのシグナル機構の解明と調節	病因究明	前田　敏郎	聖マリアンナ医科大学第二外科学助手
	抗リン脂質抗体の関与した血管病変の発症機序の解明	病因究明	松浦　栄次	北海道大学医学部生化学第一講座　助手
	プロスペクティヴ・スタディによる早期RAの治療手段の検証	診断・治療	松田　祐子	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター助手
	トランスジェニックマウスを用いた核内自己抗原特異的T細胞の制御機構の解析	病因究明	三崎　義堅	九州大学生体防御医学研究所講師
	p125 Focal Adhesion Kinaseアンチセンスによる実験関節炎治療の検討	診断・治療	三村　俊英	東京大学医学部附属病院第三内科助手
	関節リウマチの神経・内分泌・免疫系について―病的滑膜のサイトカイン産生に対する各種神経ペプチドならびにカテコールアミンの役割―	病因究明 診断・治療	吉野　槇一*	日本医科大学教授
平成9年度	アポトーシスを介する骨壊死症の発症機序の解明と治療法の開発	病因究明	浅原　弘嗣	岡山大学医学部附属病院整形外科学教室助手
	疫学からみた本邦リウマチ性疾患古病理学	予防・疫学	井上　康二	滋賀医科大学整形外科講師
	自己免疫性疾患におけるFas抗原、Fasリガンド遺伝子異常と遺伝子治療の基礎的検討	診断・治療	笠原　善仁	金沢大学医学部小児科学教室助教授
	壊死性血管炎（NV）の病態代謝と血管破壊機構の解明―新たに作出したNVモデルマウスを用いた研究―	病因究明	金井　芳之	東京大学医科学研究所助教授
	HTLV-1トランスジェニックマウスを用いた関節炎発症機構の解析	病因究明	西城　　忍	東京大学医科学研究所技官
	自己免疫性疾患における新規・内在性レトロウイルスの形質に関する分子生物学的研究	病因究明	沢田　哲治	東京大学医学部物療内科助手

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
申請者43件	リウマチ性疼痛に関与するプロスタグランジン受容体の解明と臨床応用	診断・治療	杉本　幸彦	京都大学大学院薬学研究科助教授
	ヒト免疫系再構築マウスの開発とそれを用いたヒト由来抗体の作製	診断・治療	穂積　勝人	東海大学医学部生体防御機構系免疫学部門助手
	慢性関節リウマチ発症におけるペプチド部分アゴニストの意義	病因究明	松下　　祥	熊本大学医学部助教授
	慢性関節リウマチにおけるテロメラーゼ活性の検討	病因究明	山西　裕司*	東広島記念病院・リウマチ膠原病センターリウマチ科部長
	慢性関節リウマチ（RA）におけるサイトカイン受容体シグナル伝達分子の解析	病因究明	横田　　章	大阪大学医学部第三内科助手
平成10年度　申請者53件	リウマチ性疾患発症HTLV-1遺伝子導入ラットをモデルとしたヒトリウマチ性疾患の病因究明に関する研究	病因究明	池田　　仁	北海道大学講師
	全身性強皮症における胎児細胞microchimerismに関する研究	病因究明	大塚　　勤	獨協医科大学皮膚科助手
	リウマチ性疾患におけるob遺伝子蛋白、レプチンの動態と臨床的意義	病因究明	川合　眞一	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助教授
	シクロオキシゲナーゼ-2アンチセンクスによる滑膜細胞へのアポトーシス誘導とRA治療への応用	診断・治療	佐野　　統*	京都府立医科大学第一内科講師
	抗ヘパリン多糖鎖自己抗体と血栓症発現	病因究明	柴田　　忍	東北大学医学部第二内科助手
	ヒト軟骨細胞において機械的刺激に応答する遺伝子群の同定解析	病因究明	茶野　徳宏	Istituti Ortopedici Rizzoli, Medico contrattisto（契約医師）
	全身性エリテマトーデス発症におけるBリンパ球アポトーシス阻害分子CD40Lの異所的発現の病因的意義の解明	病因究明	鍔田　武志	東京医科歯科大学難治疾患研究所教授
	慢性関節リウマチの骨破壊に対するカルパイン・カルパスタチンの病理学的役割の解明―砕骨細胞による骨吸収へのカルパイン・カルパスタチン作用―	病因究明	羽毛田慈之	明海大学歯学部助教授
	慢性関節リウマチにおける薬剤抵抗性獲得のメカニズムの解明と薬剤耐性克服に関する研究	診断・治療	遊道　和雄	富山医科薬科大学医学部助手
	ヒトとマウスにおける抗セントロメア抗体のエピトープの継時的解析	病因究明	室　　慶直	名古屋大学医学部附属病院講師
平成11年度　申請者40件	TNF/TNFRファミリー分子群による抗体産生系制御と自己免疫疾患制御への応用	病因究明	小端　哲二	獨協医科大学医学総合研究所免疫学教授
	骨形成因子（BMP）による骨修復能力を付加した新しい人工関節の開発	診断・治療	斎藤　直人	信州大学医学部整形外科講師
	RAの病態形成における転写因子NF-IL-6の役割の解析	病因究明	佐伯　行彦	大阪大学大学院医学系研究科分子病態内科学講座（第三内科）助手
	ループマウスの病態とリンパ球活性化におけるCD31分子の機能と解析	病因究明	多田　芳史	佐賀医科大学医学部内科学助手

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
平成11年度　申請者40件	インターフェロンによる破骨細胞分化抑制機構の解明とリウマチ骨破壊制御に関する研究	診断・治療	田中　　栄	東京大学医学部整形外科学教室助手
	Th1/Th2細胞の分化・誘導・浸潤機構の解明と、そのリウマチ性疾患発症・進展における役割と制御	病因究明	中島　敦夫	日本医科大学リウマチ科助手
	DNA マイクロアレイを用いたリウマチ性疾患病因因子の探索と早期診断法の開発	診断・治療	中西　　徹	岡山大学歯学部口腔生化学講座助教授
	膠原病患者・家族に対するソーシャルサポート：ニーズの把握	予防・疫学	林　　素子*	順天堂大学医学部公衆衛生学助手（他兼務）
	ノックアウトマウスを用いたMHC領域に存在する遺伝子機能の解析：リウマチ性疾患の病態形成に関わる遺伝子の検索	病因究明	松本　　満	徳島大学分子酵素学研究センター情報細胞学部門教授
	慢性関節リウマチ（RA）滑膜炎の分子機構の解明（一酸化窒素と炎症メディエーターとのクロストーク）	病因究明	右田　清志	長崎大学医学部附属病院第一内科助手
	全身性硬化症患者における胎児性マイクロキメリズム解析	病因究明	村田　秀行	筑波大学臨床医学系内科講師
平成12年度　申請者49件	マイクロサテライトを用いた相関解析によるゲノムワイドなリウマチ感受性遺伝子のマッピング	病因	猪子　英俊	東海大学医学部教授
	慢性関節リウマチ滑膜細胞の動態に対するWntシグナル系の生化学的および生物学的作用の解析	病因	今井　一志	日本歯科大学生化学教室講師
	慢性関節リウマチ滑膜細胞による酸分泌を介した骨破壊機構の解明	病因	大津　　進	東北大学医学部附属病院助手
	慢性関節リウマチ発症の分子機構―新しいTh2細胞への分化誘導因子の同定―	病因	渋谷　和子	筑波大学臨床医学系内科講師
	慢性関節リウマチにおける新たな生物製剤の開発：リコンビナントホリスタチン関連蛋白（ERP）および可溶型gp130の臨床応用への試み	診断・治療	田中　真生	京都大学大学院医学研究科臨床生体統御医学講座臨床免疫学助手
	転写統合装置を切り口としたリウマチ滑膜細胞の包括的理解	病因	中島　利博	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助教授
	慢性関節リウマチの病変関節におけるケモカイン・ケモカインレセプターの解析	病因	南木　敏宏	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科助手
	IL-1レセプターアンタゴニストノックアウトによる慢性関節リウマチモデルの作製	病因	宝来　玲子*	東京大学医科学研究所助手
	骨関節疾患における軟骨細胞の免疫応答への関与の解析	病因	本郷　佳世	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助手
	4C8 costimulationによるサプレッサーCD4+T細胞の分化誘導と全身性エリテマトーデス（SLE）発症・病態への関与	病因	益山　純一	自治医科大学アレルギー膠原病科講師

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
	慢性関節リウマチ発症に関わる抗原の特定	病因	美馬　亨	大阪大学大学院医学研究科分子病態内科学医員
平成13年度　申請者42件	慢性関節リウマチ患者の靴作製とその前後の歩行特性の調査と踵骨骨量の変化に関する縦断的調査	診療・治療	石田　健司	高知医科大学リハビリテーション部助手
	変異gp130ノックインマウスにおける慢性関節炎の解析	病因	石原　克彦	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学（C7）助教授
	抗リン脂質抗体症候群におけるプロトロンビン遺伝子多型と臨床像の関連に関する研究	予防・疫学	市川　健司	北海道大学医学部附属病院第二内科講師
	Receptor Activator of NF-κB（RANK）に対する自己抗体の検出と骨粗鬆症に及ぼす影響の検討	病因	加藤　智啓	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター助教授
	Peroxisome Proliferator-Activated Receptor (PPAR)による骨・軟骨代謝制御機構の解明	病因	川人　豊	京都府立医科大学第一内科助手
	慢性関節リウマチ（RA）患者のQOL向上に関する疫学的研究―抑うつ・ソーシャルサポートを含む心理社会学的アプローチ―	予防・疫学	小嶋　俊久*	名古屋大学医学部整形外科医員
	TRAIL（TNF-related apoptosis-inducing ligand）遺伝子導入樹状細胞を用いたリウマチに対する新規遺伝子治療法の開発に関する研究	診断・治療	佐藤　克明	鹿児島大学医学部医動物学講座講師
	人工股関節周囲骨組織の分子病態に関する研究	病因	高木　理彰	山形大学医学部附属病院助教授
	インターフェロン系による慢性関節リウマチ骨破壊の制御に関する研究	病因	高柳　広	東京大学大学院医学系研究科免疫学助手
	自己免疫疾患モデルマウスにおけるカルパスタチン反応性T細胞に関する研究	病因	藤井　隆夫	京都大学大学院医学研究科助手
	NSAIDsによる胃粘膜障害副作用機構の解明	診断・治療	水島　徹	岡山大学薬学部助教授
平成14年度　申請者40件	本邦初のTNF receptor-associated periodic syndrome（TRAPS）家系調査とリウマチ性疾患におけるTNFレセプター異常症の診断法の確立および新しい治療法の試み	診断・治療	井田　弘明*	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析制御学講座研究生
	MIFワクチンの開発とのそのリウマチモデルマウスに対する効果の検討	診断・治療	小野寺　伸	北海道大学医学部附属病院助手
	慢性関節リウマチモデルにおけるインターロイキン-15の役割の解明および治療への応用	病因	樗木　俊聡	秋田大学医学部寄生虫学講座教授
	関節リウマチの細胞周期制御療法における炎症性分子発現の低下に関する研究	診断・治療	関根知世子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生体応答調節学助手
	骨粗鬆症性骨折の危険因子解明に関するコホート研究―村松町の地域高齢女性1000人を対象として―	予防・疫学	中村　和利	新潟大学大学院医歯学総合研究科講師

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
平成14年度　申請者40件	血管新生抑制からみた関節リウマチ遺伝子治療の基礎的研究	診断・治療	永島　正一	日本医科大学リウマチ科助教授
	Dbl遺伝子ノックアウトマウス作製による関節リウマチの発症メカニズムの解明	病因	柱本　　照	神戸大学医学部保健学科膠原病学寄附講座客員助教授
	自己抗体により誘導される関節炎の病態意義及び特異的制御法の確立	病因	松本　　功	筑波大学臨床医学系内科講師
	慢性関節リウマチ病態形成におけるミッドカインの役割	病因	村松　壽子	名古屋大学大学院医学系研究科講師
	自己抗原の過剰蓄積に起因する自己免疫疾患発症機構の解明	病因	安友　康二	徳島大学医学部教授
	慢性関節リウマチ病態形成におけるインターロイキン15の役割	病因	吉開　泰信	九州大学生体防御医学研究所感染制御分野教授
平成15年度　申請者40件	細胞膜構成リン脂質asymmetryと抗リン脂質抗体の血栓原性についての研究	病因	渥美　達也	北海道大学大学院医学研究科講師
	遺伝子発現プロファイルに基づく関節リウマチ新規疾患感受性遺伝子の同定	病因	猪狩　勝則	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター助手
	強皮症におけるintegrin aV β5発現亢進とその意義	病因	尹　　浩信	東京大学大学院医学系研究科講師
	多機能ウイルスベクターと細胞移入法によるリウマチ性疾患に対する新規遺伝子治療法の開発	診断・治療	臼井　　崇	京都大学大学院医学研究科内科講座臨床免疫学助手
	ヒト組織移植免疫不全マウスを用いた線維化抑制療法の評価モデルの確立	診断・治療	桑名　正隆	慶應義塾大学医学部先端医科学研究所専任講師
	全身性強皮症におけるB細胞異常とその動物モデルにおけるB細胞除去による治療効果の検討	病因	佐藤　伸一	金沢大学大学院医学系研究科血管新生・結合組織代謝学助教授
	リウマチ病態形成におけるインターロイキン15の役割	診断・治療	西村　仁志	九州大学生体防御医学研究所助教授
	関節リウマチにおける転写因子NF-κBの翻訳後活性化機構の解明―調節因子IκBβ1とIκBβ2の発現制御による新規治療法の確立―	診断・治療	平野　史倫	旭川医科大学第二内科講師
	全身性自己免疫疾患患者血清中に存在する抗リンパ抗体の対応抗原の同定	病因	古川　　宏	東北大学大学院医学系研究科助手
	Ⅸ型コラーゲンのTrp遺伝子多型は関節リウマチの重症度に影響を及ぼすのか？	予防・疫学	松井　好人	徳島大学医学部・歯学部附属病院助手
	NKT細胞を標的とした関節リウマチ治療法の開発	診断・治療	三宅　幸子*	国立精神・神経センター神経研究所免疫研究部室長
平成16年度	自己免疫発症におけるOX40シグナルの役割	病因	石井　直人	東北大学大学院医学系研究科助教授
	関節リウマチの持続炎症にB細胞が果たす役割の解明	病因	伊藤　健司	国立国際医療センター第三内科、リウマチ科医長
	リウマチ性多発筋痛症と脂質メディエーター	病因	植田　弘師	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授
	リウマチ性疾患治療応用へ向けたIL-18アンタゴニスト開発	診断・治療	加藤善一郎*	岐阜大学医学部附属病院小児科講師

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
申請者44件	変形性関節症におけるBone Morphogenetic Proteinシグナルの作用点と役割の解明	病因	関　賢二	京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座助手
	新規クロマチン蛋白による軟骨分化の制御及び再生医学への応用	診断・治療	谷口　昇	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科運動機能修復学講座整形外科学医局員
	妊娠関連分子による関節炎の細胞周期制御療法の研究	診断・治療	野々村美紀	独立行政法人理化学研究所自己免疫病戦略研究ユニット研究員
	ケモカインアンタゴニストを用いた自己免疫疾患の治療	診断・治療	長谷川　均	愛媛大学医学部附属病院第一内科講師
	抗リン脂質抗体症候群における、P38MAPキナーゼ阻害剤およびニックβ2グリコプロテインⅠを介した治療の可能性に関する検討	診断・治療	保田　晋助	北海道大学大学院医学研究科助手
	リウマチ滑膜細胞における小胞体蛋白崩壊系の破綻と関節リウマチの新しい病態モデルに関する研究	病因	山崎　聡士	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター講師
	関節リウマチモデルとしてのIKBL遺伝子導入トランスジェニックマウスの作製	病因	松坂　恭成	東海大学医学部基礎医学系奨励研究員
平成17年度　申請者44件	新規転写因子制御による関節リウマチ骨破壊防止法の開発	病因	朝霧　成拳	東京医科歯科大学大学院助手
	関節軟骨を決定する転写ネットワークの解明とリウマチ医療への応用	診断・治療	浅原　弘嗣	国立育成医療センター研究所移植・外科研究部部長
	変形性関節症におけるGADD45βの機能	病因	井尻　幸成	鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻講師
	CD26とCaveolin-１の相互作用によるリウマチ性滑膜炎の進展メカニズムに関する研究	病因	大沼　圭	東京大学医科学研究所先端医療研究センター免疫病態分野特任助手
	Transforminng growth factor-β（TGF-β）の細胞内シグナル伝達分子Smad2/Smad3/Smad4を介した免疫制御機構の解明	病因	真村　端子	筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学研究員
	D-Serineに注目したリウマチ性軟骨破壊に対する治療方法確立研究	病因	宝田　剛志	金沢大学大学院自然科学研究科教務職員
	抗リウマチ薬としての機能性TNF-α変異体の創製	診断・治療	中川　晋作	大阪大学大学院薬学研究科教授
	軟骨細胞における新規アグリカナーゼADAMTS-９の発現調節機構ならびに変形性関節症の軟骨破壊における役割の解明	病因	西田圭一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教授
	シェーグレン症候群関連自己抗原Ro52/SSAのユビキチンリガーゼとしての機能解析	病因	畠山　鎮次*	北海道大学大学院医学研究科分子生化学講座分子医化学分野教授
	STAT３活性化を指標にした新規リウマチ診断法の開発	診断・治療	松田　正	北海道大学大学院薬学研究科教授
	関節リウマチ原因遺伝子であるシノビオリンの滑膜細胞特異的な基質探索	病因	八木下尚子	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター講師

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
平成18年度 申請者31件	関節リウマチの骨破壊機序の解明をめざして；BMPによる骨芽細胞分化誘導に対するTNF-αの抑制機序を探る	病因	大塚　文男	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学助手
	最重症型関節リウマチ（ムチランス型）の発症および進展に関わる遺伝子の検索	病因	大村浩一郎	京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科助手
	新規DNAキャリア分子を用いたアンチセンス核酸療法の確立とその関節炎モデルマウスに対する効果	診断・治療	小野寺　伸	北海道大学大学院医学研究科機能再生医学講座運動機能再建医学分野助手
	創薬源および治療標的としての関節リウマチ関連ペプチドの網羅的探索	診断・治療	加藤　智啓	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター生体機能・プロテオーム制御部門助教授
	ヒトB細胞株における体細胞組替えを利用した、リウマチ性疾患関連遺伝子多型機能解析系の構築と病因病態解明への応用	病因	土屋　尚之*	筑波大学大学院人間総合科学研究科社会環境医学専攻教授
	関節リウマチの骨破壊に関する病態解明	病因	坪井　秀規	大阪大学医学部附属病院整形外科医員
	イムノトキシンによる炎症マクロファージ選択的除去療法の開発―実験的関節炎モデルにおける検討―	診断・治療	永井　　拓	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科助手
	シェーグレン症候群唾液腺破壊の抑制から再生へ	病因	中村　英樹	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座リウマチ免疫病態制御学分野助手
	関節リウマチにおける Decoy receptor3の診断的・治療的役割に関する研究	診断・治療	三浦　靖史	神戸大学医学部保健学科医療基礎学講座助教授
	IgG4―related plasmacytic diseases―　多領域に跨がる新しい疾患概念の確立に向けて	診断・治療	山本　元久	札幌医科大学第一内科 研究生
	シェーグレン症候群における新規治療薬戦略の開発	診断・治療	若松　　英	筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学分野大学院生
平成19年度	Ａｌｉ18変異マウスにおける関節炎発症の分子メカニズムの解析	病因	阿部幸一郎	東海大学医学部講師
	血管炎発症機序の解明と新しい病態診断法の開発	診断・治療	石津　明洋	北海道大学医学部保健学科教授
	破骨細胞分化における Casファミリー蛋白質の発現動態・IKK/ Cas-L相互作用とその生物学的意義	病因	岩田　哲史	東京大学医科学研究所先端医療研究センター免疫病態分野助教
	MCTD 遺伝素因候補としての血管新生因子Angiopoietin-1（Ang-1）スプライシングバリアント産生における抗U1snRNP抗体の干渉作用解明	病因	駒井浩一郎	神戸大学医学部保健学科助教
	microRNAによるリウマチ骨破壊の抑制	診断・治療	中佐　智幸	広島大学大学院整形外科医科診療医
	破骨細胞を標的とした関節リウマチ骨破壊治療の分子基盤の確立	病因	中島　友紀	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（薬学）助教

年度件数	研究題目	希望審査部門	助成者	
			氏名	所属
申請者34件	IL-35受容体の同定と関節リウマチ病態におけるIL-35の役割についての解析	病因	長谷　英徳	獨協医科大学免疫学助教
	関節リウマチ患者末梢血B細胞におけるIL-21反応性の解析と関節リウマチ患者由来自己抗体産生B細胞ハイブリドーマを作製する試み	病因	林　　太智	筑波大学大学院人間総合科学研究科講師
	関節リウマチの新たな増悪因子の研究	病因	原　　博満	佐賀大学医学部分子生命科学講座生体機能制御学分野准教授
	Dcir遺伝子欠損マウスを用いたリウマチ性疾患におけるDcirの役割の解析	病因	藤門　範行*	東京大学医科学研究所助教
	樹状細胞SHPS-1分子による新たな免疫機能制御とリウマチ疾患治療への応用	診断・治療	的崎　　尚	群馬大学生体調節研究所バイオシグナル分野教授

2. 医学賞等授賞の状況

(1) ノバルティス・リウマチ医学賞

年度	研究題目	受賞者		授賞式	申請件数
		氏名	所属・役職		
平成9年度	新しい方法論を基にした慢性関節リウマチの病因抗原の同定	山本　一彦	九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学教授	第41回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成9年5月7日（水）　於　愛知県・名古屋東急ホテル）	15
平成10年度	マトリックスメタロプロテアーゼによるRA関節破壊の分子機構	岡田　保典	慶應義塾大学医学部病理学教室教授	第42回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成10年5月6日（水）　於　東京都・東京国際フォーラム）	14
平成11年度	サイトカイン産生異常の分子・遺伝子制御―慢性関節リウマチ、キャッスルマン病等をモデルとして―	吉崎　和幸	大阪大学健康体育部教授	第43回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成11年6月2日（水）　於　北海道・サッポロルネッサンスホテル）	13
平成12年度	慢性関節リウマチにおける滑膜増殖機構の解明と遺伝子治療による人為的制御の試み	宮坂　信之	東京医科歯科大学第一内科教授	第44回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成12年5月12日（金）　於　神奈川県・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル）	15
平成13年度	ウェルナー症候群遺伝子（WRN：RecQ型 DNA/RNAヘリカーゼ）による強皮症微候発現機構の解析	後藤　　眞	東京都立大塚病院リウマチ膠原病科医長	第45回日本リウマチ学会評議員懇談会（平成13年5月13日（日）　於　東京都・京王プラザ）	6
平成14年度	抗gp70自己抗体移入による肉芽腫性血管炎の発症機序	宮澤　正顯	近畿大学医学部教授	第46回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成14年4月21日（日）　於　兵庫県・神戸ポートピアホテル）	9
平成15年度	リウマチ性疾患における病因抗原の解明と臨床応用へ向けた基礎的研究	林　　良夫	徳島大学歯学部口腔病理学教授	第47回日本リウマチ学会評議員懇親会（平成15年4月23日（水）　於　東京都・京王プラザホテル）	10
平成16年度	関節リウマチ骨破壊の制御に関する研究	高柳　　広	東京医科歯科大学大学院分子細胞機能学特任教授	第48回日本リウマチ学会総会・評議員懇親会（平成16年4月14日（水）　於　岡山県・ホテルグランヴィア岡山）	5
平成17年度	タンパク質分解システム異常症としての関節リウマチ	中島　利博	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター教授	第49回日本リウマチ学会総会（平成17年4月19日（火）　於　神奈川県・パシフィコ横浜）	6
平成18年度	Runx2による軟骨細胞・骨芽細胞の分化機序の解明―変形性関節症機序の解明に向けて―	小守　壽文	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授	第50回日本リウマチ学会総会（平成18年4月25日（火）　於　長崎県・長崎ブリックホール）	7
平成19年度	膠原病の病像多様性のポリジーンネットワーク	能勢　眞人	愛媛大学大学院医学系研究科 教授	授賞式（平成19年4月18日（水）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	5
平成20年度	サイクリン依存性キナーゼ阻害による関節リウマチ新治療法の開発	上阪　　等	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科准教授	授賞式（平成19年4月18日（金）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	5

(2) アボットジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞

年度	研究題目	受賞者		授賞式	申請件数
		氏名	所属・役職		
平成9年度	ヒト関節軟骨細胞様培養細胞株の樹立と慢性関節リウマチ研究への応用―コラーゲン特異的分子シャペロンHSP47様蛋白質の単離とリウマチ関連抗原としての意義―	滝川　正春	岡山大学歯学部口腔生化学講座教授	平成9年度リウマチ月間全国大会（平成9年5月27日（火）　於　東京都・三越劇場）	12
平成10年度	慢性関節リウマチにおける腸内細菌感作の病因的役割に関する免疫分子病理学的研究	青木　重久	愛知医科大学加齢医化学研究所運動器病態部門客員教授	平成10年度リウマチ月間全国大会（平成10年5月26日（火）　於　東京都・三越劇場）	9
平成11年度	変形性関節症における軟骨変性と修復機序に関する研究	井上　一	岡山大学医学部整形外科教授	平成11年度リウマチ月間全国大会（平成11年5月25日（火）　於　東京都・三越劇場）	12
平成12年度	股関節・膝関節における骨壊死症の病態解明とその予防法開発―ステロイド性骨壊死を中心に―	山本　卓明	九州大学大学院医学系研究科整形外科学分野研究員	平成12年度リウマチ月間全国大会（平成12年5月30日（火）　於　東京都・三越劇場）	10
平成13年度	全身性エリテマトーデスにおける抗DNA抗体の性質と産生機構に関する研究	窪田　哲朗	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体防御検査学助教授	平成13年度リウマチ月間全国大会（平成13年5月29日（火）　於　東京都・三越劇場）	10
平成14年度	慢性関節リウマチの骨・軟骨破壊におけるシクロオキシゲナーゼ-2の役割とその発現調節機構の解明	佐野　統	京都府立医科大学第一内科講師	平成14年度リウマチ月間全国大会（平成14年5月28日（火）　於　東京都・三越劇場）	7
平成15年度	ヒト自己骨髄間葉系細胞移植による関節軟骨欠損修復―ヒト移植用細胞供給システムの構築、および軟骨分化促進法の開発―	脇谷　滋之	信州大学医学部附属病院整形外科講師	平成15年度リウマチ月間全国大会（平成15年5月27日（火）　於　東京都・三越劇場）	8
平成16年度	高位脛骨切り術による変形性膝関節症の治療と変形矯正後の変性関節軟骨の再生	腰野　富久	横浜市立大学医学部名誉教授	平成16年度リウマチ月間全国大会（平成16年5月25日（火）　於　東京都・三越劇場）	3
平成17年度	全身性強皮症におけるB細胞をターゲットとした新規治療法の開発	佐藤　伸一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学教授	第49回日本リウマチ学会総会（平成17年4月19日（火）　於　神奈川県・パシフィコ横浜）	4
平成18年度	強皮症における線維化の機序の研究	尹　浩信	熊本大学大学院医学薬学研究部教授	第50回日本リウマチ学会総会（平成18年4月25日（火）　於　長崎県・長崎ブリックホール）	3
平成19年度	強皮症の病態解析と新規治療戦略の確立	桑名　正隆	慶應義塾大学医学部内科 准教授	授賞式（平成19年4月18日（水）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	7
平成20年度	関節リウマチ合併AAアミロイドーシスの臨床遺伝学的病態解析と新たな治療戦略の確立	中村　正	熊本リウマチセンター リウマチ膠原病内科部長	授賞式（平成20年4月18日（金）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	4

(3) ツムラ・骨関節臨床医学賞

年度	研究題目	受賞者		授賞式	申請件数
		氏名	所属・役職		
平成9年度	慢性関節リウマチにおける関節破壊とグリオスタチン	松井　宣夫	名古屋市立大学医学部整形外科学教授	平成9年度リウマチ月間全国大会（平成9年5月27日（火）　於　東京都・三越劇場）	10
平成10年度	抗リン脂質抗体症候群の発症機構の解明とその制御	小池　隆夫	北海道大学医学部内科学第二講座教授	平成10年度リウマチ月間全国大会（平成10年5月26日（火）　於　東京都・三越劇場）	8
平成11年度	慢性関節リウマチの腎障害に関する臨床病理学的研究	中野　正明	新潟大学医学部第二内科講師	平成11年度リウマチ月間全国大会（平成11年5月25日（火）　於　東京都・三越劇場）	5
平成12年度	慢性関節リウマチの発症予防法と遺伝子治療の開発	江口　勝美	長崎大学医学部内科学第一講座教授	平成12年度リウマチ月間全国大会（平成12年5月30日（火）　於　東京都・三越劇場）	6
平成13年度	関節リウマチと神経・内分泌・免疫系　特に精神的ストレッサーの有無について	吉野　愼一	日本医科大学リウマチ科教授	平成13年度リウマチ月間全国大会（平成13年5月29日（火）　於　東京都・三越劇場）	4
平成14年度	慢性関節リウマチ頸椎病変の自然経過に基づく治療体系の策定	米延　策雄	国立大阪南病院副院長	平成14年度リウマチ月間全国大会（平成14年5月28日（火）　於　東京都・三越劇場）	2
平成15年度	我が国における関節リウマチ（RA）に対するメトトレキサート（MTX）の適正投与に向けてのエビデンスの作成	鈴木　康夫	東海大学医学部内科学系助教授	平成15年度リウマチ月間全国大会（平成15年5月27日（火）　於　東京都・三越劇場）	3
平成16年度	関節リウマチの大規模コホート研究 J-ARAMIS	山中　　寿	東京女子医科大学附属膠病原リウマチ痛風センター教授	平成16年度リウマチ月間全国大会（平成16年5月25日（火）　於　東京都・三越劇場）	3
平成17年度	長寿命型人工関節の開発とその臨床応用	川口　　浩	東京大学医学部整形外科助教授	第49回日本リウマチ学会総会（平成17年4月19日（火）　於　神奈川県・パシフィコ横浜）	6
平成18年度	日本人に適した人工膝関節の開発と臨床応用	守屋　秀繁	千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授	第50回日本リウマチ学会総会（平成18年4月25日（火）　於　長崎県・長崎ブリックホール）	4
平成19年度	新規関節リウマチ疾患感受性遺伝子 Sec8L1の機能解析	安井　夏生	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部運動機能外科学教授	授賞式（平成19年4月18日（水）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	3
平成20年度	関節リウマチに対する外科的治療の検討―特にリウマチに対する人工関節の開発とのその有用性―	龍　順之助	日本大学医学部整形外科主任教授	授賞式（平成20年4月18日（金）　於　東京都・ホテルニューオータニ）	5

(4) 日本リウマチ財団　柏崎リウマチ教育賞

年度	受賞者		授賞式
	氏名	所属・役職	
平成10年度	御巫　清允	自治医科大学名誉教授	第42回日本リウマチ学会（平成10年5月8日（金）　於　東京都・東京国際フォーラム）
平成11年度	七川　歓次	滋賀医科大学名誉教授	第43回日本リウマチ学会 評議員懇親会（平成11年6月2日（水）　於　北海道・サッポロ・ルネッサンスホテル）
平成12年度	本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	第44回日本リウマチ学会　評議員懇親会（平成12年5月12日（金）　於　神奈川県・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル）
平成13年度	京極　方久	東北大学名誉教授	第45回日本リウマチ学会 評議員懇親会（平成13年5月13日（金）　於　東京都・京王プラザホテル）
平成14年度	延永　　正	九州大学名誉教授	第46回日本リウマチ学会　評議員懇親会（平成14年4月21日（日）　於　兵庫県・神戸ポートピアホテル）
平成15年度	塩川　優一	順天堂大学名誉教授	第47回日本リウマチ学会　評議員懇親会（平成15年4月23日（水）　於　東京都・京王プラザホテル）
平成16年度	粕川　禮司	福島県立医科大学名誉教授	第48回日本リウマチ学会　評議員懇親会（平成16年4月14日（水）　於　岡山県・ホテルグランヴィア岡山）
平成17年度	腰野　富久	横浜市立大学名誉教授	第49回日本リウマチ学会総会（平成17年4月19日（火）　於　神奈川県・パシフィコ横浜）
平成18年度	東　　威	元聖マリアンナ医科大学教授	第50回日本リウマチ学会総会（平成18年4月25日（火）　於　長崎県・長崎ブリックホール）
平成19年度	吉野　槇一	日本医科大学名誉教授	授賞式（平成19年4月18日（水）　於　東京都・ホテルニューオータニ）
平成20年度	阿倍　　達	埼玉医科大学総合医療センター名誉所長	授賞式（平成20年4月18日（金）　於　東京都・ホテルニューオータニ）

(5) 日本リウマチ財団・ワイス国際賞

年度	受賞者		研究実績	授賞式	授賞候補者
	氏名	所属			
平成13年度	デニス・カーソン	米国カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部教授	関節リウマチ発症の原因に関わる分子遺伝学的研究とそれに関連する基礎的研究他	第46回日本リウマチ学会（平成14年4月23日（火）　於　兵庫県・神戸国際会議場）	11
平成14年度	エン・M・タン	米国（カリフォルニア州ラ・ホーヤ）スクリップス研究所教授	リウマチ性疾患における自己抗原の分子同定の研究	第47回日本リウマチ学会（平成15年4月24日（木）　於　東京都・京王プラザホテル）	13
平成15年度	ヒュウ・O・マクデヴィト	米国スタンフォード大学教授	自己免疫疾患分野における主要組織適合遺伝子複合体の研究	第48回日本リウマチ学会（平成16年4月16日（金）　於　岡山県・岡山コンベンションセンター）	6
平成16年度	J・R・カルデン	ドイツ　エアランゲン・ニュールンベルグ大学医学部第3内科 臨床免疫学・リウマチ学部門 教授	関節リウマチや全身性エリトマーデス（SLE）などの膠原病におけるT細胞の関与を解明	第49回日本リウマチ学会総会（平成17年4月19日（火）　於　神奈川県・パシフィコ横浜）	8

平成17年度	ピーター・E・リプスキー	Chief, Autoimmunity Branch National institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Disease	自己免疫疾患におけるB細胞生物学及び免疫グロブリンレパートリーの産生	第50回日本リウマチ学会総会（平成18年4月25日（火） 於 長崎県・長崎ブリックホール）	4
平成18年度	ラビンダー・メイニー	英国ロンドン大学インペリアルカレッジ教授	関節リウマチ並びに関連疾患に対する抗TNF療法の発見	授賞式（平成19年4月18日（水） 於 東京都・ホテルニューオータニ）	5
	マーク・フェルドマン	英国ロンドン大学インペリアルカレッジ教授			
平成19年度	岸本 忠三	大阪大学大学院生命機能研究科教授	インターロイキン6（IL-6）の発見、研究業績	授賞式（平成20年4月18日（金） 於 東京都・ホテルニューオータニ）	5

(6) 日本リウマチ財団 リウマチ福祉賞

年度	受賞者		授賞式
	氏名	所属・役職	
平成9年度	廣畑 和志	神戸大学名誉教授	平成9年度リウマチ月間全国大会（平成9年5月27日（火） 於 東京都・三越劇場）
	小林 甲光	（社）日本リウマチ友の会 愛媛支部長	
平成10年度	蔵元 英二	（社）日本リウマチ友の会 宮城支部長	平成10年度リウマチ月間全国大会（平成10年5月26日（火） 於 東京都・三越劇場）
	土肥 幸代	（社）日本リウマチ友の会 元顧問弁護士	
平成11年度	稲垣 克彦	開業医	平成11年度リウマチ月間大会（平成11年5月25日（火） 於 東京都・三越劇場）
	川本 昌代	（社）日本リウマチ友の会理事	
平成12年度	大国 真彦	日本大学名誉教授	平成12年度リウマチ月間全国大会（平成12年5月30日（火） 於 東京都・三越劇場）
	西田千代子	元 （社）日本リウマチ友の会 三重支部長	
	延 育子	元 （社）日本リウマチ友の会 静岡支部長	
平成13年度	原 和子	名古屋大学医学部保健学科助教授	平成13年度リウマチ月間全国大会（平成13年5月29日（火） 於 東京都・三越劇場）
	あすなろ会	若年性関節リウマチ親の会	
平成14年度	西見 敏子	（社）日本リウマチ友の会東京支部長	平成14年度リウマチ月間全国大会（平成14年5月28日（火） 於 東京都・三越劇場）
平成15年度	渡辺 言夫	杏林大学名誉教授	平成15年度リウマチ月間全国大会（平成15年5月27日（火） 於 東京都・三越劇場）
平成16年度	長屋 郁郎	（財）愛知糖尿病リウマチ痛風財団理事長	平成16年度リウマチ月間全国大会（平成16年5月25日（火） 於 東京都・三越劇場）

(7) 日本リウマチ財団 リウマチ福祉奨励賞

年度	受賞者		授賞式
	氏名	所属・役職	
平成12年度	宮島まゆみ	ボランティア	平成12年度リウマチ月間全国大会（平成12年5月30日（火） 於 東京都・三越劇場）

3. リウマチ月間全国大会実施状況

【平成9年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える大会-】

開催日　平成9年5月27日（火）13:00 ～ 16:30
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患学術奨励賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床研究賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 14:30　学術講演
「骨を強くしてすこやか人生」
林　　泰史（東京都衛生局技監）

14:40 ～ 16:30　パネルディスカッション
「進歩するリウマチ対策」
パネラー　遠藤　　明（厚生省疾病対策課長）
大西　正夫（読売新聞社科学部次長）
越智　隆弘（大阪大学医学部教授）
島田　廣子（(社)日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長）
吉野　槇一（日本医科大学教授）
（司会）西岡　久寿樹（聖マリアンナ医科大学教授）

【平成10年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える大会-】

開催日　平成10年5月26日（火）13:00 ～ 15:20
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患学術奨励賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床研究賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 14:30　学術講演
「長生きと免疫」
奥村　康（順天堂大学医学部免疫学教授）

14:40 ～ 15:20　学術講演
「リウマチ治療の現状と将来展望」
山本　一彦（東京大学医学部教授）

【平成11年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える大会-】

開催日　平成11年5月25日（火）13:00 ～ 15:30
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患学術奨励賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床研究賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 14:30　学術講演
「リウマチの早期診断と治療」市川　陽一
（聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授）

14:30 ～ 15:30　学術講演
「リウマチ患者の住みよい住宅」
演者　小松　正樹（清水建設株式会社　設計本部建築設計部5部部長）
発言者　今福　義明
吉野　智子

【平成12年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える大会-】

開催日　平成12年5月30日（火）13:00 ～ 15:50
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患学術奨励賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床研究賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 15:10　学術講演
「リウマチ患者に対する療養支援」

1)　13:50 ～ 14:10
「リウマチと居宅生活支援事業」
須納瀬　正幸（厚生省保健医療局エイズ疾病対策課課長補佐）

2)　14:10 ～ 15:10
「リウマチと介護保険」
村澤　章（新潟県立瀬波病院リウマチセンター副院長）

15:10 ～ 15:50　学術講演
「リウマチ治療の新しい展開」
山田　昭夫（東京慈恵医科大学リウマチ・膠原病内科教授）

【平成13年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える-】

開 催 日　平成13年5月29日（火）13:00 ～ 16:00
場　　所　東京・三越劇場
主　　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　　援　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生労働大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患臨床医学賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床研究賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 14:30　講演
「リウマチはどんな病気か、どう治療するか」
三森　経世（京都大学大学院医学研究科臨床免疫学教授）

14:30 ～ 16:00　パネルディスカッション
「より質の高いリウマチ医療を求めて」
司会　山内　喜美子（ノンフィクション作家）
齋藤　輝信（東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター教授）
パネリスト
西田　礼子　患者さんの側から
吉野　槇一　医師側から（日本医科大学リウマチ科教授）
井伊　雅子　医療政策面から（横浜国立大学経済学部教授）
麦谷　眞里　厚生労働省の立場から（厚生労働省健康局疾病体対策課課長）

【平成14年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える-】

開 催 日　平成14年5月28日（火）13:00 ～ 15:30
場　　所　東京・三越劇場
主　　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　　援　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生労働大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会長
北陸製薬・骨、関節疾患臨床医学賞授賞
ツムラ・リウマチ社会医学賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13：50 ～ 15:30　講演とディスカッション
「リウマチ医療の新しい展開」
1)「生活機能病とリウマチ性疾患」
西岡　久寿樹（聖マリアンナ医科大学教授・難病治療研究センター長）
2)「リウマチ性疾患の先端医療」
宮坂　信之（東京医科歯科大学医学部膠原病リウマチ内科教授）
総合司会　越智　隆弘（国立相模原病院臨床研究センター長・
大阪大学医学部医工学治療学教授）

【平成15年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える-】

開催日　平成15年5月27日（火）13:00 ～ 15:50
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞　厚生労働大臣
日本医師会長
日本リウマチ学会理事長
アボット ジャパン・骨、関節疾患臨床医学賞授賞
ツムラ・リウマチ社会医学賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:50 ～ 15:50　講演と討論
「リウマチ患者さんのQOL向上のために」
基調講演
山本　純己（松山赤十字病院リウマチセンター所長）
リウマチ薬について
住田　孝之（筑波大学膠原病臨床医学系内科教授）
介護保険について
村澤　章（新潟県立瀬波病院院長）
リハビリテーションについて
阿部　敏彦（海里マリン病院機能訓練室長）
患者の望みについて
島田　廣子（(社)日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長）

【平成16年度リウマチ月間全国大会-リウマチの治療を考える-】

開催日　平成16年5月25日（火）13:00 ～ 16:20
場　所　東京・三越劇場
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:40　式典
理事長挨拶
来賓祝辞
アボット ジャパン・リウマチ性疾患臨床医学賞授賞
ツムラ・リウマチ臨床医学賞授賞
三浦記念リウマチ学術研究賞授賞
日本リウマチ財団リウマチ福祉賞授賞

13:40 ～ 15:00　講演
「若さを保つには」
後藤　眞（東京都立大塚病院リウマチ膠原病科医長）
「リウマチと介護保険」
麦谷　眞里（厚生労働省老健局老人保健課課長）

15:00 ～ 16:20　シンポジウム
「リウマチの医療を考える」
司会　西岡　久寿樹（聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長）
シンポジスト　リウマチ患者の方
リウマチの母親とともに生活している方
小川　知子（女優・歌手）

内　科　医　　山中　　寿（東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター教授）
整形外科医　　龍　順之助（日本大学整形外科教授）

【平成17年度リウマチ月間リウマチ講演会】

開 催 日　　平成17年5月30日（月）14:00 ～ 16:30
場　　所　　東京・三越劇場
主　　催　　財団法人　日本リウマチ財団
後　　援　　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　　第
14:00 ～ 14:05　挨拶　　髙久　史麿（日本リウマチ財団理事長）
14:05 ～ 14:40　基調講演
「リウマチ疾患制圧へ向けて」
西岡　久寿樹（聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長）
14:50 ～ 16:30　パネルディスカッション
「リウマチ治療の最近の話題」
1.患者向け関節リウマチの治療ガイドライン
-患者が選ぶ治療の時代を迎えて-
2.小児リウマチの最新治療法
司会　　越智　隆弘（国立病院機構相模原病院長）
シンポジスト
患者からみたリウマチ医への要望
　島田　廣子（(社) 日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長）
薬物治療の進歩
　三森　経世（京都大学免疫・膠原病内科教授）
リハビリテーションの進歩
　村澤　章（新潟県立瀬波病院長）
子どものリウマチにも光を
　横田　俊平（横浜市立大学小児科教授）

【平成18年度リウマチ月間リウマチ講演会】

開 催 日　　平成18年6月1日（木）13:00 ～ 16:00
場　　所　　東京・丸ビルホール
主　　催　　財団法人　日本リウマチ財団
後　　援　　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　　第
13:00 ～ 13:05　挨拶　　髙久　史麿（財団法人　日本リウマチ財団理事長）
13:05 ～ 13:35　講演
「生命を全うするという人間の使命を見つめて」
　島田　楊子（女優）
13:45 ～ 16:00　シンポジウム
「リウマチのトータルマネジメント」
司会　　落合　直之（筑波大学医学部整形外科教授）
　　村澤　　章（新潟県立瀬波病院病院長）
シンポジスト
リウマチの内科的治療：最新の情報
　川合　眞一（東邦大学医療センター大森病院膠原病科教授）
リウマチで寝たきりにならないために
　龍　順之助（日本大学医学部整形外科主任教授）
トータルマネジメントとケア
　山本　純己（一番町リウマチクリニック顧問）
総合討論

【平成19年度リウマチ月間リウマチ講演会　リウマチ科標榜10周年】

開催日　平成19年5月31日（木）13:00 ～ 16:00
場　所　東京・丸ビルホール
主　催　財団法人　日本リウマチ財団
後　援　厚生労働省・日本医師会・日本リウマチ学会
次　第

13:00 ～ 13:10　挨拶　高久　史麿（財団法人　日本リウマチ財団理事長）
外口　崇（厚生労働省健康局長）

13:10 ～ 13:40　特別講演
「念願のリウマチ科標榜と現状」
島田　廣子（社団法人　日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長）

13:50 ～ 16:00　シンポジウム
「リウマチ科標榜によりリウマチの診察はどう変わった」
-リウマチ科標榜の10年と今後の10年-
司会　西岡　久寿樹（聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長）
山本　純己（一番町リウマチクリニック顧問）
シンポジスト
大学病院におけるリウマチ科標榜
川合　眞一（東邦大学医療センター大森病院膠原病科教授）
県立リウマチセンターの開設
村澤　章（新潟県立リウマチセンター院長）
リウマチ学教育
山本　一彦（東京大学アレルギー・リウマチ内科教授）
リウマチ科標榜とリウマチ患者
長谷川　三枝子（社団法人　日本リウマチ友の会会長）
リウマチ科標榜とマスメディア
松井　宏夫（日本医学ジャーナリスト協会幹事）
総合討論

4. リウマチ教育研修会実施状況

【平成9年度】

リウマチ登録医等の教育の一層の推進に寄与するため、教育研修委員会（委員長　松井宣夫　名古屋市立大学教授）においてリウマチに関する専門家を講師とする教育研修事業を次のとおり実施した。

第23回中央教育研修会
日　時：平成9年7月26日（土）、27日（日）
会　場：大阪商工会議所・国際会議ホール（大阪市）
世話人：越智　隆弘　教授（大阪大学医学部整形学科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位
受講者：332名（登録医191名、一般医141名）

秋田地区教育研修会
日　時：平成9年9月7日（日）
会　場：秋田市文化会館（秋田市）
世話人：佐藤　光三　教授（秋田大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）秋田県医師会
単位数：6単位
受講者：64名（登録医28名、一般医36名）

東京地区教育研修会
日　時：平成9年10月12日（日）
会　場：全共連ビル（千代田区）
世話人：橋本　博史　教授（順天堂大学医学部膠原病内科）
後　援：日本リウマチ学会／東京都医師会
単位数：6単位
受講者：212名（登録医140名、一般医72名）

静岡地区教育研修会
日　時：平成9年9月28日（日）
会　場：アクトシティ浜松コングレスセンター（浜松市）
世話人：石原　義恕　院長（中伊豆温泉病院）
後　援：日本リウマチ学会／静岡県医師会
単位数：6単位
受講者：110名（登録医86名、一般医24名）

奈良地区教育研修会
日　時：平成9年11月30日（日）
会　場：奈良県新公会堂（奈良市）
世話人：玉井　進　教授（奈良県立医科大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）奈良県医師会
単位数：6単位
受講者：144名（登録医79名、一般医65名）

広島地区教育研修会
日　時：平成9年10月26日（日）
会　場：広島県医師会館（広島市）
世話人：生田　義和　教授（広島大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／広島県医師会／広島市医師会
単位数：6単位
受講者：164名（登録医102名、一般医62名）

宮崎地区教育研修会
日　時：平成9年11月16日（日）
会　場：ホテルプラザ宮崎（宮崎市）
世話人：田島　直也　教授（宮崎医科大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／宮崎県医師会
単位数：6単位
受講者：115名（登録医56名、一般医59名）

【平成10年度】

リウマチ登録医等の教育の一層の推進に寄与するため、教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチに関する専門家を講師とする教育研修事業を次のとおり実施した。

第24回中央教育研修会
日　時：平成10年7月25日（土）、26日（日）
会　議：笹川記念会館（港区）
世話人：橋本　博史　教授（順天堂大学膠原病内科）
　　勝呂　徹　教授（東邦大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位
受講者：380名（登録医233名、一般医147名）

山形地区教育研修会
日　時：平成10年6月14日（日）
会　場：山形大学医学部大講堂（山形市）
世話人：荻野　利彦　教授（山形大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／山形県医師会／山形市医師会
単位数：6単位
受講者：94名（登録医37名、一般医57名）

神奈川県地区教育研修会
日　時：平成10年12月6日（日）
会　場：横浜市社会福祉センター（横浜市）
世話人：市川　陽一　教授（聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター）
後　援：日本リウマチ学会／（社）横浜市医師会
単位数：6単位
受講者：261名（登録医217名、一般医44名）

岐阜地区教育研修会
日　時：平成10年11月8日（日）
会　場：長良川国際会議場（岐阜市）
世話人：清水　克時　教授（岐阜大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／岐阜県医師会
単位数：6単位
受講者：172名（登録医114名、一般医58名）

和歌山地区教育研修会
日　時：平成10年9月13日（日）
会　場：JAビル（和歌山市）
世話人：玉置　哲也　教授（和歌山県立医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／和歌山県医師会
単位数：6単位
受講者：171名（登録医118名、一般医53名）

島根地区教育研修会
日　時：平成10年7月5日（日）
会　場：ホテル一畑（松江市）
世話人：越智　光夫　教授（島根医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／島根県医師会
単位数：6単位
受講者：84名（登録医41名、一般医43名）

沖縄地区教育研修会
日　時：平成11年1月17日（日）
会　場：沖縄コンベンションセンター大会議室（宜野湾市）
世話人：茨木　邦夫　教授（琉球大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）沖縄県医師会
単位数：6単位
受講者：80名（登録医20名、一般医60名）

【平成11年度】

リウマチ登録医等の教育の一層の推進に寄与するため、教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチに関する専門家を講師とする教育研修事業を次のとおり実施した。

第25回中央教育研修会
日　時：平成11年7月24日（土）、25日（日）
会　議：名古屋国際会議場（名古屋市）
世話人：岩田　久　教授（名古屋大学医学部整形学科）
　　鳥飼　勝隆　教授（藤田保健衛生大学感染症リウマチ内科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）
受講者：356名（登録医219名、一般医137名）

北海道地区教育研修会
日　時：平成11年10月17日（日）
会　場：旭川市大雪クリスタルホール（旭川市）
世話人：松野　丈夫　教授（旭川医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／北海道医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：77名（登録医32名、一般医45名）

群馬地区教育研修会
日　時：平成11年6月28日（日）
会　場：高崎ビューホテル（高崎市）
世話人：高岸　憲二　教授（群馬大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／群馬県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：148名（登録医96名、一般医52名）

富山地区教育研修会
日　時：平成11年10月24日（日）
会　場：富山国際会議場（富山市）
世話人：木村　友厚　教授（富山医科薬科大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／富山県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：92名（登録医42名、一般医50名）

兵庫地区教育研修会
日　時：平成11年10月31日（日）
会　場：神戸国際会議場（神戸市）
世話人：立石　博臣　院長（兵庫県医科大学篠山病院）
後　援：日本リウマチ学会／兵庫県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：288名（登録医212名、一般医76名）

岡山地区教育研修会
日　時：平成11年7月18日（日）
会　場：岡山衛生会館（岡山市）
世話人：槇野　博史　教授（岡山大学医学部第三内科）
　　井上　一　教授（岡山大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）岡山県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：258名（登録医217名、一般医41名）

大分地区教育研修会
日　時：平成11年11月28日（日）
会　場：大分県医師会館（大分市）
世話人：鳥巣　岳彦　教授（大分医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／大分県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：112名（登録医62名、一般医50名）

【平成12年度】

教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチ登録医等を対象に教育研修会を次のとおり開催した。

第26回中央教育研修会
日　時：平成12年7月29日（土）、30日（日）
会　議：シェーンバッハ砂防（東京都千代田区）
世話人：山本　一彦　教授（東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科）
中村　耕三　教授（東京大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）
受講者：453名（登録医295名、一般医158名）

青森地区教育研修会
日　時：平成12年7月2日（日）
会　場：青森文化会館（青森市）
世話人：原田　征行　教授（弘前大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／青森県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：57名（登録医36名、一般医21名）

千葉地区教育委員会
日　時：平成12年6月11日（日）
会　場：千葉県医療センター（千葉市）
世話人：守屋　秀繁　教授（千葉大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／千葉県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：266名（登録医172名、一般医94名）

福井地区教育研修会
日　時：平成12年11月12日（日）
会　場：福井商工会議所（福井市）
世話人：馬場　久敏　教授（福井医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）福井県医師会／福井県整形外科医会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：119名（登録医90名、一般医29名）

大阪地区教育委員会
日　時：平成12年10月22日（日）
会　場：江坂東急イン（吹田市）
世話人：越智　隆弘　教授（大阪大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／大阪府医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：360名（登録医289名、一般医71名）

高知地区教育研修会
日　時：平成12年9月10日（日）
会　場：高知電気ビル（高知市）
世話人：山本　博司　教授（高知医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）高知県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：93名（登録医59名、一般医34名）

佐賀地区教育研修会
日　時：平成12年8月27日（日）
会　場：佐賀県医師会メディカルセンター（佐賀市）
世話人：長澤　浩平　教授（佐賀医科大学内科）
佛淵　孝夫　教授（佐賀医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／佐賀県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：191名（登録医168名、一般医23名）

【平成13年度】

教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチ登録医等を対象に教育研修会を次のとおり開催した。

第27回中央教育研修会
日　時：平成13年7月28日（土）、29日（日）
会　場：大阪国際会議場（大阪市）
世話人：越智　隆弘　教授（大阪大学医学部）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）
受講者：377名（登録医230名、一般医147名）

宮城地区教育研修会
日　時：平成13年12月23日（日）
会　場：仙台国際センター（仙台市）
世話人：佐々木　毅　教授（東北大学医学部血液リウマチ膠原病内科）
後　援：日本リウマチ学会／宮城県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：139名（登録医91名、一般医48名）

埼玉地区教育研修会
日　時：平成13年10月21日（日）
会　場：ラフレさいたま（さいたま市）
世話人：竹内　勤　教授（埼玉医科大学総合医療センター第二内科）
都築　暢之　教授（埼玉医科大学総合医療センター整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）埼玉県医師会／（社）大宮医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：201名（登録医171名、一般医30名）

長野地区教育研修会
日　時：平成13年7月15日（日）
会　場：松本中央公民館ホール（松本市）
世話人：高岡　邦夫　教授（信州大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／松本市医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：144名（登録医99名、一般医45名）

三重地区教育研修会
日　時：平成13年10月28日（日）
会　場：ホテルグリーンパーク津（津市）
世話人：内田　淳正　教授（三重大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／三重県医師会
単位数：7単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：147名（登録医95名、一般医52名）

山口地区教育研修会
日　時：平成13年8月26日（日）
会　場：山口南総合センター（山口市）
世話人：河合　伸也　教授（山口大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／山口県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：137名（登録医106名、一般医31名）

鹿児島地区教育研修会
日　時：平成13年7月8日（日）
会　場：鹿児島県医師会館（鹿児島市）
世話人：小宮　節郎　教授（鹿児島大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／鹿児島県医師会／鹿児島市医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定）、4単位（日整会認定医）
日医生涯教育認定
受講者：134名（登録医91名、一般医43名）

【平成14年度】

教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチ登録医等を対象に教育研修会を次のとおり開催した。

第28回中央教育研修会

日　時：平成14年7月27日（土）、28日（日）
会　場：シェーンバッハ砂防（東京都千代田区）
世話人：山本　一彦　教授（東京大学医学部アレルギーリウマチ内科）
　　吉野　槇一　教授（日本医科大学リウマチ科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：426名（登録医263名、一般医163名）

福島地区教育研修会

日　時：平成14年9月15日（日）
会　場：郡山ビューホテルアネックス（郡山市）
世話人：佐藤　由紀夫　教授（福島県立医科大学第2内科）
　　菊地　臣一　教授（福島県立医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／福島県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（日医生涯教育）
受講者：128名（登録医69名、一般医59名）

栃木地区教育研修会

日　時：平成14年11月10日（日）
会　場：ホテルニューイタヤ（宇都宮市）
世話人：簑田　清次　教授（自治医科大学アレルギー膠原病内科）
後　援：日本リウマチ学会／栃木県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
　　日医生涯教育認定
受講者：145名（登録医107名、一般医38名）

愛知地区教育研修会

日　時：平成14年9月1日（日）
会　場：名古屋市中小企業振興会館（名古屋市）
世話人：松井　宣夫　名誉教授（名古屋市立大学）
後　援：日本リウマチ学会／愛知県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
　　5単位（日医生涯教育）
受講者：195名（登録医133名、一般医62名）

京都地区教育研修会

日　時：平成14年10月6日（日）
会　場：ぱ・る・るプラザ京都（京都市）
世話人：中村　孝志　教授（京都大学医学部感覚運動系病態学）
　　三森　経世　教授（京都大学医学部臨床生体統制医学）
後　援：日本リウマチ学会／（社）京都府医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：198名（登録医147名、一般医51名）

愛媛地区教育研修会

日　時：平成14年7月21日（日）
会　場：愛媛県民文化会館（松山市）
世話人：山本　晴康　教授（愛媛大学医学部整形外科）
　　山本　純己　所長（松山赤十字病院リウマチセンター）
後　援：日本リウマチ学会／愛媛県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）
受講者：91名（登録医77名、一般医14名）

福岡地区教育研修会

日　時：平成14年7月14日（日）
会　場：アクロス福岡（福岡市）
世話人：岩本　幸英　教授（九州大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／福岡県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：260名（登録医152名、一般医108名）

【平成15年度】

教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチ登録医等を対象に教育研修会を次のとおり開催した。

第29回中央教育研修会
日　時：平成15年7月26日（土）、27日（土）
会　場：福岡国際会議場（福岡市）
世話人：江口　勝美　教授（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座）
鳥巣　岳彦　教授（大分医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）
受講者：265名（登録医180名、一般医85名）

岩手地区教育研修会
日　時：平成15年9月21日（日）
会　場：岩手県医師会館（盛岡市）
世話人：嶋村　正　教授（岩手医科大学整形外科）
澤井　高志　教授（岩手医科大学病理学第一講座）
後　援：日本リウマチ学会／岩手県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：101名（登録医60名、一般医41名）

茨城地区教育研修会
日　時：平成15年7月20日（日）
会　場：つくば国際会議場（つくば市）
世話人：落合　直之　教授（筑波大学臨床医学系整形外科）
住田　孝之　教授（筑波大学臨床医学系整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）茨城県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
5単位（日医生涯教育）
受講者：165名（登録医123名、一般医42名）

静岡地区教育委員会
日　時：平成15年11月30日（日）
会　場：東レ総合研修センター（三島市）
世話人：勝部　定信　院長（JA静岡厚生連中伊豆温泉病院）
後　援：日本リウマチ学会／静岡県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：137名（登録医116名、一般医21名）

奈良地区教育研修会
日　時：平成15年9月28日（日）
会　場：奈良県文化会館（奈良市）
世話人：高倉　義典　教授（奈良県立医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／（社）奈良県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
5単位（日医生涯教育）
受講者：155名（登録医128名、一般医27名）

鳥取地区教育研修会
日　時：平成15年7月6日（日）
会　場：米子商工会議所（米子市）
世話人：豊島　良太　教授（鳥取大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／鳥取県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：86名（登録医74名、一般医12名）

熊本地区教育研修会
日　時：平成15年11月12日（日）
会　場：くまもと県民交流館パレア（熊本市）
世話人：高木　克公　教授（熊本大学大学院医学薬学研究部運動骨格病態学分野）
後　援：日本リウマチ学会／熊本県医師会／熊本県
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：115名（登録医88名、一般医27名）

【平成16年度】

教育研修委員会（委員長　吉野槇一　日本医科大学教授）においてリウマチ登録医等を対象に教育研修会を次のとおり開催した。

第30回中央教育研修会
日　時：平成16年7月24日（土）、25日（日）
会　場：シェーンバッハ砂防（千代田区）
世話人：龍　順之助　教授（日本大学医学部整形外科）
竹内　勤　教授（埼玉医科大学総合医療センター第二内科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会認定医）、6単位（日整会認定医）
受講者：264名（登録医180名、一般医84名）

秋田地区教育研修会
日　時：平成16年11月28日（日）
会　場：秋田県総合保健センター（秋田市）
世話人：井樋　栄二　教授（秋田大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／秋田県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：54名（登録医40名、一般医14名）

山梨地区教育研修会
日　時：平成16年12月19日（日）
会　場：甲府富士屋ホテル（甲府市）
世話人：濱田　良機　教授（山梨大学医学部整形外科学教室）
後　援：日本リウマチ学会／山梨県医師会／山梨県
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
5単位（日医生涯教育）
受講者：113名（登録医87名、一般医26名）

石川地区教育研修会
日　時：平成16年8月29日（日）
会　場：金沢都ホテル（金沢市）
世話人：富田　勝郎　教授（金沢大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／石川県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：144名（登録医80名、一般医64名）

滋賀地区教育研修会
日　時：平成16年10月17日（日）
会　場：ピアザ淡海　滋賀県立県民交流センター（大津市）
世話人：松末　吉隆　教授（滋賀医科大学整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／滋賀県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：148名（登録医118名、一般医30名）

香川地区教育研修会
日　時：平成16年7月11日（日）
会　場：全日空ホテル クレメント高松（高松市）
世話人：倉田　典之（宇多津クリニックリウマチ科）
横山　良樹　部長（香川労災病院整形外科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：93名（登録医72名、一般医21名）

佐賀地区教育研修会
日　時：平成16年11月7日（日）
会　場：佐賀県医師会メディカルセンター（佐賀市）
世話人：長澤　浩平　教授（佐賀大学医学部膠原病・リウマチ内科）
佛淵　孝夫　教授（佐賀大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／佐賀県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）
受講者：99名（登録医87名、一般医12名）

【平成17年度】

リウマチ登録医等の教育の一層の推進に寄与するため、教育研修委員会（委員長　山本一彦　東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科教授）においてリウマチに関する専門家を講師とする教育研修事業を次のとおり実施した。

第31回中央教育研修会
日　時：平成17年7月30日（土）、31日（日）
会　場：京都市勧業館「みやこめっせ」（京都市）
世話人：中村　孝志　教授（京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科）
三森　経世　教授（京都大学大学院医学研究科臨床免疫学）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会専門医）
受講者：213名（登録医146名、一般医67名）

山形地区教育研修会
日　時：平成17年5月29日（日）
会　場：山形テルサ（山形市）
世話人：荻野　利彦　教授（山形大学医学部運動機能再建・回復学）
後　援：日本リウマチ学会／山形県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：86名（登録医30名、一般医56名）

新潟地区教育研修会
日　時：平成17年9月11日（日）
会　場：朱鷺メッセ　新潟コンベンションセンター（新潟市）
世話人：村澤　章　院長（新潟県立瀬波病院リウマチセンター）
後　援：日本リウマチ学会／新潟県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会認定医）、4単位（日整会認定医）、
5単位（日医生涯教育）、1単位（日本リハビリテーション医学会　専門医・認定臨床医研修単位）
受講者：98名（登録医72名、一般医26名）

岐阜地区教育研修会
日　時：平成17年9月18日（日）
会　場：岐阜県長良川国際会議場（岐阜市）
世話人：清水　克時　教授（岐阜大学大学院医学研究科・医学部整形外科学）
後　援：日本リウマチ学会／岐阜県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：104名（登録医85名、一般医19名）

兵庫地区教育研修会
日　時：平成17年10月16日（日）
会　場：ノボテル甲子園（西宮市）
世話人：佐野　統　教授（兵庫医科大学内科学リウマチ・膠原病科）
立石　博臣　客員教授（兵庫医科大学）
後　援：日本リウマチ学会／兵庫県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：161名（登録医123名、一般医38名）

徳島地区教育研修会
日　時：平成17年9月25日（日）
会　場：徳島大学　蔵本キャンパス　長井記念ホール（徳島市）
世話人：安井　夏生　教授（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部感覚運動系病態医学講座運動機能外科学）
後　援：日本リウマチ学会／徳島県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）
受講者：53名（登録医37名、一般医16名）

宮崎地区教育研修会
日　時：平成17年11月20日（日）
会　場：宮日会館（宮崎市）
世話人：帖佐　悦男　教授（宮崎大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／宮崎県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）
受講者：52名（登録医39名、一般医13名）

【平成18年度】

リウマチ登録医等の教育の一層の推進に寄与するため、教育研修委員会（委員長　山本一彦　東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科教授）においてリウマチに関する専門家を講師とする教育研修事業を次のとおり実施した。

第32回中央教育研修会
日　時：平成18年7月22日（土）、23日（日）
会　場：品川インターシティホール（東京都品川区）
世話人：川合　眞一　教授（東邦大学医療センター大森病院膠原病科）
木村　友厚　教授（富山大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会
単位数：14単位（登録医・リウマチ学会専門医）
受講者：226名（登録医156名、一般医70名）

北海道地区教育研修会
日　時：平成18年9月10日（日）
会　場：札幌後楽園ホテル（札幌市）
世話人：小池　隆夫　教授（北海道大学大学院医学研究科病態内科学講座・第二内科）
後　援：日本リウマチ学会／北海道医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：54名（登録医34名、一般医20名）

群馬地区教育研修会
日　時：平成18年7月2日（日）
会　場：ホテル　メトロポリタン高崎（高崎市）
世話人：高岸　憲二　教授（群馬大学大学院機能運動外科学）
野島　美久　教授（群馬大学大学院生態統御内科学）
後　援：日本リウマチ学会／群馬県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：120名（登録医91名、一般医29名）

富山地区教育研修会
日　時：平成18年10月1日（日）
会　場：富山県民会館（富山市）
世話人：木村　友厚　教授（富山大学医学部整形外科）
後　援：日本リウマチ学会／富山県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、6単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：67名（登録医44名、一般医23名）

大阪地区教育研修会
日　時：平成18年6月18日（日）
会　場：毎日新聞ビル「オーバルホール」（大阪市）
世話人：吉崎　和幸　教授（大阪大学保健センター）
吉川　秀樹　教授（大阪大学大学院医学系研究科　器官制御外科学）
後　援：日本リウマチ学会／大阪府医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：163名（登録医121名、一般医42名）

岡山地区教育研修会
日　時：平成18年7月9日（日）
会　場：岡山コンベンションセンター　コンベンションホール（岡山市）
世話人：槇野　博史　教授（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　腎・免疫・内分泌代謝内科学）
後　援：日本リウマチ学会／岡山県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）
受講者：117名（登録医101名、一般医16名）

大分地区教育研修会
日　時：平成18年11月26日（日）
会　場：大分県医師会会館（大分市）
世話人：安田　正之　部長（別府医療センターリウマチ・膠原病センター）
後　援：日本リウマチ学会／大分県医師会
単位数：6単位（登録医・リウマチ学会専門医）、4単位（日整会認定医）、
3単位（日医生涯教育）
受講者：74名（登録医56名、一般医18名）

【平成19年度】

教育研修委員会（委員長　山本一彦　東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科教授）において、リウマチ登録医を対象に中央研修会のほかに6地区の教育研修会を実施した。

第33回中央教育研修会

日　時：平成19年7月28日（土）、29日（日）
会　場：新大阪イベントホール「レ ルミエール」（大阪市）
世話人：佐野　統　教授（兵庫医科大学　リウマチ・膠原病科）
　　石黒　直樹　教授（名古屋大学医学部整形外科学）
共　催：日本リウマチ財団／ワイス株式会社
後　援：日本リウマチ学会
単位数：15単位（登録医）、6単位（日整会認定医）、3単位（日本リウマチ学会専門医）
受講者：133名（登録医81名、一般医52名）

青森地区教育研修会

日　時：平成19年9月2日（日）
会　場：青森国際ホテル（青森市）
世話人：村田　有志　院長（黒石市国民健康保険黒石病院）
　　藤　哲　教授（弘前大学医学部整形外科）
共　催：日本リウマチ財団　アボットジャパン株式会社
後　援：日本リウマチ学会／青森県医師会
単位数：6単位（登録医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（リウマチ学会専門医・日医生涯教育）
受講者：34名（登録医19名、一般医15名）

千葉地区教育研修会

日　時：平成19年9月9日（日）
会　場：ホテルプリングス幕張　別館B1F スプリングスホール（千葉市）
世話人：守屋　秀繁　院長（鹿島労災病院）
共　催：日本リウマチ財団／参天製薬株式会社
後　援：日本リウマチ学会／千葉県医師会
単位数：6単位（登録医）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（リウマチ学会専門医・日医生涯教育）
受講者：124名（登録医73名、一般医51名）

愛知地区教育研修会

日　時：平成19年8月26日（日）
会　場：名古屋銀行協会銀行倶楽部　5階（名古屋市）
世話人：吉田　俊治　教授（藤田保健衛生大学医学部リウマチ・感染症内科）
　　山田　治基　教授（藤田保健衛生大学医学部整形外科）
共　催：日本リウマチ財団／ファイザー株式会社
後　援：日本リウマチ学会／愛知県医師会
単位数：6単位（登録医）、5単位（日医生涯教育）、4単位（日整会認定医）、
　　3単位（リウマチ学会専門医）
受講者：103名（登録医91名、一般医12名）

和歌山地区教育研修会

日　時：平成19年9月23日（日）
会　場：ダイワロイネットホテル和歌山　4階「ブリエ」（和歌山市）
世話人：山内　康平　科長（公立那賀病院リウマチ科）
　　吉田　宗人　教授（和歌山県立医科大学整形外科）
共　催：日本リウマチ財団／田辺製薬株式会社
後　援：日本リウマチ学会／和歌山県医師会
単位数：6単位（登録医）、4単位（日整会認定医）、3単位（リウマチ学会専門医）、
　　2単位（日医生涯教育）
受講者：34名（登録医22名、一般医12名）

島根地区教育研修会

日　時：平成19年9月30日（日）
会　場：くにびきメッセ（島根県立産業交流会館）1階小ホール（松江市）
世話人：上尾　豊二　院長（玉造厚生年金病院　整形外科）
　　村川　洋子　診療教授（島根大学医学部　膠原病内科）
共　催：日本リウマチ財団／中外製薬株式会社
後　援：日本リウマチ学会／島根県医師会
単位数：6単位（登録医）、4単位（日整会認定医）、3単位（リウマチ学会専門医・日医生涯教育）、1単位（リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医研修単位）
受講者：44名（登録医31名、一般医13名）

長崎地区教育研修会

日　時：平成19年10月14日（日）
場　所：長崎県医師会館（長崎市）
世話人：江口　勝美　教授（長崎大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座（第一内科））
進藤　裕幸　教授（長崎大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座（整形外科））
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
後　援：日本リウマチ学会／長崎県医師会／長崎市医師会
単位数：6単位（登録医）、4単位（日整会認定医）、3単位（リウマチ学会専門医、日医生涯教育）
受講者：69名（登録医43名、一般医26名）

5. リウマチ研修医海外派遣事業

（1）日本リウマチ財団・海外派遣研修医

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
平成9年度 応募者16名 奨学金60万円	米国7名	浅原　弘嗣	整形外科	岡山大学	Research Division, Joslin Diabetes Center, Department of Cell Biology	Prof.Mare Montminy
		岡　　寛	内科臨床検査	聖マリアンナ医科大学	University Calfornia, San Diego Division of Rheumatology	Prof.Gary.S.Firestein
		亀田　秀人	内科	慶應義塾大学	Laboratory of Molecular Carcinogenesis Eicosanoid Biochemistry Group National Institutes of Health National Institute of Environmental Health Sciences	Thomas Eling, Ph.D
		南木　敏宏	内科	東京医科歯科大学	University of Texas, Southwestern Medical Center at Dallas Department of Internal Medicine Rheumatic Diseases Division	Peter E.Lipsky M.D.
		林田　賢治	整形外科	大阪大学	University of Texas, Southwestern Medical Center at Dallas	Peter E.Lipsky M.D.
		廣瀬　直人	物療内科	東京大学	North Shore University Hospital	Nicholas Chiorazzi M.D.
		山村　雅治	内科	東京都老人医療センター	Department of Internal Medicine Division of Rheumatology University of Michigan	David A .Fox, M.D.
	欧州3名	伊藤美津子	内科	東北大学	University of Cambridge, School of Clinical Medicine, Department of Medicine	Prof.C.Martin Lockwood
		岡本　健作	内科	旭川医科大学	Depertment of Cell and Molecular Biology, Karolinska Institute	Prof.Lorenz Poellinger
		茶野　徳宏	整形外科	滋賀医科大学	Istituti Ortopedici Rizzoli Laboratorio di Ricerca Oncologica	Nicola Baldini,M.D
平成10年度 応募者16名 奨学金60万円	米国8名	加藤　智啓	内科	聖マリアンナ医科大学	アラバマ州立大学	Prof.R.P.Kimberly Prof.W.J.Koopman
		嶋　　良仁	内科	国立大阪病院	Harvard Medical School Dana-Farber Cancer Institute	Kenneth C. Anderson,M.D.
		杉浦　一充	皮膚科	名古屋大学大学院	Keck Autoimmune Disease Center The Scripps Research Institute	Eng M.Tan.M.D
		中島　敦夫	リウマチ科	日本医科大学	Department of medicine, Division of Immunology and Rheumatology Stanford University Schooll of Medicine	C.Garrison Fatman,M.D
		古谷　武文	内科	東京女子医科大学	National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases,National Institute of Haelth	Ronald L.Wilder M.D.,Ph.D
		松倉　陽一	整形外科	横浜市立大学	The Cleveland Clinic Foundation	George F.Muschler
		美馬　亨	内科	国立大阪南病院	Division of Rheumatology University of Colorado Health Sciences Center	Prof.william P.Arend
		守田　吉孝	内科	岡山大学	University of Michigan, Division of Rheumatology	David A.Fox
	欧州2名	草場　　敦	整形外科	昭和大学藤が丘病院	Department of Orthopaedic Surgery, Neukolln Teaching Hospital	Prof.Jorg Scholz
		松本　　功	内科	千葉大学	Institute of Genetics and Molecular and Cellular Biology(CNRS,INSERM.VLP)	Diane Mathis

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
平成11年度 応募者16名 奨学金60万円	米国8名	斎藤　佳子	内科リウマチ	埼玉医科大学総合医療センター	Harvard Medical School,Brigham and Women's Hospital,Division of Rhemuatology and Immunology	Paul Anderson
		関根　英治	内科リウマチ	福島県立医科大学	Medical University of South Carrolina Rheumatology and Immunology	Gary S.Gilkeson M.D.
		田中　住明	内科	北里大学	Department of Internal Medicine, Division of Clinical Immunology, The University of Alabama at Birmingham.	Robert Kimberly M.D.
		柱本　　照	内科	京都府立医科大学	National Institute of Health 米国国立衛生研究所	Dr. Ronald L. Wilder
		古川　　宏	内科リウマチ	東京大学	Washington University School of Medicine Division of Rheumatology	Dr. Wayne M. Yokoyama
		松本不二夫	整形外科	東北大学	オタワ大学医学部 Bone and Joint Reserch Laboratory	Dr. Hans K. Uhtoff Dr.Guy Trudel
		松田　祐子	リウマチ	東京女子医科大学	Stanford University School of Medicine, Department of Medicine Division of Immunology and Rheumatology	James F.Fries M.D.Gurkirpal Singh M.D.
		山西　裕司	内科	広島大学	University of California, San Diego, School of Medicine, Division of Rhematology	Gary S. Firestein
	欧州2名	大島　至郎	内科	大阪大学	WHO Collaborating Center for Molecular Biology and Novel Therapeutic Strategies for Rheumatic Diseases	Prof.Steffen Gay
		増田　公男	整形外科	国立療養所下志津病院	WHO Collaborating Center for Molecular Biology and Novel Therapeutic Strategies for Rheumatic Diseases	Prof.Steffen Gay
平成12年度 応募者11名 奨学金60万円	米国6名	秋山　雄次	リウマチ膠原病科	埼玉医科大学	Laboratory of Immunology The Rockfeller University	Yong-Won Choi
		荒井　勝光	整形外科リウマチ	新潟大学	Department of Molecular Microbiology and Immunology University of southern California School of Medicine	Gunther Dennert Ph.D.
		長谷川　尚	内科	新潟大学	Department of Biochemistry University of Tennessee Health Science Center	Tayebeh pourmotabbed Ph.D.
		森口　正人	内科リウマチ	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	Lymphocyte Cell Biology Section, National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases, National Institutes of Health	John J.O'shea M.D.
		森信　暁雄	内科	神戸大学	National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases, National Institute of Health	John J.O'shea M.D.
		山田　邦雄	整形外科	小牧市民病院	Florida Orthopaedic Institute Department of Orthopedics University of Utah School of Medicine	Prof.Thomas Bernasek Prof.Aaron A.Hofmann
	欧州4名	天野　浩文	膠原病内科	順天堂大学附属順天堂医院	ジュネーヴ大学医学部病理学科	出井章三教授
		河島　昌典	内科	岡山大学	Université Claude Bernard Lyon 1	Prof.Pierre Miossec
		田中　　浩	整形外科	山口大学	Department of Histochemistry Imperial College School of Medcine	Julia M.Polak M.D.
		松野　博明	整形外科	富山医科薬科大学	ロンドン大学、ガイ病院	Prof.G.S.Panayi

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
平成13年度 応募者10名 奨学金60万円	米国5名	加畑　多文	整形外科	金沢大学医学部	John Hopkins University Division of Arthritis Surgery The Good Samaritan Hospital	David S. Hungerford
		佐藤　勝輝	基礎	防衛医科大学校	米国立衛生研究所実験免疫学部門 Experimental Immunology Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Haelth	Alfred Singer
		中川　晃一	整形外科 リウマチ	習志野第一病院	Department of Orthopedic Surgery Rush-Presbyterian-St.Luke's Medical Center,Rush University	Gunnar B.J. Andersson Koichi Masuda
		西岡　克泰	内科リウマチ	大阪大学医学部	Case Western Reserve University Department of Biology	Arnold I. Caplan
		保田　晋助	内科リウマチ	北海道大学大学院	Division Rheumatology, Immunology, and Allergy Brigham and Women's Hospital	Richard L. Stevens
	欧州3名	糸永　一朗	整形外科	大分医科大学	Nuffield Department of Orthopaedic Surgery, Nuffield Orthopaedic Centre, University of Oxford	John Kenwright Nicholas A. Athanasou
		本郷　佳世	内科	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	Universite Pierre et Marie Curie UMR de Physiologie et Physiopathologie	Francis Berenbaum
		遊導　和雄	整形外科 リウマチ	富山医科薬科大学	Universty of Glasgow Department of Medicine	Iain B. McInnes
平成14年度 応募者13名 奨学金60万円	米国7名	伊藤　秀一	小児科	横浜市立大学医学部	Section of Retroviral Immunology Center for Biologics and Evaluation Research(CBER) Food and Drug Administration(FDA)	Dennis M klinman
		越智　健介	整形外科	慶應義塾大学医学部	Cartilage Biology and Orthopaedics Branch National Institute of Arthritis, Musculoskeletal & Skin Diseases (NIAMS) National Institute of Health(NIH)	Rocky S.Tuan Peter E..Lipsky
		川村孝一郎	整形外科	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	University of Pittsburgh Department of Orthopaedic Surgery	Freddie H.Fu
		高木　香恵	内科リウマチ	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	University of tennessee, division of rheumatology	Amold Postlethwaite
		西尾　純子	リウマチ	東京医科歯科大学医学部	Section of Immunology and Immunogenetics, Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School	Diane Msthis Christphe O.Benoist
		松井　俊通	内科	北里大学医学部	Baylor Universitry　Medical　Center	Jacques Banchereau
		宮前多佳子	小児科	横浜市立大学医学部	Division of Rheumatology Children's Hospital Medical Center University of Cincinnati College of Medicine	Raphael Hirsch
	欧州3名	池口　　宏	内科	国立名古屋病院	University of Basel	Alan Tyndall
		平島　幸生	整形外科	国立療養所東名古屋病院	Princess Elizabeth Orthopaedic Centre	Graham A. Gie
		渡邊　宣之	整形外科	名古屋市立大学医学部	1)Lubinus-Clinicom 2)Orthopädische Klinik der Otto-van-Guericke-Universität	1)U.Klauser 2)H.W.Neumann

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
平成15年度 応募者13名 奨学金60万円	米国7名	阿部　麻美	整形外科	旭川医科大学	Mount Sinai School of Medicne, of New York University Department of Human Genetics	Dieter Bronme
		井畑　　淳	リウマチ	静岡赤十字病院	Center for Biologics Evaluation and Research (CBER) U.S.Food and Drug Administration (FDA)	Dennis M Klinman
		宇月　美和	基礎	岩手医科大学	Division of Rheumatology Mediccal College of Wisconsin	Ikuko Masuda
		梶山　　浩	内科	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	National Institute of Health National Institute of Diabetes & Digestive and Kidney Diseases Metabolic Diseases Branch /Kidney Disease Section	Jeffrey b. Kopp
		河野　正孝	リウマチ	京都府立医科大学	University of Connecticut Health Center Center for Vascular Biology	Timothy Hla
		澤井　宏和	整形外科	関西医科大学	Rheumatology Reserch Laboratory Mayo Clinic Rochester	Dornelia M. Weyand
		西川　卓治	整形外科	虎の門病院	Florida Orthopaedic Institute	Thomas L. Berbasek
	欧州2名	村田　秀行	内科 リウマチ	筑波大学臨床医学系	Laboratoire de Pathologie, Universite de Paris Ⅶ Universitaire d' Hematologie, Hospital Saint-Louis	Anne Janin
		吉川　賢忠	内科 リウマチ	東京大学医科学研究所附属病院	Karolinska Institutet Department of Cell and Molecular Biology Medical Nobel Institute Laboratory of Molecular Biology	Lorenz Poellinger
平成16年度 応募者13名 奨学金60万円	米国7名	稲葉　　裕	整形外科	横浜市立大学医学部整形外科	Arthritis Instiute, Centinela Hospital Medical Center	Lawrence D. Dorr
		小寺　雅也	皮膚科	金沢大学大学院医学系研究科血管新生、結合組織代謝学	University of Wisconsin Milwaukee Department of Biological Science Immunology	Douglas A. Steeber
		三枝　　淳	内科	倉敷中央病院内分泌代謝・リウマチ内科	University of California, Davis	Fu-Tong Liu
		白土　基明	内科	九州大学病院別府先進医療センター 個体機能制御学部門免疫病態学分野	Department of Microbiology & Immunology University of Miami	Eckhard R. Podack
		高橋　令子	内科 リウマチ科	筑波大学人間総合科学研究科	Oklahoma Medical Reserch Foundation	John B. Harley
		千葉　麻子	内科 リウマチ科	順天堂大学医学部大学院	Division of Rheumatology, Immunology & Allergy Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School	Michael B. Brenner
		藤井　博司	内科	東北大学大学院医学系研究科免疫血液病制御学分野	Emory University, School of Medicine Lowance Center for Human Immunology	Jörg J. Goronzy

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
	欧州3名	荻久保　修	整形外科	名古屋市立大学大学院医学研究所社会復帰講座筋・骨格系医学	Göteborg University, The Faculty of Medicine Sahlgrenska Academy	Tommy Hansson
		橋本　　篤	膠原病内科	北里大学医学部膠原病内科	University of Regensburg Division of Rheumatology and Clinical Immunology Department of Internal Medicine Ⅰ	Ulf Müller-Ladner
		藤原　一夫	整形外科	岡山大学医学部歯学部附属病院整形外科	St. Josef-Stift Sendenhorst Orthopädisches Zentrum Nordwestdentsches Rheumazentrum	Rolf K. Miehlke
平成17年度　応募者14名　奨学金60万円	米国6名	河野　政志	内科リウマチ科	愛媛大学医学部内科学	University of California, San Diego Division of Rheumatology, Allergy and Immunology	Gary S.Firestein
		小村　一浩	皮膚科	金沢大学大学院医学系研究科血管新生、結合組織代謝学	Department of Immunology, Duke Medical Center	Thomas F.Tedder, Phd
		田中　栄一	内科リウマチ科	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	Division of Gastroenterology and Hepatology, Stanford University School of Medicine	Gurkirpal Singh
		野崎　正浩	整形外科	名古屋市立大学整形外科	University of Pittsburgh Department of Orthopaedic Surgery	Freddie H.Fu MD
		堀内　博志	整形外科	信州大学医学部整形外科	Anderson Orthopaedic Research Institute	Charles. A.Engh,M.D
		和田　庸子	内科	新潟大学大学院医歯学総合研究科内部環境医学講座腎膠原病内科学分野	Laboratory of Molecular Genetics National Institute of Environmental Health and Sciences	Marilyn Diaz
	欧州2名	加藤　久佳	整形外科	鳥取市立病院整形外科	Northern General Hospital Orthopaedic Department	C.J.M.Getty　David Stanley
		小坂　泰一	整形外科	東京医科大学整形外科	Universitäts Spital Zürich Rheumaklinik und Institut Fur Physikalische Medizin	Steffen Gay
	その他2名	尾崎　　誠	整形外科リウマチ科	長崎大学大学院医歯薬総合研究科医療科学専攻健康予防科学講座公衆衛生学教室	Division of Orthopaedics Surgery, University of Western Ontario, London Health Science Center	R.B.Bourne
		山名　二郎	内科リウマチ科	岡山大学大学院医学研究科第三内科	Momash University Department of Medicine Monash Medical Centre	Eric Morand

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
平成18年度 応募者11名 奨学金60万円	米国7名	松本　和	整形外科	岐阜大学医学部整形外科	The Burnham Institute for Medical Research	Yu Yamaguchi
		河野　肇	内科リウマチ科	東京大学医学部附属病院アレルギー・リウマチ内科	Department of Pathology University of Massachusetts Medical School	Kenneth L. Rock
		佐川　かよ	内科リウマチ科	東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学アレルギー・リウマチ内科	Yale University 免疫生物学部門	岩崎 明子
		石井　泰子	内科リウマチ科	大阪府立呼吸器アレルギー医療センターアレルギー内科	Center for Cancer Research, National Cancer Institute National Institutes of Health	Giovanna Tosato
		川端　大介	膠原病内科	京都大学医学部附属病院免疫膠原病内科	Division of Rheumatology Department of Medicine Columbia University Medical Center	Betty Diamond
		近藤　直樹	整形外科	新潟大学医歯学総合病院整形外科	Department of Orthopaedic Surgery, Orthopaedic Research Laboratory, Thomas, Jefferson University Jefferson Medical College	Masahiro Iwamoto
		栃本　明子	内科リウマチ科	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター内科	University of California, San Francisco, Cancer Research Institute, Akhurst lab	Rosemary J. Akhurst
	イギリス	山前　正臣	内科リウマチ科	聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Royal Brompton Hospital,Imperial College Interstitial Lung Disease Unit, Clinical Genomics Group	Ron du Bois
	オーストラリア	杉山　昌史	内科	近畿大学医学部腎臓膠原病内科	Monash Medical Centre Department of Nephrology	Greg Tesch
平成19年度 応募者13名 奨学金60万円	米国7名	岡田　真	リウマチ科	防衛医科大学校膠原病アレルギー内科	National Institutes of Heath, (National Institute of Allergy and Infections Diseases)	Warren Strober
		小林　弘	内科	横浜市立大学リウマチ・血液・感染症内科	New York University School of Medicine, Department of Medicine, Division of Pulmonary and Critical Care Medicine	associate prof. Michael Weiden M.D. prof. William N. Rom M.D.,M.P.H.
		砂堀　克枝	内科リウマチ科	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学	Department of Rheumatology, Beth Israel Deaconess Medical Center	George. C. Tsokos, M.D.
		永谷　勝也	内科	国立国際医療センター研究所地域保健医療研究部	Division of Gastroenterology, Massachusetts General Hospital	Dr.Emiko Mizoguchi
		野々村 美紀	内科	東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科学	University of California, San Diego, Moores Cancer Center	Thomas Kipps

年度	国	氏名	科名	所属	留学先	指導者
		前田　　健	整形外科	九州大学病院整形外科	1. Department of Orthopaedic Surgery Hospital for Special Surgery 2. Department of Orthopaedic Surgery Washington University School of Medicine	1.Dr.Oheneba Boachie-Adgei 2.Dr.Lawrence G.Leuke
		松尾　光祐	整形外科リウマチ科	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学	University of California, Davis	Fawaz Haj
	イギリス2名	有馬　和彦	内科	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座リウマチ・免疫病態制御学分野	Center of Experimental Rheumatology and WHO Collaborating Center for Molecular Biology and Novel Therapeutic Strategies for Rheumatic Diseases	Prof. Steffen Gay, MD
		宮崎　龍彦	基礎	愛媛大学大学院医学系研究科病態解析学講座ゲノム病理学分野	German Cancer Research Center, Division of Cellular and Molecular Pathology	Prf. Hermann-Josef Gröne

（2）日欧リウマチ外科交換派遣医

年度	所属	派遣者	留学先	期間
平成11年度	新潟県立瀬波病院リウマチセンター	石川　肇	欧州4ヶ国のリウマチ専門病院の6施設	5週間研修
	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	桃原　茂樹		
平成12年度	日欧リマチ外科交換留学制度（代表世話人　井上和彦　東京女子医科大学教授）に基づき、欧州より研修を受け入れた。	2名	［研修機関］ 日独リウマチ外科研究会、日本リウマチ関節外科学会、岡山大学、大阪大学、新潟県立瀬波病院、東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター及び同大第二病院	平成12年10月16日～11月17日
平成13年度	大阪大学整形外科	橋本　　淳	欧州4ヶ国	平成13年9月19日～10月21日
	大分医科大学整形外科	津村　　弘		
平成15年度	日欧リマチ外科交換留学制度（代表世話人　越智隆弘　国立相模原病院院長）に基づき、欧州より研修を受け入れた。	2名	［研修機関］ 日本整形外科学会基礎学術集会、大分医科大学整形外科、松山赤十字病院リウマチセンター、北海道大学整形外科、東京女子医科大学第二病院整形外科	平成15年10月14日～11月10日
平成16年度	北海道大学医学部整形外科	小野寺　伸	欧州4ヶ国	平成16年5月29日～6月25日
	岡山大学医学部整形外科	阿部　信寛		
平成19年度	国立病院機構名古屋医療センター整形外科	金子　敦史	欧州4ヶ国	平成19年9月1日～9月29日
	慶應義塾大学病院整形外科	二木　康夫		

（3）メルボルン派遣研修医

年度	所属	派遣者	留学先	期間	応募者
平成12年度・平成13年度	吉川病院整形外科	柿沼　　工	オーストラリア国モナシュ大学免疫病理教室	平成12～平成13	不明
平成14年度・平成15年度	労働福祉事業団美唄労災病院	居川　幸正	オーストラリア国モナシュ大学免疫病理教室	平成14～平成15	2名

6. 国際リウマチシンポジウム

第7回国際リウマチシンポジウム

国際リウマチシンポジウム組織委員会（委員長　越智隆弘　大阪大学教授）においてリウマチ治療の進歩についての知識を普及するため次のとおり開催した。

後　援：厚生省・日本医学会・日本リウマチ学会
日　時：平成10年3月13日（金）午前9時00分～午後6時20分
　　14日（土）午前9時00分～午後0時50分
会　場：京都テルサ（参加者約300名）
　　京都市南区東九条下殿田町70

平成10年3月13日（金）

Opening Address		司会
9:00 ～ 9:10	組織委員長　越智隆弘教授　大阪大学医学部整形外科教室 Dr N. Khaltaev　WHOリウマチ性疾患専門官	
Hotspot in Rheumatology		
9:10 ～ 9:50	“サイトカイン信号伝達における負の調節” 岸本忠三教授　大阪大学総長	Prof.Peter E.Lipsky
9:50 ～ 10:30	“IL-1 receptor antagonist” Prof.William P.Arend(USA)	安倍　達　教授
10:30 ～ 10:40	休憩	
10:40 ～ 11:20	“Fasを介したアポトーシスと疾患” 長田重一教授　大阪大学遺伝医学	Prof.William P.Arend
11:20 ～ 12:00	“B cell repertoire generation in man” Prof.Peter E.Lipsky（USA）	山本　一彦　教授
12:00 ～ 13:00	昼休み	
Clincal Treatment Symposium（同時通訳）		
13:00 ～ 14:30	“stepdown bridge方式かpyramid方式か”	吉野　槇一　教授
（40分）	Prof.Kenneth R.Wilske（USA）	
（20分）	安田正之先生　国立別府病院リウマチ膠原病内科	
（30分）	討論	
14:30 ～ 16:00	“抗TNF-αによるRA治療について”	小池　隆夫　教授
（40分）	Prof.Joachim R.Kalden（Germany）	
（20分）	佐伯行彦先生　大阪大学第三内科	
（30分）	討論	
16:00 ～ 16:20	休憩	
New Insight in Rheumatology		
16:20 ～ 17:00	“Apoptosis関連遺伝子導入によるRAの新しい治療戦略の開発” 西岡久寿樹教授　聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	Prof.Martin K.Lotz
17:00 ～ 17:40	“慢性関節リウマチの自然発症マウスモデル —発症における胸腺／T細胞の役割—” 坂口志文先生　東京都老人総合研究所免疫病理部門	奥村　康　教授
17:40 ～ 18:20	“Interaction of synovial cells mediating joint destruction” Prof.Steffen S.Gay (Switzerland)	塩澤　俊一　教授

平成10年3月14日（土）

Bone and Cartilage symposium

9:00 ～ 9:40	“Signaling molecules in Skeletal development and joint formation” Prof.Frank P.Luyten(Belgium)	木村　友厚　先生
9:40 ～ 10:20	“骨形成因子Cbfal” 小守寿文先生　大阪大学第三内科	Prof.Steffen S, Gay
10:20 ～ 11:00	“Chondrocyte aging and apoptosis in the pathogenesis of osteoarthritis” Prof.Martin K.Lotz(USA)	三森　経世　先生
11:00 ～ 11:20	休憩	
11:20 ～ 12:00	“マトリックスメタロプロテアーゼによる関節軟骨破壊” 岡田保典教授　慶應義塾大学病理学	松井　宣夫　教授
12:00 ～ 12:40	“Osteoclasts and pathological bone resorption” Dr.N.A.Athanasou（UK）	松野　博明　先生

Closing Remarks

12:40 ～　安倍　達　教授　日本リウマチ学会幹事長

第8回国際リウマチシンポジウム

国際リウマチシンポジウム組織委員会（委員長　越智隆弘　大阪大学教授）においてリウマチ治療の進歩についての知識を普及するため次のとおり開催した。

後　援：厚生省・日本医学会・日本リウマチ学会
日　時：平成11年3月19日（金）午前9時00分～午後6時20分
　　20日（土）午前9時00分～午後0時50分
会　場：シェーンバッハ・サボー（砂防会館）
　　東京都千代田区平河町2-7-5
　　参加225名（登録医116名、一般医53名、その他56名）

平成11年3月19日（金）

Opening Address		司会
9:00 ～ 9:10	Prof. Takahiro Ochi （Osaka University Medical School）	
Hotspot in Rheumatology		
9:10 ～ 9:50	Prof. Tasuku Honjo（Kyoto University） “Lupus-like autoimmune diseases in PD-1 deficent C57BL/6-background mice”	Modulator Prof. Panayi Prof. Okumura
9:50 ～ 10:30	Prof. David A Fox（USA） “Interactions between T lymphocytes and Type B fibroblastic synoviosytes”	
10:30 ～ 10:40	Brak	
10:40 ～ 11:20	Prof. Tadatsugu Taniguchi（Tokyo University） “Regulaton of the innate and adaptive immune systems by inrerferons and IRF-family transcription factors”	Modulator Prof. Fox Prof. Nishioka
11:20 ～ 12:00	Prof. Gary S. Firestein（USA） “Life and death in the rheumatoid synovium”	
12:00 ～ 13:00	Lunch	
Clinical Symposia in Rheumatioid Arthritis ～ Manipulation of the immune response in RA ～		
13:00 ～ 13:40	Prof. Gabriel S. Panayi（UK） “The pathogenesis of rheumatoid arthritis”	Modulator Prof. Woo Prof. Koike

13:40 ～ 14:10	Prof. Nobuyuki Miyasaka （Tokyo Medical and Dental University） “Molecular mechanism of synovial proliferation in rheumatoid arthritis … Possible implication of cyclinede-pendent kinases (CDKs) and their inhibitors”	
14:10 ～ 14:30	Discusson by Prof. Panayi anf Prof. Miyasaka	

～ NSAID –induced gastric ulcer ; Present situation and measures ～

14:30 ～ 15:10	Prof. David Y. Graham（USA） “Etiology, treatment, and prevention of ulcers and ulcer complication in NSAID users”	Modulator Prof. Kaldan Prof. Yoshino
15:10 ～ 15:40	Prof. Terunobu Saito（Tokyo Women’s Medical University） “NSAID –induced gastric ulcers of chronic” arthritis patients in Japan	
15:40 ～ 16:00	Discussion by Prof. Graham and Prof. Saito	
16:00 ～ 16:20	Break	

New Insight in Rheumarology

16:20 ～ 17:00	Prof. Jachim R. Kaldan（Germany） “Latest developments in the ethiopathogensis of systemic lupus erythematosus”	Modulator Prof. Firestein Prof. Shiozawa
17:00 ～ 17:40	Prof. Kazuhiko Yamamoto（Tokyo University） “Tolerance to a systemic nuclear autoantigen and the relevance to the pathogenesis in collangen diseases”	
17:40 ～ 18:20	Prof. Patric Woo（UK） “Cytokine network in JCA”	

平成11年3月20日（土）

Bone and Cartilage Symposium

9:00 ～ 9:40	Prof. Bjorn R. Olsen（USA） “Inherited disoders provide insights into cartilage and bone growth and homeostasis”	Modulator Prof. Guy Prof. Ochi
9:40 ～ 10:20	Prof. A. Robin Poole（Canada） “Collagenase at the cutting edge of cartilage erosion in arthritis”	
10:20 ～ 11:00	Prof. Kozo Nakamura（Tokyo University） “Regulation of bone destruction by adenovirus vector-mediated gene transfer”	
11:00 ～ 11:20	Break	
11:20 ～ 12:00	Prof. Roland Baron（USA） “Src-and Cbl-dependent pathways in osteoclasts regulate the cytoskeleton and adhesion”	Modulator Prof. Olsen Prof. Kimura
12:00 ～ 12:40	Prof. Steffen Gay（Switzerland） “Synovial fibroblast-mediated joint destruction”	

第9回国際リウマチシンポジウム

国際リウマチシンポジウム組織委員会（委員長　越智隆弘　大阪大学教授）においてリウマチ治療の進歩についての知識を普及するため次のとおり開催した。

後　援：厚生省・日本医学会・日本リウマチ学会
日　時：平成12年3月17日（金）午前9時00分～午後6時00分
　　18日（土）午前9時00分～午後5時10分
会　場：神戸国際会議場メインホール
　　神戸市中央区港島中町6-9-1
　　参加292名（登録医138名、一般医74名、その他80名）

平成12年3月17日（金）

		Chairperson
9:00 ～ 9:10	Opening Address Takahiro Ochi, MD, PhD（Osaka University）	
9:10 ～ 10:00	Negative regulation of cytokine signals and its application Tadamitsu Kishimoto, MD, PhD（Osaka University）	J. S. Smolen S. Shiozawa
10:00 ～ 10:50	What have we learnt from anti-TNF therapy about the pathogenesis and treatment of rheumatoid arthritis ? Ravinder N. Mainii, MD, PhD（UK）	P. E. Lipsky T. Takeuchi
11:00 ～ 11:50	The antiinflammatory actions of methotrexate: Adenosinegic therapy Bruce N. Cronstein, MD, PhD（USA）	J. R. Kaldan S. Kumagai
11:50 ～ 12:40	The human endoplasmic reticulum molecular chaperone bip is an autoantigen for rheumatoid arthritis and prevents the induction of experimental arthritis Gabriel S. Panayi, MD, PhD（UK）	R. N. Maini H. Matsuno
13:30 ～ 14:20	Retrovial sequences in the activaton of synovial cells in rheumatoid arthritis Steffen Gay, Md, PhD（Switzerland）	G. S. Firestein Y. Misaki
14:20 ～ 15:20	Immune regulation by co-stimulatory signaling Ko Okumura, MD, PhD（Juntendo University）	G. S. Panayi N. Suzuki
15:20 ～ 16:10	Immune reactivity in rheumatoid arthritis Peter E. Lipsky, MD, PhD（USA）	J. P. Pelletier S. Hirohata
16:10 ～ 17:00	Signal transduction and transcription factors in rheumatoid arthritis Gary S. Firestein, MD, PhD（USA）	B. N. Cronastein H. Nishida
17:00 ～ 17:50	Werner syndrome :more than systemic sclerosis ? Makoto Goto, MD, PhD（Tokyo Metropolitan Otsuka Hospital）	C. S. Chen Y. Tanaka

平成12年3月18日（土）

		Chairperson
9:10 ～ 10:00	Molecular characterization of RUNX2/PEBP2 α A/CBFA1 essential for osteogenesis Yoshiaki Ito, MD, PhD（Kyoto University）	M. M. Cerinic T. Tomita
10:00 ～ 10:50	Cathepsin K and pycnodysostosis Bruce D. Gelb, MD, PhD（USA）	A. R. Poole H. Sano
11:00 ～ 11:50	The molecular mechanism of osteoclastogenesis:ODF/RANKL-depedent and independent pathways Tatsuo Suda, MD, PhD（Showa University）	S. Gay S. Tanaka
11:50 ～ 12:40	Osteoclast-like cell established from bone marrow blood in RA patients Takahiro Ochi, MD, PhD（Osaka University）	J. R. Kalden Y. Iwamoto
13:30 ～ 14:20	Mechanisms of cartilage degradation Martin K.lotz, MD, PhD（USA）	H. Y. Kim H. Kosaka
14:20 ～ 15:10	Causes and regulation of damage to articular cartilage in arthritis A. Robin Poole, MD, PhD（Canada）	B. D. Gelb T. Kubo
15:20 ～ 16:10	Destruction mechanism of articular cartilage in collagen induced arthritis in monkey -Comparison with that of RA patients- Katsuyuki Fujii, MD, PhD（Jikei University）	M. Vatanasuk T. Kato
16:10 ～ 17:00	Novel Paradigm in the pasthogenesis and treatment of osteoarthritis Kusuki Nishioka, MD, PhD （St.Marianna University）	M. K. Lotz K. Nakamura
17:00 ～	Closing address Kusuki Nishioka, MD, PhD （St.Marianna University）	

7.リウマチのケアに関する研修事業等実施状況

【平成９年度】

リウマチのリハビリテーション（ケア）研修会を6地区において医療、福祉従事者等を対象に実施。

受講者は、医師344名、薬剤師75名、保健師82名、看護師311名、理学療法士230名、作業療法士82名、ソーシャルワーカー10名、その他　ヘルパー、マッサージ師、栄養士、柔道整復師、行政担当者等75名、合計1,209名。

1）中・四国地区
日　　時：平成10年1月17・18日
会　　場：徳島大学長井記念ホール
実行委員：井形　高明　教授（徳島大学整形外科）

2）九州地区
日　　時：平成10年1月31日・2月1日
会　　場：アクロス福岡
実行委員：岩本　幸英　教授（九州大学整形外科）

3）関東地区
日　　時：平成10年2月7・8日
会　　場：全社協ホール
実行委員：吉野　槇一　教授（日本医科大学リウマチ科）

4）東海・北陸地区
日　　時：平成10年2月14・15日
会　　場：名古屋大学鶴友会館
実行委員：岩田　久　教授（名古屋大学整形外科）

5）近畿地区
日　　時：平成10年2月14・15日
会　　場：コミュニティプラザ大阪
実行委員：越智　隆弘　教授（大阪大学整形外科）

6）東北・北海道地区
日　　時：平成10年2月28日・3月1日
会　　場：宮城県民会館
実行委員：国分　正一　教授（東北大学整形外科）

リウマチ教室及び在宅寝たきりリウマチ患者訪問ケア事業

16名の実行委員が延べ26地区において在宅患者及び家族に対し、リウマチの知識、家庭でできるリハビリ及びケアに関する指導、相談を行った。

また、10名の実行委員において、在宅寝たきり患者43名に対し、訪問ケアを行った。

（実行委員）

北海道	種市	幸二	北見赤十字病院内科
群　馬	磯	武信	前橋赤十字病院リウマチ膠原病センター整形外科
千　葉	土田	豊実	千葉大学医学部整形外科
新　潟	村澤	章	新潟県立瀬波病院リウマチセンター
石　川	村山	隆司	金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター
山　梨	赤松	功也	山梨医科大学整形外科
静　岡	石原	義恕	中伊豆温泉病院リウマチセンター
三　重	細井	哲	山田赤十字病院整形外科
滋　賀	西岡	淳一	滋賀医科大学整形外科
兵　庫	西林	保朗	国立加古川病院整形外科
島　根	恒松	徳五郎	島根県立看護短期大学
山　口	河合	伸也	山口大学医学部整形外科
愛　媛	山本	純己	松山赤十字病院リウマチセンター
高　知	西谷	皓次	高知医科大学第二内科
長　崎	田口	厚	日本赤十字社長崎原爆病院整形外科
鹿児島	松田	剛正	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター

医療、福祉に従事する者によるリウマチケアフォーラムを延べ10回開催。
（実行委員）

千　葉	土田　豊実	千葉大学医学部整形外科
新　潟	村澤　章	新潟県立瀬波病院リウマチセンター
石　川	村山　隆司	金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター
山　梨	赤松　功也	山梨医科大学整形外科
島　根	恒松　徳五郎	島根県立看護短期大学
山　口	河合　伸也	山口大学医学部整形外科
高　知	西谷　皓次	高知医科大学第二内科

【平成10年度】

リウマチのリハビリテーション（ケア）研修会事業

医療、福祉従事者等を対象に地区及び県内地域においてリウマチのリハビリテーション（ケア）研修会を開催した。

地区研修会

①関東・甲信越地区
日　　時：平成11年2月14日
会　　場：新潟大学医学部有壬記念館
実行委員：村澤　章　副院長（新潟県立瀬波病院リウマチセンター）
受 講 者：206名

②近畿地区
日　　時：平成11年3月7日
会　　場：コミュニティープラザ大阪
実行委員：越智　隆弘　教授（大阪大学整形外科）
受 講 者：258名

③中・四国地区
日　　時：平成10年11月1日
会　　場：松山赤十字病院　教育講堂
実行委員：山本　純己　所長（松山赤十字病院リウマチセンター）
受 講 者：220名

④九州地区
日　　時：平成11年1月24日
会　　場：佐賀県医師会　メディカルセンター
実行委員：忽那　龍雄　教授（佐賀医科大学地域保健・老人看護学）
受 講 者：210名

県内地域研修会

①北海道八雲町
日　　時：平成10年12月12日
会　　場：八雲町総合保健福祉施設シルバープラザ
実行委員：今野　孝彦　副院長（八雲総合病院）
受 講 者：55名

②千葉県千葉市
日　　時：平成11年2月27日
会　　場：千葉大学医学部附属病院　第3講堂
実行委員：土田　豊実　講師（千葉大学整形外科）
受 講 者：81名

③石川県金沢市
日　　時：平成11年1月31日
会　　場：金沢市保健所
実行委員：村山　隆司　副院長（金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター）
受 講 者：116名

④島根県出雲市
日　　時：平成11年2月1日
会　　場：浜田市総合福祉センター
実行委員：恒松　徳五郎　学長（島根県立看護短期大学）
受 講 者：19名

⑤山口県宇部市
日　　時：平成10年10月25日
会　　場：山口大学医学部第3講義室
実行委員：河合　伸也　教授（山口大学整形外科）
受 講 者：50名

【平成11年度】

リウマチ教室

①石川県金沢市
日　　時：平成11年12月5日
会　　場：金沢市保健所
実行委員：村山　隆司　副院長（金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター）
受 講 者：118名

②三重県熊野市
日　　時：平成11年10月8日
会　　場：熊野庁舎
実行委員：細井　哲　整形外科部長（山田赤十字病院）
受 講 者：52名

③三重県久居市
日　　時：平成11年12月26日
会　　場：久居庁舎
実行委員：細井　哲　整形外科部長（山田赤十字病院）
受 講 者：77名

④山梨県甲府市
日　　時：平成12年3月8日
会　　場：甲府市保健センター
実行委員：中島　育昌　助教授（山梨医科大学整形外科）
受 講 者：52名

⑤山口県阿武郡須佐町
日　　時：平成11年12月4日
会　　場：須佐町保健センター
実行委員：河合　伸也　教授（山口大学整形外科）
受 講 者：15名

⑥山口県大島郡橘町
日　　時：平成12年1月30日
会　　場：橘町総合センター
実行委員：河合　伸也　教授（山口大学整形外科）
受 講 者：53名

【平成12年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北
日　　時：平成13年2月24日
世 話 人：佐川　昭　院長（札幌山の上病院）
受 講 者：122名

②関東
日　　時：平成13年2月4日
会　　場：JAホール（東京都千代田区）
世 話 人：吉野　槇一　教授（日本医科大学リウマチ科）
　　高岸　憲二　教授（群馬大学整形外科）
受 講 者：267名

③中・四国
日　　時：平成12年11月26日
会　　場：広島県健康福祉センター（広島県広島市）
世 話 人：村上　恒二　教授（広島大学保健学科）
受 講 者：119名

【平成13年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成13年10月14日
場　所：艮陵会館
世話人：三友　紀男　副院長（東北厚生年金病院）
受講者：177名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成14年1月26日
場　所：コクヨホール
世話人：住田　孝之　教授（筑波大学）
　　吉野　槇一　教授（日本医科大学）
受講者：117名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成14年1月20日
場　所：金沢市文化ホール
世話人：富田　勝郎　教授（金沢大学）
受講者：133名

④近畿地区研修会
日　時：平成13年12月8日
場　所：神戸国際会議場
世話人：立石　博臣　院長（兵庫医科大学篠山病院）
受講者：261名

⑤九州地区研修会
日　時：平成13年9月30日
場　所：アクロス福岡
世話人：鳥巣　岳彦　教授（大分医科大学）
　　近藤　正一　院長（近藤リウマチクリニック）
受講者：188名

【平成14年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成14年9月15日
場　所：岩手医科大学循環器医療センター
世話人：嶋村　正　教授（岩手医科大学整形外科）
受講者：112名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成14年10月5日
場　所：新潟ユニゾンプラザ
世話人：村澤　章　院長（新潟県立瀬波病院リウマチセンター）
受講者：206名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成14年11月9日
場　所：東レ総合研修センター
世話人：勝部　定信　院長（中伊豆温泉病院）
受講者：170名

④近畿地区研修会
日　時：平成14年8月24日
場　所：アバローム紀の国
世話人：上好　昭孝　教授（和歌山県立医科大学）
受講者：205名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成14年12月8日
場　所：米子コンベンションセンター
世話人：豊島　良太　教授（鳥取大学）
受講者：283名

⑥九州地区研修会
日　時：平成14年9月8日
場　所：宮日会館
世話人：田島　直也　教授（宮崎医科大学）
受講者：172名

【平成15年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成15年12月6日
場　所：山形大学医学部講堂
世話人：荻野　利彦　教授（山形大学整形外科）
受講者：103名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成16年2月28日
場　所：ホテルメトロポリタン高崎
世話人：高岸　憲二　教授（群馬大学整形外科）
受講者：78名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成15年7月12日
場　所：中小企業振興会館
世話人：石黒　直樹　教授（名古屋大学整形外科）
受講者：200名

④近畿地区研修会
日　時：平成15年6月14日
場　所：京都教育文化センター
世話人：中村　孝志　教授（京都大学整形外科）
受講者：138名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成15年11月15日
場　所：岡山コンベンションセンター
世話人：宮脇　昌二　学術顧問（倉敷成人病センター・リウマチ膠原病センター）
受講者：266名

⑥九州地区研修会
日　時：平成15年9月27日
場　所：鹿児島県医師会館
世話人：松田　剛正　院長（鹿児島赤十字病院）
受講者：291名

【平成16年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成16年7月3日
場　所：秋田大学医学部
世話人：澤田　賢一　教授（秋田大学医学部内科学講座　血液・腎臓・膠原病内科学分野）
受講者：99名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成16年6月12日
場　所：横浜市教育会館
世話人：齋藤　知行　教授（横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学）
受講者：97名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成17年3月12日
場　所：富山県民会館
世話人：木村　友厚　教授（富山医科薬科大学医学部整形外科）
受講者：103名

④近畿地区研修会
日　時：平成16年9月11日
場　所：大阪商工会議所
世話人：飯田　寛和　教授（関西医科大学附属病院整形外科）
受講者：146名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成16年6月26日
場　所：徳島大学永井記念ホール
世話人：安井　夏生　教授（徳島大学大学院運動機能外科）
受講者：219名

⑥九州地区研修会
日　時：平成16年10月9日
場　所：長崎ブリックホール
世話人：江口　勝美　教授（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　病態解析・制御学講座）
受講者：374名

【平成17年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成17年10月29日
場　所：コラッセ福島
世話人：佐藤　由紀夫　教授（福島県立医科大学医学部内科学第二講座）
受講者：42名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成17年6月4日
場　所：長野県松本文化会館
世話人：鈴木　明夫　院長（抱生会丸の内病院）
受講者：192名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成17年8月20日
場　所：三重県医師会館
世話人：細井　哲　副院長（山田赤十字病院）
受講者：103名

④近畿地区研修会
日　時：平成17年10月1日
場　所：奈良県文化会館
世話人：高倉　義典　教授（奈良県立医科大学整形外科）
受講者：241名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成17年9月10日
場　所：福祉交流プラザ
世話人：谷　俊一　教授（高知大学医学部整形外科）
受講者：181名

⑥九州地区研修会
日　時：平成17年11月26日
場　所：沖縄県女性総合センターてぃるる
世話人：潮平　芳樹　副院長（豊見城中央病院）
受講者：89名

【平成18年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成18年9月2日
場　所：アピアあおもり
世話人：藤　哲　教授（弘前大学医学部整形外科教室）
受講者：87名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成18年6月10日
場　所：つくば国際会議場
世話人：住田　孝之　教授（筑波大学大学院人間総合科学研究科 先端応用医学専攻臨床免疫学）
受講者：65名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成18年9月9日
場　所：フェニックスプラザ
世話人：林　正岳　理事長（福井総合病院）
受講者：118名

④近畿地区研修会
日　時：平成18年12月9日
場　所：KBS ホール
世話人：松末　吉隆　教授（滋賀医科大学整形外科）
受講者：215名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成18年9月30日
場　所：くにびきメッセ
世話人：上尾　豊二　病院長（玉造厚生年金病院）
受講者：35名

⑥九州地区研修会
日　時：平成18年10月7日
場　所：熊本県民交流館パレアホール
世話人：東野　通志　副院長（熊本整形外科病院）
受講者：109名

【平成19年度】

リウマチのケア研修会

①北海道・東北地区研修会
日　時：平成19年11月18日
場　所：北海道厚生年金会館
世話人：佐川　昭　院長　（佐川昭リウマチクリニック）
共　催：日本リウマチ財団／田辺三菱製薬株式会社
受講者：140名

②関東・甲信越地区研修会
日　時：平成19年6月9日
場　所：秋葉原コンベンションホール
世話人：竹内　勤　教授（埼玉医科大学総合医療センター　リウマチ・膠原病内科）
共　催：日本リウマチ財団／ワイス株式会社
受講者：193名

③東海・北陸地区研修会
日　時：平成20年3月1日
場　所：金沢都ホテル
世話人：梅原　久範　教授（金沢医科大学　血液免疫制御学）
共　催：日本リウマチ財団／参天製薬株式会社
受講者：74名

④近畿地区研修会
日　時：平成19年12月8日
場　所：ラッセホール
世話人：松原　司　院長（松原メイフラワー病院）
共　催：日本リウマチ財団／第一三共株式会社
受講者：80名

⑤中国・四国地区研修会
日　時：平成19年10月27日
場　所：愛媛県県民文化会館
世話人：山本　純己　顧問（一番町リウマチクリニック）
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
受講者：138名

⑥九州地区研修会
日　時：平成19年10月20日
場　所：大分県医師会館
世話人：安田　正之　部長（国立病院機構別府医療センター リウマチ膠原病センター）
共　催：日本リウマチ財団／アボットジャパン株式会社
受講者：50名

8.RA トータルマネジメントフォーラム

平成15年度
日　時：平成16年1月31日（土）
場　所：テピアホール
東京都港区青山2-8-44
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
参加者：120名

平成16年度
日　時：平成17年1月29日（土）
場　所：テピアホール
東京都港区北青山2-8-44
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
参加者：110名

平成17年度
日　時：平成18年1月21日（土）
場　所：テピアホール
東京都港区北青山2-8-44
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
参加者：97名

平成18年度
日　時：平成19年1月27日（土）
場　所：テピアホール
東京都港区北青山2-8-44
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
参加者：142名

平成19年度
日　時：平成20年2月2日（土）
場　所：テピアホール
東京都港区北青山2-8-44
共　催：日本リウマチ財団／エーザイ株式会社
参加者：180名

9. リウマチ医（登録医）の会開催状況

【平成9年度】

リウマチ科標榜医等のリウマチ登録医への登録促進のため、リウマチ研修をより地方の実情や開催日時を配慮して開催。

地区	開催年月日	開催地	世話人
東京	平成9年5月24日（土）	東京都	日本医科大学　吉野　槇一　教授
東海	平成9年5月25日（日）	名古屋市	名古屋市立大学　松井　宣夫　教授
近畿	平成9年5月31日（土）	大阪市	大阪大学　越智　隆弘　教授
北海道	平成9年7月19日（土）	札幌市	北海道大学　小池　隆夫　教授
中国・四国	平成9年8月9日（土）	広島市	東広島記念病院　山名　征三　教授
	平成10年3月1日（日）	岡山市	岡山大学　井上　一　教授
九州	平成9年10月18日（土）	福岡市	九州大学　延永　正　名誉教授
兵庫	平成9年11月8日（土）	尼崎市	兵庫県立医科大学　立石　博臣　教授
	平成10年1月31日（土）	篠山町	
東北	平成9年12月6日（土）	仙台市	福島県立医科大学　粕川　禮司　教授
新潟	平成10年2月22日（日）	新潟市	新潟大学　羽生　忠正　助教授

【平成10年度】

リウマチ科標榜医等のリウマチ登録医への登録促進のため、リウマチ研修をより地方の実情や開催日時を配慮して開催。

地区	開催年月日	開催地	世話人
北海道	平成10年10月24日（土）	札幌市	北海道大学　小池　隆夫　教授
東北	平成10年11月29日（日）	仙台市	福島県立医科大学　粕川　禮司　教授
新潟	平成11年3月14日（日）	新潟市	新潟大学　羽生　忠正　助教授
近畿	平成10年9月19日（土）	大阪市	大阪大学　越智　隆弘　教授
	平成11年2月27日（土）	大阪市	
中国・四国	平成10年9月6日（日）	高松市	キナシ大林病院　倉田　典之　院長
九州	平成10年10月3日（土）	熊本市	石川整形外科リウマチ科医院　石川浩一郎　院長
福岡	平成10年8月28日（金）	福岡市	宗像医師会病院　草場　公宏　院長
	平成10年11月6日（日）	久留米市	
	平成10年11月26日（土）	北九州市	

【平成11年度】

リウマチ医の会（代表世話人　越智隆弘、西岡久寿樹、山本純己、吉野槇一先生）において、リウマチ治療剤リウマトレックスの認可に伴い、DMARDsの使い方等をテーマに次のとおり開催した。

地区	開催年月日	世話人
北海道	平成12年1月22日（土）	小池　隆夫　教授
東北	平成11年12月19日（日）	阿部　正隆　先生
福島	平成11年9月17日（金）	粕川　禮司　教授
関東	平成11年9月23日（木）	吉野　槇一　教授
新潟	平成11年10月16日（土）	羽生　忠正　助教授
富山	平成11年8月27日（金）	木村　友厚　教授
東海	平成11年5月23日（日）	松井　宣夫　教授
近畿	平成11年9月18日（土）	越智　隆弘　教授
兵庫(登録医の会)	平成11年7月22日（木）	立石　博臣　院長
兵庫	平成11年10月21日（木）	立石　博臣　院長
中四国	平成11年11月20日（土）	山名　征三　院長
九州	平成11年10月2日（土）	延永　　正　名誉教授
福岡(登録医の会)	平成11年5月27日（木）	草場　公宏　院長
福岡	平成11年8月27日（金）	近藤　正一　院長
	平成11年11月12日（金）	日高　滋紀　院長
大分	平成12年1月27日（木）	堀田　正一　教授
佐賀	平成12年2月9日（水）	長澤　浩平　教授
熊本	平成12年2月19日（土）	石川浩一郎　院長
鹿児島	平成12年1月22日（土）	長嶺　隆徳　院長

【平成12年度】

リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研修、情報伝達の会を開催した。

地区	開催年月日	世話人
東北	平成12年11月19日（日）	小坂　志朗　センター長
東北（秋田県）	平成12年7月14日（金）	西村　茂樹　副院長 佐藤　光三　教授
東北（宮城県）	平成12年5月26日（金）	佐々木　毅　教授
新潟	平成12年11月19日（日）	羽生　忠正　助教授
大阪	平成13年3月31日（土）	越智　隆弘　医学部長
兵庫	平成12年7月8日（土）	立石　博臣　院長
	平成12年12月16日（土）	
中国・四国	平成12年6月11日（日）	豊島　良太　教授
	平成13年2月18日（日）	西谷　皓次　助教授
九州	平成12年10月14日（土）	田口　　厚　院長
福岡	平成12年7月1日（土）	近藤　正一　院長
大分	平成12年9月21日（土）	堀田　正一　院長 諫山　哲郎　院長
宮崎	平成12年8月5日（土）	桑原　　茂　所長
	平成13年1月13日（土）	
鹿児島	平成12年10月7日（土）	長嶺　隆徳　院長

【平成13年度】

リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研修、情報伝達の会を開催した。

地区	開催年月日	世話人
北海道	平成13年7月21日（土）	小池　隆夫　教授 今井　浩三　教授
東北	平成13年12月9日（日）	大平　信廣　名誉院長
千葉	平成13年10月20日（土）	奥平　隆保　院長 茆原　忠夫　院長
新潟	平成14年2月23日（土）	羽生　忠正　助教授
兵庫	平成13年5月12日（土）	立石　博臣　院長
	平成13年10月13日（土）	
	平成14年2月16日（土）	
中国・四国	平成13年12月9日（日）	河合　伸也　教授
九州	平成13年10月21日（日）	徳山　清公　院長
福岡	平成13年7月28日（土）	近藤　正一　院長
宮崎	平成13年7月14日（土）	桑原　　茂　医長
	平成14年1月9日（土）	税所幸一郎　医長
鹿児島	平成13年7月28日（土）	長嶺　隆徳　院長
	平成14年2月23日（土）	

【平成14年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修の会を開催した。

地区	開催年月日	世話人
東北	平成14年12月8日（日）	須田　昭男　院長（すだ記念整形外科）
千葉	平成14年5月25日（土）	奥山　隆保　院長（さつきが丘医院） 茆原　忠夫　院長（茆原内科医院）
	平成14年11月30日（土）	
新潟	平成15年2月23日（日）	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院）
兵庫	平成14年6月29日（土）	立石　博臣　院長（兵庫医科大学篠山病院）
	平成14年11月23日（土）	
	平成15年2月8日（土）	
中国・四国	平成14年5月26日（日）	四宮　文男　副理事長（徳島健生病院）
	平成14年10月6日（日）	上尾　豊二　院長（玉造厚生年金病院）
九州	平成14年11月23日（土）	延永　　正　名誉教授（九州大学）
福岡	平成14年7月20日（土）	近藤　正一　院長（近藤リウマチ・整形外科クリニック）
宮崎	平成14年7月27日（土）	税所幸一郎　医長（国立都城病院）
	平成15年1月18日（土）	
鹿児島	平成14年8月10日（土）	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）
	平成15年2月22日（土）	

【平成15年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修の会を開催した。

地区	開催年月日	開催地	世話人
北海道	平成15年7月19日（土）	北海道	小池　隆夫　教授（北海道大学医学部第二内科） 今井　浩三　教授（札幌医科大学第一内科）
東北	平成15年12月7日（日）	秋田県	西村　茂樹（JA秋田厚生連由利組合総合病院）
千葉	平成15年5月17日（土）	千葉県	奥山　隆保　院長（さつきが丘医院）
	平成15年10月18日（土）		
新潟	平成16年2月28日（土）	新潟県	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院リウマチ科）
兵庫	平成15年6月7日（土）	兵庫県	立石　博臣　院長（兵庫医科大学篠山病院）
	平成15年10月11日（土）		
	平成16年2月28日（土）		
中国・四国	平成15年6月1日（日）	岡山県	宮脇　昌二　先生（倉敷成人病センター）
	平成15年11月16日（日）	香川県	倉田　典之　先生（宇多津クリニック）
九州	平成15年10月18日（土）	宮崎県	延永　　正　名誉教授（九州大学）
福岡	平成15年7月19日（土）	福岡県	近藤　正一　院長（近藤リウマチ･整形外科クリニック）
宮崎	平成15年7月12日（土）	宮崎県	税所幸一郎　医長（国立都城病院）
	平成16年1月17日（土）		
鹿児島	平成15年10月11日（土）	鹿児島県	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）
	平成16年3月27日（土）		

【平成16年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修会の会を開催した。

地区	開催年月日	開催地	世話人	参加人数
東北	平成17年2月20日（日）	宮城県	三友　紀男　院長（仙台社会保険病院）	74
千葉	平成16年5月15日（土）	千葉県	奥山　隆保　院長（さつきが丘医院）	82
	平成16年10月23日（土）		茆原　忠夫　院長（茆原内科医院）	47
新潟	平成17年1月8日（土）	新潟県	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院リウマチ科）	20
	平成17年2月19日（土）			40
兵庫	平成16年7月17日（土）	兵庫県	立石　博臣　教授（兵庫医科大学整形外科）	60
	平成16年10月30日（土）			49
	平成17年2月19日（土）			60
中・四国	平成16年6月6日（日）	鳥取県	山本　純己　所長（松山赤十字病院リウマチセンター）	75
	平成16年10月31日（日）	高知県		87
福岡	平成16年7月10日（土）	福岡県	近藤　正一　院長（近藤リウマチ･整形外科クリニック）	96
宮崎	平成16年7月24日（土）	宮崎県	税所幸一郎　医長（国立病院機構都城病院整形外科）	56
	平成17年1月15日（土）			68
鹿児島	平成16年10月23日（土）	鹿児島県	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）	50
	平成17年3月26日（土）			46

【平成17年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修会の会を開催した。

地区	開催年月日	開催地	世話人	参加人数
北海道	平成17年4月30日（土）	北海道	小池　隆夫　教授（北海道大学第二内科） 今井　浩三　教授（札幌医科大学）	90
東北	平成18年1月22日（日）	岩手県	小山田喜敬（鶯宿温泉病院）	65
千葉	平成17年5月28日（土）	千葉県	奥山　隆保　院長（さつきが丘医院） 茆原　忠夫　院長（茆原内科病院）	58
	平成17年10月29日（土）		茆原　忠夫　院長（茆原内科病院）	37
新潟	平成18年1月7日（土）	新潟県	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院）	37
兵庫	平成17年7月23日（土）	兵庫県	立石　博臣　院長（神戸海星病院）	50
	平成17年12月3日（土）			65
	平成18年3月25日（土）			84
中国・四国	平成17年6月26日（日）	徳島県	谷　憲治　助教授（徳島大学分子制御内科）	60
	平成17年10月16日（日）	山口県	田口　敏彦　教授（山口大学整形外科）	55
福岡	平成17年7月23日（土）	福岡県	近藤　正一　院長（近藤リウマチ整形外科クリニック）	58
宮崎	平成17年7月23日（土）	宮崎県	税所幸一郎　医長（国立病院機構都城病院整形外科）	41
	平成18年1月14日（土）			57
鹿児島	平成17年10月29日（土）	鹿児島県	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）	43
沖縄	平成17年8月8日（月）	沖縄県	金谷　文則　教授（琉球大学整形外科）	34
	平成18年2月27日（月）			33

【平成18年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修の会を開催した。

地区	開催年月日	開催地	世話人	参加人数
東北	平成19年1月28日（日）	青森県	三浦　孝雄（弘前記念病院）	43
千葉	平成18年5月27日（土）	千葉県	土田　豊実　院長（ツチダクリニック）	54
	平成18年10月28日（土）		奥山　隆保　院長（さつきが丘医院）	70
新潟	平成18年7月1日（土）	新潟県	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院）	80
	平成19年1月6日（土）			48
兵庫	平成18年11月8日（土）	兵庫県	立石　博臣　院長（神戸海星病院）	53
	平成19年3月31日（土）			136
中国・四国	平成18年6月25日（日）	島根県	上尾　豊二　院長（玉造厚生年金病院）	75
	平成18年10月8日（日）	広島県	山本　純己　顧問（一番町リウマチクリニック）	51
福岡	平成18年7月8日（土）	福岡県	近藤　正一　院長（近藤リウマチ･整形外科クリニック）	117
宮崎	平成18年7月15日（土）	宮崎県	税所幸一郎　医長（国立病院機構都城病院整形外科）	38
	平成19年1月13日（土）			42
鹿児島	平成18年6月10日（土）	鹿児島県	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）	60
	平成18年11月4日（土）			44
	平成19年3月24日（土）			48
沖縄	平成18年7月31日（月）	沖縄県	金谷　文則　教授（琉球大学整形外科）	33
	平成19年2月5日（月）			50

【平成19年度】

「都道府県リウマチ登録医の会の指定について（平成3年運営委員会決定）」に基づき、リウマチ登録医等リウマチ診療医を対象に各地世話人により地方の実情や開催日時を配慮し次のとおり研究、研修の会を開催した。

地区	開催年月日	開催地	世話人	参加人数
東北	平成20年1月27日（日）	福島県	宮田　昌之　副院長（福島赤十字病院）	70
千葉	平成19年6月30日（土）	千葉県	茆原　忠夫　院長（茆原内科医院）	11
	平成19年10月20日（土）			67
新潟	平成20年1月5日（土）	新潟県	羽生　忠正　部長（長岡赤十字病院）	42
兵庫	平成19年12月15日（土）	神戸	立石　博臣　院長（神戸海星病院）	55
	平成20年2月23日（土）			112
中国・四国	平成19年6月10日（日）	愛媛県	今井　淳子　院長（一番町リウマチクリニック）	85
	平成19年9月9日（日）	岡山県	山本　純己　顧問（一番町リウマチクリニック）	80
福岡	平成19年8月4日（土）	福岡県	近藤　正一　院長（近藤リウマチ･整形外科クリニック）	44
宮崎	平成19年7月21日（土）	宮崎県	税所幸一郎　医長（国立病院機構都城病院整形外科）	58
	平成20年2月2日（土）			58
鹿児島	平成19年11月17日（土）	鹿児島県	長嶺　隆徳　院長（長嶺整形外科医院）	48
	平成20年3月29日（土）			40
沖縄	平成20年2月4日（月）	沖縄県	金谷　文則　教授（琉球大学医学部整形外科）	35

研究会　会場風景

参考資料

1. リウマチ対策の歩み

・リウマチ対策関係年表

日本リウマチ対策開始50周年の起源

昭和27年（1952年）国（文部省）が初めてリウマチ総合研究班（班長 大阪大学 清水源一郎 教授）を編成し、関節リウマチの研究を開始したときとする。

昭和27年	文部省、総合研究班「関節リウマチ研究」開始（班長 大阪大学 清水源一郎）
28年	第8回国際リウマチ学会がジュネーブで開かれ、日本代表3人が出席、リウマチの重要性を認め、リウマチ対策を政府に献策
32年	日本リウマチ協会設立
35年	日本リウマチ友の会設立（島田廣子）
37年	日本リウマチ学会設立
45年	社団法人日本リウマチ友の会認可
47年	厚生省特定疾患研究事業が開始され、リウマチ性疾患のうち二疾患の研究班設置
	厚生省特定疾患**調査研究事業**にベーチェット病、全身性エリテマトーデス、サルコイドーシスを指定
	厚生省特定疾患**治療研究事業**にベーチェット病、全身性エリテマトーデスを指定
48年	第13回国際リウマチ学会開催（京都）
	厚生省特定疾患**調査研究事業**に悪性関節リウマチ、強皮症、皮膚筋炎、大動脈炎症候群を追加
49年	国立相模原病院をリウマチ・アレルギーの基幹施設に指定
	厚生省特定疾患**治療研究事業**にサルコイドーシス、強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎を追加
50年	リウマチ教育研修会開催（日本リウマチ協会）
	厚生省特定疾患**治療研究事業**に結節性動脈周囲炎、大動脈炎症候群を追加
52年	厚生省特定疾患**治療研究事業**に悪性関節リウマチを追加
54年	厚生省特定疾患**治療研究事業**にアミロイドーシスを追加
59年	厚生省特定疾患**治療研究事業**にウェゲナー肉芽腫症を追加
61年	リウマチ登録医制度制定（日本リウマチ学会）
62年	財団法人日本リウマチ財団認可（厚生省）
	リウマチ登録医制度 日本リウマチ学会より財団へ移管
63年	皇太子・皇太子妃のご台臨を仰ぎ、 アジア太平洋リウマチ学会開催（東京、会長 塩川優一）
	認定医制度規則指導医施行（日本リウマチ学会）
	「慢性関節リウマチの実態に関する調査研究（厚生省厚生科学研究費補助金）」の実施

平成元年	認定医制度規則学会認定医施行（日本リウマチ学会）
	6月をリウマチ月間と制定（日本リウマチ財団）
2年	厚生省厚生科学研究費補助金「リウマチ**調査研究事業**」実施
	厚生省リウマチ調査研究事業開始
4年	リウマチのリハビリテーション推進事業実施
5年	厚生省特定疾患**治療研究事業**に混合性結合組織病を追加
6年	厚生省特定疾患**治療研究事業**に原発性免疫不全症候群を追加
7年	皇后陛下のご台臨を仰ぎ、 日本リウマチ友の会創立35周年記念式典開催（理事長 島田廣子）
	在宅RA患者ケアモデル事業（日本リウマチ財団）
8年	医療機関に「リウマチ科」標榜可能となる（医療法施行令改正）
	RAのトータルモデル事業（日本リウマチ財団）
	厚生省厚生科学研究費補助金「長期慢性疾患総合研究事業（リウマチ版）」の実施 「保健医療分野における基礎研究推進事業（医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構）」の実施
9年	RAのトータルモデル事業（日本リウマチ財団）
	公衆衛生審議会成人病難病対策部リウマチ対策専門委員会（中間報告）
	難病患者等福祉施策推進事業を在宅患者に実施
10年	RAの在宅ケア試行的事業（日本リウマチ財団）
11年	国立相模原病院にリウマチ・アレルギー臨床研究センター設置
12年	科学的根拠に基づくＲＡ治療ガイドライン作成班活動開始
13年	都道府県等の保健師など対象の「リウマチ・アレルギー相談員養成研修会」を開始
14年	皇后陛下のご台臨を仰ぎ、 日本リウマチ対策開始50周年記念 - リウマチ制圧10か年対策国際会議開催（日本リウマチ財団主催　組織委員会委員長 塩川優一）
	健康局疾病対策課リウマチアレルギー白書
15年	生物学的製剤の発売承認（市販後全例調査）
16年	EBMに基づくRA治療ガイドライン出版（日本リウマチ財団発行）
	厚生労働省ホームページ上に「リウマチ・アレルギー情報」が開設された
17年	関節リウマチの重症化防止対策、地方自治体の取り組みを推進
	厚生科学審議会疾病対策部会　リウマチ・アレルギー対策委員会報告書 リウマチ診療施設事例集作成（厚生労働科学研究） RA患者さんのための自己管理マニュアル作成（厚生労働科学研究）
18年	患者向けガイドライン出版（日本リウマチ財団監修）

厚生労働省「リウマチ対策検討会（平成17年）」資料
財団「骨・関節疾患対策10年国際会議」事前資料
より

・リウマチ対策の方向性等

第１　趣旨

リウマチについては、効果的な対症療法はあるものの、一般的に病態は十分に解明されたとはいえず、根治的な治療法も確立されていないため、必ずしも患者の生活の質（Quality Of Life：QOL）の維持・向上が図られていない。

また、国においては、これまでリウマチ対策として、研究の推進や研究成果を活用した普及啓発等を実施してきたものの、必ずしも戦略的に実施されていない上、都道府県等におけるリウマチ対策には格差があるなど、我が国におけるリウマチ対策は必ずしも十分なものとはいえない。

このような認識の下、本方向性等は、今後５年程度のリウマチ対策の方向性等を示すこと等によって、国を始め、地方公共団体及び関係団体等におけるリウマチ対策が戦略的に推進されることを促そうとするものである。

第２　基本的方向性

１　当面のリウマチ対策の目標

リウマチの予防法及び根治的治療法が未確立である現状においては、リウマチ患者のQOLの維持・向上を図るために、可能な限り入院患者数の減少や入院期間の短縮を目指し、リウマチの重症化を防止することが重要であり、リウマチ活動期初期における早期治療法を確立するとともに、早期に適切な医療及び情報を提供することが必要である。

このため、国は、リウマチの予防法及び根治的治療法の研究開発を長期的な観点から引き続き着実に取り組むとともに、今後５年程度を目途に、当面のリウマチ対策の目標として、「リウマチ重症化防止策の推進」[1]を図ることを掲げ、地方公共団体との役割分担と連携の下に、関係団体等の協力を得ながらともに取り組むこととする。

２　取り組むべき施策の柱

１の目標を達成するためには、従前の研究開発中心の対策から、今後は、国、地方公共団体及び関係団体等が適切な役割分担の下、(1) 医療提供等の確保、(2) 情報提供・相談体制の確保、(3) 開発研究開発等の推進を、取り組むべき施策の柱に据えることが必要であり、今後５年程度、それぞれについて以下の方向性で取り組んでいく。

(1) 医療提供等の確保

患者等に身近なかかりつけ医を中心としながら、症状の安定時にはかかりつけ医において、重症難治例や著しい増悪時等には専門医療機関において、適切な対応がなされるよう、かかりつけ医と専門医療機関の円滑な連携による医療提供の確保を図る。

また、関係団体等の協力を得ながら、診療ガイドライン、専門的な医学情報の普及、リウマチ診療に精通した人材の育成を進めることにより、診療レベルの均てん化を図る。

1　リウマチの根治的な治療法が確立されていない状況の中で、その上下肢の疼痛、機能障害の進行を防止し患者の生活の質を向上するためには、早期診断法や有効性の高い治療法開発の推進、適切な医療を効率的に提供できる体制の確立、相談や情報提供等患者を取り巻く環境の確保を進め、リウマチ重症化防止を目指す必要がある。

(2) 情報提供・相談体制の確保

患者等に対する、①リウマチに係る正しい知識・情報、②医療機関に関する情報、③適切な自己管理の手法[2]についての普及啓発や相談体制の確保を行う。

(3) 研究開発等の推進

①当面（今後５年程度）の目標と、②長期的な目標とを明確に設定し、研究開発をより戦略的に推進する。また、医薬品等の開発促進等についても、引き続き取り組む。

なお、国が進めていくべき研究課題は、事前評価委員会の意見も踏まえ、民間企業との役割の違いを認識した上で、採択されることが求められる。この際、テーマの類似している研究課題は統廃合を進める必要があるとともに、政策的課題に関連するテーマを明確化し、公募課題に反映させる研究開発推進体制を構築する。

3　国と地方公共団体との役割分担と連携

国は、引き続き研究開発等の推進を図るとともに、地方公共団体が医療提供等の確保や情報提供・相談体制の確保の取り組みを進められるよう、研究の成果等について情報提供するなど技術的支援を中心に担うことが必要である。

地方公共団体のうち都道府県は、医療提供等の確保を図る上で中心的な役割を担うとともに、情報提供・相談体制の確保については、市町村・関係団体等と連携し、情報提供・相談の対象者や内容等に応じて、地域における普及啓発に取り組むことが必要である。

このような国と地方公共団体における役割分担の下、厚生労働省は患者団体、日本医師会、日本リウマチ学会、日本整形外科学会及び日本小児科学会等関係団体並びに関係省庁と連携してリウマチ対策を推進していくことが必要である。

第３　今後５年程度におけるリウマチ対策

第２の２における取り組むべき施策の柱については、国と地方公共団体の役割分担を明らかにしつつ、以下のとおり実施していく。

1　医療提供等の確保

(1) 国の役割

○診療ガイドライン等の普及

国は、関係団体等の協力を得て、診療ガイドラインや病態別重症度別のクリティカルパス等の普及を進めることにより、医療機関における診療レベルの均てん化を図る。なお、診療ガイドラインは、学術等の進歩に応じ、随時改訂を図るものとする。

○人材の育成

リウマチの診療経験は、プライマリケアの基本的診療能力として、その正しい知識及び技術の習得に資するものであり、臨床研修において現在、リウマチが経験目標の１疾患として

2　主に、①生活上の注意点、②疾患状態（活動性）の客観的な基準に基づく評価、③疾患の重症化予防法、治療法及び副作用に関する正しい知識、等を指す。なお、医療従事者においては自己管理手法の普及について正しく認識し、医療機関において指導を実践することが望ましい。

取り上げられているところであるが、さらにリウマチ診療に精通した人材の育成を図るため、国は関係団体等に対し以下のとおり協力を依頼する。

①日本医師会に対して、医師の生涯教育におけるリウマチに係る教育の一層の充実

②日本薬剤師会等の職能団体に対して、各種研修におけるリウマチに係る教育の一層の充実

③日本リウマチ学会等の関係学会に対して、リウマチ専門の医師が地域によっては不足しがちであること、関係学会間において専門医の認定基準等が異なること及び小児リウマチ診療に携われる医師の確保が必要であるとの意見があることに鑑み、専門の医師の育成の促進[3]、並びにリウマチ診療は、ほぼ全身臓器に係わる疾患の診療となるため、総合的なリウマチ専門の医師の育成についての検討

(2) 地方公共団体の役割

○診療ガイドライン等の普及、適切な地域医療の確保

都道府県は、学会等が作成した診療ガイドライン等の普及を進めるとともに、重症難治例や著しい増悪時には、専門的な対応が必要とされることから、医療圏毎にリウマチ診療の専門機能を有している医療機関を確保することや、これらを支援できるよう、都道府県単位を基本に、集学的な診療体制を有している病院を確保することが望まれる。このため、地域における医療提供体制[4]（身近なかかりつけ医－専門医療機関－集学的医療機関の確保とこれらの連携体制）の確保を図ることが求められる。なお、重症難治例等に至らずとも一次医療機関で対応できる分野については、地域の事情によっては診療所等間の連携体制の構築についても留意する必要がある。

○地域の関係団体等との連携

適切な地域医療を確保する観点から、地域保健医療協議会等を通じ、地域医師会等の関係団体等との連携を十分に図ることが必要である。

○難病患者等居宅生活支援事業等の活用

リウマチによる機能障害の回復や低下を阻止するため、リウマチのリハビリテーションを行うことができる環境の確保を図り、併せて難病患者等居宅生活支援事業の活用を図る。その際、高齢者が寝たきり状態になることを予防するため、介護予防の視点も考慮し、地域におけるリハビリテーション体制の確保に留意する。

2　情報提供・相談体制の確保

(1) 国の役割

○ホームページ等による情報提供

国は、厚生労働科学研究費等の活用により、関係学会等と連携しながら、リウマチに係る正しい知識・情報を収集し、ホームページ及びパンフレット等を通じて、患者を含む国民に

3　日本リウマチ学会の専門医と日本整形外科学会の認定リウマチ医の認定の基準や方法等においては、専門医の在り方を踏まえつつ、当面求められる専門的な薬物治療や手術の予後に関する知識等両分野に共通しうる事項から、統一していくことが期待される。

4　小児リウマチの医療体制の確保に当たっては、必要に応じて、周辺都道府県等と連携してその確保を図ることが期待される。

とって必要な①リウマチに係る正しい知識・情報[5]、②医療機関に関する情報、③適切な自己管理の手法の普及啓発（相談体制の確保を含む。）を行う。また、同様の取組みを行う地方公共団体、関係団体等、医療関係者に対して情報を提供する。

○教育教材の作成等

適切な自己管理の手法（③）については、診療ガイドラインによる医療関係者への情報提供に加え、患者等にも理解しやすい一般向け教育パンフレットなどの教育教材を作成し、都道府県等や関係団体等に情報提供する。

○研修会の実施

地域ごとの相談レベルに格差が生じないよう、都道府県等における相談体制の確保を支援するため、都道府県等の保健師を対象にリウマチ・アレルギー相談員養成研修会を引き続き実施する。

○専門医療機関等を対象とする相談窓口の設置

独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センターにおいて専門医療機関等を対象とする相談窓口を設置する。

(2) 地方公共団体の役割

○リウマチに係る情報提供

リウマチに係る正しい知識・情報（①）については、国が提供する情報を活用しつつ、それぞれの地域における情報提供･相談の対象者や内容等に応じ、市町村･関係団体等と連携し、地域の実情等に応じた普及啓発に取り組むことが重要である。

○医療機関に関する情報提供

都道府県等においては、地域医師会等の協力を得ながら、医療機関に関する情報（②）を住民に対して提供することが望ましい。

○適切な自己管理の手法に係る情報提供

適切な自己管理の手法（③）については、診療ガイドライン、一般向け教育パンフレット等の医療機関への普及を進めるとともに、市町村においても、地域保健活動（各種研修会等）の際に、また、地域・職域等に、一般向け教育パンフレット等を配布し、適切な自己管理手法の普及を図ることが望ましい。その際、難病相談・支援センターとの連携について留意することが必要である。

○保健所等における取組み

保健所等においては、地域医師会等と連携し、個々の住民の相談対応のみならず、市町村への技術的支援や地域での企業等におけるリウマチ対策の取組への助言等の支援が期待される。

5 例えば、リウマチに関する一般疾病情報、適切な治療、薬剤に関する情報、研究開発の成果等に関する最新の診療情報等。

３　研究開発等の推進

○研究推進体制の構築

国は、効果的かつ効率的な研究推進体制を構築するため、当面平成２２年度までに研究成果を得られるよう重点的に研究を推進していく研究分野と長期的な目標とを持って達成すべき研究分野を選定し、研究目標を明確化して適切に研究を実施していく。

○医薬品等の開発促進等

医薬品等の開発促進等については、新しい医薬品の薬事法上の承認に当たっては、国は適切な外国のデータがあればそれらも活用しつつ、適切に対応する。また、優れた医薬品がより早く患者の元に届くよう治験環境の整備に努める。

４　その他

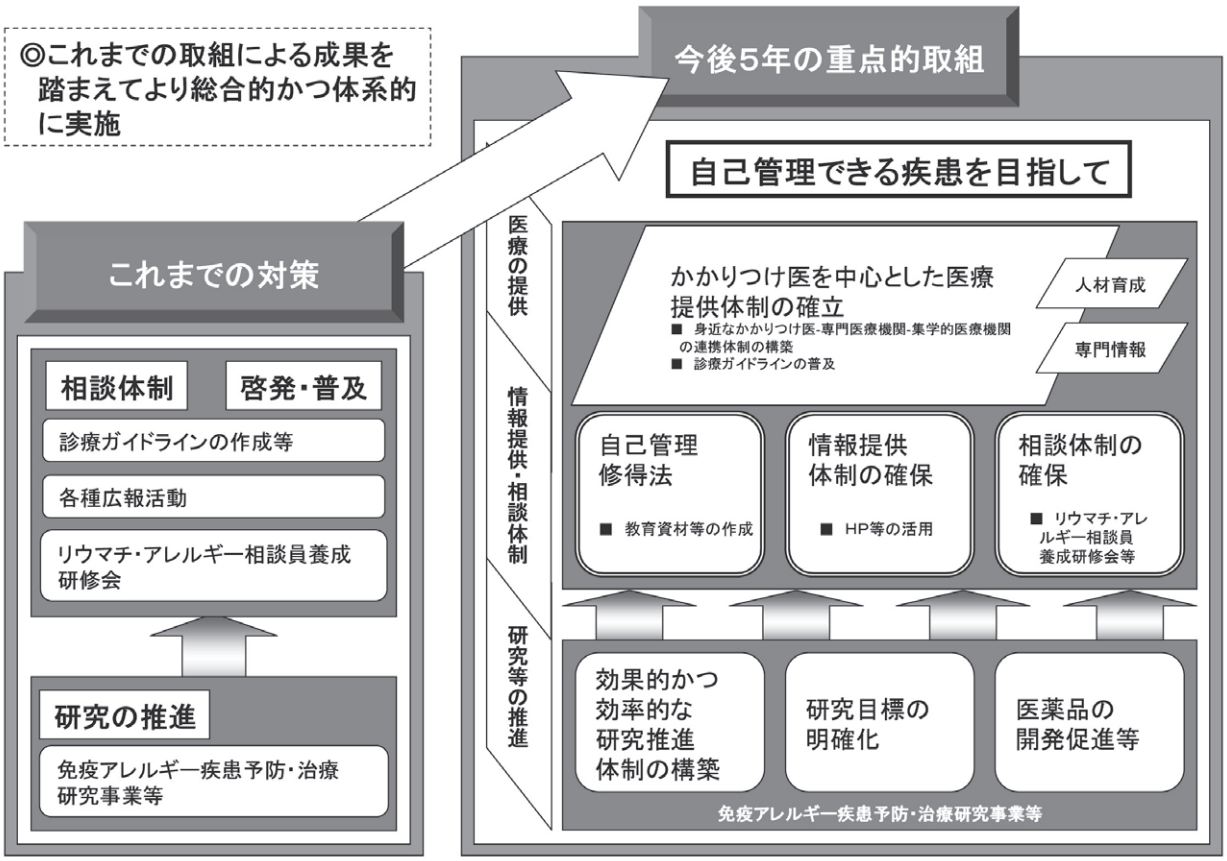
○施策のフォローアップ

国は、地方公共団体が実施するものを含め、主要な施策の実施状況等を把握し、より戦略的にリウマチ対策を講じていくことが重要である。また、地方公共団体においても国の施策を踏まえ、連携を模索し、施策を効果的に実施するとともに、主要な施策について評価を行うことが望ましい。

○方向性等の見直し

国は、「リウマチ対策の方向性等」について、適宜再検討を加え、必要があると認められるときは、これを変更するものとする。

今後のリウマチ・アレルギー対策について



平成17年10月31日付
健康局疾病対策課長、老健局老人保健課長連名通知
都道府県等、関係学会、関係団体あて発出

2. 年度別主要科目収支状況（毎年度の決算報告書による）

収入の部

科　　目	昭和62年度	63年度	平成1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
会費収入	1,050	14,700	15,720	30,730	31,020	31,190	31,960	31,890	35,710
事業収入	95,819	198,519	236,791	146,047	93,359	73,549	66,469	77,458	42,746
委託研究収入	75,702	122,090	178,982	101,564	36,900	26,809	19,385	17,062	618
教育研修受講料収入	3,647	24,987	21,947	18,989	16,159	15,161	18,938	21,225	20,797
登録医審査料収入	4,170	50,960	35,150	25,400	38,450	28,110	26,310	37,550	18,840
図書販売収入	12,300	483	150	94	19	1,040	3	112	35
その他	0	0	561	0	1,830	2,430	1,797	1,509	2,456
利子収入	3,011	8,700	13,130	17,752	19,433	13,366	10,327	8,294	6,900
協賛金収入	0	6,550	15,380	35,876	52,620	61,261	69,900	65,633	65,965
寄付金収入	68,763	34,900	25,211	40,570	42,160	16,285	15,763	23,189	26,033
その他の収入	158,282	20,862	1,041	37	0	30,895	0	0	0
当期収入合計	326,925	284,232	307,273	271,012	238,591	226,546	194,419	206,465	177,355
前期繰越収支差額	0	588	36,598	30,960	35,372	50,847	48,055	48,918	53,729
収入合計	326,925	284,820	343,871	301,972	273,964	277,392	242,474	255,382	231,084

注）教育研修受講料収入は、研修会受講料収入、研修会のテキスト販売収入、他団体開催の研修会単位取得料である。

支出の部

科　　目	昭和62年度	63年度	平成1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
管理費	24,415	45,243	52,890	50,633	49,696	51,003	42,456	42,127	40,539
事業費	106,517	196,153	223,309	172,322	152,435	153,643	130,100	139,527	130,690
その他の支出	195,406	6,826	36,711	43,645	20,986	24,691	21,000	20,000	33,264
当期支出合計	326,337	248,222	312,911	266,600	223,117	229,337	193,557	201,653	204,493
当期収支差額	588	36,010	-5,638	4,412	15,475	-2,792	862	4,812	-27,138
次期繰越収支差額	588	36,598	30,960	35,372	50,847	48,055	48,918	53,729	26,591

登録医等養成事業の収支状況

科　　目	昭和62年度	63年度	平成1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
登録医審査料収入（更新料・登録料含む）	4,170	50,960	35,150	25,400	38,450	28,110	26,310	37,550	18,840
登録医審査費支出	549	7,140	10,543	7,783	6,860	9,235	7,011	8,386	9,095
収支差額	3,621	43,820	24,607	17,617	31,590	18,875	19,299	29,164	9,745

注）登録医審査費支出は、新規・更新審査費用、登録募集・更新事業費、登録医名簿発行費である。

教育研修会開催事業の収支状況

科　　目	昭和62年度	63年度	平成1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
受講料収入　（登録医）	—	—	5,845	5,222	7,504	5,376	5,810	7,714	6,657
受講料収入　（一般医）	—	—	13,490	9,000	5,370	6,010	7,320	7,900	8,360
受講料収入　　合　計	3,647	24,987	19,335	14,222	12,874	11,386	13,130	15,614	15,017
教育研修会費支出	5,717	15,541	20,334	19,051	18,168	22,607	18,650	21,607	20,412
収支差額	-2,070	+9,446	-999	-4,829	-5,294	-11,221	-5,520	-5,993	-5,395

注）昭和62・63年度の受講料収入はテキスト販売料、他団体主催の研修会単位取得料を含み、平成1年度以降は表示の通り受講料収

単位：千円

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	34,840	35,410	35,550	35,650	34,520	34,395	33,750	33,820	33,000	29,700	28,870	26,860
	74,959	109,767	122,605	105,199	79,920	62,671	77,842	80,810	95,416	74,726	73,310	52,094
	20,344	20,000	500	13,746	0	0	0	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	24,727	25,697	31,142	35,555	37,569	36,835	47,749	35,059	58,972	34,225	27,418	20,541
	22,860	50,370	86,290	49,810	42,200	25,830	28,790	39,180	23,320	24,180	35,290	20,240
	14	9,233	425	1,428	151	6	4	8	8	7	383	24
	7,013	4,467	4,248	4,659	0	0	1,299	2,562	9,116	12,314	6,219	7,289
	3,947	5,219	6,404	6,253	4,539	4,396	12,405	3,429	3,441	3,630	3,700	3,933
	61,856	49,002	51,940	53,802	90,241	89,063	160,880	161,765	154,304	90,997	59,248	37,132
	6,720	31,780	7,842	16,664	46,455	2,128	14,115	1,747	1,648	7,297	15,208	68,515
	4,508	461	0	0	945	5,000	35,143	18,336	120	815	436	5,781
	186,830	231,640	224,341	217,567	256,621	197,653	334,135	299,907	287,929	207,164	180,772	194,315
	26,591	36,949	73,509	122,603	54,258	58,313	39,560	65,997	71,738	74,353	76,482	77,811
	213,421	268,588	297,851	340,170	310,878	255,966	373,695	365,904	359,667	281,517	257,253	272,127

単位：千円

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	44,353	44,139	45,795	44,282	43,404	41,269	48,350	81,592	95,346	91,291	33,573	39,063
	125,227	122,530	121,107	135,706	151,538	150,117	242,668	190,243	147,920	105,142	128,070	157,633
	8,317	28,410	8,346	105,924	57,623	25,020	16,679	22,331	42,048	8,602	17,798	22,373
	177,896	195,079	175,248	285,912	252,565	216,406	307,698	294,166	285,314	205,036	179,442	219,069
	8,933	36,561	49,094	-68,345	4,055	-18,753	26,437	5,741	2,615	2,129	1,329	-24,754
	35,525	73,509	122,603	54,258	58,313	39,560	65,997	71,738	74,353	76,482	77,811	53,058

単位：千円

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	22,860	50,370	86,290	49,810	42,200	25,830	28,790	39,180	23,320	24,180	35,290	20,240
	8,137	10,710	14,264	10,331	12,019	13,276	10,344	10,404	7,742	5,462	8,364	10,669
	14,723	39,660	72,026	39,479	30,181	12,554	18,446	28,776	15,578	18,718	26,926	9,571

単位：千円

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	6,209	7,448	8,722	9,226	11,893	9,401	10,318	7,903	7,168	5,768	6,405	3,654
	9,370	7,410	7,560	7,250	7,460	6,900	8,210	4,250	4,190	3,690	3,580	2,850
	15,579	14,858	16,282	16,476	19,353	16,301	18,528	12,153	11,358	9,458	9,985	6,504
	25,458	23,922	24,819	31,810	39,287	37,598	52,422	34,599	25,270	23,537	19,920	21,198
	-9,879	-9,064	-8,537	-15,334	-19,934	-21,297	-33,894	-22,446	-13,912	-14,079	-9,935	-14,694

入のみである。

3. リウマチ登録医年度別推移

	登録番号	年度別新規登録医数	年度別 新規・更新										
			昭和61年度	62年度	63年度	平成1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
第1次（昭和61年度）	1 ~1177	1,072	1,072			992			942			874	
第2次（昭和62年度）	1234 ~1464	164	→	164			150			147			140
第3次（昭和63年度）	1500 ~1702	196		→	196			175			165		
第4次（平成1年度）	1801 ~2056	253			→	253			230			219	
第5次（平成2年度）	2100 ~2332	227				→	227			198			190
第6次（平成3年度）	2401 ~2592	187					→	187			164		
第7次（平成4年度）	2601 ~2778	178						→	178			164	
第8次（平成5年度）	2801 ~2968	168							→	168			146
第9次（平成6年度）	3001 ~3194	194								→	194		
第10次（平成7年度）	3201 ～ 3258	58									→	58	
第11次（平成8年度）	3301 ～ 3413	113										→	113
第12次（平成9年度）	3501 ～ 3869	364											→
第13次（平成10年度）	3900 ～ 4584	679											
第14次（平成11年度）	4601 ～ 4959	350											
第15次（平成12年度）	5001 ～ 5435	419											
第16次（平成13年度）	5501 ～ 5587	87											
第17次（平成14年度）	5601 ～ 5689	89											
第18次（平成15年度）	5701 ～ 5799	99											
第19次（平成16年度）	5801 ～ 5861	61											
第20次（平成17年度）	5871 ～ 5919	49											
第21次（平成18年度）	5921 ～ 5984	64											
第22次（平成19年度）	5991 ～ 6040	50											
第23次（平成20年度）	6041 ～ 6077	37											
審査実施数		新規	1,072	164	196	253	227	187	178	168	194	58	113
		更新				992	150	175	1,172	345	329	1,257	476
		合計	1,072	164	196	1,245	377	362	1,350	513	523	1,315	589

平成20年6月1日

登録医数												年度別登録医数	
9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	現在数	年度	登録医
	825			783			749			715		712	昭和61	1,072
		132			120			119			110	110	62	1,236
152			146			141			138			138	63	1,432
	210			195			187			180		180	平成1年	1,605
		181			166			157			148	148	2	1,822
149			145			130			125			124	3	1,989
	152			144			136			128		128	4	2,095
		145			139			133			125	125	5	2,226
181			171			165			156			157	6	2,384
	52			53			52			47		47	7	2,351
		104			101			100			89	89	8	2,427
364			309			285			273			271	9	2,746
→	679			577			521			478		478	10	3,362
	→	350			302			285			262	262	11	3,682
		→	419			328			299			299	12	4,024
			→	87			75			68		69	13	3,947
				→	89			83			77	77	14	3,952
					→	99			91			92	15	3,910
						→	61			55		55	16	3,857
							→	49			44	44	17	3,858
								→	64			64	18	3,846
									→	50		50	19	3,793
										→	37	37	20	3,756
364	679	350	419	87	89	99	61	49	64	50	37			
482	1,239	562	771	1,752	828	1,049	1,720	877	1,082	1,671	855			
846	1,918	912	1,190	1,839	917	1,148	1,781	926	1,146	1,721	892			

注）前回更新時と現在数との差　更新後逝去により減少（昭和61・平成3・9）留学帰国後更新により増加（平成6・13・15）

・日本リウマチ財団登録医の都道府県別勤務状況

平成20年6月1日

都道府県	登録医数	登録医の勤務している診療所・病院数		都道府県	登録医数	登録医の勤務している診療所・病院数	
		診療所	病　院			診療所	病　院
北　海　道	138	55	60	滋　賀　県	37	23	8
青　森　県	18	8	8	京　都　府	85	39	29
岩　手　県	32	17	10	大　阪　府	316	168	85
宮　城　県	45	19	19	兵　庫　県	200	108	63
秋　田　県	24	10	9	奈　良　県	36	17	14
山　形　県	20	16	2	和歌山県	20	11	7
福　島　県	52	23	20	鳥　取　県	34	13	12
茨　城　県	56	24	23	島　根　県	23	7	9
栃　木　県	45	28	9	岡　山　県	79	34	33
群　馬　県	68	38	20	広　島　県	90	41	37
埼　玉　県	117	61	37	山　口　県	62	34	23
千　葉　県	93	41	33	徳　島　県	26	9	15
東　京　都	439	183	96	香　川　県	36	17	14
神奈川県	240	113	61	愛　媛　県	55	24	22
山　梨　県	26	18	7	高　知　県	25	11	11
長　野　県	70	25	21	福　岡　県	210	115	64
新　潟　県	61	22	24	佐　賀　県	38	19	11
富　山　県	40	15	13	長　崎　県	51	15	18
石　川　県	33	17	13	熊　本　県	82	36	34
福　井　県	31	15	11	大　分　県	63	23	23
岐　阜　県	75	43	23	宮　崎　県	38	19	15
静　岡　県	101	56	30	鹿児島県	63	33	17
愛　知　県	192	94	55	沖　縄　県	13	8	3
三　重　県	58	37	18	合　　計	3,756	1,802	1,189

4. リウマチ教育研修会年次別参加状況（登録医、一般医の別）

	登録医（人）	一般医（人）	合　計（人）
昭和63年度	–	–	1,668
平成1年度	459	969	1,428
平成2年度	400	672	1,072
平成3年度	540	401	941
平成4年度	432	463	895
平成5年度	474	524	998
平成6年度	700	616	1,316
平成7年度	547	522	1,069
平成8年度	561	573	1,134
平成9年度	682	459	1,141
平成10年度	780	462	1,242
平成11年度	880	451	1,331
平成12年度	1,109	430	1,539
平成13年度	883	396	1,279
平成14年度	948	495	1,443
平成15年度	769	255	1,024
平成16年度	664	251	915
平成17年度	532	235	767
平成18年度	603	218	821
平成19年度	360	181	541
合　　計	12,323	8,573	22,564

5. リウマチのケア研修会　地区別・職種別受講者年次推移

	開催地区 開催場所	北海道・東北									関東・甲信越								
	開催年度（平成）	12	13	14	15	16	17	18	19	合計	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
職種	医　師	39	35	27	17	19	17	7	24	185	73	21	41	24	35	43	14	34	285
	薬剤師	3	6	2	7	3	1	1	0	23	15	13	2	3	2	2	0	12	49
	看護師	33	92	46	22	41	3	25	47	309	87	27	58	19	28	60	9	68	356
	理学療法士	12	8	16	14	11	7	25	17	110	26	8	41	7	14	52	5	32	185
	作業療法士	15	9	11	25	11	8	20	19	118	17	15	34	5	12	18	7	27	135
	保健師	14	8	0	0	3	0	1	0	26	37	13	7	0	0	1	0	0	58
	ソーシャルワーカー	0	4	0	1	2	3	0	0	10	2	1	1	3	1	0	0	3	11
	介護福祉士	0	2	0	0	4	1	1	0	8	3	7	3	3	0	1	0	1	18
	ヘルパー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	6	13	10	17	5	2	7	33	93	7	12	19	14	5	15	30	16	118
合　計		122	177	112	103	99	42	87	140	882	267	117	206	78	97	192	65	193	1,215

	開催地区 開催場所	中国・四国									九　　州								
	開催年度（平成）	12	13	14	15	16	17	18	19	合計	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
職種	医　師	27	0	31	24	27	26	6	25	166	0	30	24	26	19	8	6	7	120
	薬剤師	4	0	26	1	1	10	0	3	45	0	8	27	2	3	20	2	1	63
	看護師	40	0	130	130	28	52	18	56	454	0	87	51	114	154	27	58	16	507
	理学療法士	20	0	34	39	60	60	7	11	231	0	15	32	31	70	9	22	16	195
	作業療法士	15	0	22	43	55	23	1	19	178	0	17	16	18	62	9	15	10	147
	保健師	4	0	2	7	3	0	3	2	21	0	19	0	3	4	1	0	0	27
	ソーシャルワーカー	3	0	3	2	0	1	0	0	9	0	5	2	13	4	3	0	0	27
	介護福祉士	1	0	9	3	1	1	0	1	16	0	0	1	35	20	2	2	0	60
	ヘルパー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9	2	0	0	12
	栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	5
	その他	5	0	26	17	44	8	0	21	121	0	5	19	49	26	7	4	0	110
合　計		119	0	283	266	219	181	35	138	1,241	0	188	172	291	374	89	109	50	1,273

	開催地区 開催場所	東海・北陸									近　　畿								
	開催年度（平成）	12	13	14	15	16	17	18	19	合計	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
職種	医　師	0	57	33	39	14	4	9	15	171	0	75	20	27	31	17	36	8	214
	薬剤師	0	3	4	3	0	0	0	8	18	0	9	4	0	15	6	16	1	51
	看護師	0	29	75	79	41	8	10	7	249	0	93	67	37	40	135	47	28	447
	理学療法士	0	17	11	31	16	22	53	11	161	0	21	23	32	28	56	63	22	245
	作業療法士	0	14	17	24	19	18	41	6	139	0	29	19	16	16	21	37	16	154
	保健師	0	0	7	4	3	0	0	0	14	0	15	6	0	2	1	0	1	25
	ソーシャルワーカー	0	1	2	1	8	0	0	0	12	0	0	3	0	7	3	0	0	13
	介護福祉士	0	2	6	0	0	0	1	0	9	0	1	21	1	0	0	0	0	23
	ヘルパー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	10	15	19	2	51	4	27	128	0	18	42	25	7	2	20	4	118
合　計		0	133	170	200	103	103	118	74	901	0	261	205	138	146	241	219	80	1,290

	合　　計									
	開催年度（平成）	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
職種	医　師	139	218	176	157	145	115	78	113	1,141
	薬剤師	22	39	65	16	24	39	19	25	249
	看護師	160	328	427	401	332	285	167	222	2,322
	理学療法士	58	69	157	154	199	206	175	109	1,127
	作業療法士	47	84	119	131	175	97	121	97	871
	保健師	55	55	22	14	15	3	4	3	171
	ソーシャルワーカー	5	11	11	20	22	10	0	3	82
	介護福祉士	4	12	40	42	25	5	4	2	134
	ヘルパー	0	1	0	0	9	2	0	0	12
	栄養士	0	1	0	0	3	1	0	0	5
	その他	18	58	131	141	89	85	65	101	688
合　計		508	876	1,148	1,076	1038	848	633	675	6,802

注）1）平成12年度は、北海道・東北、関東・甲信越、中国・四国の3地区で実施
2）平成15年度以降全体的に受講者は減少傾向にある。
3）地区の累計受講者数は、近畿（1,290名）、九州（1,273名）、中国・四国（1,241名）、関東・甲信越（1,215名）、東海・北陸（901名）、北海道・東北（882名）の順となっている。
4）職種別受講者総数は、看護師 2,322名（34.1%）、医師1,141名（16.7%）、理学療法士 1,127名（16.7%）、作業療法士871名（12.8%）、その他688名（10.1%）

6. リウマチ・アレルギー科標榜診療所・病院数

リウマチ科・アレルギー科を標榜する病院及び診療所数について

医師が標榜とする診療科名は少なくとも医師が関心を持つ診療領域を指すものであり、患者が医療機関を受診する際の選択の目安となる。

平成8年、医療法の定める標榜科として「リウマチ科」「アレルギー科」が新設されたが、その数の推移について以下にその概要を示す。

調査年	リウマチ科		アレルギー科	
	病院数	診療所数	病院数	診療所数
平成8年	254施設	1,089施設	99施設	880施設
平成9年	475施設	−	205施設	−
平成10年	558施設	−	240施設	−
平成11年	766施設	2,492施設	311施設	2,672施設
平成12年	802施設	−	326施設	−
平成13年	848施設	−	343施設	−
平成14年	924施設	3,192施設	396施設	4,084施設
平成15年	946施設	−	408施設	−
平成16年	970施設	−	411施設	−
平成17年	1,022施設	3,761施設	431施設	5,356施設
平成18年	1,043施設	−	437施設	−
平成19年	1,077施設	−	452施設	−

＜厚生労働省「医療施設（動態・静態）調査」による＞

※「診療所」は、平成8年、11年、14年、17年の静態調査で把握している。

大学病院におけるリウマチ科標榜

東邦大学医療センター大森病院
リウマチ膠原病センター
川合　眞一

（財）日本リウマチ財団リウマチ月間リウマチ講演会
リウマチ科標榜10周年記念講演会
2007年5月31日・丸ビルホール（東京）
シンポジウム：リウマチ科標榜によりリウマチの診察はどう変わったか

大学病院「リウマチ」標榜調査

目的：「リウマチ科」標榜が可能となった後、大学病院の診療科において「リウマチ科」または「リウマチ」と標榜されているか否かの現状を調査する。

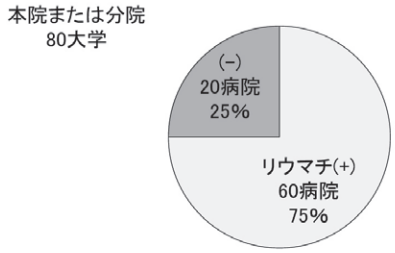
方法：インターネットを利用して大学病院のホームページを検索した。

対象：80医科大学・医学部付属病院

調査：2007年1月

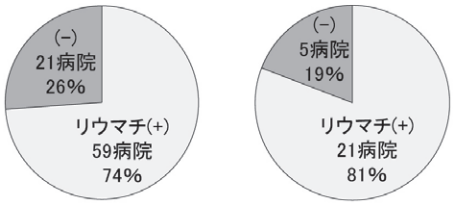
Kawai S　Toho Univ

「リウマチ」診療を謳っている大学病院



Kawai S　Toho Univ

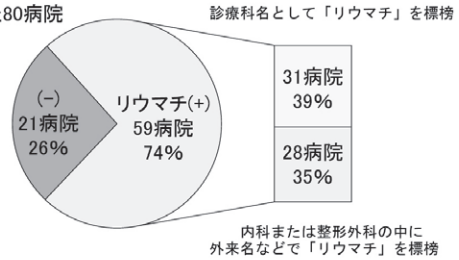
「リウマチ」診療を謳っている大学病院



本院または大学本部に併設した80病院　　分院など26大学病院

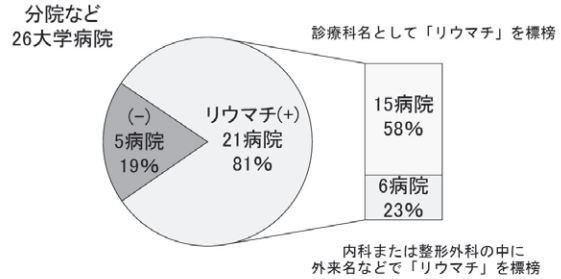
Kawai S　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院



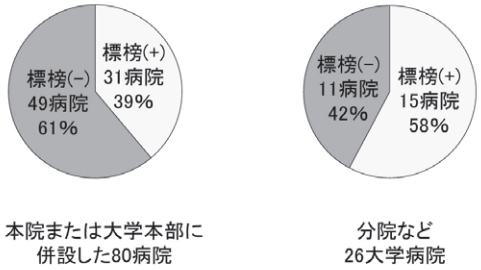
Kawai S　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院



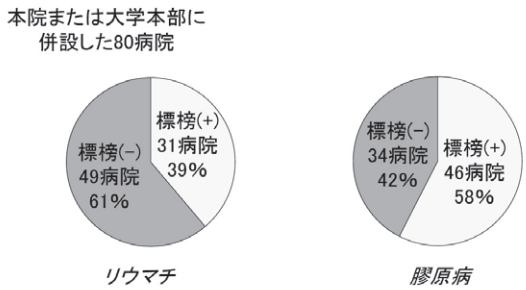
Kawai S　　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院



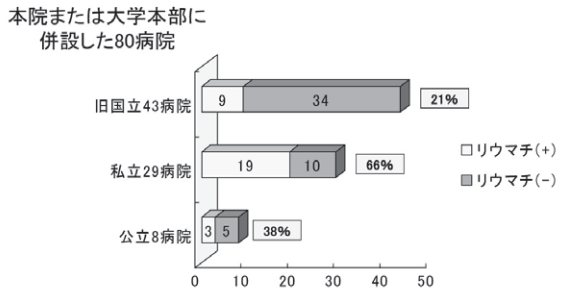
Kawai S　　Toho Univ

「リウマチ」と「膠原病」の標榜



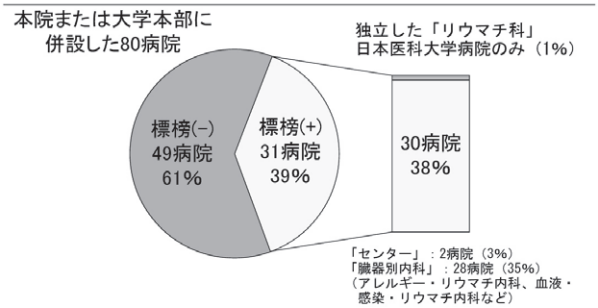
Kawai S　　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院（国・公・私立別）



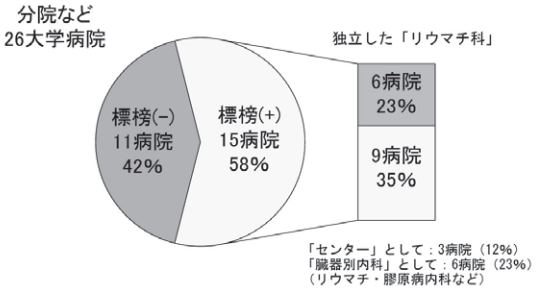
Kawai S　　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院



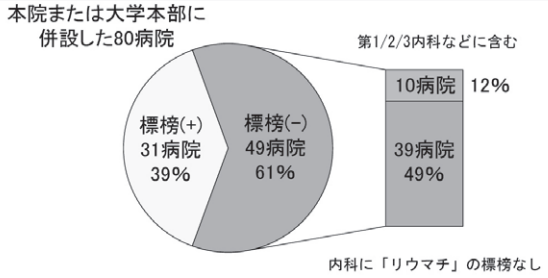
Kawai S　　Toho Univ

診療科名として「リウマチ」を標榜している大学病院



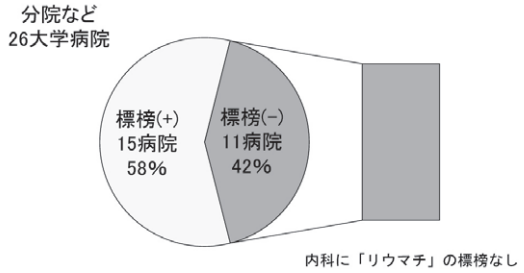
Kawai S　　Toho Univ

内科の外来名などに「リウマチ」診療を標榜している大学病院



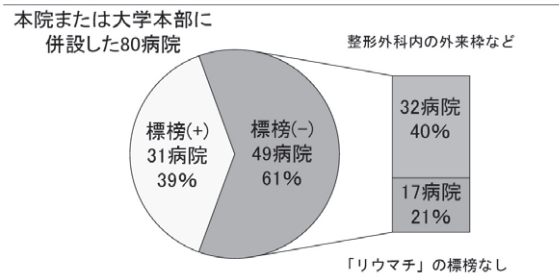
Kawai S　Toho Univ

内科の外来名などに「リウマチ」診療を標榜している大学病院



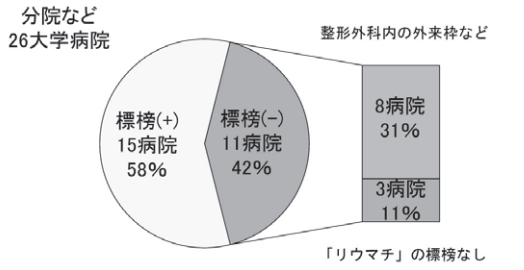
Kawai S　Toho Univ

整形外科の外来名などに「リウマチ」診療を標榜している大学病院



Kawai S　Toho Univ

整形外科の外来名などに「リウマチ」診療を標榜している大学病院



Kawai S　Toho Univ

まとめ

- 何らかの形で外来枠に「リウマチ」診療を謳っていた大学は60大学（75%）であったが、謳っていない大学も20大学（25%）あった。
- 診療科として「リウマチ科」を標榜する大学は1校のみであり、「リウマチ」を含む診療科名（リウマチ膠原病内科など）を有するのは本院では30大学（38%）、分院では15大学(58%)であった。
- 「リウマチ」を診療科として標榜する本院31の設立母体は、国立：9/43（21%)、私立：19/29（66%)、公立：3/8（38%)であり、私立大学病院でもっとも多かった。
- 「膠原病」を標榜する診療科は46大学（58%）であった。
- 診療科名に「リウマチ」を含まない場合、内科または整形外科などの診療科の中に外来枠としてリウマチ名を標榜している大学が多かった。

Kawai S　Toho Univ

７．財団事業推移

年表

昭和62年11月	日本リウマチ財団設立認可 （日本リウマチ協会よりリウマチ登録医制度、教育研修制度、海外派遣研修医制度、リウマチエキスパート発行、薬効検定委員会等の諸事業を引き継ぐ）
62年12月	第１回運営委員会開催
63年１月	財団設立披露パーティー
63年３月	リウマチエキスパート第3号 発行（1・2号は日本リウマチ協会発行） 登録医審査委員会（日本リウマチ協会引き継ぎ）初審査 税制上の特定公益増進法人認定（以降2年ごと更新）
63年４月	財団委員会規程制定 日本リウマチ財団ニュース第1号発行 教育研修委員会設置
63年５月	「リウマチ月間」制定、（63年度はポスター作成のみ、平成元年度から毎年度講演会など月間行事を実施）
63年８月	（財）日本リウマチ財団・米国及び欧州派遣研修医制度制定、63年度の派遣医募集
63年度	リウマチ性疾患調査・研究助成事業実施
平成元年３月	財団シンボルマーク制定
２年度	日本チバガイギー・リウマチ賞制定（平成9年ノバルティス・リウマチ医学賞となる） 北陸製薬･骨、関節疾患学術奨励賞制定（現在のアボットジャパン･リウマチ性疾患臨床医学賞） 三浦記念リウマチ学術研究賞制定 日本リウマチ財団リウマチ福祉賞制定
３年９月	都道府県リウマチ登録医と患者の会の指定制度制定
４年３月	第１回国際リウマチシンポジウム開催
４年度	リウマチのリハビリテーション実地研修会（9年度まで全国34地区）
４・５年度	リウマチのリハビリテーション事業実施（30施設、60名）
５年５月	リウマチエキスパート編集委員会設置
５年10月	リウマチのケア研究委員会設置
５年度	ツムラ・リウマチ臨床研究賞制定（現在のツムラ・骨関節臨床医学賞） リウマチのケアに関する研究会開催（8年度まで65件）
６年度	在宅リウマチ患者リハビリテーションモデル事業実施
７年度	在宅リウマチ患者ケアモデル事業実施（32地区）
８年３月	標榜科対策委員会第１回会議開催
９年３月	財団設立10周年記念式典挙行
９・10年度	リウマチのトータルモデル事業、リウマチのケア教室事業実施
10年２月	リウマチ情報センター運用開始
10年11月	日欧リウマチ外科交換派遣医制度要綱制定（11年度より派遣）
10年度	日本リウマチ財団柏崎リウマチ教育賞制定
11年９月	メルボルン派遣医募集要綱制定（12年度より派遣）

12年度	リウマチのケア研修会実施（以降毎年度）
13年度	日本リウマチ財団日本ワイスレダリー国際賞制定（現在の日本リウマチ財団・ワイス国際賞）
14年2月	リウマチ性疾患国内評価委員会設置
14年4月	財団ニュース編集委員会設置 骨・関節疾患対策10年国際会議開催
15年6月	線維筋痛症調査研究委員会設置
15年9月	登録医ネットワーク化委員会設置
15年10月	災害時リウマチ患者支援特別委員会設置
17年10月	災害時リウマチ患者支援検討会設置
19年4月	医療保険委員会設置 災害時リウマチ患者支援事業実施要綱制定
19年9月	災害時リウマチ患者支援事業推進委員会設置 災害時リウマチ患者支援事業実施を関係者へ通知
20年9月	財団設立20周年記念式典挙行

財団発行刊行物一覧

1. リウマチ教育研修会テキスト（平成2年6月）

教育研修委員会（安倍達委員長）の編集発行であり、執筆者16名。
臨床免疫学、結合組織病の病理、臨床検査、リウマチの治療、リウマチ性疾患の臨床について記述。全173ページ。

2. リウマチ診療レポート（平成3年12月）

編　集：慢性関節リウマチ診療実態調査委員会（委員長　柏崎禎夫）
発　行：日本リウマチ財団
昭和63年に設置した慢性関節リウマチ診療実態調査委員会の調査結果をまとめたものであり、リウマチ診療の実態調査結果、リウマチ患者の動態、我が国のリウマチ対策の現状と将来、諸外国の対策の現状等から構成されており、リウマチ対策について財団が提言している。全219ページ。

3. 平成4年度リウマチのリハビリテーション普及推進事業報告書（平成5年3月）

松山赤十字病院リウマチセンター部長山本純己先生の企画運営のもと、リウマチ患者の身体機能の維持増進、社会復帰の促進等に資することを目的に、厚生省の補助事業として実施した事業の報告書であり、理学療法、装具療法等について報告し、全国6地区975名の参加を得て実施した、リウマチのリハビリテーション実地研修会についても報告している。全68ページ。

4. リウマチ教育研修会テキスト（第2版）（平成5年6月）

監修：松井宣夫教育研修委員長、東 威教育研修副委員長
教育研修委員会編集発行であり、執筆者（教育研修委員会委員）16名。
臨床免疫、リウマチ性疾患と炎症、リウマチ性疾患の病理、病態、臨床検査、慢性関節リウマチの治療、リウマチ性疾患の臨床について記述、巻末にQ＆Aが付いており、全235ページ。

5. 薬効評価の新しい展開（平成5年9月）

薬効検定委員会（委員長　東 威）の編集、発行者　山形正弘、発行所は（株）医科学出版社、平成5年3月に開催された日本リウマチ財団薬効検定委員会シンポジウムの記録であり、RAの長期的薬効評価法、医薬品の臨床試験の実施に関する基準、変形性関節症（OA）における薬物評価が主題である。
前身である日本リウマチ協会薬効検定委員会が、抗炎症剤の薬効判定、薬効の評価基準等をテーマに3回のシンポジウムを開催し記録している。全199ページ。

6. 平成5年度リウマチのリハビリテーション普及推進事業報告書（平成6年3月）

平成4年度に続く事業報告書であり、家庭でできる慢性関節リウマチの運動療法、慢性関節リウマチ患者の下肢機能訓練における寒冷療法の有用性等20のテーマについて報告しており、全国6地区1,324名の参加を得て行ったリウマチのリハビリテーション実地研修会についても報告している。全75ページ。

7. 平成6年度リウマチのリハビリテーション普及推進事業報告書（平成7年3月）

平成5年度事業に続く事業報告書であり、全国15の病院で、1,433名の参加を得て実施した相談事業、アンケート調査結果等について報告しており、全国6地区961名の参加を得て実施した、リウマチのリハビリテーション実地研修会についても報告している。全130ページ。

8. 平成7年度在宅リウマチ患者ケアモデル事業報告書（平成8年3月）

厚生省の補助事業の報告書であり、全国18病院において、1,210名の参加を得て行われた在宅患者リウマチ教室、相談事業、補助具の展示等の事業について報告、全国6地区、1,257名の参加を得て実施した、リウマチのリハビリテーション（ケア）事業についても報告している。全107ページ。

9. リウマチ教育研修テキスト（第3版）（平成8年6月）

松井宣夫教育研修委員長、東 威教育研修副委員長監修、教育研修委員会編集発行であり、執筆者（教育研修委員会委員）16名。

臨床免疫、リウマチ性疾患と炎症、リウマチ性疾患の病理、病態、リウマチ性疾患の診断、リウマチ性疾患の分類、疫学、慢性関節リウマチの臨床、その他のリウマチ性疾患、について記述，Q＆A、索引が付いている。全291ページ。平成9年11月第2刷発行。

10. 慢性関節リウマチの診察・治療マニュアル（平成9年1月）

監　修：厚生省保健医療局疾病対策課、編集：厚生省長期慢性疾患総合研究事業リウマチ班

発行者：日本リウマチ財団

「慢性関節リウマチ患者の診察のガイドライン」と「慢性関節リウマチ患者に対する治療のガイドライン」で構成、記述内容、執筆者はそれぞれ次の通り。

診察のガイドラインは

第一章　慢性関節リウマチの症状、診断……齋藤輝信
第二章　関節の診察法……鳥巣岳彦
第三章　臨床検査……東　　威
第四章　リウマチ性疾患の画像診断（骨・関節）……松井宣夫

治療のガイドラインは

第一章　総論……柏崎禎夫
第二章　薬物療法……柏崎禎夫
第三章　手術療法 ……米延策雄・越智隆弘
第四章　リハビリテーション……米延策雄・越智隆弘
第五章　ケアと装具……山本純己

11. 日本リウマチ財団設立10年の事業実績（平成9年3月）

財団設立10周年に当たり、設立以来の事業実績を収録したものであり、調査研究事業、教育研修事業、リウマチ登録医の登録事業、普及啓発事業、国際交流及び関連団体への助成事業、厚生省助成事業について記述している。

12. 平成8年度リウマチのトータルケアモデル事業報告書（平成9年3月）

厚生省の補助事業報告書であり、全国19の病院において実施した在宅リウマチ患者ケア教室、講演、個別相談、アンケート調査など、実施結果について報告し、全国6地区で、1,615名の参加を得て実施したリウマチのリハビリテーション（ケア）研修会についても報告している。全135ページ。

13. 平成9年度リウマチのトータルケアモデル事業報告書（平成10年3月）

厚生省の補助事業として8年度に引き続いて、全国16の病院において実施した事業について報告し、1,209名の参加を得て全国6地区で開催した、リウマチのリハビリテーション（ケア）実地研修会についても報告している。全144ページ。

14. 平成10年度リウマチの在宅ケア試行的事業報告書（平成11年3月）

厚生省の補助事業として、全国11の病院で実施した在宅リウマチ患者ケア教室事業について報告し、898名の参加を得て、全国4地区で開催したリウマチのリハビリテーション（ケア）地区研修事業についても報告している。全151ページ。

15. リウマチハウジング（リウマチ患者さんのための住宅改造事例集）（平成11年3月）

責任監修：村山隆司
編　　集：西野 学、庭田祐子
発　　行：日本リウマチ財団
平成10年度の厚生省の補助事業リウマチの在宅ケア試行的事業の一環であり、場所別の住宅の改造事例等を紹介しており、住宅改造に関する助成制度についても記述している。全43ページ。

16. リウマチ教育研修会テキスト（第4版）（平成11年7月）

監　　修：吉野槇一　教育研修委員長、山本純己　教育研修副委員長
編集発行：日本リウマチ財団教育研修委員会、執筆者23名
リウマチ性疾患の基礎知識、リウマチ性疾患の診断、リウマチ性疾患の分類、疫学、各種リウマチ性疾患、血清反応陰性脊椎関節炎、小児リウマチ性疾患、リウマチ性疾患の主な治療法、在宅ケアと福祉について記述，Q＆A、索引を付けている。全387ページ。

17. 関節疾患の診断と治療　～膝関節編～（平成13年7月）

監　修：井上和彦、木村友厚、後藤 眞、西岡久寿樹
企　画：日本リウマチ財団
制　作：センターフイールド
日常の診断と治療に役立つ関節治療としての穿刺と注射方法を映像化（ビデオ19分）。

18. リウマチ基本テキスト（平成14年7月）

編集発行：財団法人日本リウマチ財団教育研修委員会
編集協力：日本リウマチ学会生涯教育研修委員会、執筆者63名
協　　賛：田辺製薬株式会社
平成8年のリウマチ科標榜認可以来、財団登録医を中心としたリウマチ地域医療の充実が一層求められるようになったことを背景に、財団教育研修委員会が研修会の充実を目指してテキスト再編に取り組んだ成果である。従前のテキストの反省、今後のリウマチ医療の方向性を考え、リウマチ性疾患の全体にわたって網羅している。全655ページ。

19. 関節リウマチの診療マニュアル（改訂版）診断のマニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン（平成16年4月）

編　　集：越智隆弘、山本一彦、龍 順之助
編集協力：メディカルビュー社
発　　行：日本リウマチ財団
診断のマニュアルは次の構成
　第一章　関節リウマチ（RA）の症状、診断
　第二章　関節の診察法
　第三章　臨床検査値
　第四章　リウマチ性疾患の画像診断（骨・関節）
治療ガイドラインは次の構成
　第一章　総論
　第二章　関節リウマチの（RA）の薬物療法総論
　第三章　非ステロイド系消炎鎮痛薬（NSAIDs）
　第四章　ステロイド薬
　第五章　抗リウマチ薬
　第六章　免疫抑制薬・生物学的製剤
　第七章　手術療法総論
　第八章　上肢の手術療法
　第九章　下肢の手術療法

第十章　頚椎の手術療法
第十一章　リハビリテーション

20. 骨・関節疾患対策10年『2000―2010』国際会議　（平成16年9月）
編　集：アンソニー・D・ウルフ、七川歓次
発　行：日本リウマチ財団
Journal of Rheumatology　平成15年8月号の別冊　「骨・関節疾患対策10年《2000―2010》の国際会議」の日本語版、世界各国の骨・関節疾患の現状などが紹介されている。

21. リウマチ基本テキスト（第2版）（平成17年5月）
編集発行：財団法人日本リウマチ財団教育研修委員会
編集協力：日本リウマチ学会生涯教育研修委員会　執筆者65名
平成14年7月発行のリウマチ基本テキスト改訂版、改訂は小幅。

22. eラーニング「関節リウマチ患者の治療アウトカム改善をめざして―リウマチ治療の連携アプローチ―」（平成17年7月）
著　作：Thomson Physicians World、財団法人日本リウマチ財団、コルビーグループインターナショナル
監　修：日本リウマチ財団
第一章　臨床像と診断
第二章　進行抑制のポイント
第三章　治療
第四章　病態生理
第五章　生物学的製剤
第六章　評価法
で構成されている。インターネット版、CD・ROM版も作成し登録医等へ配布。履修した者には教育研修単位3単位付与。

23. 新規治療のための市販後臨床試験プラクティス（関節リウマチ編）（平成17年8月）
監　修：川合眞一
企　画：日本リウマチ財団
臨床試験と市販後臨床試験、関節リウマチの臨床試験における評価方法などについて、市販後臨床試験に関わる医療スタッフの啓発普及用にDVDビデオを制作。

24. 患者さんのための関節リウマチ治療ガイドライン（平成18年3月）
編　集：日本リウマチ財団
監　修：越智隆弘
発行所：医歯薬出版
医師向けの治療ガイドラインの内容を患者さん向けにわかりやすくまとめたもの。関節リウマチという病気をよく知ること。医師と治療情報を共有すること。積極的に治療に参加することなどについて記述している。

25. eラーニングリウマチ登録医のための生涯教育「線維筋痛症」（平成20年3月）
監修：西岡久寿樹、浦野房三、長田賢一、松本美富士、行岡正雄、磯村達也
制作：日本リウマチ財団、株式会社　CGI
eラーニング第2弾
第一章　疫学
第二章　臨床症状
第三章　検査
第四章　診断
第五章　治療
で構成されている。インターネット版、CD・ROM版も作成し登録医等へ配布。履修した者には教育研修単位3単位付与。

以上の他、リウマチエキスパート（昭和62年3月から平成15年8月）、日本リウマチ財団ニュース（昭和62年4月～）を発行し、登録医等、関係者等へ定期的に情報提供している。

8. 厚生労働大臣感謝状贈呈状況

個人

贈呈年度	氏　名	住　所
平成6年度	浅野　健三	岐阜県岐阜市
	芦田　　信	兵庫県芦屋市
	井戸　幸子	愛知県名古屋市
	内匠屋　理	東京都渋谷区
	木村　富貴	埼玉県大宮市
	後藤　安子	東京都品川区
	高崎　三男	大分県大分市
	高瀬義太郎	東京都文京区
	竹田　陽子	東京都世田谷区
	千野　薫子	東京都杉並区
	中島　敬雄	東京都品川区
	原　　和安	兵庫県芦屋市
	横田　信一	兵庫県西宮市
	吉田　　治	京都府長岡京市
平成7年度	芦田　　信	兵庫県芦屋市
	石迫美枝子	福岡県北九州市
	加藤　幸彦	広島県広島市
	須川　　保	神奈川県横浜市
	高崎　三男	大分県大分市
平成8年度	芦田　　信	兵庫県芦屋市
	新名　篤子	埼玉県所沢市
	高崎　三男	大分県大分市
	横尾　孝子	愛知県名古屋市
平成9年度	梶川　昭一	神奈川県横浜市
	高崎　三男	大分県大分市
平成10年度	柏崎　順子	東京都調布市
	川嶋喜代子	東京都世田谷区
	高崎　三男	大分県大分市
	山名　征三	広島県東広島市
平成11年度	天野　和夫	京都府京都市
	梅木　敏子	鹿児島県国分市
	高崎　三男	大分県大分市
	中村　達郎	神奈川県横浜市
平成13年度	大平　　清	東京都八王子市
	楠本　　正	千葉県袖ヶ浦市
	徳永　五郎	東京都渋谷区
平成14年度	長屋　郁郎	愛知県名古屋市
平成15年度	塩川　優一	東京都文京区
	南口　晋介	東京都杉並区
	望月　輝夫	東京都府中市
平成17年度	原田　裕市	宮城県塩釜市
平成19年度	竹葉　京子	奈良県生駒市
平成20年度	工藤　　厚	東京都府中市
	宮本　勝昌	静岡県御殿場市

法人

贈呈年度	法人名	所在地
平成6年度	鈴幸商事株式会社	神奈川県横浜市中区
平成7年度	三笠製薬株式会社	東京都練馬区
平成9年度 財団設立10周年記念式典にて贈呈（3月5日）	旭化成工業株式会社	東京都港区
	エーザイ株式会社	東京都文京区
	三共株式会社	東京都中央区
	参天製薬株式会社	大阪府大阪市東淀川区
	大正製薬株式会社	東京都豊島区
	武田薬品工業株式会社	大阪府大阪市中央区
	中外製薬株式会社	東京都中央区
	日本ケミファ株式会社	東京都千代田区
	日本チバガイギー株式会社	兵庫県宝塚市
	日本モンサント株式会社	大阪府大阪市西区
	萬有製薬株式会社	東京都中央区
	ファイザー製薬株式会社	東京都新宿区
	北陸製薬株式会社	東京都渋谷区
平成15年度	（社）日本リウマチ友の会東京支部	東京都世田谷区
平成20年度 財団設立20周年記念式典にて贈呈（9月27日）	旭化成クラレメディカル株式会社	東京都千代田区
	旭化成ファーマ株式会社	東京都千代田区
	アステラス製薬株式会社	東京都中央区
	アボット ジャパン株式会社	東京都港区
	エーザイ株式会社	東京都文京区
	サノフィ・アベンティス株式会社	東京都新宿区
	参天製薬株式会社	大阪府大阪市東淀川区
	塩野義製薬株式会社	大阪府大阪市福島区
	第一三共株式会社	東京都品川区
	大日本住友製薬株式会社	東京都中央区
	武田薬品工業株式会社	大阪府大阪市中央区
	田辺三菱製薬株式会社	大阪府大阪市中央区
	中外製薬株式会社	東京都中央区
	株式会社 ツムラ	東京都港区
	帝人ファーマ株式会社	東京都千代田区
	日本臓器製薬株式会社	大阪府大阪市中央区
	ノバルティス ファーマ株式会社	東京都港区
	万有製薬株式会社	東京都千代田区
	久光製薬株式会社	東京都千代田区
	ファイザー株式会社	東京都渋谷区
	ワイス株式会社	東京都品川区

注）財団の運営に対し寄附等多大な御尽力を頂いた個人・法人に贈呈された

9. 歴代財団役員・委員会委員一覧

理事・監事　顧問・参与

平成20年4月1日現在

役職	役員名	所属機関	就任期間	備考
理事長	塩川　優一	順天堂大学名誉教授	昭和62.11.1～平成14.3.31	平成14.4.1～名誉理事長
	髙久　史麿	自治医科大学学長	平成14.4.1～	平成9.4.1～理事
副理事長	幸田　正孝	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長	平成14.4.1～	平成2.4.1～理事
	七川　歓次	滋賀医科大学名誉教授	昭和62.11.1～平成14.3.31	
	本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成3.3.28～13.5.31	昭和62.11.1～理事 平成13.5.31 逝去
専務理事	今村　　寛	財団法人日本リウマチ財団	平成17.4.1～19.3.31	
	田中　治彦		平成2.4.1～11.3.31 12.4.1～15.6.30 16.4.1～17.3.31	
	林　　崇		昭和62.11.1～平成2.3.31	
	森　　眞一		平成19.4.1～	
	吉里　　實		平成15.7.1～16.3.31	
常任理事	越智　隆弘	大阪警察病院院長	平成10.6.9～	平成9.6.6～理事
	西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センターセンター長	平成10.6.9～	平成2.4.1～理事
理事	東　　威	聖マリアンナ医科大学元教授	平成10.4.1～12.3.31	
	石丸　隆治	財団法人日本公衆衛生協会会長	昭和62.11.1～平成13.3.31	
	大熊由紀子	朝日新聞社論説委員	昭和62.11.1～平成8.3.31	
	狩野　庄吾	自治医科大学名誉教授	平成10.4.1～	
	京極　方久	東北大学名誉教授	昭和62.11.1～平成10.3.31	
	小出　五郎	日本放送協会解説委員	平成10.4.1～18.3.31	
	斎藤　十朗	参議院議員	昭和62.11.1～平成18.3.31	
	佐々木智也	東京大学名誉教授	昭和62.11.1～平成8.3.31	
	島田　廣子	社団法人日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長	昭和62.11.1～	
	田中順一郎	三井不動産株式会社代表取締役会長	平成10.9.1～	
	津島　雄二	衆議院議員	平成18.4.1～	
	角田　泰造	女子美術大学教授	昭和62.11.1～平成10.3.31	
	坪井　　東	三井不動産株式会社会長	昭和62.11.1～平成8.7.5	平成8.7.5 逝去
	土井たか子	衆議院議員	昭和62.11.1～平成18.3.31	
	仲村　英一	財団法人結核予防会理事長	平成12.4.1～	
	中村　耕三	東京大学大学院医学系研究科教授	平成18.4.1～	
	丹羽　雄哉	衆議院議員	平成18.4.1～	
	延永　　正	九州大学名誉教授	昭和62.11.1～平成10.3.31	
	橋本龍太郎	衆議院議員	昭和62.11.1～平成6.7.1 平成11.4.1～12.12.5 平成13.6.1～18.7.1	平成6.7.1及び12.12.5 国務大臣就任により辞任 18.7.1 逝去
	濱島　義博	京都大学名誉教授	昭和63.4.1～平成2.3.31	

役職	役員名	所属機関	就任期間	備考
理事	廣畑　和志	神戸大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成9.5.2	平成9.5.2 逝去
	松井　宣夫	名古屋市立大学名誉教授	平成10.4.1 ～	
	水島　　裕	聖マリアンナ医科大学名誉教授	平成8.4.1 ～ 13.1.16 平成14.4.1 ～	平成13.1.16 文部科学政務官就任により辞任
	南　　砂	読売新聞社東京本社編集局解説部	平成18.4.1 ～ 19.6.30	
	八木　哲夫	健康保険組合連合会	昭和62.11.1 ～平成10.3.31	
	山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科教授	平成18.4.1 ～	
	山本　　真	北里大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成4.3.31	
	山本　純己	一番町リウマチクリニック	平成10.4.1 ～	
	吉岡　守正	東京女子医科大学学長	昭和62.11.1 ～平成8.7.8	平成8.7.8 逝去
	吉野　槇一	日本医科大学名誉教授	平成10.4.1 ～ 18.3.31	
監事	東　　威	聖マリアンナ医科大学元教授	平成12.4.1 ～	
	安倍　　達	埼玉医科大学総合医療センター名誉所長	平成20.4.1 ～	
	京極　方久	東北大学名誉教授	平成10.4.1 ～ 18.3.31	
	鈴田　達男	東京医科大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成10.3.31	
	長屋　郁郎	財団法人愛知糖尿病リウマチ痛風財団理事長	平成10.4.1 ～ 12.3.31	
	延永　　正	九州大学名誉教授	平成10.4.1 ～ 20.3.31	
	御巫　清允	自治医科大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成10.3.31	
	宮本　昭正	東京大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成10.3.31	
顧問	天児　民和	九州大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成7.4.6	平成7.4.6逝去
	石田　博英	元衆議院議員	昭和62.11.1 ～平成5.10.14	平成5.10.14逝去
	大島　良雄	東京大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成7.1.14	
	幸田　正孝	年金福祉事業団理事長	昭和63.4.1 ～平成2.3.31	
	佐々木智也	東京大学名誉教授	平成8.4.1 ～ 19.3.12	平成19.3.12逝去
	七川　歓次	滋賀医科大学名誉教授	平成14.4.1 ～	
	長屋　郁郎	財団法人愛知糖尿病リウマチ痛風財団元理事長	平成12.4.1 ～	
参与	大国　真彦	日本大学名誉教授	平成12.4.1 ～	
	小坂　志朗	元青森リウマチセンター長	平成12.4.1 ～	
	小松原良雄	行岡病院リウマチ研究室長	平成12.4.1 ～	
	恒松徳五郎	島根県立医科大学名誉教授	平成12.4.1 ～	
	濱島　義博	京都大学名誉教授	平成2.4.1 ～ 6.3.31	
	廣瀬　俊一	順天堂大学名誉教授	平成12.4.1 ～	
	山本　　真	北里大学教授	平成2.4.1 ～ 6.3.31	

評議員

平成20年4月1日現在

評議員名	所属機関等	就任期間	備　考
石川浩一郎	石川整形外科リウマチ科院長	昭和63.12.3～	
井上　一	香川労災病院院長	平成10.4.1～	
井上　博	井上病院理事長	平成18.4.1～	
岩崎　博充	ファイザー株式会社代表取締役社長	平成18.4.1～	
岩田　久	名古屋大学名誉教授	平成12.4.1～	
岩本　幸英	九州大学大学院医学研究院教授	平成12.4.1～	
上野　幹夫	中外製薬株式会社代表取締役副社長執行役員	平成17.4.1～	
上原　昭二	大正製薬株式会社代表取締役会長	昭和63.12.3～	
江口　勝美	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授	平成10.4.1～	
奥村　康	順天堂大学医学部教授	平成12.4.1～	
粕川　禮司	福島県立医科大学名誉教授	昭和63.12.3～	
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院教授	平成18.4.1～	
小池　隆夫	北海道大学大学院医学研究科教授	平成12.4.1～	
腰野　富久	横浜市立大学名誉教授	昭和63.12.3～	
齋藤　輝信	国立病院機構西多賀病院リウマチ疾患研究センター長	平成8.4.1～	
塩野　元三	塩野義製薬株式会社代表取締役社長	平成8.4.1～	
田中　清介	近畿大学名誉教授	平成2.4.1～	
鳥巣　岳彦	九州労災病院院長	平成10.4.1～	
橋本　博史	順天堂大学名誉教授	平成10.4.1～	
長谷川閑史	武田薬品工業株式会社代表取締役社長	平成18.6.28～	
馬場　宣行	ノバルティスファーマ株式会社特別顧問	平成19.3.28～	
藤山　朗	アステラス製薬株式会社相談役	平成11.4.1～	
簑田　清次	自治医科大学教授	平成18.4.1～	
宮坂　信之	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授	平成2.4.1～	
村澤　章	新潟県立リウマチセンター院長	平成2.4.1～	
森田　清	第一三共株式会社代表取締役会長	平成16.6.29～	
森田　隆和	参天製薬株式会社代表取締役社長	平成11.4.1～	
龍　順之助	日本大学医学部主任教授	平成12.4.1～	
安倍　達	埼玉医科大学総合医療センター名誉所長	昭和63.12.3～平成20.3.31	
高藤　鉄雄	第一三共株式会社会長	平成13.4.1～19.3.31	
道筋　雅弘	ノバルティスファーマ株式会社取締役特別顧問	平成12.4.1～18.6.27	
折原　祐治	ノバルティスファーマ株式会社専務取締役	平成10.6.28～19.3.27	
アラン・B・ブーツ	ファイザー株式会社取締役社長	平成12.4.1～18.3.31	
吉田　彪	中外製薬株式会社執行役員	平成8.9.26～17.3.31	
森田　桂	武田薬品工業株式会社代表取締役会長	平成6.4.1～16.6.28	
鈴木　正	第一製薬株式会社取締役社長	昭和62.12.3～平成16.6.28	

評議員名	所属機関等	就任期間	備　考
中村　耕三	東京大学大学院医学研究科教授	平成12.4.1 ～ 16.3.31	
山本　一彦	東京大学大学院医学研究科教授	平成12.4.1 ～ 16.3.31	
井上　哲文	東京外国語大学教授	平成2.4.1 ～ 14.3.31	
河村　喜典	三共株式会社取締役	昭和62.12.3 ～平成13.3.31	
大国　真彦	日本大学名誉教授	昭和62.12.3 ～平成12.3.31	
レスリー・R・パターソン	ファイザー製薬株式会社取締役社長	平成10.4.1 ～ 11.9.30	
塩野　芳彦	塩野義製薬株式会社代表取締役会長	平成5.3.26 ～ 11.9.17	
藤澤友吉郎	藤沢薬品工業株式会社代表取締役会長	昭和62.12.3 ～平成10.12.10	
大塚　明彦	大塚製薬株式会社取締役社長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
東　　威	聖マリアンナ医科大学教授	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
大澤　昭夫	ノバルティスファーマ株式会社取締役社長	平成7.4.1 ～ 10.3.31	
狩野　庄吾	自治医科大学教授	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
小坂　志朗	青森リウマチセンター長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
小松原良雄	行岡病院リウマチ科室長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
恒松徳五郎	島根県立看護短期大学学長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
長屋　郁郎	財団法人愛知糖尿病痛風財団理事長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
廣瀬　俊一	順天堂大学名誉教授	昭和63.4.1 ～平成10.3.31	
山本　純己	松山赤十字病院リウマチセンター部長	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
吉野　槇一	日本医科大学リウマチ科教授	昭和62.12.3 ～平成10.3.31	
松井　宣夫	名古屋市立大学医学部教授	平成8.9.26 ～ 10.3.31	
谷口　　準	ファイザー製薬株式会社社長	平成4.4.1 ～平成10.3.31	
柏崎　禎夫	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター所長	昭和62.2.3 ～平成9.11.17	平成9.11.17 逝去
越智　隆弘	大阪大学医学部教授	平成8.9.26 ～ 9.6.6	
平坂　義信	中外製薬株式会社専務取締役	昭和62.12.3 ～平成8.9.25	
水島　　裕	聖マリアンナ医科大学教授	昭和62.12.3 ～平成8.3.31	
二木　文男	日本チバガイギー株式会社常務取締役	平成1.3.27 ～ 7.3.31	
梅本　純正	武田薬品工業株式会社相談役	昭和62.12.3 ～平成6.3.31	
吉利　一雄	塩野義製薬株式会社	昭和62.12.3 ～平成4.10.17	平成4.10.17 逝去
紫野　　巖	ファイザー製薬株式会社取締役会長	昭和62.12.3 ～平成4.3.31	
豊田　善一	国際証券株式会社取締役社長	昭和62.12.3 ～平成3.12.2	
西岡久寿樹	東京女子医科大学教授	昭和62.12.3 ～平成2.3.31	
喜多　政人	日本チバガイギー株式会社取締役	昭和62.12.3 ～平成1.3.26	
式場　　英	NTT㈱企業通信システム罷業本部副本部長	昭和62.12.3 ～昭和63.3.31	

企画運営委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	昭和62.11.1 ～	委員長
越智　隆弘	大阪警察病院	平成8.6.4 ～	副委員長
井上　　博	井上病院	平成17.9.13 ～	
狩野　庄吾	自治医科大学名誉教授	昭和62.11.1 ～	
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院	平成16.11.2 ～	
中村　耕三	東京大学大学院医学系研究科	平成11.2.9 ～	
山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科	平成10.4.1 ～	
山本　純己	一番町リウマチクリニック	昭和62.11.1 ～	
柏崎　禎夫	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	昭和62.11.1 ～平成9.11.17	
吉野　槇一	日本医科大学名誉教授	昭和62.11.1 ～平成17.3.31	
住田　孝之	筑波大学膠原病リウマチアレルギー内科	平成11.10.1 ～ 16.3.9	
井上　哲文	東京外国語大学保健管理センター	平成3.3.11 ～ 14.3.31	

注）平成8年6月7日　呼称の変更　運営委員会から企画運営委員会へ

医療情報委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
高林克日己	千葉大学医学部附属病院医療情報部	平成11.4.1 ～	委員長 平成16.4.1 ～
天野　宏一	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科	平成16.4.1 ～	
岡崎　仁昭	自治医科大学内科アレルギー膠原病学部門	平成16.4.1 ～	
高崎　芳成	順天堂大学医学部附属順天堂医院膠原病・リウマチ内科	平成16.4.1 ～	
松野　博明	松野リウマチ整形外科	平成16.4.1 ～	
狩野　庄吾	自治医会大学附属病院	平成11.4.1 ～ 16.3.31	委員長
井上　哲文	東京外国語大学保健管理センター	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
内田　詔爾	内田クリニック	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
木佐木友成	横浜高島屋診療所	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
鈴木　　毅	東京大学医学部附属病院アレルギー・リウマチ科	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
廣畑　俊成	帝京大学医学部内科	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
霞　　勉	日本リウマチ友の会千葉支部（日本リウマチ友の会）	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
竹内　　勤	埼玉医科大学総合医療センター（日本リウマチ学会）	平成11.4.1 ～ 16.3.31	
龍　順之助	日本大学医学部整形外科（日本整形外科学会）	平成11.4.1 ～ 16.3.31	

財団ニュース編集委員会委員

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
後藤　眞	桐蔭横浜大学先端医用工学センター	平成14.4.1 ～	委員長
岡田　正人	聖路加国際病院アレルギー膠原病科	平成18.7.1 ～	
仲村　一郎	湯河原厚生年金病院リウマチ科	平成18.7.1 ～	
羽生　忠正	長岡赤十字病院整形外科	平成14.4.1 ～	
森本　幾夫	東京大学医科学研究所先端医療研究センター	平成18.7.1 ～	
山村　昌弘	愛知医科大学医学部	平成18.7.1 ～	
内田　詔爾	内田クリニック	平成15.11.28 ～ 18.3.31	
尾崎　承一	聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科	平成15.11.28 ～ 18.3.31	

リウマチエキスパート編集委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
後藤　眞	東京都立大塚病院リウマチ膠原病科	平成14.4.1 ～ 15.8.27	
羽生　忠正	長岡赤十字病院整形外科	平成14.4.1 ～ 15.8.27	
井上　哲文	東京外国語大学保健管理センター	平成5.5.18 ～ 14.3.31	
内田　昭爾	内田整形・リウマチクリニック	平成5.5.18 ～ 14.3.31	
廣畑　俊成	帝京大学内科	平成5.5.18 ～ 14.3.31	

登録医ネットワーク化委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
狩野　庄吾	自治医科大学名誉教授	平成15.9.10 ～	委員長
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成15.9.10 ～	副委員長
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院膠原病科	平成15.9.10 ～	
腰野　富久	横浜市立大学名誉教授	平成15.9.10 ～	
後藤　眞	桐蔭横浜大学先端医用工学センター	平成15.9.10 ～	
高林克日己	千葉大学附属病院医療情報部	平成15.9.10 ～	
山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科	平成15.9.10 ～	
吉野　槇一	日本医科大学名誉教授	平成15.9.10 ～ 17.3.31	

教育研修委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科	平成11.8.30～	委員長 平成17.4.1～ 副委員長 平成14.4.1～17.3.31
村澤　章	新潟県立リウマチセンター	昭和63.4.1～平成10.3.31 平成19.12.20～	副委員長 平成19.12.20～
江口　勝美	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	平成8.10.15～11.1.18 平成13.9.1～	
木村　友厚	富山大学医学部整形外科	平成13.9.1～	
小池　隆夫	北海道大学大学院医学研究科	平成8.10.15～10.3.31 平成13.9.1～	
佐々木　毅	ＮＴＴ東日本東北病院	平成13.9.1～	

委員名	所属機関等	就任期間	備考
竹内　勤	埼玉医科大学総合医療センター	平成4.6.18～10.3.31 平成11.8.30～	
立石　博臣	神戸海星病院	平成13.9.1～	
鳥巣　岳彦	九州労災病院	昭和63.4.1～10.3.31 平成13.11.29～	
能勢　眞人	愛媛大学医学部	平成11.8.30～	
槇野　博史	岡山大学大学院医歯学総合研究科	平成19.12.20～	
三森　経世	京都大学大学院医学研究科	平成13.11.29～	
吉田　俊治	藤田保健衛生大学医学部	平成13.11.29～	
龍　順之助	日本大学医学部整形外科	平成11.8.30～	
山本　純己	一番町リウマチクリニック	昭和63.4.1～平成19.12.19	副委員長 平成10.8.3～ 19.12.19
宮脇　昌二	倉敷成人病センター	平成11.8.30～平成19.12.19	
吉野　槇一	日本医科大学リウマチ科	平成8.10.15～17.3.31	委員長 平成10.8.3～ 17.3.31
横田　俊平	横浜市立大学医学部小児科	平成8.10.15～10.12.7	
勝呂　徹	東邦大学医学部整形外科	平成6.4.1～10.12.7	
松井　宣夫	名古屋市立大学医学部整形外科	昭和63.4.1～平成10.8.2	委員長 平成4.6.18～10.8.2
青木　重久	愛知医科大学加齢医学研究所運動器病態部門	昭和63.4.1～平成10.3.31	
齋藤　輝信	東北労災病院リウマチ膠原病科	昭和63.4.1～平成10.3.31	
橋本　博史	順天堂大学医学部膠原病内科	平成8.10.15～10.3.31	
廣畑　俊成	帝京大学医学部第二内科	平成8.10.15～10.3.31	
西岡　淳一	滋賀医科大学整形外科	平成8.10.15～10.3.31	
井上　一	岡山大学医学部整形外科	平成6.4.1～9.3.31	
西谷　皓次	高知医科大学第二内科	平成6.4.1～9.3.31	
山内　康平	島根医科大学第三内科	平成6.4.1～9.3.31	
石川　斉	神戸大学医学部保健学科	平成6.4.1～9.3.31	
中村　徹	福井医科大学第一内科	昭和63.4.1～平成8.11.10	
東　威	聖マリアンナ医科大学東横病院内科	昭和63.4.1～平成8.10.14	
木村　千俣	熊本機能病院整形外科	昭和63.4.1～平成8.10.14	
渡辺　言夫	杏林大学医学部小児科	昭和63.4.1～平成8.10.14	
安倍　達	埼玉医科大学総合医療センター第二内科	昭和63.4.1～平成4.6.17	委員長 平成1.4.1～4.6.17
恒松徳五郎	島根県立医科大学	昭和63.4.1～平成4.3.31	
太田　善介	岡山大学第三内科	昭和63.4.1～平成4.3.31	
小川　亮恵	関西医科大学整形外科	昭和63.4.1～平成4.3.31	
山本　吉藏	鳥取大学整形外科	昭和63.4.1～平成4.3.31	
廣畑　和志	神戸大学整形外科	昭和63.4.1～平成1.3.31	委員長 昭和63.4.1～平成 1.3.31

リウマチのケア研究委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
山本　純己	一番町リウマチクリニック	平成5.10.26～6.3.31 平成12.4.1～	委員長
石原　義恕	中伊豆温泉病院健康管理センター	平成5.10.26～6.3.31 平成12.4.1～	
小川　亮惠	関西医科大学名誉教授	平成5.10.26～6.3.31 平成12.4.1～	
忽那　龍雄	比企病院	平成12.4.1～	
佐川　　昭	佐川昭リウマチクリニック	平成12.4.1～	
立石　博臣	神戸海星病院	平成12.4.1～	
豊島　良太	鳥取大学医学部整形外科	平成12.4.1～	
富田　勝郎	金沢大学医学部整形外科	平成12.4.1～	
鳥巣　岳彦	九州労災病院	平成12.4.1～	
三浦　孝雄	弘前記念病院	平成12.4.1～	
村上　恒二	広島市総合リハビリテーションセンター	平成12.4.1～	
村澤　　章	新潟県立リウマチセンター	平成5.10.26～6.3.31 平成12.4.1～	
吉野　槇一	日本医科大学リウマチ科	平成12.4.1～17.3.31	
齋藤　輝信	東北労災病院リウマチ膠原病科	平成5.10.26～6.3.31	
椎野　泰明	社会保険広島市民病院理学診療科	平成5.10.26～6.3.31	
延永　　正	九州大学生体防御医学研究所	平成5.10.26～6.3.31	
廣瀬　俊一	順天堂大学医学部膠原病内科	平成5.10.26～6.3.31	顧問
長屋　郁郎	国立名古屋病院整形外科	平成5.10.26～6.3.31	顧問
廣畑　和志	姫路聖マリア病院整形外科	平成5.10.26～6.3.31	顧問
木村　千仭	熊本機能病院整形外科	平成5.10.26～6.3.31	顧問

登録医審査委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
腰野　富久	横浜市立大学名誉教授	昭和63.4.1 ～	委員長
根岸　雅夫	昭和大学医学部	昭和63.4.1 ～	副委員長 平成8.4.1 ～
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター	昭和63.4.1 ～	
岡本　連三	神奈川県立保健福祉大学	昭和63.4.1 ～	
高崎　芳成	順天堂大学医学部	平成7.3.1 ～	
髙野　　愼	東京電力病院内科	昭和63.4.1 ～	
西岡　淳一	西岡リウマチ・整形外科医院	昭和63.4.1 ～	
橋本　博史	順天堂大学医学部	昭和63.4.1 ～平成7.2.28	

災害時リウマチ患者支援事業推進委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
山本　純己	一番町リウマチクリニック	平成15.10.20～	委員長
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター病院	平成15.10.20～	
忽那　龍雄	帝京大学福岡医療技術学部	平成15.10.20～	
笹井　敬子	東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課	平成18.4.1～	
島田　廣子	社団法人日本リウマチ友の会創設者・名誉理事長	平成17.10.12～	
立石　博臣	神戸海星病院	平成15.10.20～	
藤井　敦信	エーザイ株式会社医薬事業部免疫・炎症室	平成19.9.1～	
長谷川三枝子	社団法人日本リウマチ友の会	平成17.10.12～	
宝住　与一	社団法人日本医師会	平成18.4.1～	
村澤　　章	新潟県立リウマチセンター	平成15.10.20～	
中西　憲幸	エーザイ株式会社医薬事業部医薬部	平成17.10.12～19.8.31	
田原なるみ	東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課	平成17.10.20～18.3.31	
雪下　國雄	社団法人日本医師会	平成17.10.20～18.3.31	
近藤　正一	近藤リウマチ・整形外科クリニック	平成15.10.20～17.3.31	

注）平成15.10.20に発足した災害時リウマチ患者支援特別委員会を発展的に解消し、平成17.10.12災害時リウマチ患者支援検討会を発足して、支援対策を検討、事業を実施するに当たり発展的に解消し、平成19.9.1災害時リウマチ患者支援事業推進委員会を発足、事業を実施

医療保険委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
井上　　博	井上病院	平成19.4.1～	委員長
佐川　　昭	佐川昭リウマチクリニック	平成19.4.1～	
生野　英祐	生野リウマチ整形外科クリニック	平成19.4.1～	
松野　博明	松野リウマチ科整形外科	平成19.4.1～	
松原　　司	松原メイフラワー病院	平成19.4.1～	
松本美富士	藤田保健衛生大学七栗サナトリウム	平成19.4.1～	
山名　征三	東広島記念病院	平成19.4.1～	
石名田洋一（アドバイザー）	社会保険診療報酬支払基金	平成19.4.1～	
宝住　与一（アドバイザー）	日本医師会	平成19.4.1～	
幸田　正孝（オブザーバー）	日本リウマチ財団	平成19.4.1～	
西岡久寿樹（オブザーバー）	日本リウマチ財団	平成19.4.1～	

線維筋痛症調査研究委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成15.6.27～16.3.31	委員長
松本美富士	山梨県立看護大学短期大学部	平成15.6.27～16.3.31	
浦野　房三	厚生連篠ノ井総合病院リウマチ科	平成15.6.27～16.3.31	
後藤　　眞	東京都立大塚病院リウマチ膠原病科	平成15.6.27～16.3.31	
西海　正彦	国立病院東京医療センター内科	平成15.6.27～16.3.31	
村上　正人	日本大学内科	平成15.6.27～16.3.31	
行岡　正雄	行岡病院	平成15.6.27～16.3.31	

注）平成15年度をもって活動を終えた。

薬効検定委員会委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
東　　威	聖マリアンナ医科大学内科	昭和63.4.1～平成10.3.31	委員長 昭和63.4.1～平成10.3.31
岡本　連三	横浜市立大学医学部整形外科	昭和62.11.1～平成10.3.31	副委員長 平成8.4.1～10.3.31
浅井　富明	国立名古屋病院整形外科	平成3.2.9～10.3.31	
市川　陽一	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	昭和62.11.1～平成10.3.31	
井上　哲文	東京大学医学部物療内科	平成4.4.1～10.3.31	
井上　　一	岡山大学医学部整形外科	昭和62.11.1～平成10.3.31	
内田　詔爾	東京都立墨東病院リウマチ科	平成6.10.1～10.3.31	
川合　眞一	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成4.4.1～10.3.31	
近藤　正一	国立九州医療センター整形外科リウマチセンター	平成3.4.1～10.3.31	
後藤　　眞	東京都立大塚病院リウマチ膠原病科	平成3.4.1～10.3.31	
鈴木　重男	札幌恵北病院	昭和62.11.1～平成10.3.31	
西間木友衛	福島県立医科大学第二内科	平成3.9.7～10.3.31	
村田　紀和	国立大阪南病院整形外科	平成6.4.1～10.3.31	
小松原良雄	大阪府立成人病センター整形外科	昭和62.11.1～平成7.5.15	
林　　恭史	東京都リハビリテーション病院	昭和62.11.1～平成6.12.3	
吉澤　久嘉	杏雲堂病院内科	昭和62.11.1～平成4.3.31	
吉田　　浩	福島県立医科大学検査部	昭和62.11.1～平成3.9.6	
鳥巣　岳彦	大分医科大学整形外科	昭和62.11.1～平成3.3.31	
西岡久寿樹	東京女子医科大学リウマチ痛風センター	昭和62.11.1～平成3.3.31	
岩田　　久	名古屋大学整形外科	昭和62.11.1～平成3.2.8	
延永　　正	九州大学生体防御研究所	昭和62.11.1～63.3.31	委員長 昭和62.11.1～63.3.31
有富　　寛	北里大学整形外科	昭和62.11.1～63.3.31	

注）平成9年度をもって活動を終えた。

リウマチ性疾患国内評価委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
七川　歓次	行岡病院	平成14.2.12～	委員長
井上　康二	大阪リハビリテーション病院	平成14.2.12～	
上野　征夫	ナショナルメディカルクリニック	平成14.2.12～	
内田　淳正	三重大学医学部整形外科	平成15.7.9～	
豊島　良太	鳥取大学医学部整形外科	平成15.7.9～	
山中　　寿	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	平成14.2.12～	
山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ内科	平成14.2.12～	
山本　純己	一番町リウマチクリニック	平成14.2.12～	
吉田　勝美	聖マリアンナ医科大学予防医学	平成14.2.12～	
吉野　槇一	日本医科大学名誉教授	平成14.2.12～17.3.31	

ステロイド治療研究委員会

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間	備考
市川　陽一	聖ヨゼフ病院内科	平成12.12.26～	委員長
大島　久二	藤田保健衛生大学臨床検査研究部	平成12.12.26～	
近藤　啓文	北里大学北里研究所メディカルセンター病院	平成12.12.26～	
齋藤　輝信	国立病院機構西多賀病院リウマチ疾患研究センター	平成12.12.26～	
橋本　博史	順天堂大学医学部名誉教授	平成12.12.26～	
山本　一彦	東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ内科	平成12.12.26～	
浜　　信昭	聖マリアンナ医科大学リウマチ膠原病アレルギー内科	平成12.12.26～14.3.31	

注）平成20年11月8日第10回委員会をもって活動を終えた。

関節リウマチ治療指針検討委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
越智　隆弘	国立相模原病院	平成13.4.1～16.3.31	委員長
福原　俊一	京都大学医療疫学	平成13.4.1～16.3.31	
山本　一彦	東京大学アレルギーリウマチ内科	平成13.4.1～16.3.31	
龍　順之助	日本大学整形外科	平成13.4.1～16.3.31	
村田　紀和	協和会病院リウマチセンター	平成13.4.1～16.3.31	
米延　策雄	国立大阪南病院整形外科	平成13.4.1～16.3.31	
松野　博明	桐蔭横浜大学先端医用工学センター	平成13.4.1～16.3.31	
石川　　肇	新潟県立瀬波病院リウマチセンター整形外科	平成13.4.1～16.3.31	
高崎　芳成	順天堂大学膠原病内科	平成13.4.1～16.3.31	
三森　経世	京都大学免疫膠原病科	平成13.4.1～16.3.31	
山中　　寿	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター	平成13.4.1～16.3.31	
中山　健夫	京都大学健康情報学	平成13.4.1～16.3.31	
當間　重人	国立相模原病院臨床研究センター	平成13.4.1～16.3.31	

注）平成15年度をもって活動を終えた。

リウマチ治療薬の用量用法改定並びに適応症拡大検討委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
川合　眞一	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成12.4.1 ～ 15.3.31	委員長
越智　隆弘	国立相模原病院	平成12.4.1 ～ 15.3.31	
近藤　啓文	北里大学医学部内科	平成12.4.1 ～ 15.3.31	
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成12.4.1 ～ 15.3.31	
宮坂　信之	東京医科歯科大学医学部第一内科	平成12.4.1 ～ 15.3.31	
吉野　槇一	日本医科大学リウマチ科	平成12.4.1 ～ 15.3.31	

注）平成14年度をもって活動を終えた。

標榜科対策委員会

委員名	所属機関等	就任期間	備考
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成7.4.1 ～ 9.3.31	委員長
井上　哲文	東京大学医学部物療内科	平成7.4.1 ～ 9.3.31	
柏崎　禎夫	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター	平成7.4.1 ～ 9.3.31	
狩野　庄吾	自治医科大学アレルギー膠原病科	平成7.4.1 ～ 9.3.31	
山本　純己	松山赤十字病院リウマチセンター	平成7.4.1 ～ 9.3.31	
吉野　槇一	日本医科大学リウマチ科	平成7.4.1 ～ 9.3.31	

注）平成8年度をもって活動を終えた。

選考委員会

・リウマチ性疾患調査・研究助成選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院	平成17～19年度
木村　友厚	富山大学医学部	平成15～19年度
廣畑　俊成	北里大学医学部	平成18～19年度
吉川　秀樹	大阪大学医学部	平成18～19年度
能勢　眞人	愛媛大学医学部	平成15～19年度
宮坂　信之	東京医科歯科大学医学部	平成15～19年度
鎌谷　直之	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	平成14～17年度
安井　夏生	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	平成14～17年度
尾崎　承一	聖マリアンナ医科大学	平成14～17年度
市川　陽一	聖ヨゼフ病院	平成14年度
藤井　克之	東京慈恵会医科大学	平成14年度
吉木　　敬	北海道大学	平成14年度
小川　亮恵	関西医科大学	平成7～13年度
奥村　　康	順天堂大学	平成1～13年度
狩野　庄吾	自治医科大学看護短期大学	平成10～13年度
京極　方久	東北大学名誉教授	平成1～13年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成10～13年度
矢田　純一	東京医科歯科大学名誉教授	平成10～13年度
中島　光好	浜松医科大学名誉教授	平成10～12年度
本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成1～12年度
大国　真彦	日本大学名誉教授	平成1～9年度
髙久　史磨	自治医科大学	平成1～9年度
鶴藤　　丞	㈱サイトシグナル研究所	平成1～9年度
水島　　裕	聖マリアンナ医科大学	平成1～9年度
山本　　真	九州労災病院	平成1～6年度
永井　　裕	東京医科歯科大学名誉教授	平成1～6年度

・ノバルティス・リウマチ医学賞選考委員会委員

委員名	所属機関等	選考対象年度
岩倉洋一郎	東京大学医科学研究所	平成15年度
岩田　　久	名古屋大学名誉教授	平成15年度
岡田　保典	慶應義塾大学医学部	平成15年度
奥村　　康	順天堂大学医学部	平成15年度
小池　隆夫	北海道大学医学部	平成15年度
宮坂　信之	東京都医科歯科大学医学部	平成15年度
塩川　優一	順天堂大学名誉教授	平成２～14年度
越智　隆弘	大阪大学	平成８～14年度
狩野　庄吾	自治医科大学看護短期大学	平成２～14年度
京極　方久	東北大学名誉教授	平成２～14年度
髙久　史麿	自治医科大学	平成２～14年度
多田　富雄	東京大学名誉教授	平成２～14年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成８～14年度
山田　統正	日本医師会	平成13～14年度
本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成２～13年度
小池麒一郎	日本医師会	平成９～12年度
野本亀久雄	九州大学	平成２～11年度
中谷比呂樹	厚生省保健医療局エイズ疾病対策課	平成10～11年度
石田名香雄	東北大学名誉教授	平成２～９年度
塚原　太郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成９年度
柏崎　禎夫	東京女子医科大学	平成３～９年度
清水　　博	厚生省保健医療局疾病対策課	平成８年度
村瀬　敏郎	日本医師会	平成５～８年度
永井　　裕	東京医科歯科大学名誉教授	平成２～７年度
山本　　真	九州労災病院	平成２～７年度
岩尾總一郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成６～７年度
澤　　宏紀	厚生省保健医療局疾病対策課	平成５年度
有川　　勲	厚生省保健医療局疾病対策課	平成３～４年度
井村　裕夫	京都大学	平成２～３年度
羽田　春兔	日本医師会	平成２～３年度
荒賀　泰太	厚生省保健医療局企画課	平成２年度

・アボット ジャパン・骨、関節疾患臨床医学賞選考委員会委員

委員名	所属機関等	選考対象年度
井上　和彦	東京女子医科大学附属第二病院	平成15年度
高岸　憲二	群馬大学医学部	平成15年度
戸山　芳昭	慶應義塾大学医学部	平成15年度
三森　経世	京都大学医学部	平成15年度
森本　幾夫	東京大学医科学研究所	平成15年度
山本　一彦	東京大学医学部	平成15年度
塩川　優一	順天堂大学名誉教授	平成２～14年度
小川　亮惠	関西医科大学	平成８～14年度
越智　隆弘	大阪大学	平成９～14年度
京極　方久	東北大学名誉教授	平成２～14年度
宮坂　信之	東京医科歯科大学	平成11～14年度
吉野　槇一	日本医科大学	平成２～14年度
山田　統正	日本医師会	平成13～14年度
本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成２～13年度
三浦　隆行	名古屋大学名誉教授	平成２～12年度
小池麒一郎	日本医師会	平成９～12年度
中谷比呂樹	厚生省保健医療局エイズ疾病対策課	平成10～11年度
宮本　昭正	東京大学名誉教授	平成２～10年度
室田　景久	東京慈恵会医科大学	平成２～10年度
塚原　太郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成９年度
清水　　博	厚生省保健医療局疾病対策課	平成８年度
村瀬　敏郎	日本医師会	平成５～８年度
小野　啓郎	大阪大学名誉教授	平成２～８年度
岩尾總一郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成６～７年度
杉岡　洋一	九州大学	平成２～７年度
山本　　真	九州労災病院	平成２～７年度
澤　　宏紀	厚生省保健医療局疾病対策課	平成５年度
有川　　勲	厚生省保健医療局疾病対策課	平成３～４年度
羽田　春兔	日本医師会	平成２～３年度
荒賀　泰太	厚生省保健医療局企画課	平成２年度

・ツムラ・リウマチ社会医学賞選考委員会委員

委員名	所属機関等	選考対象年度
江口　勝美	長崎大学医学部	平成15年度
木村　友厚	富山医科薬科大学	平成15年度
齋藤　輝信	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	平成15年度
鳥飼　勝隆	愛知国際病院名誉院長	平成15年度
鳥巣　岳彦	大分医科大学	平成15年度
能勢　眞人	愛媛大学医学部	平成15年度
塩川　優一	順天堂大学名誉教授	平成５～14年度
東　　威	聖マリアンナ医科大学	平成５～14年度
安倍　　達	埼玉医科大学総合医療センター	平成５～14年度
井上　哲文	東京外国語大学	平成５～14年度
居村　茂明	国立加古川病院	平成５～14年度
広瀬　俊一	順天堂大学名誉教授	平成５～14年度
細田　泰弘	慶應義塾大学名誉教授	平成５～14年度
松井　宣夫	名古屋市立大学	平成５～14年度
山本　純己	松山赤十字病院リウマチセンター	平成５～14年度
吉野　愼一	日本医科大学	平成５～12年度、14年度
山田　統正	日本医師会	平成13～14年度
本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成13年度
中谷比呂樹	厚生省保健医療局エイズ疾病対策課	平成10～12年度
小池麒一郎	日本医師会	平成９～12年度
塚原　太郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成９年度
清水　　博	厚生省保健医療局疾病対策課	平成８年度
村瀬　敏郎	日本医師会	平成５～８年度
岩尾總一郎	厚生省保健医療局疾病対策課	平成６～７年度
澤　　宏紀	厚生省保健医療局疾病対策課	平成５年度

・医学賞選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター	平成16～20年度
岩倉洋一郎	東京大学医科学研究所	平成16～20年度
岩本　幸英	九州大学大学院	平成19～20年度
岡田　保典	慶應義塾大学医学部	平成16～20年度
小池　隆夫	北海道大学大学院医学研究科	平成16～20年度
高岸　憲二	群馬大学医学部	平成19～20年度
長澤　浩平	佐賀大学医学部	平成19～20年度
森本　幾夫	東京大学医科学研究所	平成16～20年度
江口　勝美	長崎大学医学部	平成16～18年度
鳥巣　岳彦	大分大学医学部	平成16～18年度
山本　一彦	東京大学医学部	平成16～18年度

・日本リウマチ財団・ワイス国際賞選考委員会

氏名	所属機関等	選考対象年度
Kusuki Nishioka	St.Marianna University, School of Medicine, JAPAN	平成13～19年度（平成14年度より委員長）
Lars Klareskog	Karolinska Hospital, SWEDEN	平成17～19年度
David S.Pisetsky	Duke University Medical Center, USA	平成17～19年度
Gerd Burmester	Charité University Hospital Berlin, GERMANY	平成18～19年度
Gary Firestein	University of California, San Diego, USA	平成18～19年度
J.M.Pelletier	Unité des Maladies Rhumatismales Hospital, CANADA	平成18～19年度
S.Gay	Center for Experimental Rheumatology, SWITZERLAND	平成13～17年度
Takahiro Ochi	Osaka University, School of Medicine, JAPAN	平成13～17年度
J.P.Pelletier	Unite des Maladies Rheumatismales Hospital, CANADA	平成13～17年度
Dennis Carson	University of California, School of Medicne, San Diego, USA	平成13～17年度
Ferdinand Breedveld	Leiden University, Medical Center, THE NETHERLANDS	平成13～17年度
Josef Smolen	University of Vienna, School of Medicine, AUSTRIA	平成15～17年度
P.E.Lipsky	NIAMS, USA	平成13～15年度
R.N.Maini	Imperial College School of Medicine, UK	平成13～15年度
M.E. Weinblatt	Brigham & Women's Hospital, USA	平成13～15年度
J.R.Kalden	University Erlangen-Nuremberg, GERMANY	平成13～14年度
塩川　優一	日本リウマチ財団	平成13年度（平成13年度 委員長）

・柏崎リウマチ教育賞選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
井上　　博	井上病院	平成17～20年度
越智　隆弘	大阪警察病院	平成11～20年度
狩野　庄吾	自治医科大学名誉教授	平成11～20年度
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院	平成17～20年度
中村　耕三	東京大学医学研究科	平成17～20年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成11～20年度
山本　一彦	東京大学医学研究科	平成17～20年度
山本　純己	一番町リウマチクリニック	平成17～20年度
吉野　槇一	日本医科大学	平成10～17年度
鎌谷　直之	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター	平成10～16年度
松井　宣夫	名古屋市立大学	平成10～16年度
塩川　優一	日本リウマチ財団	平成10年度
安倍　　達	日本リウマチ学会	平成10年度

・海外研修派遣医選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター	平成15～20年度
岩本　幸英	九州大学大学院	平成15～21年度
奥村　　康	順天堂大学医学部	平成1～21年度
澤井　高志	岩手医科大学	平成15～21年度
張替　秀郎	東北大学	平成20～21年度
三森　経世	京都大学大学院医学研究科	平成15～21年度
齋藤　輝信	国立病院機構西多賀病院リウマチ疾患研究センター	平成15～19年度
大国　真彦	日本大学名誉教授	平成1～14年度
小川　亮惠	関西医科大学	平成1～14年度
狩野　庄吾	自治医科大学看護短期大学	平成1～14年度
京極　方久	東北大学名誉教授	平成1～14年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成14年度
本間　光夫	慶應義塾大学名誉教授	平成1～13年度
髙久　史麿	国立病院医療センター	平成1～7年度
鶴藤　　丞	㈱サイトシグナル研究所	平成1～7年度
水島　　裕	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成1～7年度
永井　　裕	東京医科歯科大学名誉教授	平成1～6年度
山本　　真	九州労災病院	平成1～6年度

・日欧リウマチ外科交換派遣医制度選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター	平成11～20年度
井上　　一	香川労災病院	平成11～20年度
越智　隆弘	大阪警察病院	平成11～20年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成11～20年度

・日本リウマチ財団リウマチ福祉賞選考委員会

委員名	所属機関等	選考対象年度
髙久　史麿	自治医科大学	平成14～16年度
幸田　正孝	社会福祉法人恩賜財団済生会	平成14～16年度
越智　隆弘	国立病院機構相模原病院	平成14～16年度
狩野　庄吾	自治医科大学名誉教授	平成14～16年度
住田　孝之	筑波大学	平成14～16年度
中村　耕三	東京大学	平成14～16年度
西岡久寿樹	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	平成12～16年度
山本　一彦	東京大学	平成14～16年度
山本　純己	松山赤十字病院リウマチセンター	平成12～16年度
吉野　槇一	日本医科大学	平成12～16年度
塩川　優一	（財）日本リウマチ財団	平成1～13年度
島田　廣子	（社）リウマチ友の会創設者・名誉理事長	平成1～13年度
延永　　正	九州大学名誉教授	平成13年度
宮本　昭正	東京大学名誉教授	平成1～13年度
廣畑　和志	神戸大学名誉教授	平成1～7年度

専門委員

平成20年4月1日現在

委員名	所属機関等	就任期間
青木　重久	愛知医科大学名誉教授	平成7.2.15～
青木　治人	聖マリアンナ医科大学整形外科	平成10.9.1～
赤松　功也	赤松記念クリニック	平成10.9.1～
浅井　富明	あさいリウマチ整形クリニック	平成10.9.1～
阿部　宗昭	大阪医科大学名誉教授	平成10.9.1～
飯田　寛和	関西医科大学整形外科	平成14.9.10～
石井　良章	杏林大学医学部整形外科	平成10.9.1～
石川　　斉	仁寿会石川病院	平成7.2.15～
石黒　直樹	名古屋大学医学部整形外科	平成14.9.10～
石原　義恕	中伊豆温泉病院	平成10.9.1～
市川　陽一	聖ヨゼフ病院	平成7.2.15～
井樋　栄二	東北大学医学部整形外科	平成14.9.10～
伊藤　達雄	東京女子医科大学	平成14.9.10～
伊藤　博元	日本医科大学整形外科	平成14.9.10～
糸満　盛憲	北里大学医学部整形外科	平成10.9.1～
井上　和彦	東京女子医科大学東医療センター	平成10.9.1～
今給黎篤弘	東京医科大学整形外科	平成14.9.10～
居村　茂明	甲南病院加古川病院	平成7.2.15～
入交昭一郎	平和協会駒沢病院	平成10.9.1～
上好　昭孝	大阪河﨑リハビリテーション大学	平成14.9.10～
内尾　祐司	島根大学医学部整形外科	平成14.9.10～
内田　淳正	三重大学医学部整形外科	平成10.9.1～
内田　詔爾	内田クリニック	平成10.9.1～
江原　宗平	信州大学医学部整形外科	平成14.9.10～
遠藤　直人	新潟大学医学部整形外科	平成14.9.10～
大塚　隆信	名古屋市立大学医学部整形外科	平成14.9.10～
岡田　保典	慶應義塾大学医学部病理学教室	平成10.9.1～
岡本　連三	神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション科	平成7.2.15～
小川　亮惠	関西医科大学名誉教授	平成7.2.15～
荻野　利彦	山形大学医学部整形外科	平成10.9.1～
越智　光夫	広島大学医学部整形外科	平成10.9.1～
落合　直之	筑波大学臨床医学系整形外科	平成14.9.10～
金谷　文則	琉球大学医学部整形外科	平成14.9.10～
鎌谷　直之	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	平成10.9.1～
河合　伸也	山口大学名誉教授	平成7.2.15～
菊地　臣一	福島県立医科大学整形外科	平成10.9.1～

委員名	所属機関等	就任期間
木村　千仭	熊本機能病院リウマチ・膠原病センター	平成7.2.15～
木村　友厚	富山大学医学部整形外科	平成10.9.1～
忽那　龍雄	比企病院	平成10.9.1～
久保　俊一	京都府立医科大学整形外科	平成14.9.10～
黒坂　昌弘	神戸大学医学部整形外科	平成14.9.10～
黒澤　　尚	順天堂大学医学部整形外科	平成10.9.1～
国分　正一	国立病院機構西多賀病院脊椎脊髄疾患研究センター	平成10.9.1～
後藤　　眞	桐蔭横浜大学先端医用工学センター	平成10.9.1～
小宮　節郎	鹿児島大学医学部整形外科	平成14.9.10～
近藤　啓文	北里病院北里研究所メディカルセンター病院	平成10.9.1～
齋藤　知行	横浜市立大学医学部整形外科	平成14.9.10～
早乙女紘一	獨協医科大学整形外科	平成10.9.1～
酒匂　　崇	酒匂クリニック	平成7.2.15～
佐々木　毅	ＮＴＴ東日本東北病院	平成10.9.1～
佐々木鐵人	道立心身障害者総合相談所	平成14.9.10～
笹月　健彦	国立国際医療センター	平成10.9.1～
佐藤　啓二	愛知医科大学整形外科	平成10.9.1～
里見　和彦	杏林大学医学部整形外科	平成14.9.10～
塩沢　俊一	神戸大学医学部免疫内科	平成10.9.1～
四宮　謙一	東京医科歯科大学医学部整形外科	平成10.9.1～
柴田　大法	弘友会加戸病院	平成7.2.15～
嶋村　　正	岩手医科大学医学部整形外科	平成10.9.1～
清水　克時	岐阜大学医学部整形外科	平成10.9.1～
進藤　裕幸	長崎大学医学部整形外科	平成10.9.1～
菅井　　進	久藤総合病院	平成10.9.1～
勝呂　　徹	東邦大学医療センター大森病院	平成10.9.1～
住田　孝之	筑波大学臨床医学系内科	平成10.9.1～
高岡　邦夫	大阪市立大学医学部整形外科	平成10.9.1～
高木　克公	聖ヶ塔病院	平成14.9.10～
高岸　憲二	群馬大学医学部整形外科	平成10.9.1～
高倉　義典	奈良県立医科大学整形外科	平成14.9.10～
高崎　芳成	順天堂大学医学部膠原病・リウマチ内科	平成10.9.1～
高杉　　潔	道後温泉病院リウマチセンター	平成10.9.1～
髙野　　愼	東京電力病院	平成10.9.1～

委員名	所属機関等	就任期間
高橋　栄明	新潟医療福祉大学	平成10.9.1～
田口　　厚	是真会病院	平成10.9.1～
竹内　　勤	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科	平成10.9.1～
田島　直也	弘潤会野崎東病院	平成10.9.1～
立石　博臣	神戸海星病院	平成10.9.1～
玉置　哲也	和歌山労災病院	平成10.9.1～
豊島　良太	鳥取大学医学部整形外科	平成14.9.10～
富田　勝郎	金沢大学医学部整形外科	平成10.9.1～
戸山　芳昭	慶應義塾大学医学部整形外科	平成10.9.1～
鳥飼　勝隆	愛泉会愛知国際病院	平成7.2.15～
内藤　正俊	福岡大学医学部整形外科	平成14.9.10～
長澤　浩平	佐賀大学医学部内科	平成7.2.15～
永田　見生	久留米大学医学部整形外科	平成14.9.10～
長野　　昭	浜松医科大学整形外科	平成10.9.1～
中村　孝志	京都大学医学部整形外科	平成10.9.1～
中村　利孝	産業医科大学整形外科	平成10.9.1～
西岡　淳一	西岡リウマチ・整形外科医院	平成10.9.1～
西林　保朗	三木山陽病院	平成10.9.1～
西谷　皓次	西谷内科	平成10.9.1～
二ノ宮節夫	埼玉医科大学	平成10.9.1～
根岸　雅夫	根岸医院	平成10.9.1～
乗松　尋道	四国医療専門学校	平成10.9.1～
馬場　久敏	福井大学医学部整形外科	平成10.9.1～
濵田　良機	山梨大学医学部整形外科	平成14.9.10～
濵西　千秋	近畿大学医学部整形外科	平成10.9.1～
原田　征行	青森県立中央病院	平成10.9.1～
平野　俊夫	大阪大学バイオメディカル教育研究センター腫瘍医学部門	平成10.9.1～
廣畑　俊成	北里大学医学部膠原病・リウマチ・感染内科	平成10.9.1～
福田　眞輔	多根第二病院	平成7.2.15～
藤　　哲	弘前大学医学部整形外科	平成14.9.10～
冨士川恭輔	防衛医科大学校	平成10.9.1～
星野　雄一	自治医科大学整形外科	平成10.9.1～
佛淵　孝夫	佐賀大学医学部整形外科	平成10.9.1～
松下　　隆	帝京大学医学部整形外科	平成10.9.1～
松末　吉隆	滋賀医科大学整形外科	平成14.9.10～
松田　剛正	鹿児島赤十字病院	平成10.9.1～
松野　丈夫	旭川医科大学整形外科	平成10.9.1～
松本　忠美	金沢医科大学整形外科	平成14.9.10～
圓尾　宗司	兵庫医科大学整形外科	平成14.9.10～
三河　義弘	川崎医科大学整形外科	平成10.9.1～

委員名	所属機関等	就任期間
水野　耕作	神戸労災病院	平成10.9.1～
三井　忠夫	愛知医科大学メディカルクリニック	平成10.9.1～
三友　紀男	東北厚生年金病院	平成10.9.1～
三浪　明男	北海道大学医学部整形外科	平成14.9.10～
三森　経世	京都大学医学部免疫・膠原病科	平成14.9.10～
宮脇　昌二	倉敷成人病センター	平成10.9.1～
村田　紀和	行岡病院	平成10.9.1～
持田　譲治	東海大学医学部整形外科	平成14.9.10～
森本　幾夫	東京大学医科学研究所	平成10.9.1～
守屋　秀繁	鹿島労災病院	平成10.9.1～
安井　夏生	徳島大学医学部整形外科	平成14.9.10～
山内　康平	公立那賀病院	平成7.2.15～
山田　治基	藤田保健衛生大学医学部整形外科	平成14.9.10～
山名　征三	東広島記念病院	平成7.2.15～
山本　吉藏	博愛病院	平成7.2.15～
山本　晴康	愛媛大学医学部整形外科	平成14.9.10～
山本　博司	仁生会細木病院	平成10.9.1～
横田　俊平	横浜市立大学医学部小児科	平成10.9.1～
吉川　秀樹	大阪大学医学部整形外科	平成14.9.10～
吉木　　敬	株式会社ジェネティックラボ	平成10.9.1～
吉崎　和幸	大阪大学健康体育部健康医学第一部門	平成10.9.1～
渡辺　　良	岡村一心堂病院	平成10.9.1～
蕨　　治言	蕨リウマチ科・内科医院	平成10.9.1～
川合　眞一	東邦大学医療センター大森病院	平成10.9.1～18.3.31
藤井　克之	東京慈恵会医科大学整形外科	平成10.9.1～17.3.23
荒川　正昭	新潟大学医学部第二内科	平成10.9.1～14.3.31
井形　高明	徳島大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
生田　義和	広島大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
井上　明生	久留米大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
茨木　邦夫	琉球大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
金田　清志	美唄労災病院	平成10.9.1～14.3.31
白井　康正	日本医科大学整形外科	平成10.9.1～14.3.31
玉井　　進	奈良県立医科大学整形外科	平成10.9.1～14.3.31

委員名	所属機関等	就任期間
東田　紀彦	金沢医科大学整形外科	平成10.9.1～14.3.31
野本亀久雄	九州大学生体防御医学研究所	平成7.2.15～14.3.31
平澤　泰介	明治鍼灸大学附属病院	平成10.9.1～14.3.31
福田　宏明	東海大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
山野　慶樹	大阪市立大学医学部整形外科	平成10.9.1～14.3.31
藤巻　悦夫	昭和大学医学部整形外科	平成10.9.1～13.11.24
岩田　　久	名古屋大学医学部整形外科	平成7.2.15～12.3.31
岩本　幸英	九州大学医学部整形外科	平成10.9.1～12.3.31
奥村　　康	順天堂大学医学部免疫学	平成7.2.15～12.3.31
中村　耕三	東京大学医学部整形外科	平成10.9.1～12.3.31
井上　　一	岡山大学医学部整形外科	平成7.2.15～10.3.31
太田　善介	岡山大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
齋藤　輝信	東北労災病院リウマチ膠原病科	平成7.2.15～10.3.31

委員名	所属機関等	就任期間
菅原　幸子	東京女子医科大学附属第二病院整形外科	平成7.2.15～10.3.31
鳥巣　岳彦	大分医科大学整形外科	平成7.2.15～10.3.31
長瀧　重信	長崎大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
中村　　徹	福井医科大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
丹羽　慈郎	愛知医科大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
橋本　　明	国立伊東温泉病院名誉院長	平成7.2.15～10.3.31
橋本　博史	順天堂大学医学部膠原病内科	平成7.2.15～10.3.31
細田　泰弘	慶應義塾大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
渡辺　言夫	杏林大学名誉教授	平成7.2.15～10.3.31
岩崎　勝郎	長崎大学医学部整形外科	平成7.2.15～8.6.13
越智　隆弘	大阪大学医学部整形外科	平成7.2.15～8.3.31
松井　宣夫	名古屋市立大学医学部整形外科	平成7.2.15～8.3.31
新名　正由	防衛医科大学校整形外科	平成7.2.15～7.6.1

10. 財団賛助会員一覧

法人の部

平成20年4月1日現在

会　社　名	所在地
旭化成クラレメディカル㈱	東京都千代田区
旭化成ファーマ㈱	東京都千代田区
アステラス製薬㈱	東京都中央区
アボットジャパン㈱	大阪市中央区
エーザイ㈱	東京都文京区
大塚製薬㈱	東京都千代田区
科研製薬㈱	東京都文京区
キッセイ薬品工業㈱	長野県松本市
㈱協和企画	東京都港区
グラクソ・スミスクライン㈱	東京都渋谷区
興和㈱	東京都中央区
サノフィ・アベンティス㈱	東京都新宿区
三光純薬㈱	東京都千代田区
参天製薬㈱	大阪市東淀川区
㈱三和化学研究所	名古屋市東区
塩野義製薬㈱	大阪市中央区
生化学工業㈱	東京都千代田区
ゼリア新薬工業㈱	東京都中央区
第一三共㈱	東京都中央区
大正製薬㈱	東京都豊島区
大日本住友製薬㈱	大阪市中央区
大鵬薬品工業㈱	東京都千代田区
武田薬品工業㈱	大阪市中央区
田辺三菱製薬㈱	大阪市中央区
中外製薬㈱	東京都中央区
帝人ファーマ㈱	東京都千代田区
富山化学工業㈱	東京都新宿区
鳥居薬品㈱	東京都中央区
日本化薬㈱	東京都千代田区
日本ケミファ㈱	東京都千代田区
日本新薬㈱	京都市南区
日本臓器製薬㈱	大阪市中央区
ノバルティス ファーマ㈱	東京都港区
万有製薬㈱	東京都千代田区
久光製薬㈱	佐賀県鳥栖市
ファイザー㈱	東京都渋谷区
㈱ファーマインターナショナル	東京都中央区
三笠製薬㈱	東京都練馬区
明治製菓㈱	東京都中央区
祐徳薬品工業㈱	佐賀県鹿島市
ワイス㈱	東京都品川区

以上 41 社

個人の部

平成20年4月1日現在

氏　名	住　所
内村　暢二郎	鹿児島県鹿児島市
大田　富士子	福岡県北九州市
亀田　貞彦	茨城県水戸市
神戸　ちどり	神奈川県相模原市
佐藤　倫子	岩手県盛岡市
中崎　聡	石川県金沢市
延永　正	大分県別府市
羽村　脩治	広島県東広島市
福地　正行	静岡県菊川市
村山　隆司	石川県金沢市
森崎　寿子	熊本県上益城郡
山内　伸子	大阪府堺市
山名　征三	広島県東広島市
渡瀬　八重子	和歌山県橋本市
渡辺　松美	千葉県浦安市

以上 15 名

11. 事務局の状況

職員

平成20年4月1日現在

役　職	氏　名	就任期間
事務局長	森　　眞一	平成19.4.1 ～
	今村　　寛	平成17.4.1 ～ 19.3.31
	吉里　　實	平成15.9.1 ～ 16.3.31
	田中　治彦	平成11.4.1 ～ 12.3.31
事務局次長	岩崎　和子	平成1.9.1 ～ 13.8.31　係員 平成13.9.1 ～　事務局次長
係員	柳下加代子	平成14.11.5 ～
	溝上ふじ代	平成10.7.13 ～ 17.3.31　事務補助 平成17.4.1 ～　係員
	高見　則子	平成19.4.1 ～
	右近　さと	平成10.7.27 ～ 19.3.31
	中村あゆみ	平成15.9.1 ～ 16.12.31
	日向　紀子	昭和63.6.1 ～ 14.12.31
	川島　陽子	平成9.10.1 ～ 12.3.31
	飯田　将子	平成10.3.16 ～ 10.7.3
	佐藤　久美	平成9.9.5 ～ 10.2.10
	渡邊　知香	平成6.12.12 ～ 10.3.31
	野中久美子 （旧姓 広木）	昭和64.1.6 ～平成2.1.31　事務補助 平成2.2.1 ～ 6.12.31　係員
	川口　康子	昭和62.11.1 ～平成1.8.31
事務補助	石川　愛子	昭和63.4.1 ～ 4.3.31
	瀬々　道子	平成9.1.22 ～ 9.2.21
	岡　　裕子	平成1.1.9 ～ 1.6.30
	森　由美子	昭和62.11.1 ～ 63.3.31
	野口　公代	昭和62.11.1 ～ 63.3.31

事務所

昭和62年11月1日（設立当初）
東京都港区赤坂7丁目9番1号　大同ビル5階

昭和63年4月26日～平成4年12月18日
東京都港区西麻布4丁目17番30号　西麻布三井ビル3階

平成4年12月19日～現在に至る
東京都豊島区南大塚2丁目39番7号　ヤマモト大塚ビル5階

あとがき

髙久理事長が発刊に当たってに述べているとおり、日本リウマチ財団20周年記念誌は、財団の生い立ち等、史実を多く述べることにより、設立10周年記念事業として作成した事業報告とは異なる構成になりました。

リウマチ財団の歴史は設立20年ですが、同様に活動をしていた財団の前身の日本リウマチ協会に遡れば史実はたくさんあるはずです。しかも財団の事業そのものが日本リウマチ協会から引き継いだものが多く、それら事業について記述するとなれば、日本リウマチ協会の資料を検証しなければなりません。しかしながら、財団に残存している日本リウマチ協会関係の資料は、理事会等役員会議資料、議事録といった限られた資料であり、これらと当時の書籍、リウマチ学会、リウマチ友の会の記念誌等を参照して、本書をまとめざるをえませんでした。そのような状況であるからこそ、事業報告に加えて史実をまとめる意義があったのではないかと考えます。

史実の検証、執筆作業をとおして、リウマチ性疾患の医療に従事する人たちが、如何に患者さんの立場で事を考え、行動してきたかが資料の随所に窺われ、両者の間にあって財団が果たした役割の大きさを実感した次第であります。

平成21年3月

日本リウマチ財団設立20周年記念事業運営委員会

運営委員長	髙　久　史　麿
運営副委員長	幸　田　正　孝
〃	西　岡　久寿樹
運営委員（財務担当）	越　智　隆　弘
運営委員（広報担当）	井　上　　博
運営委員	狩　野　庄　吾
〃	川　合　眞　一
〃	中　村　耕　三
〃	山　本　一　彦
〃	山　本　純　己
事務局長	森　　眞　一

リウマチ財団 設立20周年記念誌

2009年3月24日発行

発　行　（財）日本リウマチ財団
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目39番7号
ヤマモト大塚ビル5階
TEL 03-3946-3551　FAX 03-3946-7500

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、「（財）日本リウマチ財団」の著作権の侵害となりますので、あらかじめ（財）日本リウマチ財団に許諾を求めてください。

©2009 PRINTED IN JAPAN

財団法人 日本リウマチ財団